

研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係

第1章 研究抄録関係

1. 重点プロジェクト研究

1 がんゲノム予防医療プロジェクト

<研究課題> 1-(1)

大規模病院疫学研究を基盤とした遺伝性腫瘍のリスク群における個別化予防を志向したエビデンス創出研究

Evidence-generating research aimed at individualized prevention of cancers in high-risk groups with hereditary cancer syndromes based on a large-scale hospital-based cohort study

<研究者氏名>

所属部 研究所

研究者氏名 井本逸勢

共同研究者 田近正洋*、原 和生、清水泰博*、伊藤誠二、小森康司、岩田広治*、鈴木史朗、山口 類、松尾恵太郎、伊藤秀美 (*コ・リーダー)

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

目的： 遺伝要因としていわゆる遺伝性腫瘍症候群の原因遺伝子変異を含む表現型への寄与度が大きい稀なバリエーションに関して、集団内での頻度、がんの浸透率や悪性度などとの関連、環境要因との相互作用などを明らかにすることが、ハイリスクグループの把握と医療やライフスタイルでの介入による個別化予防の社会実装を可能にすることに大きく貢献できる。しかし、国内には、どの情報を基に対象の層別化を行いどのようなアプローチで介入することががんの重症化や死亡の減少につながるかというがん予防のエビデンス創出に有用な、詳細な疫学情報と疾患情報に紐付けされた大規模ゲノムデータベースが存在しない。

本研究では、研究課題1-2)「大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究」(リーダー：松尾恵太郎分野長)、研究課題4-1)「愛知県のがん対策、医療評価と将来予測のための、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報の連結データベースの構築と活用」(リーダー：伊藤秀美分野長)の2つのプロジェクトと共に、愛知県がんセンター大規模病院疫学コホート(HERPACC)参加者を対象に、病院・研究所が一体となって、遺伝性・散発性に関わらず横断的にがん予防のエビデンス創出に資する詳細な疫学情報と疾患情報に紐付けされた大規模ゲノムデータベースの基盤を構築し、研究リソースとしてシェアすることを目標とする。目標達成による成果をもとにそれぞれの個別研究が進むことで、県民だれもが、がんになりにくく、なっても早く治せて早く社会復帰でき、健康に活躍できる時間を長く持てる愛知県を社会で実現することを目的とする。

方法、進捗状況と考察： 3年目の研究項目である、これまで未解析のがん患者コホート検体とそれに対する対照非がん者検体の各1,000検体に関して、生殖細胞系列の34遺伝子の標的リシーケンスを実施した。具体的には、①解析対象症例の選択と解析用ゲノムDNA検体の準備、②解析対象がん者の臨床・疫学情報の収集、③ Multiplex PCRによるライブラリ作成実施、④次世代シーケンサーによるライブラリのシーケンス実施とデータ収集を完了し、データのアノテーション、キュレーションまで行なった。これまで、リシーケンスに関しては全研究項目について予定どおり進捗した。

ゲノムスクリーニング以外のハイリスク群抽出方法に関する臨床的なアプローチとして、愛知県がんセンター初診患者の問診票を用いたスクリーニングも3年目に入った。2021年度は、4528名(2020年4月1日～2021年3月22日で集計)を対象に問診票情報を用いた遺伝性腫瘍疑い患者のスクリーニングを行い、2568人が拾い上げられ、診療情報から遺伝カウンセリング紹介勧奨者の絞込みにより284名(初診患者中6.3%、拾い上げ患者中11.1%)が勧奨対象者として抽出され、ほぼ予測された数(3.5%)が抽出できていると考えられた。

成果： 本研究課題と研究課題1-2)(リーダー：松尾恵太郎分野長)で得られる情報を基盤の一部に展開する個別研究として、日本医療研究開発機構(AMED)革新的がん医療実用化研究事業(令和2～4年)に、「がんリスクに対する環境要因・遺伝要因の公衆衛生的インパクトを評価する大規模分子疫学研究(研究代表者：松尾恵太郎分野長)が採択され、分担研究者として参加中である。また、本課題に関連して、ヒト疾患で検出されたバリエーションの病原性を確定する機能解析法に関する論文を発表し、遺伝性腫瘍のリスク評価と医学介入のガイドラインに関する国際共同研究を進めた。

<研究課題> 1-(2)

大規模病院疫学研究をベースとした環境要因・遺伝要因を用いた散発性がんの個別化予防を志向したエビデンスの創出研究

A project constructing of evidences for individualized cancer prevention of sporadic cancers using environmental and genetic information based on a large-scale hospitable-based epidemiological research at Aichi Cancer Center.

<研究者氏名>

所属部 がん予防研究分野

研究者氏名 松尾恵太郎

共同研究者 伊藤秀美、井本逸勢、春日井由美子

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

(目的)

遺伝性腫瘍を除く散発性のがんの予防には、がん罹患リスクを下げるための1次予防、がん死亡リスクを下げるための2次予防(検診)、がん再発・副作用等の予防を目指す3次予防がある。統合的ながん予防を実践するためには、この三種類の予防を意識した統合的な研究を実施する必要がある。

本邦におけるがん予防エビデンスは、環境情報あるいは遺伝子情報の一方のみに基づく研究が殆どで、両者を組み合わせた形の予防エビデンスの構築には程遠い。国際的には、両者を組み合わせた予防への試みが為されている。我々は、愛知県がんセンター病院初診患者を対象に、網羅的に実施した疫学調査(HERPACC)を基に、飲酒という特定の環境要因に注目し、その遺伝的背景との組合せによる予防効果を1～3次予防の観点から頭頸部・食道・胃・大腸・膵臓・乳腺の診療科との連携により追及してきた実績がある(Matsuo et al. Carcinogenesis 2001, 2006, 2013等)。飲酒以外のリスク要因にも同様のアプローチを個別に実施している。ただし、網羅的遺伝情報と環境要因との組み合わせた検討は、まだ端緒に手を付けたのみである(Sueta A et al. Breast Cancer Res Treat 2012, Abe M et al. J Cancer Res Clin Oncol 2017, Koyagani et al. Eur J Cancer Prev 2017)。本プロジェクトでは、HERPACCの疫学調査資料、試料を元に大規模な分子疫学的な検討を行い、各種散発性のがんに対する個別化予防につながるエビデンスの構築を目的とする。

(方法)

2001年～2013年に実施されたHERPACC研究に基づき、遺伝子解析、検査情報を含む臨床情報とのリンケージに関する同意をし、且つ詳細な疫学情報の得られた25,407名の参加者から選択する。うち、非がん者13,814名(ゲノムスキャン未7,200名、以下()内は同じ)、胃がん1,480名、大腸がん1,144名、食道がん659名、膵臓がん386名、頭頸部がん877名(265)、乳がん1,217名(200)、肺がん1,418名が主たる研究の対象である。また、2017年11月より検体収集が開始されたがんセンターバイオバンク愛知の参加者(2018年7月より疫学情報も収集、年4～5,000名収集見込み)も検証用の対象者として含める予定である。バイオバンク対象者も遺伝子解析に関する同意を取得済である。非がん対照者に関しては、各がん症例と性・年齢等をマッチングした4,500名程度をランダムサンプリングする。これらのデータを用い、症例対照研究を実施し、エビデンスの構築を図る。

(進捗状況)

ゲノムスキャンの進捗に関しては、非がん者13,814名(7,200)名、胃がん1,480名、大腸がん1,144名、食道がん659名、膵臓がん386名、頭頸部がん877名(612)、乳がん1,217名(200)、肺がん1,418名がスキャンを終えている。

現在、国立がん研究センター、名古屋大学、東北大学、岩手医科大学、京都大学との連携により、日本人の飲酒行動を決める遺伝子座に関する全ゲノム関連解析研究GWASのMeta-analysisを実施している。ALDH2のrs671遺伝子型で層別す

る事により、アルコール代謝関連酵素の遺伝子座を含む新たな遺伝子座を見出している。現在これらの再検を大阪大学・東大・理化学研究所と実施している。また、飲酒関連がんリスクに対する、新規の遺伝子座の影響を検討している。

(考察)

飲酒関連がんは、遺伝子環境要因交互作用が明らかに認められるがん種であり、今回の発見が個別化予防に資するエビデンスとなる事が期待される。HERPACCの情報を元に、更に国内外の研究チームと連携することで所期の目的を達成する事ができると考えられる。

2 がん超精密医療プロジェクト

<研究課題> 2-(1)

分子標的治療薬に対する耐性機序解明に関わる基盤形成

Molecular and cellular biology tissue culture core project to interrogate the mechanism of resistance to molecular targeted therapy

<研究者氏名>

所属部 がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野
研究者氏名 衣斐寛倫
共同研究者 室 圭、青木正博、田口 歩、松下博和

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

分子標的治療は、主にドライバー遺伝子異常に対する治療薬であり、がん薬物療法において頻用されている。また、近年次世代シーケンサー(NGS)解析の臨床応用に伴い、固形腫瘍において頻度の低いドライバー遺伝子異常が発見され、発見された異常に対する標的薬が奏効することが明らかとなってきた。さらに、頻度の低い遺伝子異常を網羅的に検討するため、がん遺伝子パネル検査が開発され、実地臨床でも使用されている。本課題では、生検・手術検体よりオルガノイドライブラリーを作成する。オルガノイド作成の対象となるのは、大腸がん手術症例、分子標的薬耐性症例(主に肺がん)、治験薬耐性例、遺伝子パネル検査で特徴的な異常を示した後に治療上の理由で生検が行われる症例である。大腸がんについては、手術検体の全エクソームシーケンス解析結果に基づき、患者特異的かつクローナルな16の体細胞変異を選定しctDNA解析を行い、術後再発モニタリングを行う臨床試験(CIRCULATE-JAPAN)に登録された症例を対象とする。大規模試験に登録され臨床情報などが豊富な症例、および特徴的な遺伝子異常・臨床経過を示す症例のオルガノイドから、細胞株・ゼノグラフトを作成し解析することで新規治療開発につなげる。当院は、令和3年度末までにCIRCULATE-JAPAN試験へ80例登録し、これらに対しRNA-seq解析を行うとともに、エクソーム解析結果とctDNA解析結果を統合した。オルガノイドについては、44例の作成に成功し、凍結保存した。また、当センターより登録された症例と、試験全体の症例について統合解析を行い、本来検出されるべき術前ctDNAが陰性の症例について、細胞内で活

性化するシグナルと、腫瘍微小環境において特徴的にみられる免疫細胞の特定を行った。今後、作成したオルガノイドライブラリーを用い、術前 ctDNA 陰性の原因、術後補助療法感受性・抵抗性因子の解明を行い、腫瘍の状態をより正確に評価する手法の開発につなげる予定である。

<研究課題> 2-(2)

難治癌 PDX モデルのライブラリー整備とその多層的オミクス解析による統合データ基盤構築

Establishment of multi-omics database for PDX models of refractory cancer

<研究者氏名>

所属部 分子診断 TR 分野

研究者氏名 田口 歩

共同研究者 原 和生、清水泰博、藤原 豊、黒田浩章、堀尾芳嗣、田近正洋、伊藤誠二、小森康司、筑紫 聡、安部哲也、夏目誠治、細田和貴、松下博和、衣斐寛倫、小根山千歳、山口 類

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

肺癌、膵癌、胆道癌などに代表される難治癌は、早期診断が困難であり、診断された時には現行の治療法では治癒しがたいほどに進行していることが多い。次世代シーケンシングなどの解析手法の進歩によって、難治癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な診断・治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって、難治癌の克服に取り組む必要がある。

本プロジェクトでは、難治癌 PDX 腫瘍の多層オミクス解析によって、ゲノム解析だけでは得られない、新規の情報に基づく革新的な難治癌の診断・治療法の開発を目指すとともに、多層分子プロファイルと膨大な臨床データ、さらにそれらのバイオインフォマティクス解析まで統合した、難治癌オミクスデータベースの構築を目指す。

令和3年度までに、189例のPDXモデル（膵66、大腸64、肺28、食道10、胃9、肉腫8、肝2、胆道2）作成と31例のPDX由来細胞株（膵31、大腸20、肺7、食道4、胃8、肉腫5、肝2、胆道1）の樹立に成功し、特に、サーフェソーム解析による新規抗体医薬の開発（膵、大腸）、HLAリガンドーム解析による個別化がんワクチン療法の開発（肺、胃）、リン酸化プロテオーム解析による新規分子標的治療開発（膵、大腸）など、既存研究では俯瞰しえなかった革新的分子診断・治療標的群の大規模な開拓を進めている。また、我々が構築した難治がんPDXモデルライブラリーは、詳細な臨床情報と、ゲノム、トランスクリプトーム、空間プロテオームを含む高深度な多層オミクスデータが付帯している点で、他に類を見ない、極めてユニークなライブラリーであるとともに、特に膵がんにおいては、国内外の膵がんPDXライブラリーと比較してもトップクラスの作成症例数を達成している。

今後は、引き続きPDXモデルの作成を行うと共に、PDXライブラリーの品質管理やPDXモデルを用いた前臨床試験におけ

るSOPの整備を進めて、データベースと合わせて革新的創薬プラットフォームとしての導出を目指す。

3 がん免疫ゲノムプロジェクト

<研究課題> 3-(1)

ネオアンチゲンを標的としたがんワクチン療法の開発
Development of cancer vaccine targeting neoantigen

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫制御 TR 分野

研究者氏名 松下博和

共同研究者 黒田浩章、藤原 豊、堀尾芳嗣、山口 類、衣斐寛倫、田口 歩、岡村文子、村岡大輔、花井信広、井本逸勢、籠谷勇紀、細田和貴、高橋祐介

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

免疫系の有望な標的抗原として、遺伝子変異由来の新生抗原（ネオアンチゲン）が注目されている。免疫チェックポイント阻害剤（ICI）の奏効率は20%前後に過ぎないが、免疫抑制の解除のみならず、ネオアンチゲンに対する免疫応答を積極的に強化することで、さらに治療効果が得られる可能性がある。本課題では、有効なネオアンチゲンワクチンを開発することを目的とする。

ネオアンチゲンを標的としたがんワクチンを実施する上で重要なことは、一人一人の患者の腫瘍免疫微小環境の理解に基づきワクチンの適応症例を選択することである。そして、その中で有望な標的がん抗原を同定することである。

腫瘍の免疫微小環境を理解するために、肺癌を対象として次世代シーケンシング（NGS）を実施し、腫瘍、免疫応答、免疫抑制の三つの要素に分けて評価する新しい評価法（TIME score）を開発した（Shinohara et al, J Immunother Cancer 2022）。このTIME scoreは肺癌の予後予測のみならず、ICIを含む免疫療法などの治療選択に応用できる可能性がある。

また、腫瘍浸潤リンパ球のシングルセル解析と、人工知能によるがん抗原予測を併せた、T細胞受容体（TCR）-抗原ペア同定システムを日本電気株式会社（NEC）と共同で開発した。現在、個別化がんワクチンの開発に向けて、このシステムをさらに改良している。また、このシステムにより、ドライバー変異由来のネオアンチゲンや共通抗原（がん・精巢抗原、ウイルス抗原）に特異的なT細胞のみならず、患者固有のネオアンチゲンに対するT細胞の検出・同定が可能となり、将来の固形がんに対するTCR遺伝子導入T（TCR-T）細胞治療の開発につながる。さらに、有効なTCR-T細胞移入治療には高親和性のTCRの取得が必要であることから、がん・精巢抗原やHPV-16 E6, E7オンコプロテインに特異的なTCRの親和性を高める検討も引き続き行っている。

<研究課題> 3 - (2)

遺伝子改変による腫瘍浸潤 T 細胞の改良技術構築と難治性がんを標的としたキメラ抗原受容体 T 細胞療法の新規開発

Development of genetically modified tumor-infiltrating T cell therapy with improved function and chimeric antigen receptor-engineered T cell therapy against refractory cancer

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫応答研究分野

研究者氏名 籠谷勇紀

共同研究者 松下博和、鈴木史朗、細田和貴、山本一仁

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

がん抗原を認識する T 細胞を体外で準備して、患者に輸注することでがん細胞を特異的に攻撃させる養子免疫療法は、キメラ抗原受容体 (chimeric antigen receptor : CAR) や T 細胞受容体を導入して抗腫瘍 T 細胞を作製する遺伝子改変 T 細胞療法と、腫瘍に浸潤するリンパ球 (tumor infiltrating lymphocyte : TIL) を体外で増幅させて患者に輸注する TIL 療法に大別される。CD19 に対する CAR-T 細胞療法が B 細胞性腫瘍に顕著な臨床効果を示したことから注目されているが、固形腫瘍に対する同治療法の効果は不十分である。また TIL 療法では客観的な有効性を示す臨床データが得られていない。治療効果が得られない原因の 1 つとして、輸注 T 細胞の機能低下 (疲弊) や終末分化の進行が挙げられる。特に TIL は体内で既に持続的抗原刺激を受けて終末分化状態に至った T 細胞集団であることから、治療効果を高めるための改変が必須であるが、機能向上につながる具体的な鍵分子・遺伝子は同定されていない。同時に、CAR-T 細胞療法においては、T 細胞の質の向上とは別に特異的で有効性の高い新規抗原の同定が求められている。がん細胞で高発現している表面抗原分子は、多くの先行研究によって網羅的に調べられていることから、これまで検討されていない分子群に着目する必要がある。

これらの背景に基づき、本プロジェクトでは以下の研究課題を遂行した。

①腫瘍浸潤 T 細胞における長期生存能の再獲得・疲弊解除に関わる遺伝子修飾法の開発

我々がこれまでの探索で同定してきた、T 細胞の転写ネットワーク改変を通じて長期生存能を向上させるための遺伝子改変方法を終末分化状態にある TIL 検体で行い、分化・疲弊状態からの脱却が可能であるか検討を進めた。TIL は病院婦人科部との連携のもと、婦人科腫瘍切除検体を用いて解析を行った。また、これまでに得ている知見を端緒として T 細胞の機能低下に関わる分子機構の解明をより詳細に進め、疲弊・終末分化に関わる鍵分子を転写経路・遺伝子レベルで具体的に明らかにするための研究を進めた。これらを標的とした T 細胞の遺伝子改変が TIL の機能向上につながることを示し、臨床応用に向けた基盤的知見を構築することを目的とした。

具体的に標的とする遺伝子を複数同定して、学術論文として発表を行った (Yoshikawa et al. Blood 2022) ほか、知財申請を完了した (国際出願 : PCT/JP2022/016453)。

②難治性がんに対する新規表面抗原を標的とした CAR-T 細胞

の開発

これまでに標的抗原として十分に探索されていない分子 A に着目して、新規 CAR 遺伝子の開発を進めた。これにより作製した CAR-T 細胞が、同抗原を発現するがん細胞において客観的な抗腫瘍効果を誘導できることを示すことを目的とした。分子 A に対するモノクローナル抗体の取得、CAR 遺伝子の合成を行い、がん細胞に対する細胞傷害効果を複数の実験モデルにおいて証明した。今後知財申請、及び学術論文としての成果公表に向けて準備中である。

4 がん情報革命プロジェクト

<研究課題> 4 - (1)

愛知県のがん対策、医療評価と将来予測のための、生活習慣情報、社会経済的情報、医療情報の連結データベースの構築と活用

Development and utilization of linkage database of official information of cancer incidence and death, lifestyle, socioeconomic, health and medicine for evaluation and prediction of cancer control and quality of medical care in Aichi prefecture

<研究者氏名>

所属部 がん情報・対策研究分野

研究者氏名 伊藤秀美

共同研究者 古平 毅、樋田豊明、伊藤誠二、清水泰博、小森康司、原 和生、田近正洋、黒田浩章、岩田広治、山口 類、松尾恵太郎

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

[1] がん予防協同プロジェクト

愛知県内の公的情報や医療情報を、地理的に連結させたビッグデータの基盤を構築し、愛知県のがん予防、がん医療に資する研究を推進している。創出される情報あるいは結果をがん対策の現場である愛知県や県内の市町村、がん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院へ還元することで、愛知県全体のがん予防やがん医療の向上に役立てることが可能となる。

一般公開されている国勢調査情報は e-stat「政府統計の窓口」より情報を抽出し、特定健診情報を含む NDB 情報、人口動態調査死亡情報は厚生労働省へ、がん登録情報は愛知県へ提供申請を行い、情報提供を受けた。これらの情報それぞれが持つ町域毎の観測数を、町域ポリゴンと学校区ポリゴンを用いて面積按分して学校区別の該当数を求めた上で、学校区別に以下の指標を算出し、視覚化した。①アウトカム：愛知県がん登録情報と人口動態調査死亡情報を用い、標準化罹患・死亡比 (Standardized incidence & mortality rate : SIR/SMR) と標準化罹患比の経験的ベイズ推定量 (Empirical bayes SIR/SMR : EBSIR/EBSMR) (全がん 部位別、男女計) を算出した。②社会経済的指標：地理的剥奪指標 (Areal deprivation index : ADI) ; 国勢調査情報 (該当数と人口) から算出した、高齢者夫婦世帯割合、高齢者単身世帯割合、母子世帯割合、賃貸住宅

居住割合、サービス・販売業割合、農業割合、ブルーカラー割合失業割合を用いて算出し、さらに人口のばらつきを考慮して相対的な剥奪水準の位置として0から1に標準化した。また、e-stat上の国勢調査情報より人口密度を抽出した。③特定健診情報から喫煙、飲酒、肥満、運動習慣等の生活習慣情報を抽出し、喫煙率、飲酒率、肥満率、運動習慣率を求めた後、標準化該当比をそれぞれ算出した。また、Flex scan法による空間集積性の評価を行った。本年度は特に、貧困ががん罹患や死亡に与える影響が都市度によって異なるのではないかという仮説のもとに、解析を行っている。

[2] 拠点病院プロジェクト

愛知県がんセンターが都道府県がん診療連携拠点病院として主催する協議会を通じ、厚生労働省が指定する愛知県内の19の地域がん診療連携拠点病院と愛知県が指定する8の愛知県がん診療拠点病院に本プロジェクトへの協力を求め、すべての医療機関から協力が得られることとなった。令和3年の協議会で公表、還元する予定の「院内がん登録でみる愛知県のがん診療（施設別集計）」の内容を検討し、すでに愛知県へ還元されている拠点病院の2011 - 15年までの匿名化院内がん登録情報を利用し、すべての施設に共通フォーマットで集計し、各施設へ還元した。また、さら2016年-2019年の診断症例の院内がん登録とDPCの連結匿名化情報や匿名化DPC情報を各拠点病院の協力を得て収集している。

<研究課題> 4-(2)

がんゲノム医療の精密化に資する人工知能を活用した情報解析基盤の構築

Development of an information-analysis platform for cancer precision medicine using AI

<研究者氏名>

所属部 システム解析学分野

研究者氏名 山口 類

共同研究者 井本逸勢、室 圭、衣斐寛倫

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

患者個人のがん細胞の遺伝子変異を調べ、それに応じて最適な治療を目指す「がんゲノム医療」の研究および実際の医療現場への実装が、世界中で進みつつある。がんはたとえ同じ病名（例：肺腺がん）であったとしても、がん細胞の持つゲノム中の変異の種類や患者ごとの背景要因により異なる特性を持ちうる事が明らかになってきた。またその変異の種類や量に応じて、薬剤への応答性等が異なることもわかってきた。そのようなことが解明されてきた背景には、近年の計測技術の急速な発展により、患者一人ひとりのDNA変異の情報を含むシーケンスデータを安価かつ高速に得ることができるようになったことが挙げられる。

本研究の目的は、スーパーコンピュータ（スパコン）を活用し患者個人のマルチオミックスシーケンスデータを高速に解析し、得られたがん遺伝子変異情報等に対する臨床翻訳を高精

度かつ高速に行うための、人工知能および機械学習技術を活用した情報解析基盤システムの開発を進めることである。また他の研究課題から産生される各種データを、情報解析基盤システムを用いて解析することにより、各課題の推進を加速し、さらに課題間の有機的な連携を強化することも目的とする。

本年度は、スパコン上で各種シーケンスデータ解析を高速に行うためのパイプライン環境の整備と拡充を行い、実際に大規模データ解析に活用した。例として開発したパイプラインを用いて、約1000症例分の大腸癌患者由来のRNA-seqデータの大規模解析を行い。新たなバイオマーカー候補の探索に成功している。また、前年度までに開発を進めてきた、手書き家系図からの情報抽出法の開発も進めた。

2. 研究所における研究

がん情報・対策研究分野

<研究課題> 1

- (主 題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析研究
- (副 題) 住民ベースのがん罹患情報を用いた非小細胞肺癌がん患者の予後における分子標的薬による影響の評価

<研究者氏名>

谷山祐香里、尾瀬 功、小柳友理子、伊藤ゆり¹⁾、松田智大²⁾、松尾恵太郎、伊藤秀美

【目的・概要・進捗状況】

頭頸部がんの罹患の経年変化を観察すると、発展途上国で口腔がんの増加傾向がある。近年、欧米の先進国ではヒトパピローマウイルス感染による中咽頭がんの発生率が増加している。しかし、日本では亜部位別の頭頸部がん罹患経年変化を評価した研究はほとんどない。したがって、我々は、住民ベースのがん登録データを用いて、日本における亜部位別の頭頸部がん罹患について1993年から2015年までの経年変化を評価した。

対象は、Monitoring Cancer Incidence in Japan (MCIJ) プロジェクトにデータを提供している都道府県のうち、精度基準を満たし観察期間のデータが揃っている19都道府県の住民ベースのがん登録に登録されている1993 - 2015年に診断された頭頸部がん患者である。口唇、口腔、唾液腺、鼻咽頭、中咽頭、下咽頭、喉頭、鼻腔および副鼻腔、中耳、およびこれらに分類されない頭頸部がんの罹患数と年齢調整罹患率を推計した。また経年変化を、Joinpoint regression 解析により評価した。

男女ともに、唾液腺がんと下咽頭がんは増加傾向にあった[唾液腺：男性では年変化率 (Annual Percent Change, APC) が3.1% (95%CI; 2.5%-3.7%)、女性ではAPC 4.0% (95%CI, 3.2%-4.7%)；下咽頭：男性では1993年から2009年までの間のAPCが5.6% (95%CI; 5.0%-6.3%)、および2009年から2015年までの間のAPCが2.1% (95%CI, 0.2%-4.0%) で、女性では観察期間中一貫してAPCが3.2% (95% CI; 2.6%-3.8%) であった。さらに、男性の中咽頭がんでは増加傾向を示し [APC 5.2% (95%CI, 4.8%-5.6%)]、喉頭がんでは女性で増加傾向を示していた (APC 2.4%、95%CI, 1.3%-3.6%)。

【今後の方向】

本研究のように、悉皆性の高い住民ベースの情報を活用し、詳細部位別や、同じ部位のがんでも組織型別に罹患率、死亡率ならびに生存率の経年変化を観察することで、がん対策や医療の影響を評価する記述疫学研究を展開していく。

¹⁾ 大阪医科薬科大学、²⁾ 国立がん研究センター

<研究課題> 2

- (主 題) 記述疫学研究に基づくがん情報の整備と発信
- (副 題) 愛知県内の公的情報を活用した地理的連結データベースならびに院内がん登録情報とDPC情報の連結データベース構築

<研究者氏名>

川勝雪乃¹⁾、川浦正規、谷山祐香里、小柳友理子、伊藤秀美

【目的・概要・進捗状況】

愛知県内の公的情報や医療情報を、地理的に連結させたビッグデータの基盤を構築し、愛知県のがん予防、がん医療に資する研究を推進している。創出される情報あるいは結果をがん対策の現場である愛知県や県内の市町村、がん医療の現場である地域がん診療連携拠点病院へ還元することで、愛知県全体のがん予防やがん医療の向上に役立てることが可能となる。

愛知県の保健医療に関わるがん登録情報、人口動態調査死亡情報、特定健診情報、国勢調査情報を収集し、がん罹患・死亡や、これらのアウトカムに影響を与える要因の愛知県内の格差を学校区別に評価している。それぞれの情報を学校区別に指標化し、愛知県の地図上に格差を視覚化した。さらにがん罹患・死亡についてはFlex scan法により集積性の検定を行った。地域ごとに取り組むべきがん対策の優先順位付けに役立てるため、これらの指標の関連を評価している。愛知県の情報で行ったこれらの手法を、全日本のデータに適用し、市町村別の検討を行っている。現在は、社会経済的指標を国勢調査情報を用いて算出し、社会経済的ながん罹患・死亡の格差の、都市度による違いについて、検討を行っている。

また、愛知県内のがん診療連携拠点病院ならびにがん診療拠点病院の協力を得て、院内がん登録とDPCの連結匿名化情報を収集し、愛知県のがん診療を評価する情報基盤を整備した。

【今後の方向】

院内がん登録情報については、各施設でDPC情報と個別連結させた上で匿名化した情報を愛知県がんセンターに集約して、医療レベルの格差に関して要因探索をする。研究成果を拠点病院間でシェアできる仕組み、つまりウェブベースのインタラクティブツールの開発も計画する。また、個別情報のシェアリングの仕組みを整えるために課題の洗い出しを開始する。

¹⁾ リサーチレジデント

がん予防研究分野

<研究課題> 1-1

- (主 題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明

(副題) 日本人女性における生殖細胞系遺伝子変異と乳がんリスクとの関連性

<研究者氏名>

春日井由美子、河本知大、谷山祐香里、小柳友理子、
碓井喜明、岩瀬まどか、尾瀬 功、山口 類、伊藤秀美、
井本逸勢、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

乳がんの約5%～10%は遺伝性で、乳がん素因遺伝子の生殖細胞系遺伝子変異(GPV)が原因である。これまで、症例と非がん対照群をもとにした遺伝子ごとのGPVの有病率と乳がんリスクに関する研究のほとんどは欧米で行われており、日本人集団からの情報はほとんどない。さらに、GPV評価において、確立された環境因子とゲノムワイド関連研究(GWAS)で同定された一塩基多型(SNPs)による交絡を一緒に考慮した研究はない。日本人女性におけるBRCA1/2を含む確立された9つの乳がん素因遺伝子のGPVと乳がんリスクとの関連を包括的に評価するために、愛知県がんセンターの院内疫学研究プログラム内で症例対照研究を行った(症例629人、対照1153人)。GPVと乳がんリスクとの関連は、潜在的交絡因子で調整したロジスティック回帰モデルを用いて、オッズ比(OR)および95%信頼区間(CI)により評価した。全症例で合計25人のGPVが検出された(4.0%:95%CI:2.6-5.9)のに対し、全対照群で4人がGPVを保有していた(0.4%)。全GPVとBRCA1/2のGPVによる乳がんのORは、それぞれ12.2(4.4-34.0, $p = 1.74 \times 10^{-6}$)と16.0(4.2-60.9, $p = 5.03 \times 10^{-5}$)であった。GPVによる交絡の可能性は、GWASで特定されたSNPsでは観察されたが、確立された環境リスクファクターでは観察されなかった。結論として、GPVは環境因子やGWASで同定されたSNPsとは無関係に日本人女性の乳がんリスクを増加させる。今後、環境因子やSNPsとの相互作用について検討することが望まれる。

【今後の方向】

乳がん以外のがん種においても同様の検討を行う必要がある。

<研究課題> 1-2

(主題) 分析疫学的解析による各種がんのリスク要因の遺伝的背景の解明

(副題) 日本におけるアルコール摂取と乳がんリスク。8つの住民ベースコホート研究のプール解析

<研究者氏名>

岩瀬まどか、松尾恵太郎、小柳友理子、伊藤秀美、
井上真奈美¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

欧州の研究ではアルコール摂取が乳がんリスクを高めることが報告されているが、アジアの集団におけるアルコールと乳がん

の関連についてのエビデンスは不十分である。我々は、日本における大規模な人口ベースの前向きコホート研究8件のプール解析を行い、ベースライン時および診断時の閉経状態によって分類したアルコール(頻度と量の両方)と乳がんリスクとの関連を評価した。ハザード比(HR)および95%信頼区間を個々のコホートで算出し、ランダム効果モデルを用いて統合した。158,164人、2,369,252人年の追跡のうち、2,208例が新たに乳がんと診断された。アルコール摂取は、ベースライン時に閉経前であった女性(非飲酒者と比較して常飲者。HR 1.37, 1.04-1.81, 23 g/d以上と0 g/dの比較。HR 1.74, 1.25-2.43, 頻度区分ごとの傾向の $P = 0.017$)、診断時に閉経前であった人(0 g/dと比較して ≥ 23 g/d。HR 1.89, 1.04-3.43, 頻度カテゴリーごとの傾向に関する $P = 0.032$)。一方、ベースライン時および診断時に閉経後であった女性では、相当数の対象者と長い追跡期間にもかかわらず、有意な関連は見られなかった。我々の結果は、欧米諸国における先行研究と同様に、頻繁なアルコール摂取と高いアルコール摂取は、いずれもアジアの閉経前乳癌の危険因子であることを明らかにした。本研究では、閉経後女性における明確な関連性が認められなかったため、アジアにおけるより大規模な調査が必要である。

【今後の方向】

乳がんの飲酒発がんに関する国内のエビデンスは少なく、更なる検討を進める必要がある。

¹⁾ 国立がん研究センター

<研究課題> 2

(主題) 各種がんに対する分析疫学的解析による、がんリスクと繋がる遺伝的・環境的要因、並びにその組み合わせ効果の解明研究の結果に基づく個別化予防プログラムの開発

(副題) 日本人集団におけるGWASで同定された遺伝子多型、Helicobacter pylori感染および生活習慣関連危険因子を用いた胃がんリスク予測

<研究者氏名>

石倉直代、伊藤秀美、尾瀬 功、小柳友理子、春日井由美子、
谷山祐香里、川勝雪乃、田中 努、伊藤誠二、田近正洋、
清水泰博、丹羽康正、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

がん予防のための実践的な介入アプリケーションの開発の一環として、遺伝的、生物学的、および生活習慣関連の危険因子に基づく胃がんのリスク予測モデルについて検討した。

我々は、年齢と性別をマッチングした2つの独立した症例対照研究を実施した。1つ目はモデル導出のため(696例、1392例)、2つ目は外部検証のため(795例、795例)であった。派生研究のデータを用いて、年齢、H. pylori感染と胃の萎縮によって定義されるABCD分類、喫煙、アルコール摂取、果物・野菜摂取、および3つのGWASで特定された多型を予測因子

として、条件付きロジスティック回帰モデルをあてはめ、予測モデルを作成した。GWASで特定された多型とその他の予測因子の組み合わせは、AUCはそれぞれ0.77（95%信頼区間：0.75-0.79）および0.78（0.77-0.81）であった。両試験のキャリブレーションプロットは、理想的なものであった。検証試験では、環境モデル（非遺伝子モデル）は包括モデルよりも有意に識別力が高く、AUC値は0.80（0.77-0.82）であった。遺伝的要因のリスク予測への寄与は限定的であり、ABCD分類（*H. pylori* 感染関連要因）が胃癌のリスク予測に最も寄与していることが示された。

【今後の方向】

胃がんリスクに関して、GPVのような他の遺伝要因の検討が必要。

がん病態生理学分野

<研究課題> 1-1

（主題） がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明
（副題） 腸管腫瘍形成におけるMyD88経路の役割の解析

<研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠¹⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

がん抑制遺伝子である*Apc* 遺伝子に変異を持つ遺伝子改変マウス（以下*Apc* 変異マウス）では、APCの機能欠損の結果Wnt経路が恒常的に活性化し、腸管に腺腫性ポリープを発症する。我々は、*Apc* 変異マウスの腸管ポリープの成長に関わる因子を探索、同定し、その役割を解明することにより、大腸がんの治療標的候補を得ることを目的として研究を進めてきた。

これまでに、我々は、IL-1 β シグナル伝達経路の主要なアダプター因子であるMyD88の機能欠損が、*Apc* に変異を持つ細胞のみを死滅させる、いわゆる合成致死を誘導することを見出し、論文発表した。（Kajino-Sakamoto R, et al: *Oncogene* 40, 408-420, 2021）今年度は、この合成致死誘導の分子機序に関与する因子を探索し、9つの候補因子を得た。これら候補因子の合成致死誘導への関与について、検討を進めている。

また、MyD88が*Apc* 変異以外の大腸がん関連遺伝子変異を併せ持つ腸管腫瘍細胞の生育にも関与するか、マウス大腸腫瘍オルガノイドを用いて検討したところ、MyD88の機能抑制は*Cttnb1* 変異を持つ大腸腫瘍オルガノイドの生育を抑制した。さらに、この生育抑制効果は*Kras* 変異により低下することを示唆する結果を得た。

【今後の方向】

合成致死誘導に関与する可能性がある9つの候補因子について、その関与を引き続き検討し、関与するものについて詳細な解析を行う。

MyD88の機能抑制による*Cttnb1* 変異を持つ大腸腫瘍オルガノイドの生育抑制が*Kras* 変異により低下する分子機序につ

いて解明するため、関与する因子の探索を行う。

¹⁾ 京大・先端医療研究開発機構

<研究課題> 1-2

（主題） がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明
（副題） 腸管腫瘍の悪性化におけるmTORC1経路の役割の解析

<研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美、梶野リエ、新聞秀一¹⁾、曾我朋義²⁾、武藤 誠³⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

家族性大腸腺腫症のマウスモデルである*Apc* 変異マウスは良性的腺腫性ポリープを発症し、さらに*Smad4* 遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ*cis-Apc/Smad4* マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。*cis-Apc/Smad4* マウスの腺がんの浸潤はmTORC1阻害薬 everolimus および mTOR キナーゼ阻害薬 AZD8055 に対して抵抗性である。これまでに、トランスクリプトーム解析、メタボローム解析、プロテオーム解析を実施し、mTOR 阻害薬抵抗性腺がん組織においてヒスタミンの蓄積を認め、ヒスタミンを含有する細胞集団が腺がん浸潤部に集積するマクロファージであることを明らかにした。また臨床大腸がん組織中のマクロファージは浸潤部に集積し、ヒスタミン濃度が高い症例で多く検出される傾向を認めた。mTOR 阻害薬とヒスタミン H1 および H2 受容体拮抗薬の併用投与により mTOR 阻害薬抵抗性腺がん浸潤が抑制されることを見出した。

本年度はヒスタミンが間質細胞に及ぼす影響を検討するため、マウス腸管由来線維芽細胞を用いてヒスタミンおよびその阻害薬の効果調べた。その結果、ヒスタミン処置による細胞増殖促進・抑制効果は認められなかったが、無血清条件下でのスクラッチアッセイにおける細胞移動速度はヒスタミン処置によって上昇した。このヒスタミンによる線維芽細胞の遊走促進は、ヒスタミン H1 および H2 受容体拮抗薬の併用処置により抑制された。

【今後の方向】

大腸がん間質細胞に対するヒスタミンの効果の一部が明らかになったことから、今後は腫瘍上皮細胞に対する影響を検討する予定である。

¹⁾ 大阪大・工学研究科

²⁾ 慶應大・先端生命科学研究所

³⁾ 京大・先端医療研究開発機構

<研究課題> 2-1

（主題） 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索
（副題） 大腸がん自然発症・転移モデルを用いた転移メカニ

<研究者氏名>

藤下晃章、三城恵美、梶野リエ、小島康、山口 類、
青木正博

【目的・概要・進捗状況】

転移を伴う大腸がんの予後は悪く、新機軸の転移予防・治療法の開発が求められている。各国で網羅的なゲノム変異解析・発現解析などが行われているが、転移の分子機序解明には至っていない。我々は、腸管に浸潤性腺がんを100%の頻度で発症し、約20%のマウスで肝臓への転移が認められる、大腸がんの自然発症・自然転移モデルの作出に成功した。このマウスモデル(CKPSマウス)では、安定型β-catenin(Wnt経路活性化)と活性型Krasの発現、そしてp53とSmad4の欠失が腸管上皮細胞特異的に誘導される。CKPSマウスの肝転移巣では、原発巣と酷似した腺管構造と間質反応を伴う浸潤の様子が保たれており、大腸がん臨床検体ともよく似た組織像を示す。これまでにCKPSマウスの肝転移巣について全エクソームシーケンス解析およびRNAseq解析を実施しており、肝転移巣では上記4遺伝子以外に悪性化進展への関与が疑われる遺伝子変異は認められず、遺伝子発現パターンも原発巣と転移巣に大きな差は認められなかった。

比較プロテオミクスを用いて転移に特徴的なタンパクの同定を行ったところ、肝転移巣において大腸がん幹細胞マーカーであるALCAM(CD166)やPROM1(CD133)の発現が増加していた。CKPSマウス由来大腸がん細胞株であるCKPS細胞においてCRISPR-Cas9によりALCAM、PROM1をノックアウトしたところ、スフェロイド形成能および脾注肝転移モデルによる肝転移巣形成能が低下したことから、これら大腸がん幹細胞マーカー分子が転移能にも寄与する可能性が示された。

本年度はALCAMやPROM1の発現を制御する分子やシグナル経路について探索を行った。CKPS細胞のALCAMやPROM1の発現はCKP細胞では認められなかったことからSMAD4が関与する可能性が示唆された。このためCKPS細胞にSMAD4を過剰発現したところmRNAレベルでの発現抑制が認められたことから、TGF-β/SMAD4経路がALCAMやPROM1の発現制御に寄与することが明らかとなった。

【今後の方向】

TGF-β/SMAD4経路以外に大腸がんのがん幹細胞性維持に関わる他のタンパクやシグナル経路の探索も行いたい。また、大腸がん幹細胞マーカー以外にも治療標的となる分子やシグナル経路の探索を行う予定。

<研究課題> 2-2

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、山口 類、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法に進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は最近、自然発生した大腸がんが20%の頻度であるが肝臓へ転移する自然転移モデルマウス(CKPSマウス)の開発に成功した(前項)。このCKPSマウスは100%の頻度で腸管に浸潤性の腺がんを発症するが、同腹仔でも転移する個体とそうでない個体が認められたことから、転移には遺伝子変異以外に更なる要因が必要である可能性が示唆される。本研究では、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBacトランスポゾンを用いた機能的スクリーニングを実施している。このPiggyBacトランスポゾンには近傍の遺伝子を活性化または機能喪失させる配列が組み込まれており、大腸がんの発生に伴いトランスポゾンが移動する。トランスポゾン非導入CKPSマウスと比較して、トランスポゾンを導入したCKPSマウスでは肝転移の頻度がおよそ2倍(約40%)に上昇することを見出した。トランスポゾンの挿入部位には転移を調節する遺伝子が存在している可能性が高いことから、この挿入部位を同定する手法としてSemiquantitative transposon insertion site sequencing(Qiseq)を実施したところ、既に転移への関与が報告されているDdr1遺伝子が同定され、本スクリーニングの妥当性を確認できた。

本年度は、スクリーニングで同定された別の遺伝子Eと転移との関わりについて検討した。トランスポゾン挿入部位の位置情報から、この遺伝子Eの発現増加が転移を促進させる可能性が示唆された。CKPSマウス由来大腸がん細胞株であるCKPS細胞においてこの遺伝子をsiRNAによりノックダウンしたところ、*in vitro*での細胞増殖の抑制が認められた。さらにこの遺伝子を過剰発現したCKPS細胞は、脾注肝転移モデルによる肝転移巣形成能が増加したことから、この遺伝子Eは転移を促進させる働きがあることが示唆された。

【今後の方向】

遺伝子Eによる転移促進メカニズムを検証する予定である。この遺伝子Eがコードするタンパクは翻訳制御に関わることから、制御を受けるタンパクについてプロテオーム解析により調査する。

<研究課題> 2-3

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) 新規大腸がん転移抑制遺伝子HNRNPLLの機能解析

<研究者氏名>

佐久間圭一¹⁾、佐々木英一¹⁾、細田和貴¹⁾、小森康司²⁾、清水泰博²⁾、谷田部 恭³⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

我々が独自に同定した新規大腸がん転移抑制遺伝子 *HNRNPLL* に関して、前年度の検討課題を継続した。

① CTNND1 isoform 3A の機能解析

前年度までに、*HNRNPLL* による選択的スプライシングによって上皮間葉転換 (epithelial-mesenchymal transition : EMT) 下で特異的に合成されるアイソフォームタンパクとして CTNND1 isoform 3A を同定した。今年度の成果として、蛍光タンパク AcGFP と CTNND1 isoform 3A の融合タンパクを強制発現した大腸がん細胞のタイムラプス顕微鏡による観察により、同アイソフォームは migrating cell では細胞の leading edge または protruding edge に局在することを突き止めた。この結果から、細胞浸潤における同アイソフォームの役割が示唆されたため、Crispr-cas9 を用いて同アイソフォームを特異的にノックアウトしたところ、マトリゲル浸潤能が有意かつ著明に抑制された。

②大腸がん細胞の EMT に伴う *HNRNPLL* の発現減少メカニズムの解明

前年度までに、転写因子 SP1 と SP3 が *HNRNPLL* の基本転写量を規定し、転写因子 MYB が *HNRNPLL* の転写を促進すること、さらに、EMT 下では MYB の発現が減少することで *HNRNPLL* の転写が抑制されることを明らかにした。今年度は、以上の研究成果を *Cancer Science* 誌に投稿し、採択された (Sakuma et al : *Cancer Science* 112, 3846-3855, 2021)。

【今後の方向】

- ①CTNND1 isoform 3A による大腸がん細胞の浸潤を抑制する目的で、介入可能な治療標的分子を同定する。
- ②論文が採択されたため、ひとまずは終了とする。

¹⁾ 遺伝子病理診断部

²⁾ 消化器外科部

³⁾ 国立がん研究センター中央病院・病理診断科

<研究課題> 2-4

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) 高転移性肺がん細胞における一次線毛下流シグナル経路の役割の解明

<研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一¹⁾、細田和貴¹⁾、谷田部 恭²⁾、小木曾昇³⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

前年度に引き続き、肺腺がん細胞の一次線毛の発現制御分子として同定した *KATNAL2* の機能解析を継続した。ヒト肺腺がん細胞株 A549 の *KATNAL2* 遺伝子を Crispr-cas9 でノックアウト (ko) した亜株を用いて、*KATNAL2* が一次線毛の伸長 (elongation) の過程を促進することを見出した。*KATNAL2* が一次線毛の基底小体付近に局在する一方で、他の katanin

family の構成分子は同部位に明確な局在を認めなかったことから、一次線毛の伸長は、katanin family の中でも *KATNAL2* が特異的に担っている可能性が示唆された。さらに、*KATNAL2* ko 細胞ではコントロール細胞と比べて細胞周期が停止した細胞の割合が減少し、薬剤感受性試験により、増殖を標的とする抗がん剤の感受性が亢進することが示唆された。

【今後の方向】

KATNAL2 が抗がん剤感受性を増強するための標的分子となり得るか、検討を進める。

¹⁾ 遺伝子病理診断部

²⁾ 国立がん研究センター中央病院・病理診断科

³⁾ 国立長寿医療研究センター・実験動物管理室

<研究課題> 3

(主題) がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築

(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

<研究者氏名>

小島 康、三城恵美、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義¹⁾、武藤 誠²⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者の Performance Status (PS)、Quality of Life (QOL) を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。

我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルおよび臨床検体のマルチオミクス解析に取り組んでいる。これまでに、主に2種類の悪液質モデルマウスを用いてきた。1つは、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスで、14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。もう1つは、ヒトメラノーマ SEKI 細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルで、移植後2~3週間で著名な骨格筋萎縮、脂肪組織萎縮を伴う高度な悪液質を発症する。我々は、上記の2種類の悪液質モデルマウスの肝臓および骨格筋に対してメタボローム解析およびプロテオーム解析を実施して悪液質に関連性の高い変化をそれぞれ見出していた。今年度は、胃がん臨床血液検体を用いた解析を継続して、マウスモデルから同定された悪液質診断および治療関連因子の検証を行った。結果、複数の有力な診断・治療因子候補の臨床的妥当性を一部実証することができた。

【今後の方向】

体系的な胃がん悪液質臨床検体収集の基盤整備に取り組む。加えて、胃がん悪液質モデルマウスの樹立あるいは導入に取り組む。

¹⁾ 慶應大・先端生命科学研究所

²⁾ 京大・先端医療研究開発機構

分子腫瘍学分野

<研究課題> 1

(主題) 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) 悪性中皮腫細胞における NF2-Hippo シグナル伝達経路異常の解析

<研究者氏名>

赤尾 謙¹⁾、佐藤龍洋、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他の高頻度に発症する腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A, NF2, BAP1 遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子変異は稀である。NF2 遺伝子産物(転写産物は Merlin と呼ばれる)は細胞内の増殖抑制性の Hippo (ヒッポ) シグナル伝達系を制御し、転写コアクチベーターである YAP/TAZ の活性を抑制する。悪性中皮腫細胞は NF2 や Hippo シグナル伝達系の構成因子をコードする LATS2 遺伝子等の変異により約 70% の症例で YAP/TAZ が恒常的に活性化していることを当分野では明らかにしてきた。さらに、YAP/TAZ は転写因子の TEAD と結合して活性化する。活性化した TEAD 転写因子はサイクリン D1、結合組織成長因子 (CTGF)、インターロイキン 1 beta 遺伝子等を転写亢進することにより、中皮細胞に悪性形質を賦与することも明らかにしてきた。

ヒト患者由来の悪性中皮腫細胞株パネル 30 株および不死化中皮細胞株 4 株を用い、製薬企業との共同研究で開発された YAP/TAZ 阻害剤 (TEAD 阻害剤) K-975 に対する感受性についての解析を継続した。K-975 は TEAD 分子内の重要なシステイン残基に共有結合し、YAP/TAZ が TEAD に結合することを阻害する first-in-class の小分子化合物である。NF2-Hippo 経路が破綻した細胞株で、予想通り K-975 に高度に感受性を示す細胞株が認められた一方、予想に反して低感受性を示す細胞株も存在した。解析した中皮腫細胞株を Hippo 経路破綻の有無の 2 群間に分けて統計学的な解析を行ったところ、Hippo 経路の破綻した群で有意に K-975 の IC₅₀ (Inhibitory concentration 50) 値が低いことが確認された。さらに、Hippo 経路標的薬として他のグループから報告された薬剤 (Verteporfin, Super-TDU, Peptide17) との薬剤感受性について比較検討した。その結果、K-975 はこれらの薬剤に比べてより低濃度で腫瘍抑制効果を示すことが明らかとなった。

一方、通常分子標的薬治療において、最初高感受性を示した腫瘍もやがては獲得耐性を獲得する。K-975 が将来臨床試験

に展開されることを見据え、同じ観点から K-975 に対する獲得 2 次耐性株の樹立を行った。高感受性細胞株 MSTO-211H 株、NCI-H2052 株に対して YAP/TAZ 阻害剤を低濃度より曝露し、耐性株の樹立を試みていたが、段階的に薬物濃度を上昇させて、約 100 倍の濃度でも増殖が維持される獲得耐性株の樹立に成功した。これらの細胞株から抽出して RNA シークエンシングを行ったところ、幾つかの遺伝子プロファイルの変化が観察され、獲得耐性への関与が示唆された。

さらに TEAD family は 4 つのメンバーがあり、転写機能を含めその共通性や差異の詳細は明らかではない。TEAD family の 4 遺伝子について Flag-tag-付コンストラクトを合成し、それぞれを細胞に発現させ、K-975 の投与前後の TEAD 分子に結合する分子の同定を免疫沈降法および質量分析法を用いて行った、現在、その結果を解析中であるが、それぞれの TEAD family に共通する分子および排他的に特徴的な結合分子が同定され、TEAD family の機能的な差の詳細の足掛かりを得ることができた。

【今後の方向】

本研究の予備的な結果から悪性中皮腫細胞が呈する TEAD 阻害剤 K-975 に対する感受性・耐性に関する研究を進めていく上で、幾つかの重要な知見が得られた。さらに、獲得耐性株が樹立でき、その耐性メカニズムの一端が明らかになったことも非常に意義のあることと考えられた。今後、本研究が推進されることにより、悪性中皮腫に対する新たな治療戦略が構築される可能性が強く示唆された。

¹⁾ リサーチレジデント

<研究課題> 2

(主題) 細胞特性に基づくがんの新規診断法・治療法の開発研究

(副題) 悪性中皮腫の病理組織像に近い形態を有する 3 種の正常不死化中皮細胞株 HOMC の樹立とその性状解析

<研究者氏名>

佐藤龍洋、中西速夫¹⁾、赤尾 謙²⁾、奥田真帆³⁾、向井智美、清野 透⁴⁾、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

中皮は体内の漿膜腔や内臓を覆う膜であり、その内腔側表面には中皮細胞が単層で生着している。中皮細胞は細胞表面に特徴的な微絨毛を有しており、臓器の動きに伴う表面摩擦による損傷を助け、臓器を保護する役割を担っていると考えられている。しかし、中皮細胞がアスベスト等によって曝露されると細胞はがん化し、非常に増殖が速く浸潤性の高い悪性中皮腫が発症する。悪性中皮腫は、上皮細胞型、二相性、および肉腫型の 3 つの主要な組織学的サブタイプに分類され、肉腫型は通常、上皮型よりも悪性度が高い。したがって、悪性中皮腫発生過程における組織学的亜型の違いの原因について多くの関心が払わ

れているが、これらの形態学的表現型が中皮細胞のがん化の過程においてどのように決定されるのか、または変化していくのかについては不明な点が多い。私たちは、ヒト正常中皮細胞にヒトパピローマウイルス 16 型の E6、E7 遺伝子とヒトテロメラーゼ逆転写酵素遺伝子を導入し、形態的に異なる 3 種類の不死化中皮細胞株の樹立に成功した。これらの細胞株は、中皮細胞の形質転換および中皮間葉転換の基本的なメカニズムを解明するのに有用であると考えられ、今回、これらの細胞株の特性について詳細な検討を行った。

胃癌患者から手術時に同時に切除した大網組織から中皮細胞を入手して遺伝子の導入を行った。培養中、形態の異なるコローニーが観察されたためサブクローニングを行い、異なる細胞形態を持つ 3 つの不死化ヒト卵巣中皮細胞株（それぞれ HOMC-B1, -D4, A4）を樹立し、その形態と性状を検討した。HOMC-B1 細胞は親株となる初代中皮細胞と同様に敷石状の上皮細胞形態を示し、HOMC-A4 細胞は細長い線維芽細胞様形態、HOMC-D4 細胞は中間の細胞形態を示した。走査型電子顕微鏡による観察を行ったところ、HOMC-B1 および D4 細胞の表面に長さ 0.5~1 μ m の多数の微絨毛が検出された。免疫細胞化学的解析では、細胞膜から微小管が突出した特徴的な外観を持ち、正常細胞の成長休止期に形成されることが知られている一次絨毛が細胞表面に検出された。一方、HOMC-A4 細胞では、一次絨毛の発達が不十分で微絨毛が少なく、細胞端が隣接する細胞端と重なり、線維芽細胞の形態と一致していることが確認された。次に、HOMC が中皮細胞系列マーカーを発現しているかどうかを調べるために、4 つの標準的な中皮細胞マーカーについて検討した。HOMC-D4 および HOMC-B1 細胞株では、これらすべての遺伝子の発現が検出され、中皮細胞系列の表現型が維持されていることが示された。一方、HOMC-A4 ではこれらマーカーの発現は維持されていたが、他の細胞に比べかなり弱く、上皮間葉転換 (EMT) の過程を反映している可能性が示唆された。さらに、EMT に関連する遺伝子の発現量を測定したところ、HOMC-A4 細胞では、他の 2 つの HOMC 細胞と比較して Snail と CTGF が高発現していることが明らかとなった。最後に、悪性中皮腫細胞の EMT と密接な関係がある TGF- β および IL-1 β を HOMC-D4 細胞に作用させたところ、EMT に関連する遺伝子の発現量が顕著に増加し、細胞形態は線維芽細胞様に変化することを明らかにした。

【今後の方向】

現在、公的あるいは商業的なソースから入手可能で、実験に使用できる不死化中皮細胞株は数種類に限られている。本研究では、異なる形態を持つ 3 つの不死化中皮細胞株を樹立することに成功した。今後はこれらの不死化 HOMC 細胞株を用いて、悪性中皮腫細胞の形質転換の原因究明や、薬剤スクリーニング等の実験を実施し、悪性中皮腫の診断・治療法の開発を進める予定である。

¹⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科

²⁾ リサーチレジデント

³⁾ 順天堂大学大学院医学研究科

⁴⁾ 国立がん研究センター

システム解析学分野

<研究課題> 1

(主題) 統計的モデリングおよび深層学習を活用したがんゲノムデータ解析法の開発研究

(副題) 深層学習モデルによるコピー数変異位置精密決定法の開発およびナノポアシーケンシングデータからの DNA メチル化検出法の開発

<研究者氏名>

山口 類、Zhang Yao-Zhong¹⁾、井元清哉¹⁾、宮野 悟²⁾

【目的・概要・進捗状況】

次世代シーケンサーに代表される計測技術の発展により、DNA をはじめする様々な生体分子のシーケンズデータが患者個人のレベルで得られるようになってきている。それらのデータから、がんのゲノムデータに含まれる患者固有変異を正確に検出し、最適な治療法の選択や、がんの複雑なシステムの理解へつなげるためには、データ解析の手法が重要である。我々は、そのためにベイズ統計モデルと深層学習モデルによる二種のモデル化手法によるデータ解析手法の開発を行っている。本年は、二種類の深層学習モデルに基づく DNA 配列データからの情報抽出法を開発した。

まず、深層学習モデルに基づくコピー数変異箇所の精密決定法を開発した。がんゲノムの解析では、最初に、がん細胞から抽出された DNA を次世代シーケンサーで計測した大量の、150 塩基対 (bp) ほどの長さの配列データ (リードデータ) を、標準ゲノム配列上に位置決め (アライメント) し、そのアライメントされたリード群の情報から単塩基変異やコピー数異常などの種々の変異を検出する必要がある。単塩基置換では、ゲノム上のある位置をカバーするリード群の中に、標準配列と異なる塩基がどれぐらいの割合で出現するかを基に、変異の有無を検出する。一方、コピー数変異については、リード長よりもはるかに長い、構造異常 (Structural Variant) と呼ばれる変異に属し、その変異の検出は、同じ個所にアライメントされたリード数 (深度) 分布のゲノム上での変化情報に基づき行われることが多い。しかしながら、深度の変化情報は、一般的に解像度が低い情報であり、ゲノム上での一塩基単位での変化箇所 (breakpoint) を、精密に決定することは困難な問題であった。我々は、この問題を解決するために、画像の領域分割でも威力を発揮する深層学習モデルである UNet モデルを用いて、既知の breakpoint 周辺のリード深度パターンを学習し、逆に、breakpoint 周辺のリード深度パターンから breakpoint を一塩基レベルで推定する手法を考案した。本手法では、まず既存のリード深度情報を用いたコピー数変異検出アルゴリズムで、コピー数変化を生じている breakpoint を含む候補領域を検出し、その候補領域内のリード深度情報を UNet で解析することにより、breakpoint の位置の精密決定を行う。我々は、上記の UNet を含む解析パイプラインソフトウェア RDBKE を実装し、シミュレーションデータおよび実データの解析を行い、breakpoint の検出精度が優位に向上することを示した。また、ソースコードも以下のサイトで公開している。

<https://github.com/yaozhong/deepIntraSV>

また、深層学習モデルに基づく、ナノポアシークエンスデータからの DNA メチル化箇所検出法の開発を行った。これまで主流となっている、ショートリードシークエンスデータに加えて、ロングリードシークエンスデータを生成することのできる、ナノポアシークエンスの開発が進んでいる。その原理はタンパク質の微細な孔（ポア）を DNA のシングルストランドが通過する際に、通貨する塩基の種類に応じて変化するイオン電流の強弱により、塩基のシークエンスを検出するものである。これまで我々は、そのデータから DNA 中の塩基配列を精密に推定する深層学習モデルに基づく手法（URnet）を開発してきた。上述したようにナノポアシークエンスでは DNA の塩基を計測する一方、更にメチル化などの DNA 塩基修飾も計測することができる。ナノポアシークエンスデータからの塩基修飾についても、深層学習モデルベースのモデルが開発されてきているが、主流のモデルは回帰型ニューラルネットワーク（RNN）構造をもつものであり、推定に時間がかかることが問題であった。我々は、高速かつ高精度にメチル化を検出するために、回帰構造を持たない、BERT モデルを利用する手法を開発した。更に、BERT モデルの構造そのものに、本問題に特化した改良を付け加え、既存の RNN ベースの手法に比べて、高速にメチル化の推定を行うことができ精度の面でも遜色の結果を得ることに成功した。

【今後の方向】

深層学習モデルに基づくシークエンスデータからの情報抽出手法は、メタゲノムの解析など様々な発展が考えられる。問題の性質に適したモデル構造を探索しつつ開発を進める予定である。

¹⁾ 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター

²⁾ 東京医科歯科大学 M&D データ科学センター

<研究課題> 2

（主題）臨床シークエンスへ向けたがん変異およびシステム変調情報の解釈・翻訳法の研究

（副題）個人別遺伝子ネットワーク情報からの情報抽出法の開発

<研究者氏名>

山口 類、Park Heewon²⁾、井元清哉¹⁾、宮野 悟²⁾

【目的・概要・進捗状況】

がんゲノムパネル検査が2019年より保険適用となり、がんゲノム医療が本格化している。我々は、近未来の、全ゲノムシークエンスおよび複数オミックスデータの統合解析に基づく、がん臨床シークエンスの実現に向けた情報解析基盤技術の開発を進めている。臨床シークエンスにおいては、現在は DNA のシークエンスが主流であるが、今後 RNA 等の情報をも個人々のサンプルから得られることが予想される。我々は、これまで複数のサンプルをプールし、その類似情報を基に個人ごとの遺

伝子ネットワークを推定する手法を開発している。しかしながら一般的に各遺伝子ネットワークは、数千個の遺伝子をノードとする巨大なネットワークとなり、可視化するだけでも困難なものとなる。そこで、それら多数の大規模ネットワーク群からの有用情報抽出法の開発が必要である。本年は、個人別の薬剤耐性機構に関わるネットワーク構造を探索するために、NetSCCA（network-constrained sparse common component analysis）というアルゴリズムを開発し、薬剤感受性の異なる多数の細胞株由来の遺伝子発現データ得られたネットワーク群に対して NetSCCA を適用し、解釈可能な有用情報を得ることができた。

【今後の方向】

今後、計測の高度化にともない個人から得られるデータは、ますます種類も次元も増加することが予想される。その複雑なデータの中から人間が解釈可能な有用情報を抽出するためのデータ解析手法の開発が更に重要となってくる。今後は時系列情報も加味した情報抽出を進める予定である。

¹⁾ 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター

²⁾ 東京医科歯科大学 M&D データ科学センター

腫瘍制御学分野

<研究課題> 1-1

（主題）がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

（副題）脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

<研究者氏名>

青木玲奈、上條真弘、上原 了、疋田智也、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼ c-Src は、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においても src 遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞には Src の恒常性を維持し、不要な Src シグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。私たちはこれまでに、がんにおける異常な Src シグナルが、非受容体型チロシンキナーゼ Fer により中継される新たなメカニズムを見出した。また臨床検体を用いた組織染色などによって、新規がん治療標的として Fer が有望であることが示唆された。そこで、Fer に結合する低分子化合物をスクリーニングしたところ、12万化合物から26種のヒット化合物を取得し、バリデーションを行った結果、4種の Fer 機能阻害剤を見出すことができた。今年度は、4種の阻害剤のうち最も薬効が高かったヒット化合物1種について構造展開を行い、244種の誘導体からヒット化合物に比べがん増殖抑制作用が高く細胞毒性の低いリード

化合物 2 種の取得に成功した。

【今後の方向】

ヒトがん細胞担がんモデルマウスにおけるリード Fer 機能阻害剤の評価を行うと共に、Fer 機能阻害剤の作用機序メカニズムの解析を行う。

<研究課題> 1-2

(主 題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副 題) 3'UTR を介した遺伝子発現制御とがん進展

<研究者氏名>

上原 了、宮田眞美子、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

遺伝子発現において、蛋白質に翻訳されるコーディング領域の下流には、3' 非翻訳領域 (3'UTR) と呼ばれる蛋白質に翻訳されない部位がある。この領域は microRNA との相互作用を通じて、翻訳産物 (蛋白質) の発現を制御する重要な機能を持つと考えられている。私たちはこれまでの研究で、様々ながん関連遺伝子が 3'UTR における microRNA との相互作用によって発現制御され、その破綻による発現亢進ががん悪性化に繋がることを見出してきた。がん関連遺伝子は様々なメカニズムによって発現が亢進し機能を発揮すると考えられているが、3'UTR を介した発現制御は microRNA を介したメカニズム以外にはほとんど知られていない。これまでの研究において、がん細胞の生存・運動に重要な Rictor 遺伝子の発現を 3'UTR を介して抑制する低分子化合物を 3 万化合物からスクリーニングし、さらにがん増殖抑制能を有する 4 種の化合物を見出した。今年度は、ヒット化合物のうち薬効の最も高かった化合物について、薬物毒性の見られない投与量において顕著に担がんマウスにおける腫瘍形成を抑制することを明らかにした。さらに、がん関連遺伝子の 3'UTR を介した新たな発現制御メカニズムを解明するため、ヒット化合物の標的蛋白質候補を探索し、有望な標的蛋白質を同定した。

【今後の方向】

Rictor 遺伝子の発現を抑制する化合物の標的タンパク質に対する作用機序を詳細に解析し、3'UTR を介した遺伝子発現制御メカニズムを明らかにする。

<研究課題> 2-1

(主 題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副 題) エクソソームの形成制御とがん進展

<研究者氏名>

疋田智也、三谷文美絵¹⁾、宮田眞美子、青木玲奈、上原 了、清水 緑¹⁾、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

エクソソームは、内部にタンパク質や RNA 分子を含む直径 40-150 nm 程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、がん細胞におけるエクソソームの形成や分泌の亢進メカニズムについてはほとんど明らかとなっていない。私たちはこれまでに、様々ながん種で活性化している Src シグナルのエクソソーム産生への関与について解析すると共に、Src の下流で増殖シグナルに関わる MAPK の活性化がエクソソーム分泌促進することを明らかにした。詳細な解析の結果、MAPK の活性化によって細胞内のリソソームの活性化が抑制され、エクソソーム形成の元となる多胞性エンドソームの分解が促進することにより、エクソソームの分泌が亢進することを明らかとした。今年度は、MAPK 活性化によるエクソソーム亢進メカニズムにおいてがん種で高発現が認められる MYC が関与することを見出し、臨床検体の解析により、腎がん種で本メカニズムの寄与が高いことを明らかにした。

【今後の方向】

がん特異的なエクソソーム形成・分泌メカニズムを詳細に解析する。またそれらのメカニズムが機能しているがん種を明らかにし、メカニズムを基としたエクソソーム分泌阻害剤の探索・作用機序解明を行う。

¹⁾ 連携大学院生 (名古屋市立大学大学院薬学研究所)

<研究課題> 2-2

(主 題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明

(副 題) エクソソーム分泌阻害剤の探索と作用機序解明

<研究者氏名>

三谷文美絵¹⁾、林 建宇²⁾、坂本達哉³⁾、荒井雅吉²⁾、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

これまでエクソソームマーカーをルシフェラーゼ標識することによって生じた発光エクソソームを検出する方法を開発し、この方法を発展させることにより、エクソソーム分泌阻害剤の探索系を構築した。そこで新規エクソソーム分泌阻害剤の同定を目指し、海洋由来真菌の培養抽出物を用いた天然物スクリーニングを行った。その結果、細胞毒性を示さず、エクソソーム分泌を阻害する低分子化合物を見出した。詳細な作用機序解析の結果、本化合物は細胞内の ATP を減少させることで mTOR 経路を抑制し、リソソーム活性化を介してエクソソーム分泌を阻害することが明らかとなった。

【今後の方向】

引き続き他の天然物ライブラリーを用いて、新規エクソソーム分泌阻害剤の探索を行うと共に、作用機序解析を行うことでがん特異的なエクソソーム分泌亢進メカニズムを明らかにする。

¹⁾ 連携大学院生（名古屋市立大学大学院薬学研究科）

²⁾ 大阪大学大学院薬学研究科

³⁾ 学部生（名古屋大学医学部）

腫瘍免疫応答研究分野

＜研究課題＞ 1

（主題） 遺伝子改変による養子免疫療法の改良開発

（副題） エピジェネティクス改変による疲弊を起こさない抗腫瘍 T 細胞の開発

＜研究者氏名＞

籠谷勇紀、井上 聡、吉川聡明、伊藤雄介、呉 智聞¹⁾、
中島貴裕²⁾、張 皓淞³⁾

【目的・概要・進捗状況】

本研究は、がん細胞を認識・攻撃できる抗腫瘍 T 細胞を体外で準備して、患者に輸注することで治療を行う養子免疫療法の改良に関する開発研究である。本課題では特に、クロマチン開閉状態の修飾を通じて細胞の性質を広範に制御するエピジェネティック遺伝子に着目した抗腫瘍 T 細胞の修飾により、T 細胞機能を高めることを目的としている。これまでに T 細胞の機能改変につながる複数のエピジェネティック遺伝子を同定しており、治療効果の改善につながる非臨床データを得た。このうち 1 つの因子（PRDM1）については、改変に伴う治療効果の改善を示し、学術論文として発表した（Yoshikawa et al. Blood 2022）。

【今後の方向】

同定された標的遺伝子の修飾を組み合わせることで、さらに T 細胞の機能を高められるデータを取得したことから個別課題へと展開し、研究代表者として外部資金を獲得した（AMED 次世代がん医療加速化研究事業、2022-2023 年、AMED 橋渡し研究プログラム・preF（名古屋大学拠点）、2022-2023 年、AMED 再生医療実現拠点ネットワークプログラム（幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム）、2021-2023 年、JST 創発的研究支援事業、2021-2027 年）。これらの研究を進め、成果については各々知財申請、学術誌での発表を行う。

¹⁾ リサーチレジデント

²⁾ 研修生（名古屋市立大学）

³⁾ 研修生（名古屋大学）

＜研究課題＞ 2

（主題） 免疫療法抵抗性に関わる腫瘍細胞特性の解明

＜研究者氏名＞

籠谷勇紀、井上 聡、吉川聡明、伊藤雄介、呉 智聞¹⁾、
中島貴裕²⁾、張 皓淞³⁾

【目的・概要・進捗状況】

T 細胞による細胞傷害活性に対する感受性はがん細胞の種類によって大きく異なることが知られている。この分子機序を解明するために多数のがん細胞株を準備し、感受性データの取得を進めた。これまでに 90 種類程度の細胞についての感受性データを蓄積し、抵抗性に関わる分子機序の一端を明らかにした。AMED 資金をもとにさらに研究を推進し（AMED 次世代がん医療創生研究事業、2020-2021 年、抗腫瘍 T 細胞による細胞傷害活性に対する抵抗性に関わるがん細胞の遺伝子プロファイルの網羅的解析と治療への応用）、具体的な標的分子、及びその阻害による免疫細胞療法の強化を示した。

【今後の方向】

上記成果に関する知財申請を完了するとともに、学術論文として公表を行う。また臨床応用を目指す上でさらに外部資金を獲得した上で、データの蓄積を進める。

¹⁾ リサーチレジデント

²⁾ 研修生（名古屋市立大学）

³⁾ 研修生（名古屋大学）

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

＜研究課題＞ 1

（主題） がん免疫編集のメカニズムの解明

（副題） 肺癌における新しい腫瘍免疫微小環境の評価法の開発

＜研究者氏名＞

篠原周一¹⁾、高橋祐介、岡村文子、村岡大輔、山口 類、
黒田浩章、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

一人一人の腫瘍免疫微小環境（TIME）をより良く理解することが、その患者の予後や治療効果を予測するバイオマーカーの開発につながると考えられる。しかし、TIME を構成する様々な因子の相互作用を包括的に評価する方法はほとんど開発されていなかった。我々は、肺癌 113 例の RNA-seq と全エクソソームシーケンスのデータを用いて、TIME を構成する因子に基づく新しいスコアリングシステム（TIME score）を開発した（Shinohara et al, J Immunother Cancer 2022）。TIME score は、T-score（腫瘍因子）、I-score（免疫因子）、そして S-score（抗免疫因子）から成る。肺癌の組織型、ドライバー変異、腫瘍浸潤リンパ球、および突然変異由来のネオアンチゲ

ンに対する免疫応答 / 免疫編集が肺癌患者の TIME スコアに影響を与えることを示した。肺癌 990 例の TCGA データセットを用いた予後解析では T-, I-, S-score はいずれも独立した予後因子となり、8つのグループ (G1-8) で予後が層別された。さらに、TIME スコアが、悪性黒色腫患者における抗 PD-1 療法の有効性を予測することを示した。このスコアリングシステムは、肺癌患者の予後予測や免疫療法の治療選択に役立つと考えられる。

【今後の方向】

バルクの RNA 発現をもとに開発した TIME score をさらに発展させるために、腫瘍の免疫組織学的解析や T 細胞のシングルセル解析等の詳細な検討を行っている。肺癌において ICI のみで効果が期待できる症例の選択、さらには ICI とがんワクチンを含む他の治療との併用で効果が期待できる症例の選択に役立つ可能性がある。

¹⁾ 任意研修生

<研究課題> 2

- (主題) 新生抗原 (ネオアンチゲン) の同定と免疫応答の解析
(副題) p53 及び KRas 変異抗原特異的 T 細胞の誘導

<研究者氏名>

岡村文子、高橋祐介、村岡大輔、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療において、がんが保有する変異抗原 (ネオアンチゲン) エピトープを認識する細胞傷害性 T リンパ球 (CTL) が、治療効果に重要な役割を果たしていることが明らかになってきた。がんだけが有するネオアンチゲンの免疫原性が一般的に高いことからネオアンチゲンを標的とする免疫療法が注目されている。しかしながら、がん細胞における変異は個々の患者において様々であり、ネオアンチゲンの探索も個別に行う必要がある。一方で、がんに共通する変異が存在することから、共通ネオアンチゲンを標的として、個別にネオアンチゲンを探索する時間や手間を省略したがん免疫療法も広がりを見せている。

今年度は p53 及び KRas の変異抗原特異的 T 細胞の誘導を行った。TP53 遺伝子に関しては DNA 結合領域に様々ながんで見られる変異のホットスポットに含まれる既知のネオアンチゲンを対象とした。がん遺伝子である KRas 遺伝子に関しては様々ながんで見られる 12 番目のグリシンが変異してバリンあるいはアスパラギン酸への変異を対象とした。

健康人由来ナイーブ CD8⁺T 細胞を複数回刺激を行った。健康人検体で様々な条件のもと刺激をしたところ、健康人検体で特異的な T 細胞応答を誘導した後、T 細胞から特異的 T 細胞を分取して、T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子の解析を行った。TCR 遺伝子は塩基配列を調べて、a 鎖遺伝子および b 鎖遺伝子の同定を行った。これにより、TCR がどのくらい同じもの

が取れているかなどを判別し、異なる TCR のクローニングを行い PCR 産物のままの TCR 遺伝子と NFAT 応答性ルシフェラーゼ遺伝子を発現するプラスミドを、TCR を発現しない Jurkat 細胞に導入した。それぞれの TCR 遺伝子の特異性をレポーター遺伝子であるルシフェラーゼの活性を測定することで評価した。

【今後の方向】

得られた TCR 遺伝子の特異性を詳細に確認した後に、HLA 拘束性、エピトープ配列の同定を行っていく予定である。野生型配列を認識せず、変異配列だけを認識できるような TCR であれば、改変を行い高親和性化を行っていく予定である。さらには、TCR 移入 T 細胞治療の開発を行っていく予定である。

<研究課題> 3

- (主題) ネオアンチゲンを標的としたがん免疫療法の開発
(副題) 肺癌個別化がんワクチンの研究開発

<研究者氏名>

小室裕康¹⁾、篠原周一¹⁾、松井琢哉¹⁾、杉田裕介²⁾、高橋祐介、岡村文子、村岡大輔、山下慶子³⁾、山口 類、田口 歩、松下博和

【目的・概要・進捗状況】

有効ながんワクチン療法を実施する上で重要なことは、強い免疫応答を引き起こしうるネオアンチゲンを同定することである。我々は、Single Cell RNA sequencing (scRNA-seq) および TCR sequencing (scTCR-seq) を活用して、腫瘍特異的 CD8⁺ 細胞集団を特定し、その集団内の T 細胞が認識する腫瘍抗原の同定を試みた。外科的に切除された3例の肺癌検体から、CD3⁺CD8⁺T 細胞を cell sorting して scRNA-seq および scTCR-seq を行った。合計 6,998 個の CD8⁺T 細胞を解析し、遺伝子発現プロファイルに従って 10 のクラスターに分割した。ENTPDI (CD39) の発現および PDCDI (PD-1) や HAVCR2 (Tim-3) などの疲弊化マーカー遺伝子の発現を特徴とする Tex (exhausted T cell) クラスターと、TCF7 や CCR7 といった未分化マーカー遺伝子の発現を特徴とする Tm (memory T cell) クラスターに属する細胞が大部分を占めていた。それぞれのクラスターの TCR 遺伝子を人工合成し、Jurkat 細胞に導入した。日本電気株式会社 (NEC) と共同で人工知能 (AI (グラフベース関係性学習)) を活用して予測した抗原ペプチドとの反応性を検討した。1 例 (Pt.1) ではそれぞれのクラスターの TCR について予測抗原との反応性を検討し、Tex クラスターに存在する 19 種類の TCR のうち 4 種類 (21%) で抗原ペプチドとの反応を認めた。一方、その他のクラスターの合計 52 種類の TCR においては反応を認めなかった。そこで、残り 2 例 (Pt.2, Pt.3) では Tex クラスターに着目し、それぞれ発現頻度上位 15 番目までの TCR (合計 30 種類の TCR クロノタイプ) について検証を行い、5 種類 (16.7%) の TCR が腫瘍抗原に特異的な反応を示した。非小細胞肺癌において、Tex クラスターは腫瘍抗原を認識する腫瘍特異的な T 細胞集団である可能性

がある。CD8⁺T 細胞 scRNA/TCR-seq による Tex-TCR の検出は、肺癌患者の腫瘍抗原を同定する有用なアプローチと考えられた。

【今後の方向】

個別化がんワクチンの開発に向けて、このシステムをさらに改良する。また、この TCR-抗原ペア同定システムを、将来の固形がんに対する TCR 遺伝子導入 T (TCR-T) 細胞治療の開発に向けて活用することを検討している。

- 1) 任意研修生
- 2) リサーチレジデント
- 3) AI Drug Development Division, NEC Corporation

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

- (主題) がんの診断・治療個別化に有用な血液バイオマーカーの探索
- (副題) 大腸癌の早期診断を目指した血液バイオマーカーの探索同定

<研究者氏名>

田口 歩、阿部雄一、磯村久徳¹⁾

【目的・概要・進捗状況】

我が国において、大腸癌の罹患者数は増加傾向で、約 15 万人と全がんの中で最多であり、また死亡者数も 5 万人超と肺癌について 2 番目に多い。大腸癌の 5 年相対生存率は、局所限局症例では 95% 以上と非常に良い一方で、局所限局症例の占める割合は全体の約 40% に過ぎず、その診断の遅れが問題となっている。大腸癌を早期発見するためのスクリーニングとして、免疫法便潜血検査が行われている。便潜血検査は、受診者の負担が低く、また大腸癌による死亡率を減少させることが証明されているが、疑陽性率が高く、その陽性的中率はわずか 5% 前後であること、また早期大腸癌に対する感度も約 50% と低いことから、より精度が高い早期診断法の開発が急務である。

血液バイオマーカーは、簡便かつ低侵襲、低コストで高スループットな診断法であり、癌の早期診断やスクリーニングにおいて有望である。本研究では、臨床上有用な診断精度を持つ、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌の血液診断バイオマーカーの探索を目指して、高リスク大腸腺腫・早期大腸癌患者から採取された血漿検体を用いて、血中タンパク質と自己抗体の網羅的かつ高深度なプロファイリングを行う。

現在までに、4 つの血漿検体セットを用いて高深度血漿タンパク質解析を行った。3 つの施設（愛知県がんセンター、藤田医科大学消化器内科、滋賀医科大学消化器内科）から提供された血漿検体について、それぞれ施設、性別（男、女）、組織型（腺腫、腺癌）、発生部位（右側、左側）、遺伝子変異（KRAS、BRAF）などの臨床情報に基づいてサンプルをプールし、安定同位体標識を用いて標識したのち、サンプルを大規模に分画し

て、高深度かつ定量的な質量分析を nano-LC/MS/MS を用いて行った。各プロテオーム解析において、それぞれ 800 ~ 1,100 個の微量タンパク質が同定できた。そのうち、有望と考えられたバイオマーカー候補については、現在アッセイの確立と 150 例（正常対照、低リスク大腸ポリープ、高リスク大腸ポリープ、早期大腸癌、進行大腸癌それぞれ 30 例ずつ）の血漿検体を用いた初期検証を進めている。さらに既存の大腸がんバイオマーカー（CEA、CA19-9、p53 抗体、CYFRA21-1、LGALS3、TIMP-1）についても併せて検証を行っている。

また、pH 勾配液体クロマトグラフィーを用いた抗原-自己抗体の高感度プロファイリング法を開発し、1 検体当たり 1,000 個を超える抗原の同定が可能となった。上記の血漿検体を用いて抗原のプロファイリングを行い、バイオマーカー候補と考えられた自己抗体については同様に初期検証を進めている。

【今後の方向】

初期検証において有望と考えられたバイオマーカーについては、便潜血陽性症例 223 例（そのうち高リスク大腸ポリープから進行大腸癌 67 例を含む）、大腸癌と診断される前に収集された血液検体 130 例（+ 正常対照 130 例）を用いてさらに検証する。

- 1) リサーチレジデント

<研究課題> 2

- (主題) 網羅的分子プロファイリングによるがんの分子病態の解明と新規治療標的分子の探索
- (副題) 大腸癌転移モデルのマルチオミクス解析による大腸癌転移機構の解明と制御法の開発

<研究者氏名>

田口 歩、磯村久徳¹⁾、梶野泰祐、阿部雄一

【目的・概要・進捗状況】

遠隔転移を有する Stage IV 大腸癌の 5 年生存率は約 20% と予後不良であり、大腸癌の生存率向上のためには、再発・転移巣の制御が極めて重要である。転移性大腸癌の分子生物学的な知見は集積しつつあるものの、有効な治療法の開発には至っておらず、革新的なアプローチによって転移性大腸癌の克服に取り組む必要がある。

我々は、大腸癌転移モデルとして、マウス大腸癌細胞株 CT26 の in vivo selection を行い、肝転移（CT26-L6）、リンパ節転移（CT26-LN6）、腹膜播種（CT26-P6）をそれぞれ高頻度に起こす亜株と、転移を起こしにくい亜株（CT26-N5）をそれぞれ樹立した。低転移性亜株に比べ、各高転移性亜株では高い遊走・浸潤能を獲得していた。各亜株において、RNA シーケンス解析と多層プロテオーム解析を行い、それぞれの分子プロファイルと比較したところ、特に転移関連分子 A が、腹膜播種亜株で高発現していることを見出した。腹膜播種亜株において、siRNA を用いた分子 A のノックダウンにより、細胞の遊走浸潤能が著明に低下した。in vivo においても分子 A のノッ

クダウンは、腹膜播種形成を抑制した。また、ヒト大腸癌細胞株においても分子 A のノックダウンによって、同様に遊走・浸潤能が有意に低下することが観察され、分子 A が大腸癌腹膜播種において重要な役割を果していることが示唆された。

現在高肝転移亜株、高リンパ節転移亜株においても同様に解析を進めており、本研究を通じて大腸癌転移に関わる分子機構を俯瞰的に解明し、大腸癌転移巣を制御するための新規分子標的治療法の開発を目指す。また、並行して大腸癌原発巣と肝転移巣の臨床検体から作成した患者腫瘍組織移植（PDX）モデルについても、多層オミクス解析を行っており、さらなる新規転移関連分子の同定を目指している。

¹⁾ リサーチレジデント

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

<研究課題> 1

- (主題) 各種固形腫瘍に対する新規分子標的治療開発
- (副題) KRAS 変異腫瘍に対する新規治療開発
ctDNA 解析を用いた大腸がんの分子生物学的背景の解明とこれを応用した新規分子標的開発

<研究者氏名>

衣斐寛倫、足立雄太、西岡由希、山口 類

【目的・概要・進捗状況】

大腸がんによる死亡者数は年間 5 万人程度で、男性のがん死亡の第 3 位、女性では第 1 位の原因である。大腸がんの術後再発メカニズムの解明および新規治療開発のため、切除可能大腸がんの手術検体よりオルガノイドの作成を行うとともに、腫瘍検体の全エクソームシーケンス解析とそれに基づいて患者個別に設定された対象遺伝子の ctDNA 解析、腫瘍検体の RNA シーケンス解析のデータを統合解析し、新たな標的分子の同定と治療開発につなげる。本研究は、多施設共同臨床試験であり、当院のデータと試験全体のデータの統合解析を行っている。

【今後の方向】

ctDNA 解析結果と臨床病理学的背景の関わり、ctDNA 解析結果により判定される術後補助療法に対する感受性と発現プロファイルの相関などの解析により標的分子の選定を進める。

<研究課題> 2

- (主題) 承認済み分子標的薬における初期・獲得耐性機序の解明・克服
- (副題) KRAS 阻害薬の初期・獲得耐性の解明とその克服

<研究者氏名>

衣斐寛倫、足立雄太、築瀬正伍、春日夏実、木村 令¹⁾、平出賢太郎²⁾

【目的・概要・進捗状況】

固形腫瘍において、KRAS 遺伝子は高頻度に変異を認めるが、有効な治療法が存在しないため新たな治療開発が急務である。KRAS 変異にはいくつかのホットスポットが存在し、そのうち 12 番目のアミノ酸であるグリシンがシステインに変異する KRAS G12C 変異は、肺がんの 4-5%、大腸がんの 2-3% に存在することが知られている。近年、KRAS G12C 変異タンパクを特異的に阻害する薬剤が開発され、2021 年末に薬事承認された。我々は、KRAS G12C 変異を有するがん細胞株の解析から、KRAS タンパクの発現が KRAS G12C 阻害薬の感受性に関与することを見出した。また、KRAS タンパクの発現は、腫瘍の上皮間葉移行状態に関連しており、腫瘍細胞が間葉系の性質を獲得することにより KRAS G12C 阻害薬に耐性となること明らかに昨年度報告した。本年度は、上皮間葉移行が起きるメカニズムについて取り組み、候補分子の同定を行った。

【今後の方向】

KRAS の他の部位に対する特異的阻害薬も開発が進んでいることから、KRAS G12C 阻害薬は、今後の KRAS 変異腫瘍に対する治療のモデルケースとなることが考えられる。現在、上皮間葉移行状態以外の KRAS G12C 阻害薬の初期・獲得耐性機序や、上皮間葉移行状態が誘導されるメカニズムについても検討を進めており、これらの原因が明らかにされることにより、KRAS 阻害薬の効果が期待される患者の同定や、効果が期待できない患者に対する併用療法などの新たな治療選択の提示につなげたい。

¹⁾ 研修生

²⁾ リサーチレジデント

第2章 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ（総長・副総長）

副総長

- 001 榑野正人：情熱・努力を継続できる外科教育. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [特別企画特別発言]
- 002 榑野正人：胆道癌切除断端陽性症例に対する治療戦略. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ 特別発言]
- 003 榑野正人：胆道癌治療のエビデンスと新しいエビデンスの創出. 第57回日本胆道学会学術集会, 2021, (Web), [教育講演 司会]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ（病院）

病院長

- 001 丹羽康正：COVID-19 と消化器病診療 1. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (東京), [一般演題 (ミニワークショップ)]
- 002 丹羽康正：早期胃癌 ESD. 第 33 回 日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2021, (Web), [ランチョンセミナー]
- 003 丹羽康正：LCI (Linked Color Imaging) を用いた胃内視鏡診断～LCI-FIND trial の結果も含めて～. 第 64 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2021, (Web), [ランチョンセミナー]
- 004 丹羽康正：最近注目される自己免疫性胃炎 (A 型胃炎) について. 日本消化器病学会東海支部第 46 回教育講演会, 2021, (名古屋), [教育講演]

消化器内科部

- 001 Hara K : Interventional EUS. 中山医院学会, 2021, (Web), [講演]
- 002 Hara K : Is ERCP the BEST for your patients?. 南方医院学会, 2021, (Web), [講演]
- 003 Hara K : EUS-guided Tissue Sampling for pancreas lesion. CHINA EUS SUMMIT, 2021, (Web), [特別講演]
- 004 Hara K : How to perform EUS-BD. EGYPT-JAPAN JOINT SYMPOSIUM, 2021, (Web), [特別講演]
- 005 Hara K : Pancreatic cyst: a Japanese point of view. 3rd Japan-Egypt symposium, 2021, (Web), [講演]
- 006 Hara K : How to perform EUS-BD easier and safer?. The first International Forum on digestive Screening & Endoscopy training, 2021, (Web), [講演]
- 007 Hara K : How to perform EUS-BD easier and safer?. EUS Summit, 2021, (Web), [講演]
- 008 Hara K : Trouble shooting of interventional EUS. DEST2021, 2021, (Web), [講演]
- 009 Hara K : Technical tips of EUS-BD. KOREA-TAIWAN JOINT SYMPOSIUM, 2021, (Web), [特別講演]
- 010 Ozaka M, Ueno M, Ishii H, Mizusawa J, Katayama H, Kataoka T, Okusaka T, Ikeda M, Miwa H, Kaneko S, Maesono T, Mizuno N, Yamamoto T, Kawamoto Y, Todaka A, Kamata K, Hisano T, Fujimori N, Furuse J : Randomized phase II study of modified FOLFIRINOX versus gemcitabine plus nab-paclitaxel combination therapy for locally advanced pancreatic cancer (JCOG1407). ASCO2021, 2021, (Web), [ポスターディスカッション]
- 011 Okuno T, Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Kataoka T, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Sekimoto M, Sano K, Tobimatsu K, Katanuma A,

- Gotoh K, Yamaguchi H, Ishii H, Ueno M, Furuse J : The influence of major hepatectomy on gemcitabine-based chemotherapy for advanced biliary tract cancer: An exploratory subset analysis of JCOG1113. 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2022, (Web), [ポスター]
- 012 Ohba A, Ozaka M, Mizusawa J, Katayama H, Okusaka T, Kobayashi S, Ikeda M, Kaneko S, Sasahira N, Okano N, Furukawa M, Miki I, Mizuno N, Yasuda I, Fujimori N, Kataoka T, Ueno M, Ishii H, Fukuda H, Furuse J : Randomized multicenter phase II/III study of gemcitabine plus nab-paclitaxel or modified FOLFIRINOX or S-IROX in patients with metastatic or recurrent pancreatic cancer (JCOG1611, GENERATE). 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2022, (Web), [ポスター]
- 013 Morizane C, Machida N, Honma Y, Okusaka T, Boku N, Kato K, Nomura S, Hiraoka N, Sekine S, Taniguchi H, Okano N, Yamaguchi K, Sato T, Ikeda M, Mizuno N, Ozaka M, Kataoka T, Kitagawa Y, Terashima M, Furuse J : Randomized phase III study of etoposide plus cisplatin versus irinotecan plus cisplatin in advanced neuroendocrine carcinoma of the digestive system: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1213). 2022 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium, 2022, (Web), [Rapid Abstract Session]
- 014 Kuwahara T : Usefulness of Deep Learning Analysis for the Diagnosis of IPMN on EUS. IDEN2021, 2021, (Web), [講演]
- 015 Kuwahara T : Deep learning analysis for the diagnosis of pancreatic cysts on EUS. EUS summit 2021, 2021, (Web), [講演]
- 016 Takahashi S, Mizuno N, Hasegawa K, Matsumoto K, Han S, Takatsuki T, Fan J, Nakagawa K : Outcomes in Japanese patients with TMB-high and non-TMB-high solid tumors treated with pembrolizumab: KEYNOTE-158. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [口演]
- 017 原 和生：目から鱗！胆膵内視鏡治療のコツ教えます。第 64 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2021, (Web), [アフタヌーンセミナー]
- 018 山田啓策, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 文原大貴, 柳井谷駿史, 丹羽康正：高齢者の大腸腫瘍に対する ESD の治療成績及び予後予測因子の検討. JDDW2021, 2021, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 019 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 山田啓策, 原和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ：当院における超高齢者早期胃がんに対する内視鏡治療の現状. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 2021, (Web), [口

- 演]
- 020 大澤高陽, 深見保之, 倉橋真太郎, 花澤隆明, 細田和貴, 原 和生, 清水泰博, 佐野 力: 膵癌術後7年目に発症した残膵癌の1切除例. 第52回日本膵臓学会大会, 2021, (Web), [口演]
- 021 栗田裕介, 原 和生, 水野伸匡, 林 規俊, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 八木 伸, 長谷川 翔, 佐藤高光, 細野邦広, 中島 淳, 窪田賢輔: 膵神経内分泌腫瘍の画像診断と臨床病理学的バイオマーカー PNEN 膵原発病変に対するEUSの有用性と限界. 第52回日本膵臓学会大会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 022 原 和生: 胆膵のドレナージ術: 現状と課題 EUSガイド下胆管ドレナージのPros & Cons. 第107回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [パネルディスカッション]
- 023 原 和生: Fielder18 レビュー. ASAHIカンファレンス, 2021, (Web), [特別講演]
- 024 原 和生: 膵炎防止デバイスの開発に向けて. ASAHIカンファレンス, 2021, (Web), [特別講演]
- 025 原 和生: EUS-FNA. 第101回日本消化器内視鏡学会総会, 2021, (Web), [司会]
- 026 原 和生: EUSの現状と未来. 第101回日本消化器内視鏡学会総会, 2021, (Web), [特別講演]
- 027 原 和生: EUS-BD ワーキンググループからの報告. 第101回日本消化器内視鏡学会総会, 2021, (Web), [講演]
- 028 原 和生: 膵疾患の内視鏡診断と治療. 第33回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2021, (Web), [講演]
- 029 原 和生: がんゲノム時代に胆膵内視鏡医が知っておくべき最新の知見. TAIHO WEBセミナー, 2021, (Web), [特別講演]
- 030 原 和生: 胆道ドレナージの極意. 松阪市地域連携臨床懇話会, 2021, (Web), [特別講演]
- 031 原 和生: AXIOSの使用法. AXIOS講演会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 032 原 和生: 急性膵炎. 第52回日本膵臓学会, 2021, (Web), [座長]
- 033 原 和生: 膵臓がん Expert Seminar, 2021, (Web), [司会]
- 034 原 和生: EUSの基礎から応用まで. 埼玉EUS研究会, 2021, (Web), [講演]
- 035 原 和生: 胆管炎2. 第57回日本胆道学会学術集会, 2021, (Web), [座長]
- 036 原 和生: 膵癌. JDDW2021, 2021, (神戸), [座長]
- 037 原 和生: 初学者のためのEUS-BDセミナー. EUS-BDセミナー, 2021, (Web), [特別講演]
- 038 原 和生: がんゲノム時代に胆膵内視鏡医が理解しておくべき最新の知見. 新宿膵癌フォーラム2021, 2021, (Web), [特別講演]
- 039 原 和生: 胆膵. 第135回日本消化器病学会東海支部例会, 2021, (Web), [座長]
- 040 原 和生: AXIOS講習会. HOT AXIOS システム講習, 2021, (Web), [特別講演]
- 041 原 和生: 膵癌診療セミナー. ヤクルトWEBセミナー, 2021, (Web), [講演]
- 042 原 和生: NET WEB Seminar in Aichi, 2022, (Web), [司会]
- 043 原 和生: 内視鏡セミナー. 第32回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2022, (Web), [司会]
- 044 原 和生: がんゲノム時代に胆膵内視鏡医が理解しておくべき最新の知見. 第68回 岩手県南・気仙沼消化器病検討会, 2022, (Web), [特別講演]
- 045 原 和生: Important points to start EUS-BD for trainees. AEG Basic interventional EUS workshop, 2022, (Web), [特別講演]
- 046 原 和生: Important points for trainees to start EUS-intervention. AEG Basic interventional EUS workshop, 2022, (Web), [座長]
- 047 原 和生: がんゲノム時代の超音波内視鏡の役割: 超音波内視鏡を用いた診断・治療のトピックス. 第9回長崎胆・膵研究会, 2022, (Web), [特別講演]
- 048 原 和生: Interventional EUSの現状と展望~安全で簡単な手技を目指して. 東海ERCP/EUSセミナー, 2022, (Web), [特別講演]
- 049 原 和生: 癌患者のBone Health. ASAHI 骨粗鬆症研究会, 2022, (Web), [司会]
- 050 原 和生: 膵2. 第75回日本消化器画像診断研究会, 2022, (Web), [座長]
- 051 原 和生: 明日から役立つ膵癌診療のトピックス. 第5回がん診療連携WEBセミナー, 2022, (Web), [講演]
- 052 原 和生: EUS・FNA (VIDEO デモンストレーション). 横浜国際内視鏡ライブ2022, 2022, (横浜), [講演]
- 053 原 和生: ERCP (Panc ca). 横浜国際内視鏡ライブ2022, 2022, (横浜), [司会]
- 054 原 和生: AXIOS講習会, 2022, (Web), [ワークショップ]
- 055 水野伸匡, 青木 啄: 膵神経内分泌腫瘍の画像診断と臨床病理学的バイオマーカー. 第52回日本膵臓学会大会, 2021, (Web), [司会]
- 056 水野伸匡, 井岡達也, 尾阪将人, 上野 誠, 奥坂拓志: 膵癌診療ガイドライン2022の改訂作業の概況(化学療法). 第52回日本膵臓学会大会, 2021, (Web), [特別企画]
- 057 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 宮野 亮, 文原大貴, 柳井谷駿史, 吉田将大, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 山田啓策, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 細田和貴, 丹羽康正: IPMN 経過観察症例における膵癌発症リスクの検討と膵嚢胞専門外来の試み. 第107回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 058 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 文原大貴, 柳井谷駿史, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 細田和貴: 膵癌早期発見の工夫と取り組み膵癌早期発見のための膵嚢胞専門外来の試み. 第52回日本膵臓学会大会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 059 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥

- 野のぞみ, 文原大貴, 柳井谷駿史, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 細田和貴: 当院における十二指腸乳頭部腫瘍の治療成績. 第 57 回日本胆道学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 060 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 文原大貴, 柳井谷駿史, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 細田和貴: 膵癌早期診断のための膵嚢胞性疾患の経過観察法. JDDW2021, 2021, (神戸), [ポスター]
- 061 羽場 真, 桑谷将城, 湯沼朗生, Hokkaido Interventional EUS/ERCP study group: 初期画像検査陰性の総胆管結石の診断における超音波内視鏡の有用性の検討 多施設共同非ランダム化非盲検探索的臨床試験 (UMIN00028558). 第 57 回日本胆道学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 062 桑原崇通, 原 和生: 消化器領域における AI 研究の進歩 膵腫瘍診断 AI 作成の問題点とその克服. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 063 桑原崇通: Deep learning を用いた IPMN の良悪性診断の現状と今後の展望. 第 25 回日本外科病理学会学術集会, 2021, (Web), [基調講演]
- 064 大西祥代, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 山田啓策, 原和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 山口類: 人工知能 (AI) の消化器癌サルコペニア診断への応用. JDDW2021, 2021, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 065 杉本祐一, 栗田裕介, 中島 淳, 桑原崇通, 原 和生, 細野邦広: AI を利用したパラメーターによる遠位胆管閉塞症例における良悪性診断の検討. JDDW2021, 2021, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 066 佐藤洋造, 茶谷祥平, 長谷川貴章, 村田慎一, 桑原崇通, 原 和生, 清水泰博, 稲葉吉隆: 胆道再建後の輸入脚症候群に対する空腸盲端部を介したステント留置の検討 (Stent placement for afferent loop syndrome via the jejunal limb after biliary reconstruction). 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [一般演題]
- 067 桑原崇通, 原 和生, 山口 類: 膵腫瘍診断 AI の有用性. JDDW2021, 2021, (神戸), [パネルディスカッション]
- 068 桑原崇通, 原 和生, 清水泰博: 膵嚢胞性疾患の診断と治療の最前線 Deep learning による IPMN 良悪性診断の外的検証. 第 52 回日本膵臓学会大会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 069 大西祥代, 桑原崇通, 丹羽康正: 消化器疾患とサルコペニア: 診断, 治療と予後 人工知能 AI を用いた骨格筋量の評価. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 070 桑原崇通, 原 和生: 消化器領域における AI 研究の進歩 膵腫瘍診断 AI 作成の問題点とその克服. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 071 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 胆道疾患における新規診断法と治療法 膵頭部領域疾患の術前例に対する primary EUS-HGS の可能性. 第 107 回消化器病学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 072 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: EUS-guided hepaticogastrostomy をより簡便におこなうための工夫 22G 針と 0.018inchGW を用いて. 第 107 回消化器病学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 073 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: EUS-guided hepaticogastrostomy を安全かつ簡便におこなうために一直視型コンベックスによる B2 穿刺. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 2021, (Web), [JGES コアセッション]
- 074 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 膵疾患における interventional endoscopy の進歩 膵癌ゲノム診療における EUS-FNAB. 第 52 回日本膵臓学会学術集会, 2021, (Web), [パネルディスカッション]
- 075 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 胆道内視鏡・胆道ドレナージの最前線 安全かつ難易度克服を目指した EUS-HGS 直視型コンベックスを用いた B2 穿刺. 第 57 回日本胆道学会学術集会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 076 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 胆膵内視鏡診療における新技術 安全かつ難易度克服を目指した B2 穿刺による EUS-HGS. JDDW2021, 2021, (神戸), [ワークショップ]
- 077 奥野のぞみ, 羽場 真, 原 和生: 膵癌・胆道癌の内視鏡的診断法の現状と課題 EUS-FNAB 検体を用いた膵癌ゲノム診療の現状と課題. JDDW2021, 2021, (神戸), [パネルディスカッション]
- 078 柳井谷駿史, 羽場 真, 原 和生: 当院における 80 歳以上の膵癌の経過と治療成績. 第 107 回消化器病学会総会, 2021, (Web), [一般演題]
- 079 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 原 和生: 膵胆道癌における内視鏡を用いたゲノム医療 EUS-FNA (B) 検体を用いた膵胆道癌のゲノム医療を効率的に行うための工夫. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 080 柳井谷駿史, 羽場 真, 原 和生: 高齢者に対する消化器癌治療の適応と限界 当院における 80 歳以上の膵癌の経過と治療成績. JDDW2021, 2021, (神戸), [パネルディスカッション]
- 081 柳井谷駿史, 水野伸匡, 文原大貴, 宮野 亮, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 羽場 真, 原 和生, 井本逸勢: 膵神経内分泌腫瘍の画像診断と臨床病理学的バイオマーカー 膵神経内分泌腫瘍 (PNEN) における包括的がんゲノムプロファイリング (CGP) 検査の現状. 第 52 回日本膵臓学会大会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 082 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆道癌に対するゲノム医療の展開 当院における胆道癌領域の包括的がんゲノムプロファイリング CGP の現状. 第 57 回日本胆道学会学術集会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 083 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 原 和生: 胆膵疾患に対する内視鏡診断と治療 胆道癌ゲノム診療を行う上での EUS-TA (EUS-guided tissue acquisition) の工夫. 第 64 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 084 文原大貴, 羽場 真, 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 桑原崇

- 通, 水野伸匡, 原 和生: 1 型自己免疫性膵炎診断における内視鏡検査の役割についての考察. JDDW2021, 2021, (神戸), [デジタルポスターセッション]
- 085 文原大貴, 奥野のぞみ, 原 和生, 柳井谷駿史, 宮野亮, 羽場 真, 桑原崇通, 水野伸匡: 膵頭十二指腸切除術後の胆管空腸吻合部狭窄に関する内視鏡的治療法に関する検討. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 2021, (Web), [一般口演]
- 086 文原大貴, 奥野のぞみ, 原 和生: 肝胆膵疾患診断・治療の最前線 当院での膵悪性腫瘍に対するゲノム診療の現状及び EUS 下検体採取の成績について. 第 135 回日本消化器病学会東海支部例会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 087 文原大貴, 奥野のぞみ, 原 和生: 良性および術後胆道狭窄に対する内科的・外科的アプローチ 膵頭十二指腸切除術後の胆管空腸吻合部狭窄に対する選択的内視鏡治療の成績. 第 57 回日本胆道学会学術集会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 088 文原大貴, 羽場 真, 柳井谷駿史, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 水野伸匡, 原 和生: IgG4 関連疾患 up-to-date: 病態, 診断, 治療の最新知見 1 型自己免疫性膵炎の再燃予測因子, 悪性腫瘍との関連について. 第 52 回日本膵臓学会学術集会, 2021, (Web), [パネルディスカッション]

内視鏡部

- 001 田中 努, 田近正洋, 大西祥代, 山田啓策, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 宮野 亮, 文原大貴, 柳井谷駿史, 丹羽康正: 狭窄予防を施行した食道 ESD 術後狭窄に対するバルーン拡張回数の検討. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (東京), [口演]
- 002 田中 努: 表在性食道癌の内視鏡診断と治療. 第 33 回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2021, (名古屋), [講演]
- 003 安田 司, 田中 努, 桑原崇通, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: COVIT-19 感染流行前後の当院の 2 次精査の実態. 第 50 回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会, 2021, (浜松), [口演]
- 004 田中 努: 胃. 第 50 回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会, 2021, (浜松), [座長]
- 005 安田 司, 田中 努, 大西祥代, 神谷友康, 山田啓策, 水野伸匡, 桑原崇通, 羽場 真, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 原和生, 田近正洋, 丹羽康正: 大腸扁平上皮癌の 1 例. 第 17 回拡大内視鏡研究会, 2021, (東京), [口演]
- 006 田中 努: 上部消化管におけるビスコクリアを用いた視野確保～ESD 術中出血症例を中心に～. 消化器内視鏡治療オンラインセミナー in 東海, 2022, (名古屋), [講演]
- 007 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 上部消化管癌治療後のサーベイランスに関する課題と新たな取り組み 食道表在癌の内視鏡治療後における異時性再発病変の検討. JDDW2021, 2021, (神戸), [パネルディスカッション]
- 008 大西祥代, 桑原崇通, 丹羽康正: 人工知能 (AI) を用いた骨格筋量の評価. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 009 大西祥代, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 山田啓策, 原和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 山口類: 人工知能 (AI) の消化器がんサルコペニアの診断への応用. JDDW2021, 2021, (神戸), [ポスター]
- 010 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 山田啓策, 原和生, 水野伸匡, 羽場 真, 桑原崇通, 奥野のぞみ: 当院における超高齢者早期胃がんに対する内視鏡治療の現状. 第 101 回日本消化器内視鏡学会総会, 2021, (Web), [一般演題]
- 011 山田啓策, 田近正洋, 丹羽康正: 免疫チェックポイント阻害剤関連大腸炎の臨床的検討. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 012 山田啓策, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 羽場 真, 文原大貴, 柳井谷駿史, 丹羽康正: 高齢者の大腸腫瘍に対する ESD の治療成績及び予後予測因子の検討. JDDW 2021, 2021, (Web), [デジタルポスターセッション]
- 013 田近正洋: 第 9 回日本家族性大腸腺腫症研究会学術集会, 2021, (大阪), [座長]
- 014 田近正洋: がん免疫療法 WEB Live Seminar in 東海, 2021, (名古屋), [座長]
- 015 田近正洋: 第 592 回東海胃腸疾患研究会, 2021, (名古屋), [司会]
- 016 田近正洋: 消化器内視鏡治療オンラインセミナー in 東海, 2022, (名古屋), [座長]
- 017 田近正洋: 大腸内視鏡検査に対する医療従事者の意識からみた医療安全. 医療安全 Web セミナー, 2021, (名古屋), [講演]
- 018 田近正洋: 当院におけるコロナ禍の消化器がん診療～早期診断, 連携の重要性について～. 地域で考えるがん診療連携 Web セミナー, 2021, (名古屋), [講演]
- 019 田近正洋: 遺伝性大腸腫瘍の内視鏡サーベイランス. 第 593 回東海胃腸疾患研究会, 2022, (名古屋), [講演]
- 020 松原裕樹, 鳥山和浩, 門脇重憲, 緒方貴次, 中澤泰子, 加藤恭子, 能澤一樹, 成田有季哉, 本多和典, 舩石俊樹, 坂東英明, 安藤正志, 田近正洋, 細田和貴, 室 圭: 食道扁平上皮癌に対するニボルマブの有効性における CPS の影響. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜), [一般口演]
- 021 松原祐樹, 舩石俊樹, 中田晃暢, 児玉紘幸, 緒方貴次, 熊西亮介, 中澤泰子, 能澤一樹, 成田有季哉, 本多和典, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: HER2 低発現が切除不能大腸癌 1 次治療における抗 EGFR 抗体薬の有効性に与える影響. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜), [一般口演]
- 022 神谷友康, 田近正洋, 丹羽康正: 消化管疾患診断・治療の最前線 当院における放射線治療後食道癌に対する内視鏡的ステント留置術の治療成績. 日本消化器病学会東海支部第 135 回例会, 2021, (名古屋), [シンポジウム]

- 023 多和田 翔, 伊藤誠二, 沼田佳久, 伊藤友一, 三澤一成, 川勝章司, 細井敬泰, 大内 晶, 奥野正隆, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 阿部哲也, 小森康司, 田近正洋, 清水泰博: 胃癌 ESD 後非治療切除例に対する腹腔鏡下胃切除術の短期成績の検討. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021, (千葉), [ポスターセッション]
- 024 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 宮野 亮, 文原大貴, 柳井谷駿史, 吉田将大, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 山田啓策, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 細田和貴, 丹羽康正: IPMN 経過観察症例における膵癌発症リスクの検討と膵嚢胞専門外来の試み. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (東京), [一般演題]

呼吸器内科

- 001 *Hase T, Fujiwara Y, Makihara R, Hashimoto N, Tsubata Y, Okuno T, Naito T, Takahashi T, Kobayashi H, Shinno U, Ikeda T, Hosomi Y, Watanabe L, Kitazono S, Sakiyama N, Makino Y, Yamamoto N*: Pharmacokinetic and dose finding study of Osimertinib in patients with impaired renal function and low body weight. ESMO congress, 2021, (Web), [口演]
- 002 *Toyozawa R, Itahashi K, Goto Y, Fujiwara Y, Okuma Y, Kurata T, Yokoyama T, Nokihara H, Yokoi T, Yamaguchi T, Shiraiishi Y, Takeda M, Tokito T, Nakamura A, Hosomi Y, Ohe Y*: Two single-arm, multi-center, phase II trial of PD-1 inhibitors in patients with pulmonary sarcomatoid carcinoma {NCCH1603/NCCH1703}. ESMO congress, 2021, (Web), [口演]
- 003 重松文恵, 大矢由子, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 藤原 豊, 細田和貴, 仲田健男, 関戸翔: 左胸水貯留を契機に診断された前立腺癌の 1 例. 第 119 回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 004 古田裕美, 重松文恵, 山口哲平, 大矢由子, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 藤原 豊, 灰本章一, 古平 毅: 当院における肺癌脊椎転移に対する手術介入. 第 119 回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 005 重松文恵, 大矢由子, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 藤原 豊, 細田和貴: 当院でのニボルマブとイピリムマブの併用療法. 第 120 回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 006 草場勇作, 竹田雄一郎, 突田容子, 山本貴也, 宮内栄作, 馬屋原博, 泰 明登, 田中 智, 内田純二, 白井一裕, 田宮基裕, 大矢由子: 切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対する強度変調放射線治療を用いた化学放射線療法に関する後方視的研究. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 007 重松文恵, 大矢由子, 山口哲平, 古田裕美, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 細田和貴, 藤原 豊: 進行非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の併用療法の検討. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 008 大矢由子, 重松文恵, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 藤原 豊: 免疫チェックポイント阻害薬+細胞障害性抗がん剤治療において効果と関連する炎症性サイトカインの検討. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 009 山口哲平, 清水淳市, 長谷川貴章, 大矢由子, 重松文恵, 古田裕美, 渡辺尚宏, 堀尾芳嗣, 稲葉吉隆, 藤原 豊: ICI 化学療法併用レジメンによる薬剤性肺炎発症と肺野線維化所見の関連性. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 010 重松文恵, 大矢由子, 山口哲平, 古田裕美, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 細田和貴, 藤原 豊: 遺伝子変異/転座陽性の進行・再発非小細胞肺癌への化学療法と免疫チェックポイント阻害薬の併用療法の検討. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 011 丹羽英之, 沖 昌英, 石井友里加, 鳥居厚志, 山田有里紗, 重松文恵, 小暮啓人, 北川智余恵, 坂: 80 歳以上の高齢者に対する診断目的の超音波経気管支ガイド下針生検の安全性と有効性に関する検討. 呼吸器内視鏡学会, 2021, (Web), [口演]
- 012 清水淳市, 山口哲平, 渡辺尚宏, 大矢由子, 古田裕美, 堀尾芳嗣, 藤原 豊, 細田和貴, 黒田浩章, 稲葉吉隆: EGFR 阻害薬による治療後に病理検査を試みた非小細胞肺癌症例の検討. 呼吸器内視鏡学会, 2021, (Web), [口演]
- 013 重松文恵, 清水淳市, 山口哲平, 渡辺尚宏, 大矢由子, 古田裕美, 堀尾芳嗣, 藤原 豊: 新型コロナウイルスワクチン接種により腋 リンパ節腫大をきたした 3 例. 内科学会東海地方会, 2021, (Web), [口演]
- 014 重松文恵, 清水淳市, 山口哲平, 渡辺尚宏, 大矢由子, 古田裕美, 堀尾芳嗣, 藤原 豊: Safety and efficacy of dabrafenib plus trametinib for BRAF V600E mutated non-small cell lung cancer. 臨床腫瘍学会, 2022, (Web), [ポスター]
- 015 大矢由子, 清水淳市, 山口哲平, 渡辺尚宏, 大矢由子, 古田裕美, 堀尾芳嗣, 藤原 豊: 免疫チェックポイント阻害薬治療における長期奏功例の解析. 臨床腫瘍学会, 2022, (Web), [ポスター]
- 016 今村知世, 堀尾芳嗣: Translational Research / Clinical Pharmacology 4 (Miscellaneous). 臨床腫瘍学会, 2022, (京都), [司会]

血液・細胞療法部

- 001 *Keith W. Pratz, Brian A. Jonas, Vinod Pullarkat, ChristianRecher, Andre C. Schuh, Michael J. Thirman, Jacqueline S. Garcia, Courtney DiNardo, Vladimir Vorobyev, Nicola Fracchiolla, Su-Peng Yeh, Jun Ho Jang, Muhit*

- Ozcan, Yamamoto K, Arpad Illes, Ying Zhou, Monique Dail, Brenda Chyla, Jalaja Potluri, Hartmut Döhner* : Measurable Residual Disease Response in Acute Myeloid Leukemia Treated with Venetoclax and Azacitidine, Congress of the 26th European Hematology Association, EHA2021 Virtual Congress, 2021, (Wien), [口頭]
- 002 *Suzuki T, Maruyama D, Machida R, Kataoka T, Fukushima N, Takayama N, Ohba, R, Omachi K, Imaizumi Y, Tokunaga M, Katsuya H, Yoshida I, Sunami K, Kurosawa M, Kubota N, Morimoto H, Kobayashi M, Yamamoto K, Kameoka Y, Kagami Y, Tabayashi T, Maruta M, Kobayashi T, Iida S, Nagai H* : The prognostic impact of the UK Myeloma Research Alliance Risk Profile in untreated patients with multiple myeloma who received melphalan, prednisolone, and bortezomib: an ad hoc analysis of JCOG1105. The 18th International Myeloma Workshop, 2021, (Wien), [ポスター]
- 003 *Shimomura Y, Sobue T, Hirabayashi S, Kondo T, Mizuno S, Kanda J, Fujino T, Kataoka K, Uchida N, Eto T, Miyakoshi S, Tanaka M, Kawakita T, Yokoyama H, Doki N, Harada K, Wake A, Ota S, Takada S, Takahashi, S, Kimura T, Onizuka M, Fukuda T, Atsuta Y, Yanada M* : Comparing Single Cord Blood Transplantation and Matched Related Donor Transplantation in Non-Remission Acute Myeloid Leukemia. The 63rd Annual Meeting of American Society of Hematology, 2021, (Atlanta), [口演]
- 004 *Fukushima K, Shibayama H, Chi S, Hosono N, Yamauchi T, Katagiri S, Gotoh A, Eguchi M, Morishita T, Ogasawara R, Kondo T, Yanada M, Yamamoto K, Kobayashi T, Kuroda J, Kamoda Y, Usuki K, Utsu Y, Aotsuka N, Yoshimitsu M, Ishitsuka K, Ono T, Takahashi N, Iyama S, Nakamura M, Nakamura Y, Fukuhara S, Izutsu K, Yamauchi N, Yuda J, Minami Y* : Clinical Significance of FLT3 Mutations in a Comprehensive NGS Multicenter Study of AML: HM-Screen-Japan 01. The 63rd Annual Meeting of American Society of Hematology, 2021, (Atlanta), [ポスター]
- 005 *Fukuhara N, Kim W, Izutsu K, Terui Y, Nakajima H, Ando K, Yamauchi T, Yamamoto K, Uchida T, Suehiro Y, Yoon D, Kang H, Ko P, Nagahama F, Sonehara Y, Nagai H, Tien H, Kwong Y, Tobinai K* : Asian Multinational Phase II Study of Darinaparsin in Patients with Relapsed or Refractory Peripheral T-cell Lymphoma. The 63rd American Society of Hematology (ASH) Annual Meeting and Exposition, 2021, (Atlanta), [ポスター]
- 006 *Keith W. Pratz, Brian A. Jonas, Vinod Pullarkat, Christian Recher, Andre C. Schuh, Michael J. Thirman, Jacqueline S. Garcia, Courtney DiNardo, Vladimir Vorobyev, Nicola Fracchiolla, Su-Peng Yeh, Jun Ho Jang, Muhit Ozcan, Kazuhito Yamamoto, Arpad Illes, Ying Zhou, Monique Dail, Brenda Chyla, Jalaja Potluri, Hartmut Döhner* : Measurable Residual Disease Response and Prognosis in Acute Myeloid Leukemia with Venetoclax and Azacitidine (7018). 67th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology (ASCO) (2021), 2021, (Chicago/Virtual), [Poster/ Poster Discussion Session]
- 007 *Uchiyama S, Nakamura H, Chi S, Fukushima K, Shibayama H, Hosono N, Yamauchi T, Katagiri S, Gotoh A, Eguchi M, Morishita T, Ogasawara R, Kondo T, Yanada M, Yamamoto K, Kobayashi T, Kuroda J, Usuki K, Aotsuka N, Yoshimitsu M, Ishitsuka K, Ono T, Takahashi N, Iyama S, Nakamura M, Nakamura Y, Fukuhara S, Izutsu K, Yamauchi N, Yuda J, Minami Y* : Properties and Distribution of IDH-1/2 Mutations in Acute Myeloid Leukemia By the Comprehensive Genomic Analysis (4447). The 63rd Annual Meeting of American Society of Hematology (ASH), 2021, (Atlanta, Georgia, USA/Virtual), [Publication only]
- 008 *Hosono N, Yamauchi T, Chi S, Fukushima K, Shibayama H, Katagiri S, Gotoh A, Eguchi M, Morishita T, Ogasawara R, Kondo T, Yanada M, Yamamoto K, Kobayashi T, Kuroda J, Usuki K, Utsu Y, Aotsuka N, Yoshimitsu M, Ishitsuka K, Ono T, Takahashi N, Iyama S, Nakamura M, Nakamura Y, Fukuhara S, Izutsu K, Yamauchi N, Yuda J, Minami Y* : Hematologic Malignancies (HM)-Screen-Japan 01: A Mutation Profiling Multicenter Study on Patients with Acute Myeloid Leukemia (4457). The 63rd Annual Meeting of American Society of Hematology (ASH), 2021, (Atlanta, Georgia, USA/Virtual), [Publication only]
- 009 *Chi S, Fukushima K, Shibayama H, Hosono N, Yamauchi T, Katagiri S, Gotoh A, Eguchi M, Morishita T, Ogasawara R, Kondo T, Yanada M, Yamamoto K, Kobayashi T, Kuroda J, Kamoda Y, Usuki K, Utsu Y, Aotsuka N, Yoshimitsu M, Ishitsuka K, Nagata Y, Ono T, Fujishima, Takahashi N, Horiguchi H, Iyama S, Nakamura M, Kojima K, Yamamoto K, Nakamura Y, Fukuhara A, Izutsu K, Yamauchi N, Yuda J, Minami Y* : Genomic Analysis of NPM1 Mutation and KMT2A (MLL)-Rearrangement/Amplification in Japanese Patients with Acute Myeloid Leukemia: Hematologic Malignancies (HM)-Screen-Japan 01 (4460). The 63rd Annual Meeting of American Society of Hematology (ASH), 2021, (Atlanta, Georgia, USA/Virtual), [Publication only]
- 010 *Katagiri S, Akahane D, Gotoh A, Chi S, Fukushima K, Shibayama H, Hosono N, Yamauchi T, Eguchi M, Morishita T, Ogasawara R, Kondo T, Yanada M, Yamamoto K, Kobayashi T, Kuroda J, Usuki K, Utsu Y, Aotsuka N, Yoshimitsu M, Ishitsuka K, Ono T, Takahashi N, Iyama S, Nakamura M, Nakamura Y, Izutsu K, Yamauchi N, Yuda J, Minami Y* : Genomic Analysis Focusing on RUNX1-RUNX1T1 in Japanese Patients with AML: HM-Screen-Japan 01 (4464). The 63rd Annual Meeting of American Society of Hematology (ASH), 2021, (Atlanta, Georgia, USA/Virtual), [Publication only]

- 011 *Kato H, Taji G, Kodaira T, Kinoshita T, Yamamoto K* : Long-term outcomes of patients receiving cord blood units preserved in a -135° C mechanical freezer, 第83回日本血液学会学術集会, 2021, 仙台, [口頭]
- 012 *Fukuhara N, Munakata W, Ando K, Yokoyama M, Yamamoto K, Ichikawa S, Fukuhara S, Ohmachi K, Mishima Y, Ogiya D, Aoi A, Hatsumichi M, Tobinai K* : Final results of phase 1 study of tirabrutinib (ONO-4059/GS-4059) in B-cell malignancies in Japan, 第83回日本血液学会学術集会, 2021, (仙台), [口演]
- 013 柳田正光, 小沼貴晶, 水野昌平, 平林茂樹, 西脇聡史, 内田直之, 土岐典子, 田中正嗣, 小澤幸泰, 澤正史, 衛藤徹也, 河北敏郎, 太田秀一, 福田隆浩, 鬼塚真仁, 木村貴文, 熱田由子, 賀古真一, 矢野真吾 : Disease status at allogeneic HCT and post-transplant outcomes: A difference between AML and ALL, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 014 城友泰, 新井康之, 近藤忠一, 水野昌平, 平林茂樹, 稲本賢弘, 諫田淳也, 土岐典子, 福田隆浩, 小澤幸泰, 片山雄太, 神田善伸, 鬼塚真仁, 一戸辰夫, 熱田由子, 柳田正光 : Peripheral-blood stem cells versus bone marrow from unrelated donors for adult AML patients, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 015 福島健太郎, 池成基, 柴山浩彦, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 江口基紀, 森下喬允, 小笠原励起, 近藤健, 柳田正光, 山本一仁, 古林勉, 黒田純也, 白杵憲祐, 宇津欣和, 青墳信之, 吉満誠, 石塚賢治, 小野孝明, 高橋直人, 井山論, 中村真, 中邑幸伸, 福原傑, 伊豆津宏二, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南陽介 : Genomic analysis of TP53 mutations in a multicenter NGS study of AML: HM-SCREEN-Japan 01, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 016 片桐誠一郎, 赤羽大悟, 後藤明彦, 池成基, 福島健太郎, 柴山浩彦, 細野奈穂子, 山内高弘, 江口基紀, 森下喬允, 小笠原励起, 近藤健, 柳田正光, 山本一仁, 古林勉, 黒田純也, 白杵憲祐, 宇津欣和, 青墳信之, 吉満誠, 石塚賢治, 小野孝明, 高橋直人, 井山論, 中村真, 中邑幸伸, 福原傑, 伊豆津宏二, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南陽介 : Genomic analysis of relapsed AML with RUNX1-RUNX1T1 in a comprehensive NGS multicenter study of AML, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 017 池成基, 福島健太郎, 柴山浩彦, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 江口基紀, 森下喬允, 小笠原励起, 近藤健, 柳田正光, 山本一仁, 古林勉, 黒田純也, 白杵憲祐, 宇津欣和, 青墳信之, 吉満誠, 石塚賢治, 小野孝明, 高橋直人, 井山論, 中村真, 中邑幸伸, 福原傑, 伊豆津宏二, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南陽介 : Genetic features of AML with MLL-rearrangement and NPM1 mutation: HM-SCREEN-JAPAN01, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 018 池成基, 柳田正光, 山本一仁, 細野奈穂子, 山内高弘, 福島健太郎, 柴山浩彦, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 江口基紀, 森下喬允, 小笠原励起, 近藤健, 古林勉, 黒田純也, 白杵憲祐, 宇津欣和, 青墳信之, 吉満誠, 石塚賢治, 小野孝明, 高橋直人, 井山論, 中村真, 中邑幸伸, 福原傑, 伊豆津宏二, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南陽介 : Genetic features of AML with normal karyotype: HM-SCREEN-JAPAN01, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 019 中村洋貴, 池成基, 福島健太郎, 柴山浩彦, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 江口基紀, 森下喬允, 小笠原励起, 近藤健, 柳田正光, 山本一仁, 古林勉, 黒田純也, 白杵憲祐, 宇津欣和, 青墳信之, 吉満誠, 石塚賢治, 小野孝明, 高橋直人, 井山論, 中村真, 中邑幸伸, 福原傑, 伊豆津宏二, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南陽介 : Genetic Features of AML with IDH1/IDH2 mutation: HM-SCREEN-JAPAN01, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 020 細野奈穂子, 山内高弘, 池成基, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 池成基, 福島健太郎, 柴山浩彦, 江口基紀, 森下喬允, 小笠原励起, 近藤健, 柳田正光, 山本一仁, 古林勉, 黒田純也, 白杵憲祐, 宇津欣和, 青墳信之, 吉満誠, 石塚賢治, 小野孝明, 高橋直人, 井山論, 中村真, 中邑幸伸, 福原傑, 伊豆津宏二, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南陽介 : A mutation profiling multicenter study of patients with AML: HM-SCREEN-Japan 01, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 021 江口基紀, 森下喬允, 池成基, 福島健太郎, 柴山浩彦, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 小笠原励起, 近藤健, 柳田正光, 山本一仁, 古林勉, 黒田純也, 白杵憲祐, 宇津欣和, 青墳信之, 吉満誠, 石塚賢治, 小野孝明, 高橋直人, 井山論, 中村真, 中邑幸伸, 福原傑, 伊豆津宏二, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南陽介 : Genetic features of AML requiring hematopoietic stem cell transplantation: HM-SCREEN-Japan01, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 022 福島健太郎, 柴山浩彦, 池成基, 細野奈穂子, 山内高弘, 片桐誠一郎, 後藤明彦, 江口基紀, 森下喬允, 小笠原励起, 近藤健, 柳田正光, 山本一仁, 古林勉, 黒田純也, 白杵憲祐, 宇津欣和, 青墳信之, 吉満誠, 石塚賢治, 小野孝明, 高橋直人, 井山論, 中村真, 中邑幸伸, 福原傑, 伊豆津宏二, 山内寛彦, 湯田淳一郎, 南陽介 : Clinical significance of FLT3 mutations in a NGS multicenter study of AML: HM-SCREEN-Japan 01, 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 023 照井康仁, 木口亨, 伊豆津宏二, 亀岡吉弘, 日高道弘, 加藤春美, 頼晋也, 黒田純也, 石澤賢一, 市川聡, 安藤潔, 小椋美知則, 福島耕治, 村山佳子 : A phase 3 trial of bendamustine/rituximab for relapsed or refractory diffuse large b-cell lymphoma. 第83回日本血液学会学術集会総会, 2021, (仙台), [口演]
- 024 入山智沙子, 安田貴彦, 三好寛明, 大島孝一, 高橋直樹,

- 塚崎邦弘, 島田和之, 平賀潤二, 鏡味良豊, 福原 傑, 伊豆津宏二, 鈴木律朗, 福原規子, 榎屋良子, 山本一仁, 石田高司, 小林幸夫, 眞田 昌, 齋藤明子, 齋藤俊樹, 永井宏和, 堀部敬三, 富田章裕: Factors critical for the results of comprehensive genetic mutational analysis using genomic samples extracted from formalin-fixed paraffin-embedded (FFPE) specimens in malignant lymphoma. 第83回日本血液学会学術集会, 2021, (仙台), [口頭]
- 025 見目絵光, 加藤春美, 柳田正光, 田地浩史, 齋藤統子, 加藤省一, 山本一仁: Clinical characteristics of DLBCL patients experiencing early disease progression among lower IPI risk groups. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [口演]
- 026 山本一仁: 好中球減少中の感染症対策と化学療法におけるサポートケア, 第11回若手臨床血液学セミナー, 2021, (Web), [口頭]

薬物療法部

- 001 *Masuishi T, Taniguchi H, Kotani D, Bando H, Satoh T, Esaki T, Komatsu Y, Sunakawa Y, Nishina T, Shinozaki E, Nishida N, Komoda M, Yuki S, Izawa N, Sharma G, Skrzypczak S, Schultz E, Kingsford C, Sato A, Yoshino T*: Discovery of a potential predictive marker for eribulin treatment and novel target genes in BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer using an AI-driven RNA-seq analysis platform: Translational research of the BRAVERY study (EPOC1701). ASCO 2021, 2021, (Virtual), [publication only]
- 002 *Bando H, Nakamura Y, Taniguchi H, Shiozawa M, Yasui H, Esaki T, Ohta T, Denda T, Satoh T, Yamazaki K, Sunakawa Y, Kato T, Goto M, Yuki S, Nishina T, Oki E, Shinozaki E, Matsuhashi N, Hata M, Yoshino T*: Impact of a metastatic site on circulating tumor DNA (ctDNA) analysis in patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC). ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 003 *Matsubara Y, Toriyama K, Kadowaki S, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Masuishi T, Bando H, Ando M, Tajika M, Hosoda W, Muro K*: Impact of PD-L1 combined positive score (CPS) on clinical response to nivolumab in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma. ASCO 2021, 2021, (Virtual), [publication only]
- 004 *Janjigian YY, Cutsem EV, Muro K, Wainberg ZA, Al-Batran S-E, Hyung WJ, Molena D, Evans B, Dario Ruscica D, Scott H, Robbins SH, Alejandra Negro A, Josep Tabernero J*: MATTERHORN: Efficacy and safety of neoadjuvant-adjuvant durvalumab and FLOT chemotherapy in resectable gastric and gastroesophageal junction cancer—A randomized, double-blind, placebo-controlled, phase 3 study. ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 005 *Takiguchi T, Shitara K, Takiguchi N, Ito S, Kochi M, Horinouchi H, Kinoshita T, Muro K, Yoshikawa T, Hasegawa H, Nishikawa H, Kadera Y*: Neoadjuvant nivolumab monotherapy in patients with resectable gastric cancer: Preliminary results from a multicenter study. ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 006 *Ciardello F, Bang Y-J, Bendell JC, Cervantes A, Dvorkin M, D.Lopez C, Metges J-P, Sanchez A, Calvo M, Strickland A, Kannourakis G, Muro K, Kawakami H, Wei J, Borg C, Song M, Zhang K, Zhang M, Shen L*: PARALLEL 303: Phase 2 randomized study of pamiparib vs placebo as maintenance therapy in patients (pts) with inoperable locally advanced or metastatic gastric cancer that responded to platinum-based first-line (1L) chemotherapy. ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 007 *Okamoto W, Nakamura Y, Kato T, Esaki T, Komoda M, Kato K, Komatsu Y, Masuishi T, Nishina T, Sawada K, Taniguchi H, Fuse N, Nomura S, Fukui M, Olsen SR, Odegaard JI, Sato A, Fujii S, Ohtsu A, Yoshino T*: Pertuzumab plus trastuzumab and real-world standard of care (SOC) for patients (pts) with treatment refractory metastatic colorectal cancer (mCRC) with HER2 (ERBB2) amplification (amp) confirmed by tumor tissue or ctDNA analysis (TRIUMPH, EPOC1602). ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 008 *Yu Nishina T, Yasui H, Ohta T, Takahashi N, Satake H, Kanazawa A, Goto M, Bando H, Taniguchi T, Okugawa Y, Yamazaki K, Ebi H, Abe Y, Nomura S, Asano C, Yoshino T*: Profiling plasma angiogenesis factors after use of biologics in metastatic colorectal cancer (mCRC): Update results from GI-SCREEN CRC Ukit study. ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 009 *Kuboki Y, Terazawa T, Masuishi T, Nakamura M, Watanabe J, Ojima H, Shinohara Y, Kotaka M, Hara H, Ohta T, Oki E, Sunakawa Y, Ishihara S, Taniguchi H, Eguchi Nakajima T, Morita S, Shirao K, Yoshino T*: The TRUSTY study: A randomized phase 2/3 study of trifluridine/tipiracil plus bevacizumab versus irinotecan and fluoropyrimidine plus bevacizumab as second-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer. ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 010 *Bando H, Kinoshita I, Modi S, Tsurutani J, Bang Y-J, Iwata H, Sato Y, Nakatani S, Lee CC, Sugihara M, Okuda Y, Takahashi S*: Trastuzumab deruxtecan (T-DXd) in patients with human epidermal growth factor receptor 2 (HER2)-expressing salivary duct carcinoma: Subgroup analysis of two phase 1 studies. ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 011 *Yoshino T, Bartolomeo MD, Raghav KPS, Masuishi T,*

- Loupakis F, Kawakami H, Yamaguchi K, Nishina T, Wainberg ZA, Elez E, Rodriguez J, Fakih M, Ciardiello F, Saxena K, Kobayashi K, Bako E, Okuda Y, Meinhardt G, Grothey A, Siena S** : Trastuzumab deruxtecan (T-DXd; DS-8201) in patients (pts) with HER2-expressing metastatic colorectal cancer (mCRC): Final results from a phase 2, multicenter, open-label study (DESTINY-CRC01). ASCO 2021, 2021, (Virtual), [Oral Abstract Session]
- 012 **Muro K, Panelist** : Cases on Management Strategy in Esophageal and GE Junction Cancer. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Session]
- 013 **Matsubara Y** : The prognostic impact of KRAS G12C mutation in patients with metastatic colorectal cancer: a multicenter retrospective observational study. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Short Oral]
- 014 **Nozawa K, Hattori M, Takatsuka D, Sakamoto S, Endo Y, Horisawa N, Ozaki Y, Sugino K, Kataoka A, Adachi Y, Kotani H, Yoshimura A, Sawaki M, Iwata H** : Clinical impact of next-generation sequencing in patients with breast cancer: A single institute study. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 015 **Takahashi N, Izawa N, Nishio K, Masuishi T, Shoji H, Yamamoto Y, Matsumoto T, Sugiyama K, Kajiwara T, Kawakami K, Aomatsu N, Kawakami H, Esaki T, Narita Y, Hara H, Horie Y, Boku N, Miura K, Moriwaki T, Shimokawa M, Nakajima T, Muro K** : Gene alterations in ctDNA related to the resistance mechanism of anti-EGFR antibodies and clinical efficacy outcomes of anti-EGFR antibody rechallenge plus trifluridine/tipiracil in metastatic colorectal cancer patients in WJOG8916G trial. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Oral Session]
- 016 **Sunakawa Y, Matoba R, Inoue E, Sakamoto Y, Kawabata R, Ishiguro A, Akamaru Y, Kito Y, Takahashi M, Matsuyama J, Yabusaki H, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Hihara J, Takeno A, Kawakami H, Muro K, Nakajima T, Ichikawa W, Fujii M** : Gut microbiome to predict survival time in advanced gastric cancer treated with nivolumab: The DELIVER trial (JACCRO GC-08). ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Oral Session]
- 017 **Ogata T, Narita Y, Wainberg Z, Cutsem EV, Yamaguchi K, Piao Y, Zhao Y, Wijayawardana S, Abada P, Chatterjee A, Muro K** : Exploratory analysis of patients with gastric/GEJ adenocarcinoma with or without liver metastasis from the phase 3 RAINBOW study. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 018 **Raghav K, Yoshino T, Taniguchi H, Tejpar S, Vogel A, Wainberg Z, Yamaguchi K, Fakih M, Pedersen K, Bando K, Kawakami H, Beck J, Kanai M, Liu Y, Mekan S, Pudussery G, Qiu Y, Kopetz S** : An open-label, phase 2 study of priritumab deruxtecan in patients with previously treated advanced/metastatic colorectal cancer. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 019 **Janjigia Y, Cutsem EV, Muro K, Wainberg Z, Al-Batran S, Hyung W, Molena D, Evans B, Ruscica D, Robbins S, Negro A, Tabernero J** : MATTERHORN: A phase 3 study of efficacy and safety of neoadjuvant-adjuvant durvalumab and FLOT chemotherapy in resectable gastric and gastroesophageal junction cancer. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 020 **Kumagai K, Yagi S, Yamaguchi T, Nagashima K, Nomura T, Watanabe M, Makuuchi R, Kawakami K, Otsuka S, Matsushima T, Kadowaki S, Haruta I, Cho H, Yamada T, Kakahara N, Imai Y, Fukunaga H, Saeki Y, Kanaji S, Boku N, Goto M** : The efficacy of chemotherapy for gastric cancer with early recurrence during or after adjuvant S-1. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 021 **Muro K, Bruce J, Baranda J, Gorla S, Wu C, Braiteh F** : EV-202: An open-label, multicenter, phase 2 study of enfortumab vedotin in patients with previously treated locally advanced or metastatic solid tumors, including upper gastrointestinal cancers. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 022 **Shiraishi K, Masuishi T, Ogata T, Sugiyama K, Nishikawa N, Shibata K, Kudo C, Takayanagi N, Narita Y, Uda H, Kadowaki S, Ando M, Kitagawa C, Kataoka M, Muro K** : A phase I study of FLOT as first-line therapy for Japanese patients with advanced gastric cancer including patients with or without severe peritoneal metastasis. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Poster Session]
- 023 **Matsubara Y, Masuishi T, Fushiki K, Sawada K, Chida K, Kumanishi R, Shirasu H, Kawamoto Y, Kotani D, Kato K, Kawakami T, Yuki S, Yamazaki K, Komatsu Y, Yoshino T** : The prognostic impact of KRAS G12C mutation in patients with metastatic colorectal cancer: A multicenter retrospective observational study. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Short Oral Session]
- 024 **Qvortrup C, Muro K, Lustberg M, Persson A, Näsström J, Carlsson S, Nagahama F, Pfeiffer P** : The global POLAR program: Top-line results of placebocontrolled studies of calmagofodipir on top of modified FOLFOX6 to prevent chemotherapy-induced peripheral Neuropathy. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Short Oral Session]
- 025 **Masuishi T, Izawa N, Takahashi N, Shoji H, Yamamoto Y, Matsumoto T, Sugiyama T, Kajiwara K, Kawakami K, Aomatsu N, Kondoh C, Kawakami H, Takegawa N, Esaki T, Narita Y, Hara H, Sunakawa Y, Boku N, Moriwaki T, Shimokawa M, Nakajima T, Muro K** : A multicenter phase II trial of trifluridine/tipiracil in combination with cetuximab in RAS wild-type metastatic colorectal cancer patients refractory to prior anti-EGFR antibody therapy: The WJOG8916G trial. ESMO-GI 2021, 2021, (Virtual), [Short Oral Session]

- 026 **Ogata T, Narita Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kodama H, Nakata A, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Ito S, Tajika M, Muro K** : Chronological improvement in the survival of advanced gastric cancer patients in the past 15 years. ESMO 2021, 2021, (Virtual), [ePoster Display]
- 027 **Siena S, Raghav K, Masuishi T, Yamaguchi K, Nishina T, Elez E, Rodriguez J, Chau I, Di Bartolomeo M, Kawakami H, Suto F, Kobayashi K, Koga M, Inaki K, Kuwahara Y, Takehara I, Grothey A, Yoshino T** : Exploratory biomarker analysis of DESTINY-CRC01, a phase II, multicenter, open-label study of trastuzumab deruxtecan (T-DXd, DS-8201) in patients (pts) with HER2-expressing metastatic colorectal cancer (mCRC). ESMO 2021, 2021, (Virtual), [Proffered Paper session]
- 028 **Le D.T, Diaz L, Kim T.W, Cutsem EV, Geva R, Jüger D, Hara H, Burge M, O'Neil B, Kavan P, Yoshino T, Guimbaud R, Taniguchi H, Elez E, Al-Batran S, Boland P, Cui Y, Leconte P, Marinello P, André T** : Pembrolizumab (pembro) for previously treated, microsatellite instability-high (MSI-H)/mismatch repair-deficient (dMMR) metastatic colorectal cancer (mCRC): Final analysis of KEYNOTE-164. ESMO 2021, 2021, (Virtual), [ePoster Display]
- 029 **Yuki S, Taniguchi H, Masuishi T, Shiozawa M, Bando H, Yamazaki K, Nishina T, Yasui H, Denda T, Sunakawa Y, Satake H, Yoshida K, Kanazawa A, Oki E, Okugawa Y, Ebi H, Abe Y, Nomura S, Asano C, Yoshino T** : Impact of plasma angiogenesis factors on the efficacy of 2nd-line chemotherapy combined with biologics in metastatic colorectal cancer (mCRC): Early efficacy results from GI-SCREEN CRC Ukit study. ESMO 2021, 2021, (Virtual), [ePoster Display]
- 030 **Shimomura K, Minatogawa H, Mashiko T, Arioka H, Iihara H, Sugawara M, Hida N, Akiyama K, Nawata S, Tsuboya A, Mishima K, Izawa N, Miyaji T, Honda K, Inada Y, Ohno Y, Katada C, Morita H, Yamaguchi T, Nakajima T.E** : Placebo-controlled, double-blinded phase III study comparing dexamethasone on day 1 with dexamethasone on days 1 to 4, with combined neurokinin-1 receptor antagonist, palonosetron, and olanzapine in patients receiving cisplatin-containing highly emetogenic chemotherapy: SPARED trial. ESMO 2021, 2021, (Virtual), [Mini oral session]
- 031 **Saori M, Nakamura Y, Sawada K, Horasawa S, Kadowaki S, Kato K, Ueno M, Oki E, Satoh T, Komatsu Y, Tukachinsky H, Lee J, Madison R, Sokol E, Pavlick D, Aiyer A, Fabrizio D, Venstrom J, Oxnard G, Yoshino T** : Blood tumor mutational burden (bTMB) and efficacy of immune checkpoint inhibitors (ICIs) in advanced solid tumors: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. ESMO 2021, 2021, (Virtual), [ePoster Display]
- 032 **Sawada K, Yamashita R, Horasawa S, Fujisawa T, Yoshikawa A, Nakamura Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Hosokawa M, Kodama T, Kato K, Satoh T, Komatsu Y, Shiota M, Yasui H, Yamazaki K, Yoshino T** : Gut microbiota and efficacy of immune-checkpoint inhibitors (ICIs) in patients (pts) with advanced solid tumor: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. ESMO 2021, 2021, (Virtual), [Mini oral session]
- 033 **Shimozaki K, Hirata K, Sato T, Nakamura M, Kato K, Hirano H, Kumekawa Y, Hino K, Kawakami K, Kito Y, Matsumoto T, Kawakami T, Komoda M, Nagashima N, Sato Y, Yamazaki K, Hironaka S, Hamamoto Y, Takaishi H, Muro K** : WJOG13219G: Triplet versus doublet in patients with previously untreated BRAFV600E-mutant metastatic colorectal cancer: A multi-institutional real-world data analysis (BRACELETstudy). ASCO-GI 2022, 2022, (Virtual), [Poster Session]
- 034 **Sunakawa Y, Matoba R, Takayama T, Okumura N, Sugimoto N, Miura K, Yuki S, Shindo Y, Kuramochi H, Sato S, Ogura T, Kinami S, Nagao N, Ueda S, Inoue E, Kawakami H, Muro K, Nakajima T.E, Ichikawa W, Fujii M** : Host-related biomarkers including gut microbiome to predict toxicities of nivolumab in advanced gastric cancer: DELIVER trial (JACCRO GC-08). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Rapid Abstract Session and Poster Session]
- 035 **Habu T, H, Kumanishi R, Ogata T, Fujisawa T, Kumagai S, Fujiwara H, Mishima S, Kotani D, Nakamura M, Hojo H, Yoda Y, Koyama S, Nishikawa H, Yano T, Fujita T, Kadowaki S, Muro K, Kinoshita T, Kojima T** : Efficacy and safety of definitive chemoradiotherapy in patients with unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma. ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 036 **Matsushima T, Narita Y, Misumi T, Sakamoto Y, Matsuoka H, Tanioka H, Kawakami T, Miwa H, Shoji H, Ishiguro A, Yamada T, Fushida S, Miura K, Shinozaki K, Mizukami T, Nishina T, Moriwaki T, Mitani S, Nakamura M, Muro K** : REVIVE study: A prospective observational study in chemotherapy (CTx) after nivolumab (NIVO) therapy for advanced gastric cancer (AGC). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 037 **Hirata K, Hamamoto Y, Shoji H, Hara H, Kondoh C, Yasui H, Kajiwara T, Baba E, Ando T, Sugimoto N, Okano N, Kawakami H, Katsuya H, Nagase M, Moriwaki T, Yoshimura K, Ando M, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K** : A randomized phase II trial of paclitaxel plus ramucirumab versus nab-paclitaxel plus ramucirumab for gastric cancer with peritoneal dissemination refractory to first-line therapy (WJOG10617G/P-SELECT). ASCO-GI2022, 2022, (SanFrancisco), [Poster Session]
- 038 **Shiraishi K, Masuishi T, Ogata T, Kato K, Sugiyama K,**

- Nishikawa N, Kudo C, Takayanagi N, Narita Y, Uda H, Kadowaki S, Ando M, Kitagawa C, Kataoka M, Muro K, Kumiko Shibata K* : A phase I study of FLOT as first-line treatment for advanced gastric cancer with/without severe peritoneal metastasis: Results of dose-finding part. ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 039 *Nakata A, Narita Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Ogata T, Matsubara Y, Kodama H, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Andoh M, Yamaguchi R, Tajika M, Muro K* : Efficacy of immune checkpoint inhibitors for gastrointestinal cancers with SWI/SNF complex genetic alterations. ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 040 *Karyn A. Goodman KA, Rui-hua Xu, Chau I, Chen MH, Cho BC, Shah MA, Muro K, Wang Y, Ichimaru M, Qingyuan Liu, Luhua Wang* : SKYSCRAPER-07: A phase III, randomized, double-blind, placebo-controlled study of atezolizumab with or without tiragolumab in patients with unresectable ESCC who have not progressed following definitive concurrent chemoradiotherapy. ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Trials in Progress Poster Session]
- 041 *Hirano H, Matsubara Y, Masuishi T, Mishima S, Furuta M, Otsuka T, Kawasaki K, Kawakami T, Yanagihara K, Shimura T, Komoda K, Murayama K, Minashi K, Yamamoto Y, Shinohara Y, Nishina S, Musha N, Kato K, Oze I, Muro K* : Multicenter retrospective study of ramucirumab-containing chemotherapy for gastrointestinal neuroendocrine carcinoma patients previously treated with platinum-based chemotherapy: RAM-NEC study (WJOG13420G). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 042 *Masuishi T, Kuboki Y, Terazawa T, Nakamura M, Watanabe J, Ojima H, Makiyama A, Kotaka M, Hara H, Ohta T, Oki E, Sunakawa Y, Ishihara S, Taniguchi H, Nakajima TE, Morita S, Shirao K, Yoshino T* : Exploratory analysis of baseline tumor burden in the TRUSTY study: A randomized phase 2/3 study of trifluridine/tipiracil plus bevacizumab versus irinotecan and fluoropyrimidine plus bevacizumab as second-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer. ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 043 *Takahashi A, Kotani D, Kato T, Satoh T, Masuishi T, Komatsu Y, Shiozawa M, Esaki T, Izawa N, Takeuchi S, Bando H, Iwasa S, Hasegawa H, Yamaguchi T, Taniguchi H, Yoshino T* : Safety and efficacy of encorafenib, binimetinib, plus cetuximab for BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer: Results of a prospective study as an expanded access program. ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 044 *Shirasu H, Taniguchi H, Matsuhashi N, Kotaka M, Nakamura Y, Oki E, Miyamoto Y, Masuishi T, Komatsu Y, Teraishi F, Yamazaki K, Goto M, Shiozawa M, Kanazawa A, Takemasa I, Liang Y-H, Yeh K-H, Yoshino T, Sato A, Kato T* : A randomized, double-blind, phase III study comparing trifluridine/tipiracil hydrochloride therapy versus placebo in resected colorectal cancer patients who are positive for blood circulating tumor DNA after standard adjuvant therapy (EPOC1905): ALTAIR trial in CIRCULATE-Japan (trial in progress). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Trials in Progress Poster Session]
- 045 *Kotaka M, Shirasu H, Watanabe J, Yamazaki K, Hirata K, Akazawa N, Matsuhashi N, Yokota M, Ikeda M, Kato K, Aleshin A, Sharma S, Kotani D, Oki E, Takemasa I, Kato T, Nakamura Y, Taniguchi H, Mori M, Yoshino T* : Association of circulating tumor DNA dynamics with clinical outcomes in the adjuvant setting for patients with colorectal cancer from an observational GALAXY study in CIRCULATE-Japan. ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Oral Abstract Session]
- 046 *Kadowaki S, Aoki M, Suzuki T, Takahashi N, Shirasu H, Ando T, Yamamoto Y, Kawakami K, Kito Y, Matsumoto T, Shinozaki K, Miyazaki Y, Yamaguchi T, Akiyoshi K, Baba E, Makiyama A, Nakashima K, Sugimoto N, Nagashima K, Boku N* : Association of disease progression pattern during third-line chemotherapy with nivolumab with poor prognosis in advanced gastric cancer: A multicenter retrospective study in Japan. ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 047 *Suzuki T, Izawa N, Kawabata R, Nishikawa K, Takahashi M, Nakamura M, Ishiguro A, Katsuya H, Hihara J, Manaka D, Negoro Y, Azuma M, Tsuji A, Kochi M, Takahashi T, Kadowaki S, Michimae H, Sunakawa Y, Ichikawa W, Fujii M* : A phase II, non-randomized, prospective trial of biweekly nab-paclitaxel in combination with ramucirumab for patients with previously treated advanced gastric or gastroesophageal junction cancer: B-RAX trial (JACCRO GC-09). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 048 *Hamaguchi T, Takashima A, Mizusawa J, Shimada Y, Nagashima F, Ando M, Ojima H, Denda T, Watanabe J, Shinozaki K, Baba H, Asayama M, Fukushima T, Masuishi T, Nakata K, Tsukamoto S, Katayama H, Nakamura K, Fukuda H, Kanemitsu Y* : A randomized phase III trial of mFOLFOX7 or CapeOX plus bevacizumab versus 5-FU/l-LV or capecitabine plus bevacizumab as initial therapy in elderly patients with metastatic colorectal cancer: JCOG1018 study (RESPECT). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Oral Abstract Session]
- 049 *Yoshino T, Bartolomeo MD, Raghav KPS, Masuishi T, Kawakami H, Yamaguchi K, Nishina T, Wainberg ZA, Elez E, Rodriguez J, Fakih M, Ciardiello F, Saxena K, Kobayashi K,*

- Bako E, Okuda Y, Meinhardt G, Grothey A, Siena S** : Trastuzumab deruxtecan (T-DXd; DS-8201) in patients (pts) with HER2-expressing metastatic colorectal cancer (mCRC): Final results from a phase 2, multicenter, openlabel study (DESTINY-CRC01). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Rapid Abstract Session and Poster Session]
- 050 **Hong DS, Yaeger R, Kuboki Y, Masuishi T, Barve MA, Falchook GS, Govindan R, Sohal D, Kasi PM, Burns TF, Langer CJ, Puri S, Chan E, Jafarinasabian P, Ngarmchamnanrith G, Rehn M, Tran Q, Gandara DR, Strickler JH, Fakih M** : A phase 1b study of sotorasib, a specific and irreversible KRASG12C inhibitor, in combination with other anticancer therapies in advanced colorectal cancer (CRC) and other solid tumors (CodeBreak 101). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Trials in Progress Poster Session]
- 051 **Hirano H, Matsubara Y, Masuishi T, Mishima S, Furuta M, Otsuka T, Kawasaki K, Kawakami T, Yanagihara K, Shimura T, Komoda M, Murayama K, Minashi K, Yamamoto Y, Shinohara Y, Nishina S, Musha N, Kato K, Oze I, Muro K** : Multicenter retrospective study of ramucirumab-containing chemotherapy for gastrointestinal neuroendocrine carcinoma patients previously treated with platinum-based chemotherapy: RAM-NEC study (WJOG13420G). ASCO-GI 2022, 2022, (San Francisco), [Poster Session]
- 052 **Yamazaki K, Yuki S, Taniguchi H, Bando H, Sunakawa Y, Shiozawa M, Yasui H, Takahashi N, Satake H, Matsuhashi N, Kanazawa A, Horita Y, Goto M, Okano N, Yamashita K, Tsuji A, Ebi H, Abe Y, Nomura S, Yoshino T** : Impact of plasma VEGF-A, VEGF-D and PIGF on the efficacy of 2nd-line chemotherapy combined with biologics in mCRC. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 053 **Ogata T, Narita Y, Oze I, Kumanish R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kodama K, Nakata A, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Ito S, Tajika M, Muro K** : Chronological Improvement in the Survival of Advanced Gastric Cancer Patients over the Past 15 Years. International Gastric Cancer Congress 2022, 2022, (Virtual), [Plenary Session]
- 054 **Muro K, Janjigian Y** : Chemotherapy + Immunotherapy for all metastatic gastric cancer - Yes or Not. International Gastric Cancer Congress 2022, 2022, (Houston (Virtual)), [Great Debates]
- 055 **Muro K, (Co-Moderator)** : Immunotherapy for Gastric Cancer. International Gastric Cancer Congress 2022, 2022, (Houston (Virtual)), [Scientific Session]
- 056 **室 圭** : 消化管癌に対する免疫チェックポイント阻害剤治療の位置づけと今後の展望. 第107回日本消化器病学会総会, 2021, (東京 (ハイブリット開催)), [ワークショップ (基調講演)]
- 057 **谷口浩也** : Circulating tumor DNA 検査の癌診療への実装. 第63回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021, (大阪 (ハイブリット開催)), [ワークショップ]
- 058 **児玉紘幸** : 高齢者切除不能進行・再発胃癌に対するSOXとFOLFOXの有効性及び安全性の検討. 第23回日本高齢消化器病学会総会, 2021, (大阪 (ハイブリット開催)), [シンポジウム]
- 059 **緒方貴次, 坂東英明, 中澤奈子, 松原裕樹, 加藤恭子, 成田有季哉, 本多和典, 舛石俊樹, 門脇重憲, 安藤正志, 室圭** : Efficacy of nivolumab monotherapy for oesophageal squamous cell carcinoma. 第75回日本食道学会学術集会, 2021, (東京 (ハイブリット開催)), [ワークショップ]
- 060 **谷口浩也 (演者)** : 大腸がん個別化治療の現状と展望. 第80回日本癌学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [腫瘍別シンポジウム]
- 061 **大多茂樹, 伊澤直樹, 三沢 彩, 加藤侑希, 久保亜紀子, 門脇重憲, 三梨桂子, 仁科智裕, 山中竹春, 中島貴子, 河上 裕** : 胃がんにおける複合がん免疫療法効果予測のためのバイオマーカー候補の同定. 第80回日本癌学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [ポスター]
- 062 **砂川 優, 的場 亮, 佐藤慶治, 川上尚人, 室 圭, 中島貴子, 市川 度** : 胃癌における腸内細菌ゲノム情報と患者背景の関係: DELIVER試験. 第80回日本癌学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 063 **坂東英明, 中村能章, 谷口浩也, 塩澤 学, 安井久晃, 江崎泰斗, 傳田忠道, 佐藤太郎, 砂川 優, 吉野孝之** : 切除不能・再発大腸がん症例の血中循環腫瘍DNA検出における転移巢の意義. 第80回日本癌学会学術集会, 2021 (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 064 **砂川 優, 的場 亮, 佐藤慶治, 高山歳三, 今井健晴, 杉本直俊, 三浦 公, 結城敏志, 進藤吉明, 川上尚人, 室圭, 中島貴子, 市川 度, 藤井雅志** : 胃癌における腸内細菌ゲノム情報と患者背景の関係: DELIVER試験 (JACCRO GC-08). 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 065 **内野順治, 内藤立暁, 小嶋 徹, 又野 豊, 湊 浩一, 白石祥理, 水上拓郎, 安宅信二, 東口高志, 室 圭, 高山浩一, 古瀬純司, 森嶋瑛一郎, 瀧口 徹, 田村和夫** : アナモレリンの非小細胞肺癌及び消化器癌の低BMI がん悪液質を対象とした第Ⅲ相試験. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 066 **結城敏志, 中村能章, 塩澤 学, 舛石俊樹, 川上武志, 太田高志, 伊澤直樹, 傳田忠道, 松橋延壽, 高島淳生, 後藤昌弘, 賀川義規, 安藤幸滋, 米沢理人, 吉野孝之** : 化学療法未治療の日本人大腸癌症例に対するctDNAを用いた遺伝子解析: GOZILA試験. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 067 **室 圭 (司会), 川上尚人, 吉野孝之, Maria Di Bartolomeo, Kanwal Raghav, 舛石俊樹, 山口研成, 仁科智裕, Kapil Saxena, 小林孝二郎, Emarjola Bako, 奥田恭行, Gerold Meinhardt, Axel Grothey, Salvatore Siena** : HER2 発現転

- 移性大腸癌を対象とした T-DXd の多施設共同第 II 相試験:最終報告. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 068 坂東英明, 中村能章, 山田貴允, 舛石俊樹, 川上武志, 太田高志, 武田弘幸, 三梨桂子, 吉田和弘, 小松嘉人, 岩佐悟, 後藤昌弘, 賀川義規, 米沢理人, 吉野孝之: 化学療法未治療の日本人胃がん患者における血中循環腫瘍 DNA を用いた遺伝子異常の解析. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 069 沖 英次, 安藤幸滋, 谷口浩也, 竹政伊知朗, 加藤健志, 吉野孝之, 森 正樹: ctDNA 検査により大腸癌術後補助化学療法の最適化を行う大規模試験 (CIRCULATE-Japan). 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [シンポジウム]
- 070 白数洋充, 谷口浩也, 渡邊 純, 小高雅人, 山崎健太郎, Alexey Aleshin, 小谷大輔, 三島沙織, 由上博喜, 沖 英次, 竹政伊知朗, 加藤健志, 中村能章, 森 正樹, 吉野孝之: 根治的外科治療可能な結腸・直腸がんを対象とした ctDNA による観察研究 (GALAXY 試験). 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 071 坂東英明, 中村能章, 谷口浩也, 塩澤 学, 安井久晃, 江崎泰斗, 太田高志, 傳田忠道, 佐藤太郎, 山崎健太郎, 砂川 優, 加藤健志, 後藤昌弘, 畑 昌, 吉野孝之: 切除不能・再発大腸がん症例の血中循環腫瘍 DNA 検出における転移巣の意義. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 072 城後友望子, 中村能章, 設楽結平, 坂東英明, 安井久晃, 江崎泰斗, 寺澤哲志, 佐藤太郎, 篠崎英司, 仁科智裕, 小倉 孝, 小松嘉人, 谷口浩也, 藤井誠志, 吉野孝之: 胃癌の血中循環腫瘍 DNA における FGFR2 増幅及び FGFR 阻害薬に対する治療効果の検討. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 073 沖 英次, 安藤幸滋, 中西良太, 中司 悠, 中ノ子智徳, 胡 慶江, 太田光彦, 木村和恵, 谷口浩也, 吉野孝之, 森正樹: 外科領域でのがんゲノム医療への挑戦. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [シンポジウム]
- 074 寺澤哲志, 久保木恭利, 舛石俊樹, 中村将人, 渡邊 純, 尾嶋 仁, 篠原雄大, 沖 英次, 砂川 優, 石原聡一郎, 谷口浩也, 中島貴子, 森田智視, 白尾國昭, 吉野孝之: TRUSTY: 進行再発大腸癌の 2 次治療における FTD/TPI + BEV 療法の第 2/3 相比較試験. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021 (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 075 三島沙織, 中村能章, 澤田憲太郎, 洞澤智至, 門脇重憲, 加藤 健, 上野 誠, 沖 英次, 佐藤太郎, 小松嘉人, Hanna Tukachinsky, Russell Madison, Geoff Oxnard, 吉野孝之: 進行性固形がんにおける血液中遺伝子変異量 bTMB の評価: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 076 室 圭 (司会), 澤 智至, 澤田憲太郎, 山下理宇, 藤澤孝夫, 吉河 歩, 中村能章, 谷口浩也, 門脇重憲, 加藤健, 佐藤太郎, 小松嘉人, 沖 英二, 安井久晃, 山崎健太郎, 吉野孝之: 進行性固形癌患者における腸内細菌叢と免疫チェックポイント阻害剤の有効性. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 077 熊西亮介, 舛石俊樹, 伏木邦博, 澤田憲太郎, 千田圭吾, 松原裕樹, 白数洋充, 川本泰之, 小谷大輔, 加藤恭子, 川上武志, 結城敏志, 山崎健太郎, 小松嘉人, 吉野孝之: 切除不能大腸癌における KRAS G12C 変異の予後への影響 (多施設共同研究). 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 078 室 圭: 内科医が考える BRAF 変異大腸がんの最適な治療戦略. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [イブニングセミナー]
- 079 室 圭 (司会), 原田剛志: 周期リハビリテーションを受けた高齢食道癌患者での術後骨格筋量変化の予後の影響. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 080 室 圭 (司会), 野呂林太郎: 肺腺がんの転移活性を評価し, 術後補助化学療法の効果予測するバイオマーカーの実用化. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 081 室 圭 (司会), 尾島敏康: ロボット胃腸手術 vs 腹腔鏡胃腸手術無作為化比較試験. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 082 室 圭 (司会), 塩崎 敦: 膝癌幹細胞における電位依存性カリウムチャネルの発現機能解析. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 083 室 圭 (司会), 川上尚人: HER2 発現転移性大腸癌を対象とした T-DXd の多施設共同第 II 相試験:最終報告. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021 (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 084 室 圭 (司会), 清島 亮: 本邦における高齢者直腸癌患者に対する腹腔鏡手術の安全性の検討. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 085 室 圭 (司会), 八木麻未: 本邦における子宮体がんの動向と予後の解析: 大阪府がん登録データを用いて. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 086 室 圭 (司会), 洞澤智至: 進行性固形癌患者における腸内細菌叢と免疫チェックポイント阻害剤の有効性. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [プレナリーセッション]
- 087 室 圭: 胃癌, 大腸癌における分子標的治療薬の耐性と克服戦略. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [シンポジウム]
- 088 室 圭 (司会): 大腸癌個別化治療の今: MSI-H による precision medicine. 第 59 回日本癌治療学会学術集会,

- 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [学術セミナー]
- 089 緒方貴次, 舩石俊樹, 熊西亮介, 中澤泰子, 松原裕樹, 児玉紘幸, 中田晃暢, 成田有季哉, 本多和典, 門脇重憲, 安藤正志, 室 圭: 既治療切除不能大腸癌に対するトリフルリジン/チピラシル+ベバシズマブ療法の有効性. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [ポスター]
- 090 松原裕樹, 鳥山和浩, 門脇重憲, 緒方貴次, 中澤泰子, 加藤恭子, 能澤一樹, 成田有季哉, 本多和典, 舩石俊樹, 坂東英明, 安藤正志, 田近正洋, 細田和貴, 室 圭: 食道扁平上皮癌に対するニボルマブの有効性におけるCPSの影響. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 091 松原裕樹, 舩石俊樹, 中田晃暢, 児玉紘幸, 緒方貴次, 熊西亮介, 中澤泰子, 能澤一樹, 成田有季哉, 本多和典, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: HER2低発現が切除不能大腸癌1次治療における抗EGFR抗体薬の有効性に与える影響. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [口演]
- 092 *Taniguchi H*: Perioperative therapy in colorectal cancer: Current status and future perspectives. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [ESMO-JSCO Joint Symposium]
- 093 谷口浩也: 内科医が注目する進行再発大腸癌の薬物治療. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [シンポジウム]
- 094 谷口浩也: 産学連携ゲノム解析研究SCRUM/CIRCULATE-Japan Registryの医薬品医療機器承認への活用. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [シンポジウム]
- 095 室 圭: 胃がん免疫療法の意義を考える. JDDW, 2021, (神戸 (ハイブリット開催)), [ランチョンセミナー]
- 096 谷口浩也: 進行大腸がんに対する薬物療法のUp To Date. JDDW, 2021, (神戸 (ハイブリット開催)), [教育講演]
- 097 谷口浩也: 大腸がん遺伝子関連検査の基礎知識. 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (広島 (ハイブリット開催)), [教育講演]
- 098 室 圭 (司会): Sidednessに基づいた大腸癌治療戦略. 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (広島 (ハイブリット開催)), [パネルディスカッション]
- 099 児玉紘幸, 舩石俊樹, 中田晃暢, 熊西亮介, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 本多和典, 成田有季哉, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: KRAS/BRAF野生型切除不能大腸癌一次治療において原発部位が分子標的治療薬の有効性に与える影響. 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (広島 (ハイブリット開催)), [パネルディスカッション]
- 100 室 圭: 胃癌薬物療法におけるICIの位置づけ. 日本消化器病学会東海支部第135回例会, 2021, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 101 室 圭 (座長): 切除不能大腸癌に対するconversion therapyの現況と今後の課題. 第96回大腸癌研究会, 2022, (東京 (ハイブリット開催)) [口演]
- 102 安藤正志 (演者): 原発不明癌予後不良群に対する免疫組織化学検査により推定された原発巣に準じた薬物療法の治療成績. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [会長企画シンポジウム]
- 103 松原淳一, 向井久美, 鹿毛秀宣, 織田克利, 工藤 亮, 池田貞勝, 衣斐寛倫, 室 圭, 林 龍二, 徳留なほみ, 山本信之, 武藤 学: 化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究 (FIRST-Dx trial). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [ポスターセッション]
- 104 *Yamazaki K, Yoshino T, Honda K, Kuboki Y, Kawakami T, Mitani S, Nakamura Y, Taniguchi H, Bando H, Tanaka T, Tada K, Fagniez N, Muro K*: Safety and pharmacokinetics (PK) of tusamitamab ravtansine (tusa) in Japanese patients (pts) with advanced solid tumors. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 105 坂本康寛, 成田有季哉, 三角俊裕, 松岡 宏, 谷岡洋亮, 川上武志, 松島知広, 三輪洋人, 庄司広和, 石黒 敦, 伏田幸夫, 三浦 公, 山田貴允, 篠崎勝則, 水上拓郎, 仁科智裕, 森脇俊和, 三谷誠一郎, 中村路夫, 室 圭: REVIVE study: An Observational Study in Chemotherapy (CTx) after Nivolumab (NIVO) for Advanced Gastric Cancer (AGC). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 106 中村将人, 久保木恭利, 寺澤哲志, 舩石俊樹, 渡邊 純, 尾嶋 仁, 牧山明資, 小高雅人, 原 浩樹, 太田高志, 冲英次, 砂川 優, 石原聡一郎, 谷口浩也, 中島貴子, 森田智視, 白尾國昭, 吉野孝之: Exploratory analysis of baseline tumor burden in the TRUSTY study: Phase 2/3 study of 2nd-lineFTD/TPI + BEV for mCRC. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 107 山口研成, *Salvatore S, Kanwal R*, 舩石俊樹, 仁科智裕, *Elena E, Javier R, Ian C, Maria DB*, 川上尚人, 須藤史貴, 小林孝二郎, 古賀牧士, 稲木公一郎, 桑原佑典, 竹原一成, *Axel G*, 吉野孝之: Exploratory Biomarker Analysis of Trastuzumab Deruxtecan in HER2-Expressing Metastatic Colorectal Cancer (DESTINY-CRC01). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 108 佐川 保, 辻 晃仁, 佐竹悠良, 中村将人, 砂川 優, 是久翔太郎, 松浦正徒, 湯浅康弘, 峯 孝志, 永野浩昭, 重安邦俊, 金城達也, 小高雅人, 奥山浩之, 久保田祐太郎, 東風 貢, 舩石俊樹, 竹内正弘, 市川 度, 藤井雅志: 抗EGFR抗体薬併用化学療法に不応/不耐となった進行再発大腸癌患者に対する2次治療: FOLFIRI/ラムシルマブ併用療法の第II相試験: JACCRO CC-16. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 109 白石和寛, 舩石俊樹, 緒方貴次, 加藤恭子, 杉山圭司, 西川奈津紀, 工藤千穂, 高柳夏未, 成田有季哉, 宇田裕聡, 門脇重憲, 安藤正志, 北川智余恵, 片岡政人, 室 圭: A

- phase I study of FLOT as first-line treatment for advanced gastric cancer with or without severe peritoneal metastasis. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 110 渡邊 純, 白数洋充, 池永雅一, 能浦真吾, 山口達郎, 塩澤 学, 賀川義規, 後藤昌弘, 山田 誠, Alexey A, 由上博喜, 三島沙織, 安藤幸滋, 浜部敦史, 三代雅明, 衣斐寛倫, 小谷大輔, 中村能章, 谷口浩也, 吉野孝之: Circulating tumor DNA dynamics by adjuvant chemotherapy for resected colorectal cancer: CIRCULATE-Japan update. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 111 廣瀬俊晴, 高島淳生, 平野秀和, 沖田南都子, 庄司広和, 岩佐 悟, 松尾理恵, 川村公彦, 谷口浩也, 土屋直人, 大津 智, 廣中秀一, 松下弘道, 加藤 健: The stability of angiogenesis-related factors in angiogenesis panel: a prospective observational study. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 112 結城敏志, 砂川 優, 谷口浩也, 坂東英明, 山崎健太郎, 仁科智裕, 太田高志, 傳田忠道, 江崎泰斗, 川上尚人, 高島淳生, 加藤健志, 安藤幸滋, 森脇俊和, 佐藤太郎, 奥川喜永, 阿部由紀子, 野村尚吾, 浅野千春, 吉野孝之: 切除不能進行結腸直腸癌における分子標的治療薬投与前後の血清 VEGF-A, VEGF-D, PlGF の変動: GI-SCREEN CRC Ukit. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 113 山口敏史, 小谷大輔, 高島淳生, 加藤健志, 舛石俊樹, 小松嘉人, 塩澤 学, 江崎泰斗, 伊澤直樹, 竹内伸司, 坂東英明, 岩佐 悟, 長谷川裕子, 佐藤太郎, 谷口浩也, 吉野孝之: Safety of encorafenib, binimetinib, plus cetuximab for Japanese patients with BRAF V600E metastatic colorectal cancer. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 114 柳原武史, 横溝綾子, 川口 崇, 下村一景, 飯原大稔, 菅原充広, 三井満里奈, 石川 寛, 縄田修一, 坪谷綾子, 三島圭介, 森川 慶, 小山田隼佑, 本多和典, 湯川裕子, 大野康, 堅田親利, 檜田直也, 山口拓洋, 中島貴子: Phase III study comparing DEX on day 1 to days 1-4 with combined NK1-RA, PALO, and OLZ in CDDP-based chemotherapy. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 115 廣中秀一, 若槻 尊, 石塚直樹, 三梨桂子, 門脇重憲, 後藤昌弘, 庄司広和, 平野秀和, 中山徹馬, 大隅寛木, 小倉真理子, 陳 勁松, 山口研成, 高張大亮: Exploratory Analysis of HER2 Extracellular Domain in HER2 Positive Gastric Cancer treated with SOX plus Trastuzumab. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 116 山本 駿, 陳 勁松, 高橋雅信, 門脇重憲, 久保田祐太郎, 天沼裕介, 岡田守人, 神田光郎, 木村和恵, 野儀優比子, 有満祐子, 北川雄光: The effectiveness of subsequent taxanes after nivolumab therapy in patients with advanced ESCC in ATTRACTION-3. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 117 熊西亮介, 緒方貴次, 羽部 匠, 坂東英明, 藤澤建志, 熊谷尚悟, 藤原尚志, 三島沙織, 小谷大輔, 中村匡希, 北條秀博, 小山正平, 西川博嘉, 矢野友規, 藤田武郎, 門脇重憲, 木下敬弘, 田近正洋, 室 圭, 小嶋隆嗣: Efficacy and safety of definitive chemoradiotherapy in patients with unresectable locally advanced esophageal SCC. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 118 熊西亮介, 谷口浩也, 加藤恭子, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 児玉紘幸, 中田晃暢, 本多和典, 舛石俊樹, 成田有季哉, 門脇重憲, 安藤正志, 杉山圭司, 山田啓策, 大西祥代, 田中 努, 田近正洋, 安部哲也, 室 圭: Optimal primary prophylaxis for febrile neutropenia during docetaxel, cisplatin, and 5-FU therapy for esophageal cancer. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Postar Session]
- 119 児玉紘幸, 門脇重憲, 中田晃暢, 熊西亮介, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 本多和典, 舛石俊樹, 成田有季哉, 谷口浩也, 安藤正志, 花井信広, 室 圭: Gemcitabine plus cisplatin for patients with recurrent or metastatic nasopharyngeal carcinoma: a retrospective study. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 120 室 圭 (演者): COVID-19によるがん薬物療法の影響調査と今後の展開. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [合同企画]
- 121 室 圭 (演者): がんゲノム医療の現状と課題. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [モーニングセミナー]
- 122 室 圭, 山崎健太郎, Wook LK, 山口研成, 杉本直俊, Oh SC, 佐藤太郎, Oh SY, 吉田陽一郎, Young ZD, 竹政伊知朗, 沖 英次, Cho S H, Wang JY, 松岡 宏, Anders P, Jacques N, 曾根原裕介, 永浜文子, 加藤健志: 化学療法誘発性末梢神経障害予防のため, 大腸癌に mFOLFOX6 に加えて calarmangafodipir を投与する POLAR プログラムのアジア人サブグループ解析. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 123 室 圭 (演者): 食道がん周術期治療の新たな幕開け ~ オブジーボが果たす新たな役割 ~. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [メディカルセミナー]
- 124 松原裕樹, 舛石俊樹, 平野秀和, 三島沙織, 古田光寛, 大塚倫之, 川崎健太, 川上武志, 柳原一広, 志村貴也, 薦田正人, 村山 梢, 三梨桂子, 山本祥之, 篠原雄大, 仁科慎一, 武者信之, 加藤恭子, 尾瀬 功, 室 圭: Ramucirumab-containing chemotherapy for gastrointestinal neuroendocrine carcinoma: RAM-NEC study (WJOG13420G). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 125 舛石俊樹, 小谷大輔, 高島淳生, 加藤健志, 佐藤太郎, 小松嘉人, 塩澤 学, 江崎泰斗, 伊澤直樹, 竹内伸司, 坂東

- 英明, 岩佐 悟, 長谷川裕子, 山口敏史, 谷口浩也, 吉野孝之: Encorafenib, binimetinib, plus cetuximab for BRAF V600E-mutant colorectal cancer: Results of an expanded access program. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, (京都), [Oral Session]
- 126 谷口浩也 (演者): MSI-high 大腸がんのすべて ~早起きは三文の徳~. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [モーニングセミナー]
- 127 谷口浩也 (演者): どうなる? 2022年の大腸がん治療戦略. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [メディカルセミナー]
- 128 谷口浩也 (演者): 腫瘍生物学の基礎 III. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [教育講演]
- 129 谷口浩也 (演者): 大腸がん精密医療の最新の話題~抗EGFR 抗体薬を中心に~. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [イブニングセミナー]
- 130 谷口浩也 (演者): 大腸癌における標的治療: 分子生物学的な視点から. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [シンポジウム]
- 131 谷口浩也 (ディスカッサント): Oral Session18 消化器3 (下部消化管 - 大腸癌2). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 132 室 圭 (司会): Oral Session18 消化器3 (下部消化管 - 大腸癌2). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 133 本多和典, 梶本裕介, 能澤一樹, 向井未年子, テン リダ, 五十嵐 中: Use of Anti-cancer Drugs and Economic Burden Near the End-of-Life in Japan: Results from Claims Database. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022 (京都), [Mini-Oral Session]
- 134 本多和典, 坪内寛文, 森 正彦, 鈴木史朗, 中尾光資郎, 東 杏莉, 長尾昌二, 澁谷剛志, 小柳貴裕, 小原 泉, 玉木秀子, 矢吹みどり, 藤 麗達, 梶本裕介, 五十嵐 中: Association of Financial Toxicity with Quality-of-Life in patients with gynecologic cancer. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Oral Session]
- 135 中田晃暢, 成田有季哉, 熊西亮介, 中澤泰子, 緒方貴次, 松原裕樹, 児玉紘幸, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 安藤正志, 山口 類, 田近正洋, 室 圭: Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitors for Gastrointestinal Cancers with SWI/SNF Complex Genetic Alterations. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 136 門脇重憲 (司会): Mini-Oral 26 頭頸部1 (臨床・基礎). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [Mini-Oral Session]
- 137 Muro K: Current status and perspective of genomic precision medicine in gastric cancer. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Joint Session]
- 138 Furuta M, atsubara Y, Masuishi T, Hirano H, Mishima S, Otsuka T, Kawasaki K, Kawakami T, Yanagihara K, Shimura T, Komada M, Murayama K, Minashi K, Yamamoto Y, Shinohara Y, Nishina S, Musha N, Kato K, Oze I, Muro K: Taxane plus Ramucirumab for gastric neuroendocrine carcinoma: RAM-NEC study WJOG13420G. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Oral Presentation]
- 139 Kawakami T, Narita Y, Misumi T, Sakamoto Y, Matsuoka H, Tanioka H, Matsushima T, Miwa H, Shoji H, Ishiguro A, Fushida S, Miura K, Yamada T, Shinozaki K, Sunakawa Y, Nishina T, Moriwaki T, Mitani S, Nakamura M, Muro K: Efficacy of Salvage Chemotherapy (CTx) by Response to Prior Nivolumab (NIVO): A Sub-study of REVIVE. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Oral Presentation]
- 140 Nagahisa Y, Izawa N, Mine T, Goto M, Fujii H, Kito Y, Kawabata R, Nakamura M, Azuma M, Tsuji A, Kochi M, Takahashi T, Kadowaki S, Michimae H, Sunakawa Y, Ichikawa W, Fujii M: A phase II trial of bi-weekly nab-PTX plus RAM therapy in advanced gastric cancer (GC): JACCRO GCD9. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Oral Presentation]
- 141 Kodama H, Masuishi T, Nakata A, Kumanishi R, Nakazawa T, Ogata T, Matsubara Y, Honda K, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K: FOLFOX or SOX for advanced gastric cancer patients with ECOG performance status of 2. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Oral Presentation]
- 142 Minashi K, Wakatsuki T, Ishizuka N, Hironaka S, Kadowaki S, Goto M, Shoji H, Hirano H, Nakayama I, Osumi H, Ogura M, Chin K, Yamaguchi K, Takahashi D: Exploratory Analysis of serum HER2 Extracellular Domain (ECO) in HER2 Positive Gastric Cancer. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Oral Presentation]
- 143 Komori A, Hironaka S, Kawakami H, Yamazaki K, Muro K: Clinicopathological features of chemo-naïve MSI-high AGC: interim analysis of WJOG13320GPS. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [パネルディスカッション]
- 144 Kawakami H, Muro K, Nakagawa K: Distinctive characteristics of MS-H in chemo and immune therapy for gastric cancer. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Symposium]
- 145 Nakata A, Narita N, Kumanishi R, Nakazawa T, Ogata T, Matsubara Y, Kodama H, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Yamaguchi R, Tajika M, Muro K: Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitors for Gastric Cancer with SWI/SNF Complex Genetic Alterations. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Symposium]
- 146 Ogata T, Narita Y, Oze I, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kodama K, Nakata A, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Ito S, Tajika M, Muro K: Differences in the survival rate of advanced gastric cancer by metastatic sites in last 15 years. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Symposium]
- 147 Hirata K, Hamamoto Y, Shoji H, Hara H, Kondoh C, Yasui H,

- Kajiwara T, Baba E, Ando T, Sugimoto N, Okano N, Kawakami H, Katsuya K, Nagase M, Moriwaki T, Yoshimura K, Ando M, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K*: Phase II trial of RAM combined with PTX vs nab-PTX for gastric cancer with peritoneal dissemination. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (横浜), [Symposium]
- 148 *Yamamoto S, Kato K, Daiko H, Kojima T, Hara H, Abe T, Tsubosa Y, Kawakubo H, Fujita T, Fukuda T, Kadowaki S, Tsushima T, Hamamoto Y, Nagashima K, Aoki K, Mizoguchi Y, Kitano S, Yachida S, Shiba S, Kitagawa Y: JCOG1804E (FRONTIER)*: Feasibility study of nivolumab with neoadjuvant CF for LAESCC. 第75回日本食道学会学術集会, 2021, (東京 (ハイブリット開催)), [ワークショップ]
- 149 藤澤孝夫, 門脇重憲, 佐竹悠良, 洞澤智至, 倉本尚美, 坂本泰理, 中村能章, 谷口浩也, 吉野孝之, 岡野 晋: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN における頭頸部がん血漿循環腫瘍 DNA (ctDNA) 遺伝子異常の検討. 第45回日本頭頸部癌学会総会, 2021, (千葉 (ハイブリット開催)), [口演]
- 150 澤田憲太郎, 下 理宇, 洞澤智至, 酒井俊輔, 吉河 歩, 藤澤孝夫, 門脇重憲, 上野 誠, 沖 英次, 加藤 健, 木大 輔, 佐藤太郎, 小松嘉人, 江崎泰斗, 谷口浩也, 中村能章, 坂東英明, 吉野孝之: 固形がん患者における腸内細菌叢と臨床的背景の検討 -SCRUMJapan MONSTAR-SCREEN project. 第44回日本分子生物学会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [ポスター]
- 151 佐伯達也, 澤田憲太郎, 有川浩司, 山下理宇, 釜田和馬, 洞澤智至, 藤澤孝夫, 中村能章, 坂東英明, 谷口浩也, 門脇重憲, 上野 誠, 沖 英次, 加藤 健, 青木大輔, 佐藤太郎, 小松嘉人, 江崎泰斗, 細川正人, 吉野孝之: ショットガンメタゲノム解析及びシングルセルゲノム解析による大腸がん患者の腸内細菌叢プロファイリング (SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN 付随 BIGBEN 試験). 第44回日本分子生物学会, 2021, (横浜 (ハイブリット開催)), [ポスター]
- 152 門脇重憲 (演者): 希少遺伝子変異を考慮した頭頸部癌の治療戦略. 第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2022, (大阪 (ハイブリット開催)), [ランチョンセミナー]
- 2021, (Web), [世話人, コメンテーター]
- 005 藤田泰子: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について その3 (病理解説). 第5回 京都拡大内視鏡研究会, 2021, (Web), [コメンテーター]
- 006 藤田泰子: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について その3 (胃) (病理解説). 第4回 神戸拡大内視鏡研究会, 2021, (Web), [コメンテーター]
- 007 藤田泰子: 食道穿孔の症例 (病理解説). 第131回 東海食道疾患症例検討会, 2021, (Web), [コメンテーター]
- 008 佐々木英一: 呼吸器細胞診 I. 東海連合会基礎講習会, 2021, (Web), [口演]
- 009 佐々木英一: PD-L1 測定の新しい話題~TPS/CPSは何に影響を受けるか?~. PD-L1 診断セミナー, 2021, (Web), [口演]
- 010 佐々木英一: SP142 陽性率向上に向けて. MIYAGI Oncopathology Seminar 2021, 2021, (Web), [口演]
- 011 細田和貴: がん遺伝子パネル検査を使いこなす - NGS 検査の分子病理と検体の扱い -. 愛知県がんセンター病院研究所合同セミナー, 2021, (Web), [口演]
- 012 真砂勝泰: がんゲノム医療を日常臨床にどう活かすか. がんゲノム医療院内講演会, 2021, (Web), [口演]
- 013 細田和貴: 臓器別病理診断講習会_膵臓. 第110回日本病理学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 014 細田和貴: 乳腺細胞診. 東海連合会基礎講習会, 2021, (Web), [口演]
- 015 細田和貴: がんゲノム医療と病理検査. 愛知県臨床検査技師会 病理細胞検査研究班, 2021, (Web), [口演]
- 016 平松可帆, 松田千秋, 二村元子, 上岡亜子, 柴田典子, 細田和貴: がん遺伝子パネル検査のための核酸品質評価における DNA Integrity Number (DIN) 値の有用性と限界性についての検討. 第39回日本染色体遺伝子検査学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 017 松田千秋, 平松可帆, 二村元子, 柴田典子, 細田和貴: cobasREGFR 遺伝子変異検出キット ver2 (Roche) の性能評価, 特に本キットで検出できない肺癌 EGFR 遺伝子変異について. 第39回日本染色体遺伝子検査学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 018 早川英樹: 輸血関連の精度管理について. 2021年度 愛知県赤十字血液センターシンポジウム, 2022, (Web), [口演]
- 019 小林雅子, 近藤吉起, 植田菜々絵, 所 嘉朗, 柴田典子, 細田和貴: 神経内分泌腫瘍 NET からの発生が示唆される膵神経内分泌癌 NEC の一例. 第41回日本臨床細胞学会東海連合会学術集会, 2022, (Web), [口演]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 細田和貴: 第24回日本病理学会中部支部スライドセミナー. 日本病理学会中部支部, 2021, (Web), [世話人]
- 002 藤田泰子: 第24回日本病理学会中部支部スライドセミナー 膵淡明細胞癌の一例. 日本病理学会中部支部交歓会, 2021, (Web), [口演]
- 003 細田和貴: EUS-FNA の課題と挑戦: ゲノムを見据えた取り組み. 60回日本臨床細胞学会, 2021, (米子), [特別講演]
- 004 藤田泰子: 第6回~第15回勉強会. Salon de Taverna,

頭頸部外科部

- 001 花井信広: 頭頸部癌を見逃さないための工夫 3. がん専門病院の立場から. 第44回日本頭頸部癌学会愛知県地方部会学術講演会, 2021, (Web開催), [パネルディスカッション]

- 002 花井信広：Erbitux HN Web Seminar, 2021, (Web 開催), [司会]
- 003 花井信広：自験例の紹介。頭頸部イルミノックス治療の実践に向けたオンライン症例共有会 (第1回), 2021, (Web 開催), [講演]
- 004 西川大輔：自験例の紹介。頭頸部イルミノックス治療の実践に向けたオンライン症例共有会 (第1回), 2021, (Web 開催), [講演]
- 005 花井信広：自験例の紹介。頭頸部イルミノックス治療の実践に向けたオンライン症例共有会 (第2回), 2021, (Web 開催), [講演]
- 006 西川大輔：自験例の紹介。頭頸部イルミノックス治療の実践に向けたオンライン症例共有会 (第2回), 2021, (Web 開催), [講演]
- 007 花井信広：日本発の研究・臨床成果 - 国際的プレゼンスを高めるには? -。第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2021, (京都), [パネルディスカッション]
- 008 花井信広：フィルムリーディング症例検討「リンパ節疾患超音波診断における注意点・着目点」。第46回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2021, (Web 開催), [座長]
- 009 寺田星乃：リンパ節疾患超音波診断における注意点・着目点。第46回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2021, (Web 開催), [口演]
- 010 花井信広：甲状腺・頭頸部超音波検査の問題点と今後の展望 ~医学教育, 効率化と工夫~。日本超音波医学会第94回学術集会, 2021, (神戸), [パネルディスカッション司会]
- 011 寺田星乃, 花井信広：超音波を通じた外科医としてのキャリアアップ。日本超音波医学会第94回学術集会, 2021, (神戸), [パネルディスカッション]
- 012 寺田星乃, 花井信広：超音波を用いた頸部リンパ節腫脹の鑑別。日本超音波医学会第94回学術集会, 2021, (神戸), [口演]
- 013 寺田星乃, 花井信広：超音波を用いて頸部リンパ節転移に対する治療効果を評価する。日本超音波医学会第94回学術集会, 2021, (神戸), [口演]
- 014 花井信広, 朝蔭孝宏, 本間明宏, 林 隆一, 福島啓文, 佐野大佑, 向川卓志, 上田 勉, 門田伸也：Stage I/II 舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG1601): RESPOND. 第45回日本頭頸部癌学会, 2021, (千葉), [シンポジウム]
- 015 寺田星乃：女性が活躍する頭頸部外科を目指して。第45回日本頭頸部癌学会, 2021, (千葉), [パネルディスカッション]
- 016 安藤瑞生, 清水 康, 花井信広, 假谷 伸, 安松隆治, 横田知哉, 藤井 隆, 松田祐子, 山田孝之, 本間明宏：再発転移頭頸部癌に対するニボルマブの他施設共同観察研究：2年間フォローアップのサブグループ解析。第45回日本頭頸部癌学会, 2021, (千葉), [口演]
- 017 松塚 崇, 花井信広, 小林謙也, 大峽慎一, 塚原清彰, 近松一朗, 榎祐一郎, 荒木幸仁, 篠崎 剛, 尾瀬 功, 長谷川泰久：センチネルリンパ節ナビゲーション手術 (SNNS) における口腔癌のリンパ節転移巣の大きさの検討。第45回日本頭頸部癌学会, 2021, (千葉), [口演]
- 018 花井信広：頸部リンパ節1. 第45回日本頭頸部癌学会, 2021, (千葉), [司会]
- 019 花井信広：PD-L1 検査 (CPS) を踏まえた頭頸部がんにおける免疫療法。第45回日本頭頸部癌学会, 2021, (千葉), [ランチョンセミナー]
- 020 花井信広：頭頸部イルミノックス治療の概要と治療実施要件について。第45回日本頭頸部癌学会, 2021, (千葉), [イブニングセミナー]
- 021 西川大輔：愛知県がんセンターで施工した頭頸部イルミノックス治療症例。第45回日本頭頸部癌学会, 2021, (千葉), [イブニングセミナー]
- 022 有泉陽介, 花井信広, 本間明宏, 瀬戸 陽, 宮部淳二, 結束 寿, 向川卓志, 朝蔭孝宏：下咽頭癌に対する下咽頭喉頭全摘の全国調査 - 梨状陥凹癌における健側気管傍郭清省略の意義 -。第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会, 2021, (Web 開催), [教育セミナー]
- 023 鈴木秀典, 西川大輔, 花井信広：稀な甲状腺転移を伴う p16 陽性中咽頭癌の1例。第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会, 2021, (Web 開催), [口演]
- 024 西川大輔, 鈴木秀典, 別府慎太郎, 寺田星乃, 後藤聖也, 村嶋明大, 岩城 翔, 小林義明, 花井信広：免疫関連有害事象の発症予測バイオマーカーの検討。第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会, 2021, (Web 開催), [口演]
- 025 別府慎太郎, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 寺田星乃：80歳以上の高齢者における遊離皮弁再建手術45例の検討。第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会, 2021, (Web 開催), [口演]
- 026 岩城 翔, 別府慎太郎, 花井信広：舌に発生した t (7;12) 染色体転座による ACTB-GLI1 融合遺伝子を伴う Pericytoma の1例。第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会, 2021, (Web 開催), [口演]
- 027 花井信広：機器の取り扱いについて。頭頸部イルミノックス治療講習会, 2021, (東京), [講演]
- 028 西川大輔：機器の取り扱いについて。頭頸部イルミノックス治療講習会, 2021, (東京), [講演]
- 029 花井信広：第五群 頭頸部。日本耳鼻咽喉科学会179回東海地方部会, 2021, (名古屋), [座長]
- 030 花井信広：気管前傍郭清。第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会, 2021, (Web 開催), [司会]
- 031 鈴木秀典：鼻・副鼻腔腫瘍2. 第83回耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会, 2021, (Web 開催), [座長]
- 032 花井信広：頭頸部外科手術 - 実践的ノウハウ -。第6回 H&N Expert Meeting in Chiba, 2021, (Web 開催), [講演]
- 033 花井信広：甲状腺癌に対する放射性ヨウ素内用療法の臨床経験。LENVIMA-TC RAI Web Seminar, 2021, (Web 開催), [司会]
- 034 花井信広：R/M HNSCC のベストプラクティスとは? -

- 症例経験から考える最適な治療シークエンス - Erbitux HN Web Seminar, 2021, (Web 開催), [司会]
- 035 後藤聖也, 鈴木秀典, 曾根三千彦, 花井信広: 頭頸部癌の頭部再発や残存例の lymph node density と log odds of positive lymph nodes. 第34回日本口腔・咽頭科学会総会, 2021, (ハイブリッド開催), [口演]
- 036 花井信広: 第11群「免疫チェックポイント」. 第34回日本口腔・咽頭科学会, 2021, (ハイブリッド開催), [座長]
- 037 松塚 崇, 花井信広, 小林謙也, 大峽慎一, 塚原清彰, 近松一朗, 榎木祐一郎, 荒木幸仁, 篠崎 剛, 尾瀬 功, 長谷川泰久: センチネルリンパ節ナビゲーション手術(SNNS)における口腔癌のリンパ節転移巣の大きさの検討. 第23回SNNS研究会学術集会, 2021, (ハイブリッド開催), [口演]
- 038 西川大輔: 機器の取扱いについて. 頭頸部イルミノックス治療講習会, 2021, (Web 開催), [講演]
- 039 花井信広: 頭頸部癌に対するがん免疫療法 ~実臨床における治療選択~. 第8回西日本中部地区頭頸部腫瘍研究会, 2021, (Web 開催), [講演]
- 040 別府慎太郎: 現在の当院における頭頸部癌の頸部郭清~私がレジデントの先生達に伝えていること~. 第8回西日本中部地区頭頸部腫瘍研究会, 2021, (Web 開催), [講演]
- 041 花井信広: Controversies in relation to neck management in N0 early oral tongue cancer. 第6回大阪頭頸部癌研究会, 2021, (大阪), [特別講演]
- 042 花井信広: 頭頸部癌におけるイルミノックス治療 ~実臨床からの考察~. 北海道 頭頸部イルミノックス治療カンファレンス, 2021, (Web 開催), [講演]
- 043 寺田星乃: 超音波を用いた頭頸部癌化学放射線療法後の治療効果判定. 第47回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2021, (Web 開催), [口演]
- 044 花井信広: 進化するがん治療 -形, 機能, 命を守る- イルミノックス治療. 市民公開講座 (第59回日本癌治療学会学術集会), 2021, (ハイブリッド開催), [講演]
- 045 花井信広: 頭頸部1 臨床1. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (ハイブリッド開催), [座長]
- 046 澤部 倫, 西川大輔, 佐々木英一, 鈴木秀典, 別府慎太郎, 寺田星乃, 花井信広: EGFR 変異とヒトパピロームウイルス関連鼻副鼻腔扁平上皮癌の臨床的特徴について. 第53回日本臨床分子形態学会総会・学術集会, 2021, (Web 開催), [口演]
- 047 萩原純孝, 佐々木英一, 鈴木秀典, 西川大輔, 別府慎太郎, 寺田星乃, 澤部 倫, 花井信広: 頭頸部癌扁平上皮癌患者における血清 CD109 の検討~新規血清診断マーカーの可能性について~. 第53回日本臨床分子形態学会総会・学術集会, 2021, (Web 開催), [口演]
- 048 花井信広: 甲状腺手術における神経損傷のリスク回避. 第54回日本内分泌外科学会学術大会, 2021, (Web 開催), [ランチョンセミナー]
- 049 花井信広: 頭頸部がん治療, 最新の進歩 第4回公開講座「頭頸部がん治療, 最新の進歩」. 2021, (オンデマンド開催), [司会]
- 050 西川大輔: 経口的機能温存手術 -ロボット手術で残す食事・会話の機能-. 第4回公開講座「頭頸部がん治療, 最新の進歩」. 2021, (オンデマンド開催), [講演]
- 051 花井信広: 頭頸部イルミノックス治療の実際. 第1回頭頸部イルミノックス治療術後症例検討会, 2021, (東京), [司会]
- 052 西川大輔: 皮膚転移の症例治療について. 第1回頭頸部イルミノックス治療術後症例検討会, 2021, (東京), [講演]
- 053 花井信広: 頭頸部イルミノックス治療の実際. 東海頭頸部イルミノックス治療カンファレンス, 2021, (Web 開催), [講演]
- 054 西川大輔: 愛知県がんセンターで今まで経験した症例. 東海頭頸部イルミノックス治療カンファレンス, 2021, (Web 開催), [講演]
- 055 花井信広: 頭頸部イルミノックス治療 -適応判断のポイント及び注意点-. 大阪・奈良・和歌山 Web 講演会, 2021, (Web 開催), [特別講演]
- 056 花井信広: 頭頸部イルミノックス治療の概要と留意すべき患者. 頭頸部イルミノックス治療 WEB 講演会, 2021, (Web 開催), [講演]
- 057 西川大輔: 頬部皮下病変に対して頭頸部イルミノックス治療を施工した1例. 頭頸部イルミノックス治療 WEB 講演会, 2021, (Web 開催), [講演]
- 058 花井信広: 頭頸部癌治療 最近のトピックス. 日本耳鼻咽喉科学会福井県地方部会学術講演会, 2021, (福井), [講演]
- 059 花井信広: JCOG1601 Stage I/II 舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するランダム化比較第III相試験. JCOG-HNCSG 主催シンポジウム, 2021, (Web 開催), [講演]
- 060 花井信広: 頭頸部癌における治療戦略. Head and Neck Cancer I-O Symposium in Yamagata 2021, 2021, (Web 開催), [講演]
- 061 花井信広: 再発・転移頭頸部がんの実臨床における ICI の治療選択とその実践 MSD WEB SYMPOSIUM FOR 2022~再発・転移頭頸部がん治療の Wisdom & Practice ~. 2021, (Web 開催), [講演]
- 062 西川大輔: 「うまくいかない」を「うまくいく」にするために. 令和3年度頭部郭清講習会, 2022, (Web 開催), [講演]
- 063 花井信広: 知っておきたい「最近の頭頸部外科診療」. 地域で考えるがん診療連携 WEB セミナー, 2022, (Web 開催), [講演]
- 064 花井信広: 頭頸部イルミノックス治療の実際. 頭頸部イルミノックス治療 京都サミット. 2022, (京都), [講演]
- 065 花井信広, 佐野大佑: 口腔癌手術の最適化~バイオマーカーを用いて~ 臨床病理学的因子と頸部リンパ節転移. 第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2022, (ハイブリッド開催), [シンポジウム]

- 066 花井信広：「頭頸部イルミノックス治療～切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌への光～」実地診療下での頭頸部イルミノックス治療（光免疫療法）の実際。第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，（ハイブリッド開催），[ランチョンセミナー]
- 067 花井信広：口腔3. 第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，（ハイブリッド開催），[座長]
- 068 鈴木秀典：中下咽頭喉頭。第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会2022，（ハイブリッド開催），[座長]
- 069 西川大輔：鼻副鼻腔1. 第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，（ハイブリッド開催），[座長]
- 070 鈴木秀典，澤部 倫，花井信広：高カルシウム血症とBRAF変異を有した再発性エナメル上皮腫の1例報告。第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，（ハイブリッド開催），[口演]
- 071 別府慎太郎：頸部郭清術を俯瞰的に捉えるには。第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，大阪（ハイブリッド開催），[教育セミナー]
- 072 小林義明，西川大輔，澤部 倫，花井信広：頸部イルミノックス治療後に経口切除後を行った上顎歯肉癌術後再発の1例。第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，（ハイブリッド開催），[口演]
- 073 寺田星乃，花井信広：頸部超音波ハンズオンセミナー 頭頸部癌診療における超音波の活用。第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，（ハイブリッド開催），[口演]
- 074 松塚 崇，花井信広，小林謙也，大峽慎一，塚原清彰，近松一朗，榎木祐一郎，荒木幸仁，篠崎 剛，長谷川泰久：口腔がんの腫瘍径と深達度と頸部転移割合の関係－SNNs国内他施設共同研究結果から－。第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，（ハイブリッド開催），[口演]
- 075 下出祐造，岸本和夫，橋本泰士郎，石坂 智，高岡勇稀，川上 理，岡野恵一郎，小林義明，熊田拓也，北村守正，辻 和之：頸部超音波ハンズオンセミナー 甲状腺。第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会，2022，（ハイブリッド開催），[口演]
- 076 花井信広：頭頸部イルミノックス治療についての指導。第2回頭頸部イルミノックス治療 術後症例検討会，2022，（大阪），[講演]
- 077 西川大輔：頭頸部イルミノックス治療についての指導。第2回頭頸部イルミノックス治療 術後症例検討会，2022，（大阪），[講演]
- 078 花井信広：機器の取り扱いについて。頭頸部イルミノックス治療講習会，2022，（大阪），[講演]
- 079 西川大輔，鈴木秀典，別府慎太郎，寺田星乃，澤部 倫，岩城 翔，小林義明，岸川敏博，横井麻衣，花井信広：愛知県がんセンターで施行した頭頸部イルミノックス治療症例。第38回東海頭頸部腫瘍研究会，2022，（ハイブリッド開催），[口演]
- 080 横井麻衣，鈴木秀典，岩城 翔，小林義明，西川大輔，別

府慎太郎，寺田星乃，澤部 倫，岸川敏博，花井信広：ホウ素中性子捕捉療法後の局所再発に対し救済手術を行った1例。第38回東海頭頸部腫瘍研究会，2022，（ハイブリッド開催），[口演]

- 081 花井信広：頭頸部イルミノックス治療の適応ポイント。関東頭頸部イルミノックス治療カンファレンス，2022，（オンライン），[講演]
- 082 花井信広：光免疫療法の臨床。第28回日本乳癌疾患研究会，2022，（Web開催），[イブニングセミナー]
- 083 花井信広：頭頸部癌治療の新しい知見と頭頸部外科医の視点での医療チームに求める役割。第1回頭頸部がんサポート研究会。2022，（ハイブリッド開催），[講演]

形成外科部

- 001 *Nakamura R, Takanari K, Kang S, Kato M, Maruyama Y, Okumura S* : Usefulness of modified spiral interrupted suturing technique in end-to-side anastomosis to the internal jugular vein, 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, (Osaka), [English Session free paper]
- 002 *Takanari K, Nakamura R, Kang S, Kato M, Maruyama Y, Okumura S* : Motor Nerve Repair with Bi-layered Artificial Nerve Conduit: a Clinical Case Series, 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, (Osaka), [English Session free paper]
- 003 *Nakamura R, Takanari K, Hashimoto M, Maruyama Y, Okumura S, Hyodo I* : Comparison of outcomes in mandibular reconstruction among different reconstructive methods, 第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学会, (Kitakyusyu), [Panel session]
- 004 *Takanari K, Nakamura R, Kato M, Kang S, Maruyama Y, Okumura S* : Maxillary reconstruction after malignant tumor resection to achieve functions and aesthetics, 第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学会, (Kitakyusyu), [Panel session]
- 005 *Hashimoto M, Takanari K, Nakamura R, Maruyama Y, Okumura S* : Anteromedial thigh flap for reconstruction after subtotal glossectomy, 第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学会, (Kitakyusyu), [Free paper]
- 006 中村亮太，高成啓介，加藤真帆，姜 成樹，丸山陽子，奥村誠子：Modified spiral interrupted suturing techniqueを用いた内頸静脈端側吻合の有用性，第26回日本形成外科手術手技学会，（東京），[一般演題]
- 007 高成啓介，中村亮太，加藤真帆，姜 成樹，丸山陽子，奥村誠子：Back-wall first technique による動脈吻合のknack and pitfalls, 第26回日本形成外科手術手技学会，（東京），[ビデオシンポジウム]
- 008 加藤真帆，高成啓介，姜 成樹，中村亮太，丸山陽子，奥村誠子，亀井 謙：前外側大腿皮弁の筋膜上採取の経験，第26回日本形成外科手術手技学会，（東京），[一般演題]
- 009 中村亮太，高成啓介，加藤真帆，姜 成樹，丸山陽子，奥

- 村誠子, 兵藤伊久夫: 当院における耳下腺腫瘍切除後の遊離皮弁再建に関する検討, 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, (大阪), [一般演題]
- 010 高成啓介, 中村亮太, 加藤真帆, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 謙: 遊離腓骨皮弁による下顎再建における骨癒合の検討, 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, (大阪), [一般演題]
- 011 奥村誠子, 丸山陽子, 加藤真帆, 姜 成樹, 中村亮太, 高成啓介: 遺伝性乳癌卵巣癌症候群の保険適応による当院での手術アルゴリズム, 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, (大阪), [一般演題]
- 012 加藤真帆, 高成啓介, 中村亮太, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 謙: 舌癌に対する舌全摘・遊離皮弁再建後の機能評価, 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, (大阪), [一般演題]
- 013 姜 成樹, 奥村誠子, 丸山陽子, 加藤真帆, 中村亮太, 高成啓介, 亀井 謙: 拡大広背筋皮弁における臀部脂肪の転帰と術中 ICG 所見との相関性, 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, (大阪), [一般演題]
- 014 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 姜 成樹, 加藤真帆, 高成啓介: 自家組織1次1期乳房再建の長期的経過における整容性の比較検討, 第64回日本形成外科学会総会・学術集会, (大阪), [ポスター]
- 015 中村亮太, 高成啓介, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子: 当院における上顎再建時の眼窩底再建の有無による術後合併症に関する検討, 第45回日本頭頸部癌学会, (大阪), [一般演題]
- 016 高成啓介, 中村亮太, 加藤真帆, 姜 成樹, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: 舌癌切除再建後の構音機能に影響を及ぼす因子の検討, 第45回日本頭頸部癌学会, (大阪), [一般演題]
- 017 中村亮太, 高成啓介, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子: 吻合血管の血栓形成傾向に対してアンチトロンビン製剤が奏功した頭蓋底再建の1例, 第55回中部形成外科学会, (福井, web), [一般演題]
- 018 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 橋本昌也, 高成啓介: 自家組織乳房再建における長期留置ドレーンに対するバイオパッチの使用経験, 第55回中部形成外科学会, (福井, web), [一般演題]
- 019 高成啓介, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 神戸未来, 藤井正純, 藤本保志, 岩味健一郎, 亀井 謙: 次世代のチーム医療: 側頭骨全摘後の顔面神経再建における形成外科の役割患者 QOL を支える再建, 第33回日本頭蓋底外科学会, (東京), [シンポジウム]
- 020 高成啓介, 中村亮太, 奥村誠子, 丸山陽子, 神戸未来, 藤井正純, 藤本保志, 岩味健一郎, 亀井 謙: 前中頭蓋底再建後の移植組織容量変化から考える至適移植量, 第33回日本頭蓋底外科学会, (東京), [シンポジウム]
- 021 中村亮太, 高成啓介, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子: 吻合血管の血栓形成傾向に対してアンチトロンビン製剤が奏功した頭蓋底再建の1例, 第33回日本頭蓋底外科学会, (東京), [一般演題]
- 022 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 橋本昌也, 高成啓介: 自家組織1次1期乳房再建の長期的経過における整容性の比較検討, 第29回日本乳癌学会学術総会, (横浜), [ポスター]
- 023 奥村誠子, 丸山陽子, 橋本昌也, 中村亮太, 高成啓介: 遺伝性乳癌卵巣癌症候群の保険適応による当院での3科にわたる手術の組み合わせの検討, 第29回日本乳癌学会学術総会, (横浜), [一般演題]
- 024 橋本昌也, 中村亮太, 姜 成樹, 加藤真帆, 丸山陽子, 奥村誠子, 高成啓介: 吻合血管の血栓形成傾向に対してアンチトロンビン製剤が奏功した1例, 第13回日本創傷外科学会総会・学術集会, (北九州), [一般演題]
- 025 奥村誠子, 丸山陽子, 橋本昌也, 中村亮太, 高成啓介: 本邦新認可の sientra 社インプラントでの1次1期再建の再開及び以前との比較, 第9回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, (東京), [パネルディスカッション]
- 026 丸山陽子, 奥村誠子, 中村亮太, 橋本昌也, 高成啓介: 自家組織乳房再建における長期留置ドレーンに対するバイオパッチの使用経験, 第9回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, (東京), [一般演題]
- 027 橋本昌也, 高成啓介, 奥村誠子, 丸山陽子, 中村亮太: 乳房インプラントによる再建後, 尋常性乾癬発症し, インプラント抜去と自家組織再建後に治癒した1例, 第9回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, (東京), [一般演題]
- 028 高成啓介: バー抜去後5年以上経過してから慢性難治性疼痛を来した一例, 第20回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, (東京), [一般演題]
- 029 高成啓介, 中村亮太, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: 悪性腫瘍切除後の上顎再建における機能・整容・安全性, 第39回日本頭蓋頸顔面外科学会・学術集会, (東京), [シンポジウム]
- 030 橋本昌也, 高成啓介, 中村亮太, 丸山陽子, 奥村誠子: 前内側大腿皮弁を用いた舌再建の経験, 第91回東海マイクロサージャリー研究会, (web), [一般演題]
- 031 中村亮太, 高成啓介, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子: 動脈吻合における当院の工夫～back-wall first technique の利点と注意点～, 第48回日本マイクロサージャリー学会, (北九州), [ビデオセッション]
- 032 高成啓介, 中村亮太, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: 軟組織を用いた遊離皮弁移植による上顎再建の長期経過から見た問題点と工夫, 第48回日本マイクロサージャリー学会, (北九州), [シンポジウム]
- 033 高成啓介, 中村亮太, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: 腓骨皮弁による下顎再建の長期経過 ～骨高の維持について～, 第48回日本マイクロサージャリー学会, (北九州), [一般演題]
- 034 中村亮太, 高成啓介, 橋本昌也, 丸山陽子, 奥村誠子: 当院におけるリンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術の検討, 第14回がんのリンパ浮腫研究会, (web), [一般演題]

呼吸器外科部

- 001 黒田浩章, 鈴木あゆみ, 高原弘知, 白井 俊, 高橋祐介, 坂倉範昭: 完全切除後の非小細胞肺癌病理病期 III 期の再発後の 1st ライン標的治療の検討. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (横浜), [口演]
- 002 黒田浩章, 今津麟太郎, 鈴木あゆみ, 高原弘智, 白井俊, 高橋祐介, 坂倉範昭: 当院における胸腔鏡下一区域切除術を超える切除の有効性と問題点の検証. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神戸), [パネルディスカッション]
- 003 黒田浩章, 鈴木あゆみ, 今津麟太郎, 高原弘智, 白井俊, 高橋祐介, 坂倉範昭: 胸腔鏡下区域切除 (4 ポート) から単孔およびロボット手術導入の検証. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神戸), [シンポジウム]
- 004 黒田浩章, 高橋祐介, 白井 俊, 高原智弘, 仲田健男, 坂倉範昭, 中西速夫, 松下博和: 新型 3D フィルター型装置で採取した肺静脈中循環がん細胞数と STAS 発現の検討. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021, (千葉), [ポスター]
- 005 黒田浩章, 一瀬淳二, 仲田健男, 奥村 栄, 高橋祐介, 中尾将之, 坂倉範昭, 文 敏景: がん専門二施設の原発性肺がんに対する系統的と選択的郭清の治療成績の後ろ向き検討. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021, (名古屋), [ワークショップ]
- 006 黒田浩章, 高原弘知, 白井 俊, 仲田健男, 高橋祐介, 坂倉範昭: 肺癌診療ガイドラインに準じた病理病期 III 期の術後治療に関する後ろ向き検討. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (長崎), [一般口演]
- 007 坂倉範昭, 仲田健男, 白井 俊, 高原弘知, 高橋祐介, 黒田浩章: 肺癌手術におけるロボット支援手術: 他アプローチを踏まえた導入と展開 垂直ポート配置と対面モニターを用いた「開胸視野アプローチ」法によるロボット肺切除. 第 46 回日本外科系連合学会学術集会, 2021, (東京), [ビデオシンポジウム]
- 008 坂倉範昭, 仲田健男, 白井 俊, 高原弘知, 高橋祐介, 黒田浩章: 垂直ポート配置と対面モニターを用いた「開胸視野アプローチ」法によるロボット肺切除 区域切除の実際. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (長崎), [要望ビデオ]
- 009 坂倉範昭, 白井 俊, 高原弘知, 仲田健男, 高橋祐介, 黒田浩章: 第 1 肋骨腹側に浸潤する前方パノコースト型腫瘍に対する前側方変法アプローチ. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (長崎), [要望ビデオ]
- 010 坂倉範昭, 仲田健男, 白井 俊, 高原弘知, 鈴木あゆみ, 高橋祐介, 黒田浩章: 巨大腫瘍摘出のための 2 つの手術アプローチ: 拡大ヘミクラムシエル開胸法と段違い肋間 (Rib-cross) 開胸法. 第 74 回日本胸部外科学会学術集会, 2021, (東京), [テクノアカデミー]
- 011 坂倉範昭, 仲田健男, 白井 俊, 高原弘知, 高橋祐介, 黒田浩章: 対面モニターと垂直ポート配置を用いた「開胸視野アプローチ」によるロボット肺区域切除の実際. 第 13 回日本ロボット外科学会, 2021, (福岡), [口演]
- 012 高橋祐介, 白井 俊, 高原弘知, 鈴木あゆみ, 仲田健男, 坂倉範昭, 黒田浩章: 非小細胞肺癌切除例における胸腔洗浄液細胞診陽性の長期予後への影響. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (横浜), [口演]
- 013 高橋祐介, 高原弘知, 仲田健男, 坂倉範昭, 黒田浩章: 完全胸腔鏡下肺切除術における出血原因とトラブルシューティング. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神戸), [ミニオーラル]
- 014 高橋祐介, アズスミリ・ブラサド: I 期肺癌の予後不良症例における予測と対策 臨床病期 IA 期肺腺癌における occult lymph node metastasis と STAS との関連. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (長崎), [パネルディスカッション]
- 015 高橋祐介: EGFR 変異陰性非小細胞肺癌における腫瘍浸潤リンパ球の標的がん特異抗原の探索第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (長崎), [要望演題]
- 016 仲田健男, 高原弘知, 白井 俊, 鈴木あゆみ, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章: 肺癌術後スクリーニングにおける低線量 CT と通常 CT の比較検討. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (横浜), [口演]
- 017 仲田健男, 高原弘知, 白井 俊, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章: 胸腔鏡下肺葉切除術後の疼痛に対する疼痛管理の実際と有効性. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (長崎), [要望演題]
- 018 白井 俊, 坂倉範昭, 高原弘知, 鈴木あゆみ, 仲田健男, 高橋祐介, 黒田浩章: 隣接臓器浸潤肺癌に対する術前導入療法において高い組織学的効果はどのような症例で得られるのか. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 019 白井 俊, 仲田健男, 高原弘知, 鈴木あゆみ, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章: 胸腔鏡下肺葉切除術後の疼痛に対する性差を考慮した術中鎮痛薬の検討. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021, (名古屋), [口演]
- 020 白井 俊, 高橋祐介, 高原弘知, 仲田健男, 坂倉範昭, 黒田浩章: 非小細胞肺癌切除例の術前後における Lung Immune Prognostic Index の予後因子としての意義. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (長崎), [ミニオーラル]
- 021 高原弘知, 仲田健男, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章: 上下葉の分葉不全を伴う左 S6 肺癌に対する背側アプローチでの単孔式左 S6 区域切除の 1 例. 第 34 回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神戸), [ミニオーラル]
- 022 高原弘知, 黒田浩章, 白井 俊, 仲田健男, 高橋祐介, 坂倉範昭: 胸腔鏡下右下葉切除時の気管支切離の際に経鼻胃管を同時に切離した 1 例. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2021, (名古屋), [オーラル]
- 023 高原弘知, 仲田健男, 白井 俊, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章: 術前 CT における consolidation 径と病理学的浸潤径の相違およびその予後への影響. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (長崎), [ミニオーラル]
- 024 鈴木あゆみ, 坂倉範昭, 高原弘知, 白井 俊, 高橋祐介,

仲田健男, 黒田浩章: 播種を伴う胸腺腫に対する化学療法後のサルベージ手術 Rib-cross 開胸 + 左肺全摘 + アルゴンビーム焼灼. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (横浜), [口演]

- 025 鈴木あゆみ, 高原弘知, 白井 俊, 仲田健男, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章: 非喫煙者の肺扁平上皮癌における driver mutation 検索の有用性. 第 119 回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2021, (Web), [口演]

乳腺科部

- 001 *Yoshimura A, Takaiso N, Iwata H, Nakamura S, Arai M*: Risk of Contralateral and Ipsilateral Breast Cancer in Breast Cancer Patients by the Affected BRCA Gene From HBOC Registration in Japan. The 8th International Symposium on Hereditary Breast and Ovarian Cancer, 2021, (Web), [Web]
- 002 *Takatsuka D, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Kataoka A, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Nozawa K, Iwata H*: Fine-needle aspiration in the diagnosis of axillary lymph node metastasis for cN0 breast cancer. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [e ポスター]
- 003 *Sawaki M, Nakagawa K, Togo K, Toyota T, Thomas Laurent, Iwata H*: Real-world treatment patterns of palbociclib among patients with HR+/HER2- advanced breast cancer: An updated analysis of the administrative claims data in Japan. 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜), [口演]
- 004 *Hattori M, Masuda N, Hurvitz S, Vahdat L, Harbeck N, Wolff A, Tolaney S, Loi S, O'Shaughnessy J, Xie D, Walker L, Rustia E, Borges V*: HER2CLIMB-02: Tucatinib or placebo + T-DM1 for advanced unresectable/metastatic HER2+ breast cancer. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [ポスター]
- 005 *Yoshimura A, Takaiso N, Iwata H, Nakamura S, Arai M*: Risk of Contralateral and Ipsilateral Breast Cancer in Breast Cancer Patients by the Affected BRCA Gene From HBOC Registration in Japan. BRCA Symposium, 2021, (Web), [ポスター]
- 006 *Endo Y*: The comparison of BRCA1/2 mutation rates between adjuvant Olaparib criteria and HBOC criteria for early breast cancer. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 007 服部正也: 乳癌治療の個別化. 第 46 回日本超音波検査学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 008 小谷はるる, 高塚大輝, 遠藤由香, 堀澤七恵, 尾崎友理, 片岡愛弓, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治: 当院における T1N0 Triple Negative 乳癌の周術期化学療法および予後の検討. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [ポスター]
- 009 遠藤由香, 吉村章代, 澤木正孝, 服部正也, 小谷はるる,

安立弥生, 片岡愛弓, 杉野香世子, 堀澤七恵, 尾崎友理, 阪本翔子, 能澤一樹, 高塚大輝, 岩田広治: 当院における CDK4/6 阻害剤併用による Time to Chemotherapy 延長効果に関する検討. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [e ポスター]

- 010 尾崎友理, 小谷はるる, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 片岡愛弓, 堀澤七恵, 遠藤由香, 能澤一樹, 高塚大輝, 磯谷彩夏, 岩田広治: 微小転移に対する腋窩郭清省略の妥当性と, 微小転移の患者の予後に関する検討. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [ミニポスター]
- 011 堀澤七恵, 吉村章代, 高塚大輝, 能澤一樹, 遠藤由香, 尾崎友理, 杉野香世子, 片岡愛弓, 安立弥生, 小谷はるる, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治: 乳癌腋窩郭清後のリンパ浮腫発生のリスク因子に関する検討. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [e ポスター]
- 012 吉村章代, 高磯伸枝, 澤木正孝, 服部正也, 小谷はるる, 片岡愛弓, 堀澤七恵, 尾崎友理, 遠藤由香, 高塚大輝, 磯谷彩夏, 福江美咲, 井本逸勢, 岩田広治: Li-Fraumeni 症候群を考慮した Beyond HBOC 診療構築への取り組み〜. 日本人類遺伝学会第 66 回大会, 2021, (Web), [ポスター]
- 013 堀澤七恵, 吉村章代, 高塚大輝, 遠藤由香, 片岡愛弓, 福江美咲, 高磯伸枝, 井本逸勢, 岩田広治: HBOC 診断における BRAC Analysis の実施状況に関する検討. 日本人類遺伝学会第 66 回大会, 2021, (Web), [一般口演]
- 014 澤木正孝: 高齢者における乳がん治療. 第 29 回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [口演]
- 015 澤木正孝: 乳癌総論. HBOC 乳癌の臨床的特徴. 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療精度機構 (JOHBOC) 第 3 回 e-learning セミナー, 2021, (Web), [口演]
- 016 澤木正孝, 中川健太郎, 東郷香苗, 豊田哲巳, Laurent T, 岩田広治: 第 59 回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜), [口演]
- 017 澤木正孝, 平 成人: 日本人高齢者乳がんの個別化・最適化に向けた臨床研究と今後の課題. 第 83 回日本臨床外科学会総会, 2021, (Web), [要望セミナー口演]
- 018 澤木正孝: 乳癌総論. HBOC 乳癌の臨床的特徴. 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療精度機構 (JOHBOC) 第 4 回 e-learning セミナー, 2021, (Web), [口演]
- 019 吉村章代: 乳腺科における診療上の変化・課題と地域医療連携. 第 1 回 JOHBOC 学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 020 堀澤七恵, 吉村章代, 磯谷彩夏, 高塚大輝, 能澤一樹, 遠藤由香, 尾崎友理, 片岡愛弓, 小谷はるる, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治: 当院におけるリスク低減手術の現状. 第 1 回 JOHBOC 学術総会, 2021, (Web), [一般口演]
- 021 堀澤七恵, 吉村章代, 磯谷彩夏, 高塚大輝, 能澤一樹, 遠藤由香, 尾崎友理, 片岡愛弓, 小谷はるる, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治: 当院での遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) 症例に対するリスク低減手術の取り組みと現状について. 第 18 回日本乳癌学会中部地方会, 2021, (Web), [一般口演]
- 022 遠藤由香: 乳癌術後の腋窩リンパ節再発との鑑別を要し

- た乳房インプラント再建後の反応性リンパ節腫脹の1例. 第18回日本乳癌学会中部地方会, 2021, (Web), [オンデマンド配信]
- 023 遠藤由香: CDK4/6阻害剤併用による Time to Chemotherapy 延長効果に関する検討. 第29回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [eポスター]
- 024 尾崎友理: 微小転移に対する腋窩郭清省略の妥当性と, 微小転移の患者の予後に関する検討. 第29回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [ミニポスター]
- 025 尾崎友理: 発熱性好中球減少症の治療中に異型リンパ球と肝障害の出現で診断に至ったサイトメガロウイルスによる伝染性単核球症の1例. 第18回日本乳癌学会中部地方会, 2021, (Web), [口演]
- 026 高塚大輝, 吉村章代, 磯谷彩夏, 遠藤由香, 能澤一樹, 尾崎友理, 堀澤七恵, 小谷はるる, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治: 左乳癌術後・右肺癌術後に右腋窩リンパ節転移を認め鑑別を要した1例. 第18回日本乳癌学会中部地方会, 2021, (Web), [オンデマンド配信]
- 027 磯谷彩夏: HBOC 診断目的の BRACAnalysis 検査の実施状況と今後の課題. 第29回日本乳癌学会学術総会, 2021, (Web), [ミニポスター]
- 028 磯谷彩夏: 手術待機中に実施したトラスツズマブ単回投与で著明な腫瘍縮小を得た高齢者の一例. 第18回日本乳癌学会中部地方会, 2021, (Web), [口演]
- 029 磯谷彩夏: 当院で経験した乳腺顆粒細胞腫の一例. 第56回愛知臨床外科学会, 2021, (名古屋), [口演]

消化器外科部

- 001 Shimizu Y: 司会. 第33回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 002 Natsume S, Shimizu Y, Okuno M, Kawakatsu S, Nagino M: Survival benefit of surgery for very elderly patients with pancreatic cancer. 第33回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 003 Okuno M, Shimizu Y, Natsume S, Kawakatsu S, Nagino M: Usefulness of the mural nodule evaluated by endoscopic ultrasonography for optimal surgery selection for IPMN. 第33回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 004 Kawakatsu S, Shimizu Y, Natsume S, Okuno M, Nagino M: Prognostic significance of intraoperative peritoneal lavage cytology in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma. 第33回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 005 Komori K, Suda H, Nakai Y, Kinoshita T, Oshiro T, Ouchi A, Kunitomo A, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Hosoi T, Shimizu Y: Surgical techniques with combined radical resection of great vessels in the treatment of huge retroperitoneal tumors. The 66rd Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section (第66回国際外科学会 (ICS) 日本部会総会), 2021, (Web), [Oral presentation]
- 006 Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Shimizu Y: The technique for lateral lymphnode dissection at laparotomy via an extraperitoneal approach. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [ビデオシンポジウム]
- 007 Abe T, Higaki E, Fujieda H, Nagao T, Ito S, Komori K, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Shimizu Y: Efficacy and Prospects of Robot-Assisted Esophageal Surgery for Esophageal Cancer. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 008 Ouchi A, Iwahori Y, Komori K, Kinoshita T, Okada Y, Ohno T, Singh JP, Bhuyan MK, Fukui S, Shimizu Y: AI-based autodetection and diagnosis for metastatic lateral pelvic lymph nodes. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 009 Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Fujieda H, Kawakatsu S, Kunitomo A, Oki S, Suenaga Y, Maeda S, Shimizu Y: Reconstruction of ileal conduit due to ureteroileal anastomotic benign stricture of after total pelvic exenteration. 第19回日本消化器外科学会大会 (第29回JDDW), 2021, (Web), [ポスター]
- 010 Ito S: 座長. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 011 Misawa K: 座長. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 012 Ito Y: 座長. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [ポスター]
- 013 Ito S, Kanda M, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Koderu Y: Efficacy of splenectomy for proximal gastric cancer with greater curvature invasion or Type 4 tumor. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [パネルディスカッション]
- 014 Nakanishi K, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Kobayashi D, Shimizu D, Tanaka C, Fujiwara M, Koderu Y: Usefulness of the E-PASS to predict short- and long-term outcomes in gastric cancer surgery. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [ポスター]
- 015 Ogata T, Narita Y, Oze I, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kodama H, Nakata A, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Ito S, Tajika M, Muro K: Differences in the survival rate of advanced gastric cancer by metastatic sites in last 15 years. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [シンポジウム]
- 016 Misawa K, Oki S, Ito Y, Ito S: Robot-assisted total gastrectomy and splenic hilar dissection using two organ retraction clips. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web),

[ビデオワーク]

- 017 **Ito Y, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Fujita K, Miwa T, Tanaka Y, Mashita N, Kodera Y**: Prognosis of patients with stage migration from cStage I to pStage II/III after laparoscopic surgery. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [ポスター]
- 018 **Aoyama T, Yoshikawa T, Ida S, Cho H, Sakamaki K, Ito Y, Fujitani K, Takiguchi N, Kawashima Y, Nishikawa K, Nunobe S, Hiki N**: Effects of perioperative EPA enriched ONS on the long-term outcomes after total gastrectomy. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [ワークショップ]
- 019 **Akaza S, Ito Y, Misawa K, Ito S**: A Case of Gastric Metastasis After EUS-FNA for Pancreatic Cancer. 第94回日本胃癌学会総会, 2022, (Web), [ポスター]
- 020 **伊藤誠二, 石神浩徳, 山下裕玄, 小寺泰弘, 今野元博, 福島亮治, 深川剛生, 藪崎 裕, 北山丈二, 山口博紀, 辻靖, 秀村晃生, 島田英昭, 太田光彦, 廣野靖夫, 大庭幸治, 瀬戸泰之**: 4型胃癌に対する補助化学療法としての腹腔内・全身併用化学療法の意義を検証する無作為化第Ⅲ相試験-**PHOENIX-GC2** trial. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 021 **中西香企, 神田光郎, 伊藤誠二, 望月能成, 寺本 仁, 石樽 清, 村井俊文, 浅田崇洋, 石山聰治, 松下英信, 清水大, 田中千恵, 藤原道隆, 小寺泰弘**: 胃癌において切除断端の顕微鏡的癌遺残は予後因子となりうるか?. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 022 **有上貴明, 石神浩徳, 大森 健, 小寺泰弘, 藪崎 裕, 福島亮治, 今野元博, 伊藤誠二, 富田寿彦, 秀村晃生, 上之園芳一, 天貝賢二, 太田光彦, 岸 健太郎, 北山丈二**: 癌腹膜播種に対する全身・腹腔内投与併用化学療法奏効後の**Conversion Surgery**の治療成績. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 023 **小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 清水泰博**: 当院における仙骨合併切除骨盤内臓器全摘術 (TPES) の術式の工夫と成績 - 特に原発巣手術と再発巣手術の比較 -. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 024 **安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 奥野正隆, 大内 晶, 川勝章司, 榎野正人, 清水泰博**: 胸腔鏡下食道切除術における気管食道鞘内外の微細解剖を意識した上隔郭清. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 025 **木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野**

- 正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博**: 当科におけるロボット支援下直腸癌手術の初期50例の検討と現状. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 026 **夏目誠治, 清水泰博, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 大内 晶, 榎野正人**: 切除不能膵癌に対する膵切除の課題. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 027 **檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 細井敬泰, 長尾拓哉, 川勝章司, 大内 晶, 奥野正隆, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 榎野正人, 清水泰博**: 食道癌根治切除後の早期肺炎を制御することを目的とした周術期抗菌薬の選択; 胸腔鏡下食道切除350例の検討. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 028 **奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 大内 晶, 細井敬泰, 榎野正人**: 脾温存膵体尾部切除における左大網枝温存の意義. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 029 **大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博**: 画一的な術前CRTは不要である - 要 / 不要から最適化に向けて -. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [特別企画 / 特別セッションなど]
- 030 **川勝章司, 清水泰博, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 大城泰平, 檜垣栄治, 大内 晶, 細井敬泰, 榎野正人**: 膵癌における術中腹腔洗浄細胞診の検討. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 031 **長尾拓哉, 安部哲也, 檜垣栄治, 細井敬泰, 有竹 典, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 大内 晶, 川勝章司, 榎野正人, 清水泰博**: ICG 蛍光法を用いた胃管血流評価による食道切除術後短期成績の検討. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 032 **國友愛奈, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 大内 晶, 清水泰博**: 膵頭十二指腸切除後, 膵管チューブにおける膵液感染の臨床的意義. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 033 **前田真吾, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 細井敬泰, 川勝章司, 清水泰博**: cT4b 結腸癌に対する拡大手術の治療成績の検討. 第121回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 034 **多和田 翔, 伊藤誠二, 沼田佳久, 伊藤友一, 三澤一成, 川勝章司, 細井敬泰, 大内 晶, 奥野正隆, 檜垣栄治, 大**

- 城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 田近正洋, 清水泰博: 胃癌 ESD 後非治癒切除例に対する腹腔鏡下胃切除術の短期成績の検討. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 035 末永泰人, 奥野正隆, 夏目誠治, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 國友愛奈, 沖哲, 前田真吾, 出井秀幸, 沼田佳久, 長尾拓哉, 有竹典, 多和田 翔, 清水泰博: 術前診断が困難であった脾過誤腫の 1 例. 第 299 回東海外科学会総会, 2021, (名古屋), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 036 國友愛奈, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博: 術前診断が困難であった後腹膜 ganglioneuroma. 第 299 回東海外科学会総会, 2021, (名古屋), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 037 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博: 膣頭部領域疾患の術前例に対する primary EUS-HGS の可能性. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 038 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 水野のぞみ, 宮野 亮, 文原大貴, 柳井谷駿史, 吉田将広, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 山田啓策, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 細野和貴, 丹羽康正: IPNM 経過観察症例における膵癌発症のリスクの検討と膵嚢胞専門外来の試み. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 039 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 大腸癌局所再発に対する頻回手術症例における合併症の検討. 第 107 回日本消化器病学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 040 伊藤誠二: 座長. 第 134 回日本消化器病学会東海支部例会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 041 伊藤誠二, 谷口浩也, 三澤一成, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 木下敬史, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 佐藤雄介, 大内 晶, 川勝章司, 細田和貴, 羽根田正隆, 清水泰博: 上腸間膜静脈腫瘍栓を伴う進行胃癌に対し全身化学療法後に conversion surgery を行い長期生存が得られている 1 例. 第 134 回日本消化器病学会東海支部例会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 042 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 加藤省一, 細田和貴, 清水泰博: 直腸 S 状部結腸癌と濾胞性リンパ腫の同時性重複癌の 1 例. 第 134 回日本消化器病学会東海支部例会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 043 小森康司, 須田久雄, 中井洋佑, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 國友愛奈, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 主要血管浸潤を伴う直腸癌局所再発に対する手術-外腸骨動脈合併切除+腋窩動脈-大腿動脈バイパス術-. 第 30 回骨盤外科機能温存研究会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 044 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 多和田 翔, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 清水泰博: 食道癌術前補助化学療法におけるオキサリプラチンの有用性. 第 64 回関西胸部外科学会学術集会, 2021, (Web), [パネルディスカッション]
- 045 清水泰博: 座長. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 046 伊藤誠二: 座長. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 047 小森康司: 座長. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 048 安部哲也: 座長. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 049 安田 篤, 石神浩徳, 藪崎 裕, 伊藤誠二, 秀村晃生, 廣野靖夫, 太田光彦, 辻 靖, 北山丈二, 瀬戸泰之: 肉眼的切除可能 4 型胃癌に対する全身・腹腔内併用化学療法と全身化学療法の無作為化比較第Ⅲ相試験. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 050 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 側方転移陽性例に対する手術先行 TME+LLND の成績. 第 76 回日本消化器外科学会総会. 2021, (Web), [パネルディスカッション]
- 051 夏目誠治, 清水泰博, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: 陥入法による膵腸吻合の長期成績 RCT 群と観察群における粘膜吻合法との比較. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 052 奥野正隆, 清水泰博, 夏目誠治, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 柳野正人: 腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除における術中出血への対処. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 053 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 多和田 翔, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 食道癌手術における胸管合併切除の有用性の検討. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 054 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 多和田 翔, 伊藤友一, 三澤一成, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 多発リンパ節転移を有する切除可能胸腹部食道癌に対する術前 DCF 療法の有用性. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [パネルディスカッション]
- 055 川勝章司, 清水泰博, 夏目誠治, 奥野正隆, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 柳野正人: 膵癌における術中腹腔洗浄細胞診陽性の予後因子としての検討. 第 76 回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 056 長尾拓哉, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 多和田 翔,

- 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 前縦隔リンパ節転移を伴う食道癌に対する根治切除の治療成績. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 057 國友愛奈, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 同時性傍大動脈リンパ節転移陽性大腸癌に対する切除成績. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 058 前田真吾, 木下敬史, 小森康司, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 腹腔鏡下手術における中結腸動脈領域のD3郭清. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 059 多和田 翔, 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 高津 淳, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 清水泰博: 食道癌術前の嚥下機能評価としてのRepetitive Salvia Swallowing Test (RSST) の有用性の検討. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 060 有竹 典, 夏目誠治, 出井秀幸, 川勝章司, 奥野正隆, 安部哲也, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 清水泰博: 臍頭十二指腸切除術後の発熱に対する血液培養採取の意義. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 061 出井秀幸, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 陥入法臍腸吻合の重症液瘻予測因子としての臍脂肪率の有用性. 第76回日本消化器外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 062 沖 哲, 檜垣栄治, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 大内晶, 末永泰人, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 奥野正隆, 細井敬泰, 清水泰博: 骨盤内臓全摘を要する進行大腸癌における術前アルブミン・グロブリン比と臨床病理学的因子・予後との検討. 第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 063 夏目誠治, 清水泰博, 奥野正隆, 川勝章司: 陥入法による臍腸吻合の長期成績 RCT コホートをういた粘膜吻合法との比較. 48回日本臍切研究会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 064 清水泰博: 座長. 第52回日本臍臓学会大会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 065 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 長尾拓哉: 食道癌術前化学療法後根治切除例における術後肺炎予防を目指した低侵襲手術の有用性. 第75回日本食道学会学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 066 長尾拓哉, 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫: ICG 蛍光法を併用したCollard変法による食道切除後胃管吻合の術後短期成績. 第75回日本食道学会学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 067 檜垣栄治, 安部哲也, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 清水泰博: Mortality 0%を目指した食道癌根治術の周術期管理チームの構築. 第75回日本食道学会学術集会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 068 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 清水泰博: 胸部食道切除を行った頭頸部癌重複食道癌に対する治療戦略. 第75回日本食道学会学術集会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 069 清水泰博: 司会. 第57回日本胆道学会, 2021, (Web), [指導医養成講座2]
- 070 羽場 真, 原 和生, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 文原大貴, 柳井谷敏史, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 細野和貴: 当院における十二指腸乳頭部腫瘍の治療成績. 第57回日本胆道学会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 071 夏目誠治, 清水泰博, 奥野正隆, 川勝章司: 臍頭十二指腸切除術後における非狭窄性胆管炎の検討. 第57回日本胆道学会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 072 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博: 骨盤内臓器全摘術後, 尿管回腸吻合部狭窄に対する回腸導管再造設. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 073 森 治樹, 阿部雄一, 夏目誠治, 木下敬史, 大内 晶, 三宅 亨, 飯田洋也, 細田和貴, 小森康司, 清水泰博, 谷真至, 田口 歩: In vitro 転移モデルのマルチオミクス解析による大腸癌転移機構の解明と制御法の開発. 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 074 小森康司: 座長. 第44回東海大腸外科治療研究会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 075 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 國友愛奈, 前田真吾: 局所進行直腸癌に対する骨盤内臓器全摘術. 第44回東海大腸外科治療研究会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 076 安部哲也: 座長. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会, 2021, (東京), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 077 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 長尾拓哉: ロボット支援下食道切除術の定型化とその工夫. 第74回日本胸部外科学会定期学術集会, 2021, (東京), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 078 多和田 翔, 奥野正隆, 夏目誠治, 川勝章司, 有竹 典, 赤座 賢, 國友愛奈, 前田真吾, 長尾拓哉, 沖 哲, 大内晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 檜垣栄治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 臍 mucinous cystic neoplasm (MCN) と solid pseudopapillary neoplasm (SPN) が併存した一例. 第300回東海海外科学会学術集会, 2021, (伊勢), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 079 有竹 典, 安部哲也, 細田和貴, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下

- 敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 佐藤雄介, 大内 晶, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 前田真吾, 多和田 翔, 赤座賢, 清水泰博: 胸部上部食道に発生した巨大粘膜下腫瘍に対するロボット支援下腫瘍核出術の一例. 第300回東海外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 080 小森康司: 座長. 第19回日本消化器外科学会大会 (第29回JDDW), 2021, (Web), [ポスター]
- 081 伊藤誠二: 座長 (司会). 第51回胃外科・術後障害研究会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 082 三澤一成: 座長 (ディスカッサント). 第51回胃外科・術後障害研究会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 083 小森康司: 座長. 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 084 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 清水泰博: 当院における進行直腸癌を伴った家族性大腸腺腫症 (FAP) の開腹における回腸囊肛門管吻合 (ileo-anal canal anastomosis: IACA). 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 085 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 國友愛奈, 前田真吾, 末永泰人, 清水泰博: 高齢者大腸癌腹腔内再発に対する手術治療. 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 086 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 國友愛奈, 前田真吾, 末永泰人, 沖 哲: Sidednessが結腸癌の外科切除成績に与える影響. 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 087 國友愛奈, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾: 大動脈周囲リンパ節転移に対する外科切除の意義. 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (Web), [パネルディスカッション]
- 088 前田真吾, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 國友愛奈, 末永泰人: 肥満患者に対する腹腔鏡下直腸切除術のコツと成績. 第76回日本大腸肛門病学会学術集会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 089 小森康司: 座長. 第83回日本臨床外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 090 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博: 直腸癌および後腹膜腫瘍の骨盤内高度局所進展および再発手術における腎温尿管再建術式について. 第83回日本臨床外科学会総会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 091 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 右側結腸癌に対する至適リンパ節郭範囲と手術手技. 第83回日本臨床外科学会総会, 2021, (Web), [ビデオワーク]
- 092 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博: 進行下部直腸癌における側方郭清の現状と課題. 第83回日本臨床外科学会総会, 2021, (Web), [パネルディスカッション]
- 093 國友愛奈, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 川勝章司, 清水泰博: 大動脈周囲リンパ節転移に対する外科切除の意義. 第83回日本臨床外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 094 前田真吾, 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 清水泰博: Stage III大腸癌に対する術後補助化学療法の開始遅延の検討. 第83回日本臨床外科学会総会, 2021, (Web), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 095 小森康司: 司会. 第6回日本肉腫学会年次学術集会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 096 幕内梨恵, 寺島雅典, 寺田参省, 水澤純基, 伊藤誠二, 江原一尚, 細田 桂, 尾島敏康, 大森 健, 渡邊昌也, 吉川貴己: cT1-2N0-2 胃癌におけるロボット支援下胃切除術と腹腔鏡下胃切除術のランダム化比較試験 (JCOG1907). 第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 097 安部哲也, 檜垣栄治, 藤枝裕倫, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: ロボット支援下食道切除術の工夫と周術期治療成績. 第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神戸), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 098 三澤一成, 沖 哲, 伊藤友一, 伊藤誠二, 川勝章司, 大内晶, 佐藤雄介, 藤枝裕倫, 奥野正隆, 檜垣栄治, 夏目誠治, 木下敬史, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: ロボット支援胃全摘・噴門側胃切除術における術野展開の工夫と定型化. 第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神戸), [ワークショップ]
- 099 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 清水泰博: 腹臥位胸腔鏡下咽頭喉頭食道切除術の安全性. 第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神戸), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 100 佐藤雄介, 木下敬史, 小森康司, 大内 晶, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫: 下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技と短期成績. 第34回日本内視鏡外科学会総会, 2021, (神戸), [一般演題 (サージカルフォーラムを含む)]
- 101 佐藤雄介, 小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 國友愛奈, 前田真吾, 清水泰博: 腹腔鏡下/ロボット支援下側方リンパ節郭清の手術手技と短期成績. 第96回大腸癌研究会,

2022, (Web), [ポスター]

- 102 小森康司, 須田久雄, 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 清水泰博: 血行再建術を併施し, 完全切除した高度局所進展サルコーマ手術の要点とトラブルシューティングー. 第5回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2022, (Web), [一般演題(サージカルフォーラムを含む)]
- 103 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣栄治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 清水泰博: 直腸癌骨盤内臓器全摘術後の尿管回腸導管吻合部良性狭窄に対する再造設術の検討. 第18回日本消化管学会総会学術集会, 2022, (Web), [一般演題(サージカルフォーラムを含む)]
- 104 小森康司: 座長. 第39回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2022, (Web), [一般演題(サージカルフォーラムを含む)]
- 105 小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 國友愛奈, 沖哲, 末永泰人, 前田真吾, 安形真由美, 佐々木照美, 小島瞳: 骨盤内臓器全摘術後の尿管回腸導管吻合部良性狭窄に対する尿管回腸再造設術の検討. 第39回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2022, (Web), [一般演題(サージカルフォーラムを含む)]
- 106 藤枝裕倫, 安部哲也, 檜垣栄治, 長尾拓哉, 伊藤誠二, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 奥野正隆, 佐藤雄介, 川勝章司, 清水泰博: 気縦隔鏡下胃管全摘術を行った胸骨後胃管癌の1例. 第25回愛知内視鏡外科学研究会, 2022, (名古屋), [一般演題(サージカルフォーラムを含む)]
- 107 中村能章, 塚田祐一郎, 村野竜朗, 松橋延壽, 塩澤 学, 加藤健志, 沖 英次, 後藤昌弘, 賀川義規, 金澤旭宣, 太田高志, 大内 晶, 坂東英明, Xiaotong Z, Princy P, Kristin P, 池松弘朗, 吉野孝之: 大腸癌治癒切除後患者における血中循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析-COSMOS-CRC-01. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (Web), [Presidential Session 3]
- 108 清水泰博: 座長. 第75回日本消化器画像診断研究会, 2022, (埼玉), [一般演題(サージカルフォーラムを含む)]
- 109 小森康司: 司会. 第58回日本腹部救急医学会総会, 2022, (Web), [一般演題(サージカルフォーラムを含む)]
- 110 小森康司, 田中 努, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博: 骨盤内臓器全摘術後, 尿管回腸吻合部狭窄による尿路感染に対し, 経回腸導管的に逆行性内視鏡による尿管ステント挿入を施行した1例. 第58回日本腹部救急医学会総会, 2022, (Web), [一般演題(サージカルフォーラムを含む)]

整形外科部

- 001 Satoshi Tsukushi, Masahiro Yoshida, Shunsuke Hamada, Nasa Fujihara: Outcomes of patients with advanced sarcoma treated with pazopanib in daily clinical practice: a single institution experience. 13th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society Meeting (APMSTS 2021), 2021, (Web), [口演]
- 002 藤原那沙, 濱田俊介, 吉田雅博, 筑紫 聡: 軟部再発を来した左尺骨遠位骨巨細胞腫の一例. 第64回日本手外科学会学術集, 2021, (Web), [口演]
- 003 藤原那沙, 濱田俊介, 吉田雅博, 筑紫 聡, 佐々木英一: 右足関節前面皮下腫瘍の1例. 第92回東海骨軟部腫瘍研究会, 2021, (愛知), [口演]
- 004 生田国大, 大田剛広, 筑紫 聡, 小澤英史, 中島浩敦, 山田健志, 今釜史郎, 西田佳弘: 骨腫瘍切除後欠損部に対する β -TCP配向連通多孔体移植後の臨床成績 多施設前向き共同研究. 第94回日本整形外科学会学術総会, 2021, (東京), [口演]
- 005 萩 智仁, 中村知樹, 永野昭仁, 酒井智久, 山田健志, 相羽久輝, 筑紫 聡, 片桐浩久, 淺沼邦洋, 須藤啓広, 西田佳弘: 初発悪性軟部腫瘍における四肢切・離断症例の治療成績 東海骨軟部腫瘍コンソーシアム共同研究. 第94回日本整形外科学会学術総会, 2021, (東京), [口演]
- 006 酒井智久, 西田佳弘, 筑紫 聡, 小澤英史, 生田国大, 小池 宏, 伊藤 鑑, 今釜史郎: 大腿骨近位部転移性骨腫瘍患者の短期予後予測 改訂版片桐スコアとMEP scoreの有用性の検討. 第94回日本整形外科学会学術総会, 2021, (東京), [口演]
- 007 酒井智久, 西田佳弘, 筑紫 聡, 小澤英史, 生田国大, 小池 宏, 伊藤 鑑, 今釜史郎: 病的骨折は大腿骨転移性骨腫瘍患者の予後に影響するか 傾向スコアマッチングを用いた解析. 第94回日本整形外科学会学術総会 2021, (東京), [口演]
- 008 張 劉哲, 齊藤正徳, 秋山 達, 中川 亮, 筑紫 聡, 吉田新一郎, 五木田茶舞, 阿江啓介, 中嶋誠也, 綿貫宗則, 岩田慎太郎: 白蓋部骨盤腫瘍切除後において, 白蓋側インプラントを使用しない股関節再建術の術後歩行成績. 第94回日本整形外科学会学術総会, 2021, (東京), [口演]
- 009 生田国大, 筑紫 聡, 山田健志, 小澤英史, 杉浦英志, 今釜史郎, 西田佳弘: 下肢原発性悪性骨腫瘍における血管柄付き腓骨移植を併用した加温処理骨再建の中長期成績. 第94回日本整形外科学会学術総会, 2021, (東京), [口演]
- 010 筑紫 聡, 西田佳弘, 廣瀬 毅, 中田英二, 中川瑠美, 今西淳悟, 中村知樹, 永野昭仁, 田宮大也, 角永茂樹, 朴木寛弥, 寺内 竜, 王谷英達, 西村俊司, 生田国大, 上田孝文: KMLS新セメントレスシステムの短期成績調査 JMOG他施設共同研究. 第54回日本整形外科学会・軟部腫瘍学術集会, 2021, (広島), [口演]
- 011 筑紫 聡, 吉田雅博, 濱田俊介, 藤原那沙: 薬物療法の適応と限界 進行肉腫におけるトラベクテジン・エリブリ

- ン・パゾパニブの治療成績 免疫関連マーカーの意義. 第54回日本整形外科骨・軟部腫瘍学術集会, 2021, (広島), [口演]
- 012 筑紫 聡: 悪性軟部腫瘍における効果予測因子の検討. 第54回日本整形外科骨・軟部腫瘍学術集会, 2021, (広島), [口演]
- 013 岩田慎太郎, 秋山 達, 阿 啓介, 片桐浩久, 国定俊之, 筑紫 聡, 小林英介, 小林 寛, 遠藤 誠, 竹中 聡, 川井章: 本邦における後腹膜肉腫診療ガイドラインの作成. 第54回日本整形外科骨・軟部腫瘍学術集会, 2021, (広島), [口演]
- 014 生田国大, 西田佳弘, 筑紫 聡, 山田健志, 小澤英史, 杉浦英志, 今釜史郎: 処理骨移植の現状と課題 悪性骨・軟部腫瘍切除後の骨性再建における自家加温処理骨の長期成績. 第54回日本整形外科骨・軟部腫瘍学術集会, 2021, (広島), [口演]
- 015 小澤英史, 西田佳弘, 岩田慎太郎, 早川景子, 薛 宇孝, 川島寛之, 石井 猛, 土屋弘行, 筑紫 聡, 濱田健一郎, 矢澤康男, 馬場一郎, 永野昭仁, 森井健司, 白井寿治, 今西淳悟, 河野博隆: 脱分化型およびGrade 3軟骨肉腫の特徴と治療成績 JMOG 多施設共同研究. 第54回日本整形外科骨・軟部腫瘍学術集会, 2021, (広島), [口演]
- 016 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: イフォスファミドに対する尿モニタリング廃止後の経過. 第54回日本整形外科骨・軟部腫瘍学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 017 出淵雄哉, 濱田俊介, 丹澤義一, 小松原 将, 藤田郁夫, 今西淳悟, 小柳広高, 嶋谷彰芳, 田中太品, 今村好章, 福島万奈, 小林基弘, 上田孝文, 河野博隆, 松峯昭彦: 骨・軟部発生 PEComa の全国調査 JMOG 多施設共同研究. 第54回日本整形外科骨・軟部腫瘍学術集会, 2021, (広島), [口演]
- 018 筑紫 聡: 悪性軟部腫瘍の予後因子. サルコーマカンファレンス in 浜松, 2021, (Web), [講演]
- 019 筑紫 聡: 骨軟部腫瘍における診断と治療の向上. 第290回関東骨軟部腫瘍研究会, 2021, (Web), [講師]
- 020 濱田俊介, 藤原那沙, 吉田雅博, 筑紫 聡: 高齢者進行期骨軟部肉腫症例に対する化学療法の実態. 59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 021 張 劉哲, 齊藤正徳, 秋山 達, 中川 亮, 筑紫 聡, 吉田新一郎, 五木田茶舞, 阿江啓介, 中嶋誠也, 綿貫宗則, 岩田慎太郎: 癌治療における再建外科 白蓋悪性腫瘍切除後において, 白蓋インプラントを用いない股関節再建術の術後歩行成績 (英語). 第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜), [口演]
- 022 筑紫 聡: 進行肉腫に対する薬物療法の治療経験 副作用とその対策. 第5回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2022, (京都), [口演]
- 023 筑紫 聡: 進行肉腫に対する薬物療法の投与マネジメント実例. 第5回日本サルコーマ治療研究会学術集会, 2022, (京都), [口演]
- 024 筑紫 聡: AYA世代の肉腫診療. 12回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2022, (愛知), [口演]

リハビリテーション部

- 001 山崎康司, 中嶋誠也, 清水泰博, 吉田雅博: 75歳以上消化器がん患者の握力と体組成, 身体機能との関係. 第10回日本がんリハビリテーション研究会, 2021, (Web), [口述発表]
- 002 吉田雅博, 杉浦英志: 骨盤内腫瘍術後の大腿神経麻痺に対するリハビリテーションの効果. 第58回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2021, (京都), [口演]
- 003 高津 淳, 檜垣栄治, 吉田雅博, 山本正彦, 安部哲也: 食道癌術後患者に対する言語聴覚士による嚥下リハビリテーションの介入効果. 第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2021, (愛知), [一般口頭演題]

泌尿器科部

- 001 関戸 翔, 小倉友二, 小島崇宏: 外科的治療をおこなった腎腫瘍における良性腫瘍の検討 第109回日本泌尿器科学会総会, 2021, (横浜), [口演]
- 002 関戸 翔, 小倉友二, 小島崇宏: 血漿フィブリノゲンはcT1腎腫瘍におけるp T3upsatageを予測する 第71回日本泌尿器科学会中部総会, 2021, (名古屋), [口演]
- 003 関戸 翔, 小倉友二, 小島崇宏: 術前診断のもと集学的治療をおこなった尿管原発小細胞癌の1例 第285回日本泌尿器科学会東海地方会, 2022, (名古屋), (Web), [口演]
- 004 小島崇宏: 動注化学放射線治療による膀胱温存療法 臓器別シンポジウム「膀胱温存治療の可否及び温存への戦略 (浸潤性膀胱がんに対する治療戦略)」第59回日本癌治療学会学術集会, 2021, (横浜), (Web), [シンポジウム]
- 005 小島崇宏: 特別企画1若手泌尿器科医の基礎研究企画～世界が認める研究をしよう～ 第71回日本泌尿器科学会中部総会, 2021, (名古屋), [審査員]
- 006 小島崇宏: 進行性腎細がんに対する複合免疫療法 CheckMate214 試験 5年フォローアップ解析 未治療の進行性腎細胞癌におけるニボルマブ+イピリムマブ併用療法の最新エビデンス 第71回日本泌尿器科学会中部総会, 2021, (名古屋), [ランチョンセミナー]
- 007 小島崇宏: 総会賞ポスター 08 尿路上皮腫瘍/臨床 第109回日本泌尿器科学会総会, 2021, (横浜), [審査員]
- 008 小島崇宏: 一般口演 21「腎盂・尿管腫瘍/臨床3」第109回日本泌尿器科学会総会, 2021, (横浜), [座長]

婦人科部

- 001 西野翔吾, 坪内寛文, 坂田 純, 森 正彦, 鈴木史朗: 当院でがん遺伝子パネル検査を実施した婦人科がん患者の検討. 第73回日本産科婦人科学会学術講演, 2021, (新潟),

- [口演]
- 002 吉川聡明, 吳 智聞, 松下博和, 鈴木史朗, 籠谷勇紀: エピジェネティック因子修飾による抗腫瘍 T 細胞の機能改善. 第 18 回日本免疫治療学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 003 西野翔吾, 坪内寛文, 梶 健太郎, 坂田 純, 森 正彦, 鈴木史朗: 子宮頸癌に対する広汎子宮全摘出術における ERAS プロトコルを用いた新規バス導入前後の比較. 第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021, (大阪), [口演]
- 004 坂田 純, 梶 健太郎, 西野翔吾, 坪内寛文, 森 正彦, 鈴木史朗: 婦人科がんにおけるがん遺伝子パネル検査症例の検討. 第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021, (Web), [ポスター]
- 005 坪内寛文, 梶 健太郎, 西野翔吾, 坂田 純, 森 正彦, 鈴木史朗: 腹腔鏡下子宮体癌手術における結腸間膜損傷に伴い遅発性横行結腸壊死を来した一例. 第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021, (Web), [口演]
- 006 大野真由, 横井 暁, 吉田康将, 鈴木史朗, 柴田清澄, 吉川史隆, 中面哲也, 梶山広明: 卵巣明細胞癌における Glypican-3 由来ペプチドワクチン療法の治療反応性を予測するバイオマーカーとしての血清中 miRNA (Serum miRNAs as Predictive Responsive Biomarkers of Glypican-3-derived Peptide Vaccine Therapy in Ovarian Clear Cell Carcinoma) (英語). 第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021, (大阪), [口演]
- 007 吉田康将, 横井 暁, 玉内学志, 池田芳紀, 芳川修久, 西野公博, 新美 薫, 鈴木史朗, 吉川史隆, 梶山広明: 進行・再発卵巣明細胞癌における X 染色体長腕 27.3 領域のマイクロ RNA クラスターの発現意義. 第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2021, (大阪), [口演]
- 008 吉川聡明, 吳 智聞, 松下博和, 細田和貴, 鈴木史朗, 籠谷勇紀: Epigenetic modification of antitumor T cells to induce durable clinical response in adoptive immunotherapy. 第 25 回日本がん免疫学会総会, 2021, (和歌山), [口演]
- 009 高磯伸枝, 福江美咲, 小森康司, 鈴木史朗, 清水泰博, 井本逸勢: リンチ症候群に対する大腸癌と子宮内膜癌の手術症例を対象にしたユニバーサルスクリーニングの取り組み. 第 45 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2021, (Web), [口演]

脳神経外科部

- 001 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 伊藤 洋, 大野真佐輔: 脊椎転移に対する低侵襲脊椎固定術. 第 56 回日本脊髄障害医学会, 2021, (Web), [一般口演]
- 002 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 伊藤 洋, 大野真佐輔: 頸胸椎移行部脊椎転移に対する外科治療. 第 56 回日本脊髄障害医学会, 2021, (Web), [一般口演]
- 003 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 伊藤 洋, 服部和良: 頸

- 胸椎移行部脊椎転移に対する外科治療の有用性. 第 80 回日本脳神経外科学会総会, 2021, (Web), [一般口演]
- 004 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 伊藤 洋, 服部和良: 脊椎転移治療のパラダイムシフトー診療体制構築から最新治療までー. 第 36 回日本脊髄外科学会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 005 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 伊藤 洋, 服部和良: 上位頸椎への脊椎転移: 臨床像と外科治療成績. 第 36 回日本脊髄外科学会, 2021, (Web), [一般口演]
- 006 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 伊藤 洋, 大野真佐輔: 頸胸椎移行部脊椎転移に対する外科治療の有用性. 第 30 回日本脊椎インスツルメンテーション学会, 2021, (Web), [ポスター]
- 007 灰本章一, 西村由介, 永島吉孝, 伊藤 洋, 大野真佐輔: 胸椎類骨骨種の 1 例. 第 67 回中部脊髄ワークショップ, 2022, (Web), [一般口演]
- 008 大野真佐輔, 倉光俊一郎, 伊藤翔平, 木全将之, 浅井琢美, 須崎法幸, 梶田泰一, 高橋立夫: 生物学的製剤を使用中の関節リウマチ患者に発生した PCNSL の一例. 第 39 回日本脳腫瘍学会, 2021, (Web), [ポスター]
- 009 大野真佐輔: 脳腫瘍に対する CAR-T 細胞療法. 第 31 回日本サイトメトリー学会学術集会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 010 大野真佐輔, 伊藤翔平, 木全将之, 安藤 遼, 玉利洋介, 江口 馨, 浅井琢美, 須崎法幸, 梶田泰一, 高橋立夫: 創部治癒遅延にて治療に難渋した仙骨骨盤骨折の一例. 第 36 回日本脊髄外科学会, 2021, (Web), [ポスター]

放射線診断・IVR 部

- 001 *Hasegawa T*: Ablative therapies; are we ready to become protagonists? . 24th Braziliann Society of Interventional Radiology and Endovascular Surgery (SOBRICE) 2021, (Web), [Oral presentation]
- 002 *Hasegawa T, Yoshihara T, Sato Y, Yamaura H, Murata S, Chatani S, Tsukii R, Nagasawa K, Inaba Y*: Clinical outcomes of radiofrequency ablation combined with trans-arterial liver tumors other than hepatocellular carcinoma. 7th Asian Conference on Tumor Ablation (ACTA) 2021, (Web), [Oral presentation]
- 003 *Hasegawa T, Sato Y, Kuroda H, Chatani S, Murata S, Yamaura H, Kato M, Onaya H, Inaba Y*: Clinical outcomes and techniques for radiofrequency ablation of lung tumors smaller than 1 cm. 7th Asian Conference on Tumor Ablation (ACTA) 2021, (Web), [Oral presentation]
- 004 *Hasegawa T, Sato Y, Kuroda H, Sakakura N, Chatani S, Murata S, Yamaura H, Kato M, Onaya H, Inaba Y*: Clinical outcomes of hybrid treatment of surgery and radiofrequency ablation for multiple lung metastases. 7th Asian Conference on Tumor Ablation (ACTA) 2021,

- (Web), [Oral presentation]
- 005 **Hasegawa T, Takaki H, Kodama H, Yamanaka T, Sato Y, Inaba Y, Gobara H, Hayashi S, Takao M, Yamakado K**: Risk factor of local tumor progression after radiofrequency ablation for lung metastases from colorectal carcinoma; Supplementary analysis of phase II trial (MLCSG-0802). 7th Asian Conference on Tumor Ablation (ACTA) 2021, (Web), [Oral presentation]
- 006 **佐藤洋造**: 分子標的薬時代における TACE の位置づけ - センター施設における現況. 第 80 回日本医学放射線学会 総会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 007 **稲葉吉隆**: BCLC-B における TACE と薬物療法の位置づけは?. 第 2 回 IVR 科医のためのがん免疫治療 web seminar, 2021, (Web), [司会]
- 008 **長谷川貴章**: 基本手技と合併症への対応. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 009 **稲葉吉隆**: 疼痛緩和 IVR の普及のための課題と方策. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 010 **茶谷祥平, 佐藤洋造, 村田慎一, 長谷川貴章, 月井亮太, 長澤恭平, 町田政憲, 吉原晃生, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 花井信広, 稲葉吉隆**: 頭頸部癌出血に対する TAE の検討. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 011 **町田政憲, 長谷川貴章, 茶谷祥平, 佐藤洋造, 村田慎一, 山浦秀和, 吉原晃生, 月井亮太, 長澤恭平, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: 腫瘍浸潤による消化管出血に対する経カテーテルの動脈塞栓術の検討. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 012 **佐藤洋造, 茶谷祥平, 長谷川貴章, 村田慎一, 桑原崇通, 原 和生, 清水泰博, 稲葉吉隆**: 胆道再建後の輸入脚症候群に対する空腸盲端部を介したステント留置の検討. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 013 **吉原晃生, 長谷川貴章, 町田政憲, 月井亮太, 茶谷祥平, 長澤恭平, 村田慎一, 加藤弥菜, 佐藤洋造, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: 肝腫瘍に対し degradable starch microsphere (DSM) を用いた動脈塞栓術併用下のラジオ波焼却術の後方視的検討. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 014 **月井亮太, 茶谷祥平, 佐藤洋造, 村田慎一, 長谷川貴章, 長澤恭平, 町田政憲, 吉原晃生, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: がん患者の術後リンパ漏に対するリンパ管造影の有用性. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [口演]
- 015 **吉原晃生**: 肝切除後離断性胆汁瘻に対し無水エタノールアブレーションで治療した 1 例. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [ポスター]
- 016 **月井亮太, 佐藤洋造, 山口哲平, 長谷川貴章, 茶谷祥平, 山浦秀和, 村田慎一, 加藤弥菜, 吉原晃生, 町田政憲, 長澤恭平, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: 肝細胞癌に対するエピルピシンを用いた肝動脈化学塞栓術後に発症した薬剤性肺障害の 1 例. 第 50 回日本 IVR 学会総会, 2021, (Web), [ポスター]
- 017 **茶谷祥平**: 非血管系・その他. 第 68 回中部 IVR 研究会, 2021, (Web), [座長]
- 018 **茶谷祥平, 稲葉吉隆, 村田慎一, 月井亮太, 長澤恭平, 長谷川貴章, 山浦秀和**: 腹部食堂から胃噴門部の粘膜下に迷入したイレウス管挿入の 1 例. 第 68 回中部 IVR 研究会, 2021, (Web), [口演]
- 019 **長谷川貴章, 茶谷祥平, 佐藤洋造, 山浦秀和, 村田慎一, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: 近位側孔型マイクロバルーンカテーテルを用いた TACE 後に肝膿瘍を形成し治療に難渋した 1 症例. 第 6 回日本穿刺ドレナージ研究会, 2021, (Web), [口演]
- 020 **長谷川貴章, 茶谷祥平, 佐藤洋造, 山浦秀和, 村田慎一, 月井亮太, 長澤恭平, 稲葉吉隆**: 短径 10mm 未満の胸膜結節に対する経皮的針生検の検討. 第 6 回日本穿刺ドレナージ研究会, 2021, (Web), [口演]
- 021 **月井亮太, 長澤恭平, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 山浦秀和, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: 中心静脈ポート抜去困難の頻度及びリスク因子の解析. 第 45 回リザーバー & ポート研究会, 2021, (Web), [口演]
- 022 **長谷川貴章, 茶谷祥平, 村田慎一, 月井亮太, 長澤恭平, 山浦秀和, 加藤弥菜, 女屋博昭, 稲葉吉隆**: 皮下組織に強固な癒着を生じ, CV ポート抜去に難渋した 1 例. 第 45 回リザーバー & ポート研究会, 2021, (Web), [口演]
- 023 **稲葉吉隆**: TACE 不能 / 不適・進行肝細胞癌における LEN-TACE sequential 療法. LEN-TACE Academy in 愛知, 2021, (Web), [司会]
- 024 **長谷川貴章**: 後方視的研究のデザインと論文執筆のコツ. 第 2 回 JIVROSG 臨床研究セミナー, 2021, (Web), [講演]
- 025 **稲葉吉隆**: 免疫複合療法時代を迎えた肝細胞がん治療. 第 10 回緩和 IVR 研究会, 2021, (Web), [座長]
- 026 **長谷川貴章**: 大腸癌肺転移に対する RFA. 第 21 回 RFA・凍結療法研究会, 2021, (Web), [講演]
- 027 **長谷川貴章, 高木治行, 児玉大志, 山中隆史嗣, 中塚豊真, 高尾仁二, 郷原英夫, 林 完勇, 稲葉吉隆, 山門享一郎**: 大腸癌肺転移に対する RFA 後局所再発のリスク因子の検討: 第二相臨床試験 (MLCSG-0802) の副次的解析. 第 21 回 RFA・凍結療法研究会, 2021, (Web), [口演]
- 028 **長谷川貴章, 吉原晃生, 佐藤洋造, 山浦秀和, 村田慎一, 茶谷祥平, 月井亮太, 長澤恭平, 稲葉吉隆**: 肝細胞癌以外の肝腫瘍に対する DSM-TAE 併用 RFA の治療成績. 第 21 回 RFA・凍結療法研究会, 2021, (Web), [口演]
- 029 **村田慎一**: 肝細胞癌治療の新しい選択肢としてのカボメティクス. HCC WEB 講演会～実臨床から肝細胞癌を考える～, 2021, (Web), [講演]
- 030 **稲葉吉隆**: 新規治療法 PRRT の導入に向けた取組み～特別な措置を講じた病室を用いた新たな試み～. 第 99 回東海核医学セミナー, 2021, (Web), [座長]
- 031 **稲葉吉隆**: TACE 不応 / 不適・進行肝細胞癌における LEN-TACE sequential 療法 -Lenvatinib の薬剤特性を生かした治療戦略. LEN-TACE Academy in 愛知, 2021, (Web), [総合司会]

- 032 稲葉吉隆：新たなステージを迎えた intermediate stage HCC 治療戦略. HCC Pioneers Meeting, 2021, (Web), [総合司会]
- 033 稲葉吉隆：当院における LEN-TACE 療法の治療戦略. HCC Pioneers Meeting, 2021, (Web), [講演]
- 034 稲葉吉隆：TACE の立場から見た intermediate stage の治療. HCC Academy, 2021, (Web), [講演]
- 035 長谷川貴章, 茶谷祥平, 村田慎一, 山浦秀和, 月井亮太, 長澤恭平, 稲葉吉隆：肝動脈化学塞栓療法後に肝膿瘍を形成し, ドレナージおよび複数回のドレイン交換で治療しえた 1 例. 第 34 回日本外科感染症学会, 2021, (Web), [講演]
- 036 稲葉吉隆：肝細胞癌治療治療の新時代 - 局所療法と薬物療法のシナジー効果. 第 35 回 JCR ミッドウインターセミナー, 2021, (Web), [講演]
- 037 稲葉吉隆：NET 診断における SRS の活用. NET Web Seminar in Aichi, 2021, (Web), [座長]
- 038 稲葉吉隆：肝細胞癌治療 Update～レンパチニブのポジショニングを再考する～. LEN-TACE academy in 東海～新時代の TKI+TACE 戦略を考える～, 2021, (Web), [座長]

放射線治療部

- 001 *Takeshi Kodaira, Yoshikazu Kagami, Ryuichiro Machida, Naoto Shikama, Yoshinori Ito, Satoshi Ishikura, Yoshihiro Saito, Yasuo Matsumoto, Koji Konishi, Naoya Murakami, Tetsuo Akimoto, Yuuki Fukushima, Takashi Toshiyasu, Keiichi Nakagawa, Yasushi Nagata, Hirofumi Ogawa, Takashi Uno, Masaaki Kataoka, Yasumasa Nishimura on behalf of Japan Clinical Oncology Group* : Long-term follow up of a RCT of Accelerated Radiotherapy for early Glottic Cancer (JCOG 0701). ESTRO 2021, 2021, (Web), [ポスター]
- 002 *Koide Y, Shimizu H, Miyauchi R, Haimoto S, Tanaka H, Watanabe Y, Adachi S, Kato D, Aoyama T, Kitagawa T, Tachibana H, Kodaira T* : Fully automated rigid image registration versus human registration in postoperative spine SBRT. ESTRO2021, 2021, (Web), [ポスター]
- 003 *Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Tachibana H, Koide Y, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T* : Parotid gland dose reduction in the hippocampus avoidance whole-brain radiotherapy. ESTRO2021, 2021, (Web), [ポスター]
- 004 *Shimizu H* : Advanced Techniques in Radiotherapy [Tomotherapy: Key Concept, Clinical Adaptation, and Recent Research Regarding the Treatment Planning] South Asia Centre for Medical Physics and Cancer Research (SCMPCR) 5th E-learning Program (ELP-05), 2021, (Web), [講演]
- 005 *Keiji Nihei, Katsumasa Nakamura, Katsuyuki Karasawa, Yoshihiro Saito, Naoto Shikama, Shin-Ei Noda, Ryusuke Hara, Masaki Kokubo, Takashi Mizowaki, Takeshi Akiba, Etsuo Kunieda, Masakazu Hori, Saiji Ohga, Jiro Kawamori, Takuyo Kozuka, Yosuke Ota, Koji Inaba, Takeshi Kodaira, Yoshiyuki Ito, Yoshikazu Kagami* : A Japanese Multi-Institutional Phase II Study of Moderate Hypofractionated Intensity-Modulated Radiotherapy with Image-Guided Technique for Prostate Cancer. 63th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2021, (Web), [ポスター]
- 006 古平 毅：治療 頭頸部. 第 80 回日本医学放射線学会, 2021, (横浜), [座長]
- 007 古平 毅：ラディザクトで拡大する 高精度放射線治療の可能性. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2021, (舞浜), [講演]
- 008 古平 毅：舌がんに対する小線源治療は生き残れるか. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2021, (舞浜), [座長]
- 009 太田陽介, 古平 毅, 藤井博文, 下川元継, 中島寅彦, 門田伸也, 横田知哉, 本間明宏, 上田真也, 秋元哲夫：日本人の頭頸部癌患者における Cetuximab を含む治療の観察研究 (JROSG12-2). ～局所進行例に対する BRT～. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2021, (舞浜), [講演]
- 010 横田知哉, 太田陽介, 藤井博文, 古平 毅, 下川元継, 中島寅彦, 門田伸也, 本間明宏, 上田真也, 秋元哲夫：日本人再発転移頭頸部癌に対する Cetuximab 併用化学療法の観察研究 (JROSG12-2). 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2021, (舞浜), [講演]
- 011 村上直也, 森 泰昌, 町田龍之介, 古平 毅, 伊藤芳紀, 鹿間直人, 石倉 聡, 小西浩司, 松本康男, 村上祐司, 中村直樹, 山下英臣, 萬 篤憲, 吉村通央, 井上浩一, 野崎美和子, 西村恭昌, 伊丹 純, 加賀美芳和：T1-2N0M0 声門癌における EpCAM と放射線治療の予後に関する研究：JCOG0701A2. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2021, (舞浜), [講演]
- 012 古平 毅：頭頸部癌放射線治療のパラダイムシフト. 第 44 回日本頭頸部癌学会, 2021, (舞浜), [座長]
- 013 青山貴洋：強度変調放射線治療計画の品質保証へ取り組み『愛知県がんセンターにおける PlanIQTM の使用経験』. 東海放射線腫瘍研究会第 57 回技術部会, 2021, (Web), [特別講演]
- 014 古平 毅：頭頸部癌の放射線治療. 第 23 回放射線腫瘍学夏期セミナー, 2021, (岐阜), [講演]
- 015 三谷誠一郎, 門脇重憲, 加藤恭子, 舩石俊樹, 本多和典, 小島勇貴, 成田有季哉, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 古平 毅, 安部哲也, 室 圭：切除不能進行食道扁平上皮癌に対する modified FOLFOX6 療法の検討. 第 74 回日本食道学会, 2021, (東京), [ポスター]
- 016 古平 毅：頭頸部癌に対する放射線治療の現状と展望. 札幌医科大学腫瘍診療センター講演会, 2021, (札幌), [講演]
- 017 清水秀年：「肺癌放射線治療計画～医学物理士の治療計画虎の巻～」肺癌 Radiation Therapy Planning ～LIVE に

- て治療計画の工夫をご紹介～. 2021, (名古屋), [講演]
- 018 **Y Ito, T Hamaguchi, A Takashima, J Mizusawa, Y Shimada, M Shiozawa, T Kodaira, M Ohue, M Kinouchi, K Murata, F Fujita, H Miura, H Katayama, H Fukuda, Y Kanemitsu, Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group (JCOG)**: Final analysis of dose-finding and single-arm confirmatory study of definitive chemoradiotherapy with S-1/MMC in patients with clinical Stage II/III squamous cell carcinoma of the anal canal: JCOG0903. 第57回癌治療学会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 019 **古平 毅**: 骨転移シンポジウム「転移性骨腫瘍に対する治療戦略」. 第57回癌治療学会, 2021, (横浜), [座長]
- 020 **立花弘之**: 「放射線治療」. 愛知県立大学看護学部, 2021, (名古屋), [講義]
- 021 **立花弘之**: 「放射線治療」. 名城大学薬学部大学院, 2021, (名古屋), [講義]
- 022 **古平 毅, 加賀美芳和, 伊藤芳紀, 町田龍之介, 鹿間直人, 石倉 聡, 工藤滋弘, 松本康男, 小西浩司, 村上直也, 西村恭昌**: 早期声門癌に対する加速照射法と標準分割照射法の比較試験の長期成績 (JCOG0701A3). 第34回日本放射線腫瘍学会, 2021, (Web), [講演]
- 023 **稲田正浩, 西村恭昌, 石川一樹, 村上直也, 石倉 聡, 古平 毅, 伊藤芳紀, 土屋和彦, 村上祐司, 齋藤淳一, 秋元哲夫, 峯村俊行**: 頭頸部強度変調放射線治療における臓器特異的耐容線量の解明 (JCOG1015A1). 第34回日本放射線腫瘍学会, 2021, (Web), [講演]
- 024 **伊藤芳紀, 濱口哲弥, 水澤純基, 稲葉浩二, 溝口信貴, 古平 毅, 小西浩司, 西岡明人, 淡河恵津世, 片山 宏, 福田治彦, 金光幸秀, Japan Clinical Oncology Group (JCOG), 大腸がんグループ**: 肛門管扁平上皮癌に対するS-1/MMC併用化学放射線療法の第I/II相試験最終解析: JCOG0903III期非小細胞肺癌臨床試験. 第34回日本放射線腫瘍学会, 2021, (Web), [講演]
- 025 **津藤真司, 辻野佳世子, 立原素子, 小久保雅樹, 石原武明, 池田裕子, 淡河恵津代, 國武直信, 古平 毅, 塩山善之, 中村聡明, 中松清志, 阿南慎平, 三輪弥沙子, 西村恭昌**: (WJOG11619L)における放射線治療計画ダミーラン. 第34回日本放射線腫瘍学会, 2021, (Web), [講演]
- 026 **古平 毅**: 医療の質: 治療. 第34回日本放射線腫瘍学会, 2021, (WEB), [座長]
- 027 **古平 毅**: 指導者講習. 第34回日本放射線腫瘍学会, 2021, (WEB), [座長]
- 028 **古平 毅**: 多発脳転移に対する最新の放射線治療技術. 第34回日本放射線腫瘍学会, 2021, (Web), [座長]
- 029 **小出雄太郎, 清水秀年, 北川智基, 青山貴洋, 宮内理世, 立花弘之, 古平 毅**: U-Netを用いた仮想CT生成による左乳癌深吸気息止め照射の心臓線量予測. 日本放射線腫瘍学会第34回学術大会, 2022, (Web), [講演]
- 030 **古平 毅**: 大会世話人. 第35回日本高精度外部照射部会学術大会, 2022, (Web), [主幹]
- 031 **小出雄太郎, 清水秀年, 宮内理世, 青山貴洋, 北川智基, 立花弘之, 古平 毅, 灰本章一, 田中 寛, 渡邊祐衣, 足**

達 崇, 加藤大貴: 術後脊椎定位放射線治療における全自動剛体画像レジストレーションと手動レジストレーションの比較. 第35回高精度放射線外部照射部会学術大会, 2022, (Web), [講演]

- 032 **清水秀年**: シンポジウム3 III期非小細胞肺癌に対するIMRTの普及に向けて「III期非小細胞肺癌に対するIMRT -医学物理士の視点から-」第35回高精度放射線外部照射部会学術大会, 2022, (Web), [講演]

感染症内科部

- 001 **伊東直哉**: 感染症医療人材の育成. 第91回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第64回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第69回日本化学療法学会西日本支部総会合同開催, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 002 **伊東直哉**: 新型コロナウイルスと緩和ケア COVID-19 総論. 日本緩和医療学会第3回東海・北陸支部学術大会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 003 **伊東直哉**: Omicronによる第6波の最中に当院の一病棟で発生したCovid-19アウトブレイク. 第16回中部地区がん医療連携学術講演会, 2022, (Web), [特別講演]
- 004 **伊東直哉**: がん患者における新型コロナウイルス感染対策. 愛知がんセンターネットワーク市民公開講座「コロナ禍におけるがん診療」, 2021, (Web), [特別講演]
- 005 **伊東直哉**: 外科患者の発熱アプローチ. 日本感染症教育研究会オンラインセミナー, 2021, (Web), [講演]
- 006 **伊東直哉**: がんセンターのASP/ICT活動から見えてきた感染対策のポイント. トヨタ記念病院 化学療法講演会, 2021, (Web), [特別講演]
- 007 **伊東直哉**: 上手な内服抗菌薬スイッチの仕方. 第95回日本感染症学会学術講演会, 2021, (Web), [教育講演]
- 008 **伊東直哉**: 愛知県がんセンターのICT/ASP活動から見えてきたポイント. 小牧市民病院 感染対策講習会, 2021, (Web), [特別講演]
- 009 **伊東直哉**: AST活動における広域抗菌薬の使い分け. 第2回静岡県病院薬剤師会感染症薬物療法研究会, 2021, (Web), [特別講演]
- 010 **伊東直哉**: がん患者における新型コロナウイルス感染対策. 令和3年度愛知県がんセンター第3回がんセンター公開講座, 2021, (Web), [特別講演]
- 011 **伊東直哉**: COVID-19の感染・病態・治療 科学的根拠に基づくCOVID-19の動向. 公益社団法人愛知県看護協会令和3年度研修会, 2021, (Web), [講演]

緩和ケア部

- 001 **下山理史**: 第34回日本サイコオンコロジー学会総会, 「がんの診断・告知に関わる医療者が知っておきたいコミュニケーション」, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 002 **下山理史**: 第34回日本サイコオンコロジー学会総会, 「緩

- 和医療とサイコオンコロジー」, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 003 下山理史: 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 「緩和ケアと腫瘍学のインテグレーションを再考する」, 2022, (京都), [シンポジウム]
- 004 下山理史: 第5回日本リンパ浮腫学会, 「悪性リンパ浮腫の治療とケアと緩和ケアとのコラボレーション」2022, (名古屋), [ワークショップ]

精神腫瘍科部

- 001 小森康永: ジョンとマイケル—「問題」を問題化した人々, 日本家族療法学会第38回大会, 2021, (東京), [基調講演]
- 002 小森康永, 野口裕二, 野村直樹, 安達映子, 矢原隆行: ナラティブ・セラピーの30年, 日本家族療法学会第38回大会, 2021, (東京), [大会企画シンポジウム1]
- 003 小森康永, 安達映子: ナラティブ, 日本家族療法学会, 2021, (東京), [ワークショップ]
- 004 小森康永, 奥野 光, 矢原隆行: ナラティブ・セラピー(基礎講座), 日本家族療法学会ワークショップ, 2022, (東京), [ワークショップ]

看護部

- 001 深谷恭子, 高木礼子, 山田知里, 柴田亜弥子, 小谷はるる: PaxmanScalpCoolingを用いた頭部冷却の1例 第36回日本がん看護学術集会, 2022, (横浜), [口演] 動画配信
- 002 井上さよ子, 河原仁美, 福中 茜, 朝井哲也, 宮谷美知子: 個別性のある看護実践を提供するために苦痛スクリーニングを活用する取り組み, 第36回日本がん看護学会学術集会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 003 井上さよ子, 谷口佐知子, 福中 茜, 河原仁美, 宮谷美知子: 腰椎転移のあるがん者の排泄に関する尊厳と患者の価値を尊重するケア 看護師間と多職種協働によるチームアプローチ. 第36回日本がん看護学会学術集会, 2022, (横浜), [ポスター]
- 004 深谷恭子, 高木礼子, 山田知里, 柴田亜弥子, 小谷はるる: PaxmanScalpCoolingを用いた 頭部冷却の1例, 第36回日本がん看護学会学術集会, 2021, (横浜), [口演]
- 005 青山寿昭: 摂食嚥下診療・食事介助におけるコロナ対策. 東海摂食栄養フォーラム, 2021, (愛知), [座長]
- 006 青山寿昭: 嚥下マニア. 嚥下研究会, 2021, (愛知), [座長]
- 007 山田健司: 看護実践研修②対象の理解Ⅱ手術療法・内視鏡治療. 愛知県がんセンター, 2021, (愛知), [講師]
- 008 山田健司: 認定看護師が伝える腹腔鏡手術の体位. 手術看護セミナー3, 日本手術看護学会, 2021, (愛知), [講師]

- 009 福嶋敬子: メディカルスタッフセッション教育講演, 第50回日本IVR学会総会, 2021, (Web), [座長]
- 010 福嶋敬子: 中心静脈ポートの新たな展開 地域連携の立場から. 第45回リザーバー&ポート研究会, 2021, (Web), [シンポジスト]
- 011 福嶋敬子: CVポート講習会. 第45回リザーバー&ポート研究会, 2021, (Web), [講師]
- 012 中島貴子: 放射線治療における認定看護師の役割. 第6回たちばな放射線治療講演会, 2021, (Web), [講演]
- 013 宮谷美智子: がん化学療法と看護～患者のライフスタイルの支援～愛. 知県看護協会研会 2021, (愛知), [講師]
- 014 山口真由美: 臨床講義「クリティカルケアにおける看護の専門性」. 愛知県立看護学部成人看護学総合実習, 2021, (愛知), [臨床講義]
- 015 笹川良子: 中心静脈ポートの新たな展開・地域・在宅医療におけるポートの役割を探る. 第45回リザーバー&ポート研究会, 2021, (奈良ハイブリット開催), [座長]
- 016 向井未年子: シンポジウム「多職種を巻き込む緩和ケアチーム作り」. 第26回日本緩和医療学会学術大会, 2021, (神奈川), [座長]
- 017 向井未年子: CNSと考える事例検討「抗がん剤治療の継続を望むAさんのケア」. 第14回三重がん看護フォーラム, 2021, (三重), [座長]
- 018 向井未年子: 交流集会「高度実践看護師教育課程修了者『プレCNS』の教育支援」. 第8回日本CNS看護学会, 2021, (Web), [企画運営]
- 019 向井未年子: がん看護論「オンコロジック・エマージェンシー」. 名古屋市立大学大学院研究科, 2021, (愛知), [講義]
- 020 向井未年子: シンポジウム「あらためて, 緩和ケアとオンコロジーのインテグレーションを考える」. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [シンポジスト]
- 021 向井未年子: 「臨床現場における意思決定支援のあり方」. 愛知県立大学看護実践センターセミナー, 2022, (愛知), [講師]
- 022 高木礼子: ホルモン療法の副作用マネジメント～現場での具体的な対応～. SANOFI社内レクチャー, 2021, (Web), [講師]
- 023 高畑知帆子: 抗がん薬曝露対策について～コロナ禍におけるPPE不足時の工夫～. 第36回日本がん看護学会学術集会・2022年度教育セミナー14, 2022, (神奈川), [講師]
- 024 吉川 恵: AYA支援チームの立ち上げと進捗状況. 第3回(東海地区)AYA世代がん患者・家族支援ネットワーク構築プログラム研修会, 2021, (愛知), [講師]
- 025 吉川 恵: 思春期・若年成人(AYA)世代のがん. 地域連携緩和ケア勉強会・カンファレンス, 2021, (愛知), [講師]
- 026 柴田亜弥子: がん看護援助論・がん患者の家族の特徴と看護. 愛知県立大学看護学部大学院看護学研究科大学院, 2021, (愛知), [講師]
- 027 柴田亜弥子: 最新医療と看護. 愛知県立大学看護学部大学院, 2021, (愛知), [講師]

- 028 八重樫 裕：摂食嚥下障害看護における看護の専門性とNST チームでの役割. 愛知県立大学臨床講義, 2021, (愛知), [講師]
- 029 八重樫 裕：摂食・嚥下障害看護認定看護師の活動. 相山女学園大学早期体験実習, 2021, (Web), [講師]
- 030 八重樫 裕：摂食嚥下障害と対応～NST での関りから～. 愛知県がんセンター栄養科実習生, 2021, (愛知), [講師]
- 031 西尾里美：健康障害論Ⅱ血液造血器. 聖隷クリストファー大学看護学部, 2021, (静岡), [講師]
- 032 西尾里美：コンサルテーション論. 愛知県立大学大学院看護学研究科, 2022, (名古屋), [講師]
- 033 澤上智子：チーム医療の中の専門看護師・認定看護師の役割について. 相山女学園大学看護管理, 2021, (愛知), [講師]
- 034 久保 知：支持療法・粘膜炎ケア. 日本放射線腫瘍学会・第22回放射線腫瘍学夏季セミナー, 2021, (岐阜), [講師]
- 035 永田智子：がん看護. 愛知県看護協会訪問看護職員養成講習会, 2021, (愛知), [講師]
- 036 永田智子：緩和ケア. 緩和ケアボランティア養成講座第7期 (全10回), 一般社団法人 あした葉, 2021, (Web), [講師]
- 037 永田智子：在宅医療病態論. 愛知県看護協会・訪問看護認定看護師教育課程, 2021, (愛知), [講師]
- 038 永田智子：消化器症状のマネジメント. がん看護ジェネラリスト研修緩和ケア②, 愛知県がんセンター, 2021, (愛知), [講師・ファシリテーター]
- 039 千種智之：最新の感染対策. 愛知県新規採用者研修, 2021, (愛知), [講師]
- 040 千種智之：いまこそ見直そうラベンダーのよさ (有用性の再発見). 第1回ラベンダー ユーザーズ フォーラム ハリヤードKK, 2021, (愛知), [講演]
- 041 千種智之：感染対策. 名古屋経済大学管理栄養士学生実習, 愛知県がんセンター, 2021, (愛知), [講師]
- 042 千種智之：感染対策. 至学館大学管理栄養士学生実習, 愛知県がんセンター, 2021, (愛知), [講師]

薬剤部

- 001 前田章光：癌症例対応をWS形式で検討. 第37回日本TDM学会・学術大会, 2021, (Web), [ハンズオンセミナー]
- 002 前田章光：私にもできる抗がん薬 (メトトレキサート) の投与設計. 第37回日本TDM学会・学術大会, 2021, (Web), [シンポジウム講演]
- 003 前田章光, 山内拓也, 長谷川彩子, 加藤智子, 富安直弥, 加藤正孝, 稲熊一英, 松崎雅英：愛知県がんセンターの抗がん剤調製前室天井空調及び作業者の抗がん剤汚染状況. 第31回日本医療薬学会, 2021, (Web), [ポスター]
- 004 則武千波夜, 前田章光, 高野裕佑, 須田貴斗, 増田明莉, 伊藤裕子, 松崎雅英：がん薬物療法における薬局薬剤師

の処方提案内容と採択率～愛知県がんセンターのトレーニングレポートによる分析～. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022, 2022, (仙台), [口演]

リスク評価センター

- 001 *Takaiso N, Yoshimura A, Iwata H, Imoto I*：Questionnaire-based psychological and quality of life assessment after contralateral risk-reducing mastectomy for breast cancer patients with BRCA 1/2 pathogenic variants . BRCA 2021, 2021, (Toronto), [Poster]
- 002 福江美咲：子宮頸癌の診断を契機にPeutz-Jeghers 症候群が疑われた症例の遺伝カウンセリング. 第45回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 003 高磯伸枝：リンチ症候群に対する大腸癌と子宮内膜癌の手術症例を対象にしたユニバーサルスクリーニングの取り組み. 第45回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 004 高磯伸枝, 福江美咲, 吉村章代, 井本逸勢：保険診療によるBRCA1/2 遺伝学的検査開始後の血縁者診断の状況. 日本人類遺伝学会第66回大会, 2021, (横浜), [口演]

がんゲノム医療センター

- 001 *Matsubara J, Mukai K, Kage H, Oda K, Kudo R, Ikeda S, Ebi H, Muro K, Hayashi R, Tokudome N, Yamamoto N, Muto M*：化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究 (FIRST-Dx trial). 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [ポスター]
- 002 衣斐寛倫：ゲノム医療におけるPhysician Scientistの役割. 第27回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 2021, (Web), [シンポジウム]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

研究所長

- 001 **Yamaguchi R, Ebi H, Imoto I**: Integration of medicine and data science for the future of cancer precision medicine. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [シンポジウム]
- 002 **井本逸勢**: がん領域の全ゲノム解析時代に求められる遺伝診療部門の役割. 第6回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 003 **丹下正一郎, 平野朋美, 井戸川雅史, 平田英周, 井本逸勢, 時野隆至**: 膵臓がんにおける新規予後予測遺伝子の機能解析. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [口演]
- 004 **井本逸勢, 高磯伸枝**: がんゲノムプロファイリング検査におけるPGPV. 日本人類遺伝学会第66回大会, 2021, (横浜), [シンポジウム]
- 005 **井本逸勢**: がんゲノムプロファイリング (CGP) 検査における Germline findings の取り扱いの現状とこれから. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [シンポジウム]

がん情報・対策研究分野

- 001 **Koyanagi YN, Kasugai Y, Oze I, Taniyama Y, Ito H, Matsuo K**: Impact of ALDH2 rs671 and alcohol on pancreatic cancer risk: an evaluation by mediation analysis. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [口演]
- 002 **Kawakatsu Y, Nakatochi M, Abe M, Ito H, Oze I, Koyanagi YN, Kasugai Y, Matsuo K**: Breast cancer risk from FTO gene polymorphisms includes obesity-independent pathway: A mediation analysis. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 003 **伊藤ゆり, 堀芽久美, 福井敬佑, 太田将仁, 中田佳世, 杉山裕美, 伊藤秀美, 大木いずみ, 西野善一, 宮代 勲, 片野田耕太, 柴田亜希子, 松田智大**: 20年間でがん患者の生存率は向上したか? 6府県の住民ベースのがん登録による検討. 第32回日本疫学会学術総会, 2022, (千葉), [口演]
- 004 **村松佑理子, 小柳友理子, 春日井由美子, 谷山祐香里, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 松尾恵太郎**: 媒介分析による Alcohol dehydrogenase 1B 遺伝子多型の台超がんリスクに対する効果の評価. 第32回日本疫学会学術総会, 2022, (千葉), [口演]
- 005 **谷山祐香里, 尾瀬 功, 小柳友理子, 伊藤ゆり, 松田智大, 松尾恵太郎, 伊藤秀美**: 住民ベースのがん罹患情報を用いた非小細胞肺がん患者の予後における分子標的薬による影響の評価. 第32回日本疫学会学術総会, 2022, (千葉), [口演]

- 006 **岩上将夫, 後藤 温, 鈴木詩織, 片桐涼子, 羽入田明子, 山地太樹, 澤田典絵, 中柄昌弘, 若井建志, 須藤洋一, 清水厚志, 丹野高三, 木下賢吾, 寶澤 篤, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 岩崎 基, J-CGE グループ**: メンデルのランダム化法による血中脂質と大腸がんの関係の検討. 第32回日本疫学会学術総会, 2022, (千葉), [口演]
- 007 **羽入田明子, 後藤 温, 鈴木詩織, 片桐涼子, 岩上将夫, 山地太樹, 澤田典絵, 中柄昌弘, 若井建志, 須藤洋一, 清水厚志, 丹野高三, 木下賢吾, 寶澤 篤, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 岩崎 基**: メンデルのランダム化法による糖代謝指標と大腸がんの関連解析. 第32回日本疫学会学術総会, 2022, (千葉), [口演]

がん予防研究分野

- 001 **Matsuo K**: History of Cancer Epidemiology. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [講演]
- 002 **Koyanagi Y, Kasugai Y, Oze I, Taniyama Y, Ito H, Matsuo K**: Impact of ALDH2 rs671 and alcohol on pancreatic cancer risk: an evaluation by mediation analysis. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [口演]
- 003 **Kawakatsu Y, Nakatochi M, Abe M, Ito H, Oze I, Koyanagi Y, Kasugai Y, Matsuo K**: Breast cancer risk from FTO gene polymorphisms includes obesity-independent pathway: A mediation analysis. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 004 **村松佑理子, 小柳友理子, 春日井由美子, 谷山祐香里, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 松尾恵太郎**: 媒介分析による Alcohol dehydrogenase 1B 遺伝子多型の大腸がんリスクに対する効果の評価. 第32回日本疫学会学術総会, 2021, (オンライン開催), [口演]
- 005 **岩上将夫, 後藤 温, 鈴木詩織, 片桐涼子, 羽入田明子, 山地太樹, 澤田典絵, 中柄昌弘, 若井建志, 須藤洋一, 清水厚志, 丹野高三, 木下賢吾, 寶澤 篤, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 岩崎 基, J-CGE グループ**: メンデルのランダム化法による血中脂質と大腸がんの関係の検討. 第32回日本疫学会学術総会, 2021, (オンデマンド開催), [口演]
- 006 **羽入田明子, 後藤 温, 鈴木詩織, 片桐涼子, 岩上将夫, 山地太樹, 澤田典絵, 中柄昌弘, 若井建志, 須藤洋一, 清水厚志, 丹野高三, 木下賢吾, 寶澤 篤, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 岩崎 基**: メンデルのランダム化法による糖代謝指標と大腸がんの関連解析. 第32回日本疫学会学術総会, 2021, (オンデマンド開催), [口演]

がん病態生理学分野

- 001 青木正博, 武藤 誠, 藤下晃章: ALCAM (CD166) は大腸がん幹細胞の幹細胞性と転移能に寄与する. 第 25 回日本がん分子標的治療学会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 002 三城恵美, 藤下晃章, 小島 康, 梶野リエ, 田中 努, 田近正洋, 青木正博: 大腸腫瘍組織における翻訳後修飾変化の解析. 日本プロテオーム学会 2021 年大会, 2021, (Web), [口演]
- 003 青木正博, 武藤 誠, 藤下晃章: 新規転移性大腸がんマウスモデルの作出と転移機構の解析. 第 30 回日本がん転移学会学術集会・総会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 004 青木正博, 三城恵美, 曾我朋義, 小島 康: デュアルオミクス解析で明らかとなったがん悪液質に伴う肝臓の代謝変化の概要. 第 80 回日本癌学会学術総会 2021, (横浜), [シンポジウム]
- 005 向井智美, 佐藤龍洋, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 関戸好孝: 悪性中皮腫における O-GlcNAc 修飾異常を介した腫瘍進展メカニズムの解明. 第 44 回日本分子生物学会年会, 2021, (横浜), [ポスター]

分子腫瘍学分野

- 001 Sekido Y: "NF2" Mini-Symposia 14. iMig2021, 2021, (Web), [招待講演]
- 002 鈴木浩也, 向井智美, 三井田孝, 関戸好孝, 村上 (渡並) 優子: LATS2 変異悪性中皮腫に対する新規合成致死遺伝子を標的とした抗腫瘍活性の包括的評価. 第 25 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 003 丹下将希, 鈴木浩也, 三井田孝, 関戸好孝, 村上 (渡並) 優子: BAP1 変異悪性中皮腫細胞株における CHK2 の役割. 第 25 回 日本がん分子標的治療学会学術集会, 2021, (Web), [ワークショップ]
- 004 赤尾 謙, 佐藤龍洋, 向井智美, 平野雅規, 関戸好孝: 悪性中皮腫細胞に対する新規 TEAD 阻害剤の効果の検討. 第 2 回日本石綿・中皮腫学会学術集会, 2021, (Web), [口演]
- 005 陳イクアン, 永江玄太, 上田宏生, 辰野健二, 森下真一, 関戸好孝, 油谷浩幸: ロングリードシーケンシングによるヒト中皮腫ゲノム変異の特徴の研究. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 006 小林輝星, 鈴木浩也, 三井田孝, 関戸好孝, 村上 (渡並) 優子: 悪性中皮腫において BAP1 変異と合成致死表現型を示す遺伝子の機能解析. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 007 関戸好孝: 悪性中皮腫のゲノム異常と細胞特性. 日本産業衛生学会 第 48 回産業中毒・生物学的モニタリング研究会, 2021, (Web), [特別講演]
- 008 小玉勇太, 田中一大, 佐藤龍洋, 堀 和美, 玄 崇永, 森瀬昌宏, 佐藤光夫, 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるオキ

シトシン受容体 (OXTR) を標的とした新規治療法の開発. 第 62 回日本肺癌学会学術集会, 2021, (横浜), [ポスター]

- 009 佐藤龍洋, 関戸好孝: 隣接細胞への浸潤機構「エントリス」に関わる新たな分子機序とその役割. 第 44 回日本分子生物学会年会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 010 向井智美, 佐藤龍洋, 三城恵美, 青木正博, 藪田紀一, 関戸好孝: 悪性中皮腫における O-GlcNAc 修飾異常を介した腫瘍進展メカニズムの解明. 第 44 回日本分子生物学会年会, 2021, (横浜), [ポスター]

システム解析学分野

- 001 Zhang Y-Z, Yamaguchi K, Hatakeyama S, Furukawa Y, Miyano S, Yamaguchi R, Imoto S: On the application of BERT models for nanopore methylation detection. IEEE International Conference on Bioinformatics and Biomedicine, 2021, (Virtual), [口頭発表]
- 002 Nakata A, Narita Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Ogata T, Matsubara Y, Kodama H, Honda K, Masuishi M, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Yamaguchi R, Tajika M, Muro K: Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitors for Gastrointestinal Cancers with SWI/SNF Complex Genetic Alterations. 日本臨床腫瘍学会, 2022, (京都), [口頭発表]
- 003 山口 類, 衣斐寛倫, 井本逸勢: 未来のがん精密治療の実現へ向けた医学とデータ科学の統合的アプローチ. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [口頭発表]
- 004 笠島理加, 鈴木理樹, 清水英悟, 玉田嘉紀, 新井田厚司, 廣島幸彦, 片山琴絵, 山口 類, 山口貴世志, 古川洋一, 宮野 悟, 井元清哉, 横瀬智之, 宮城洋平: 遺伝子ネットワーク解析による高悪性度胎児型肺癌の特異的なパスイェイ予測. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 005 Heewon Park, Koji Maruhashi, Rui Yamaguchi, Seiya Imoto, Satoru Miyano: Comprehensive gene regulatory network analysis based on explainable AI. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [口頭発表]
- 006 中川沙弥, 山口貴世志, 高根希世子, 池上恒雄, 清水 悟, 山口 類, 井元清哉, 宮野 悟, 古川洋一: 腫瘍抑制遺伝子 APC プロモーター1A および 1B の解析. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 007 松井琢哉, 松下博和, 山口 類, 高原弘知, 白井 俊, 仲田健男, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章, 小田梨紗, 坂根理司, 立松 勉, 横田圭右, 羽田裕司, 奥田勝裕, 中西良一: 原発性肺癌におけるヒト白血球抗原クラス I メッセージャー RNA と術後再発との関連. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [ポスター]

腫瘍制御学分野

- 001 小根山千歳：Mechanisms underlying the oncogenic signal-mediated exosome upregulation. 第44回日本分子生物学会年会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 002 小根山千歳：発光を利用したがんエクソソーム産生亢進機構の解明. 第31回基礎及び最新の分析化学講習会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 003 小根山千歳：がんシグナルによるエクソソーム分泌亢進メカニズム. 第8回日本細胞外小胞学会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 004 小根山千歳：がん細胞由来エクソソームの in vivo イメージング. 第25回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 005 小根山千歳, 山内友恵, 奥崎大介：がん進展における microRNA を介した Src シグナルの制御. 第14回日本エピジェネティクス研究会, 2021, (Web), [ポスター]
- 006 小根山千歳, 疋田智也：In vivo imaging of long-term accumulation of cancer-derived exosomes using a BRET-based reporter. *Pacificchem* 2021, 2021, (Web), [ポスター]
- 007 三谷文美絵, 小根山千歳：Asteltxin suppresses extracellular vesicle secretion through AMPK/mTOR-mediated activation of lysosome function. 第3回 CIBoG リトリート / 第14回 NAGOYA グローバルリトリート, 2021, (Web), [ポスター]

腫瘍免疫応答研究分野

- 001 **Kagoya Y**：Genetic modification of antitumor T cells for optimal adoptive cancer immunotherapy. *Franco-Japanese immuno-oncology webinars serie*, 2022, (Web), [招待講演]
- 002 **Kagoya Y**：Future perspectives of CAR-T cell therapy for cancer. *The 25th JFCR-ISCC*, 2021, (Web), [招待講演]
- 003 **Kagoya Y**：Epigenetic insights into T cell longevity for optimal adoptive immunotherapy. *JCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conference*, 2021, (Web), [招待講演]
- 004 籠谷勇紀：エピジェネティクス修飾による CAR-T 細胞の改良. 第3回東京理科大学総合研究院合成生物学研究部門シンポジウム, 2022, (Web), [招待講演]
- 005 籠谷勇紀：Rejuvenation of aged T cells for effective adoptive cancer immunotherapy. 第3回 CIBoG リトリート, 2022, (Web), [招待講演]
- 006 籠谷勇紀：T 細胞疲弊の再定義 - 分子レベルでの T 細胞状態の理解. 第50回日本免疫学会学術集会, 2021, (奈良), [シンポジウム講演]
- 007 吳 智聞, 籠谷勇紀：CD83 marks progenitor exhausted T cell population. 第50回日本免疫学会学術集会, 2021,

(奈良), [ポスター]

- 008 籠谷勇紀：細胞のメモリーレスポンス - biodistribution の視点から. 第6回 DIA 再生医療製品・遺伝子治療用製品シンポジウム, 2021, (東京), [招待講演]
- 009 籠谷勇紀：転写ネットワーク修飾による T 細胞機能の改変. 第94回日本生化学大会, 2021, (Web), [招待講演]
- 010 籠谷勇紀：次世代 CART 細胞療法の開発動向. *BioJapan* 2021, 2021, (横浜), [特別講演]
- 011 籠谷勇紀：エピジェネティクス・代謝改変による CAR-T 細胞療法の改良. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [招待講演]
- 012 吉川聡明, 吳 智聞, 松下博和, 細田和貴, 鈴木史朗, 籠谷勇紀：エピジェネティック因子修飾による抗腫瘍 T 細胞の機能改善. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [口演]
- 013 吉川聡明, 吳 智聞, 松下博和, 細田和貴, 鈴木史朗, 籠谷勇紀：Epigenetic modification of antitumor T cells to induce durable clinical response in adoptive immunotherapy. 第25回日本がん免疫学会総会, 2021, (和歌山), [口演]
- 014 籠谷勇紀：造血器腫瘍における免疫細胞療法. 第18回東海リンパ腫フォーラム, 2021, (Web), [特別講演]

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 松井琢哉, 松下博和, 高原弘知, 白井 俊, 仲田健男, 高橋祐介, 坂倉範昭, 黒田浩章, 小田梨紗, 坂根理司, 立松勉, 横田圭右, 奥田勝裕, 中西良一：原発性肺癌におけるヒト白血球抗原クラス I メッセージャー RNA と術後再発との関連. 第80回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [ポスター]
- 002 小室裕康, 高橋祐介, 西科直樹, 福嶋恭啓, 宮本勇作, 松本光善, 山本裕崇, 白橋幸洋, 西田玲奈, 杉田裕介, 篠原周一, 松井琢哉, 岡村文子, 福山 隆, 黒田浩章, 松下博和, 土井 潔, 岩田 尚：HLA-B*1501 肺癌患者における KK-LC-1 に対する TCR β 鎖の解析. 第62回日本肺癌学会学術集会, 2021, (横浜), [一般口演]
- 003 松下博和：基礎的観点から見た免疫チェックポイント阻害剤の作用機序. 第3回 I-O Strategy Seminar in 愛宕, 2021, (Web), [招待講演]
- 004 松下博和：グリオーマにおけるがん免疫療法. 第9回 *Neuro-oncology WEST*, 2021, (京都), [招待講演]
- 005 松下博和：卵巣がんにおけるネオ抗原の発現とがん微小環境の評価. 第36回日本生殖免疫学会総会・学術集会, 2021, (東京), [シンポジウム]
- 006 篠原周一, 高橋祐介, 岡村文子, 小室裕康, 松井琢哉, 大矢由子, 黒田浩章, 松下博和：マルチオミクソン解析に基づく新たな腫瘍免疫微小環境スコア (TIME score) の開発. 第25回日本がん免疫学会総会, 2021, (和歌山), [一般口演]
- 007 篠原周一, 高橋祐介, 小室裕康, 松井琢哉, 大矢由子, 黒

- 田浩章, 松下博和: マルチオミクス解析に基づく腫瘍免疫微小環境スコア (TIME score) の意義. 第 18 回日本免疫治療学会学術集会, 2021, (Web), [ポスター]
- 008 松下博和: 肺癌に対するネオアンチゲンを標的としたがんワクチン療法の開発. 第 18 回日本免疫治療学会学術集会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- 009 高橋祐介, 篠原周一, 松下博和: EGFR 変異陰性非小細胞肺癌における腫瘍浸潤リンパ球の標的がん抗原の検索. 第 38 回日本呼吸器外科学会, 2021, (Web), [要望演題]
- 010 小室裕康, 高橋祐介, 宮本勇作, 松本光善, 山本裕崇, 白橋幸洋, 西田玲奈, 宮井まなみ, 篠原周一, 松井琢哉, 岡村文子, 福山 隆, 黒田浩章, 松下博和, 土井 潔, 岩田尚: LA-B1501 肺癌患者における KK-LC-1 に対する TCR の取得. 第 38 回日本呼吸器外科学会, 2021, (Web), [一般口演]
- 011 松井琢哉, 松下博和, 奥田勝裕, 中西良一: 肺悪性腫瘍の HLA 遺伝子多型による疾患感受性と免疫応答の個体差形成メカニズムの解明. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (Web), [一般口演]
- 012 篠原周一, 小室裕康, 松井琢哉, 大矢由子, 仲田健男, 高橋祐介, 岡村文子, 坂倉範昭, 黒田浩章, 松下博和: RNA に基づいた腫瘍免疫微小環境スコア (TIME score) の意義. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2021, (Web), [パネルディスカッション]
- 013 松井琢哉, 松下博和, 黒田浩章, 坂倉範昭, 高橋祐介, 仲田健男, 大矢由子, 中西良一, 奥田勝裕, 横田圭右, 立松勉, 遠藤克彦, 坂根理司, 小田梨紗: 肺悪性腫瘍における Human leukocyte antigen (HLA) 遺伝子多型による疾患感受性及び免疫応答の個体差の形成に関するメカニズムの解明. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [一般口演]
- 014 篠原周一, 小室裕康, 松井琢哉, 重松義紀, 波戸岡俊三, 庄村 心, 安達勝利, 高尾仁二, 大塚 崇, 大矢由子, 中田健男, 高橋祐介, 岡村文子, 坂倉範昭, 黒田浩章, 松下博和: マルチオミクス解析に基づいた腫瘍免疫微小環境スコアの意義. 第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021, (Web), [外科学再興シンポジウム]
- 015 松下博和: ネオアンチゲンを標的としたがんワクチン療法. 第 23 回 外科分子細胞治療研究会, 2021, (Web), [シンポジウム]
- の多様性と治療戦略], 2021, (豊明), [講演]
- 003 田口 歩: 血液は何を語るのか: 光濃縮によるがん早期診断への挑戦, LACS-SYS 研究所第 3 回シンポジウム, 2021, (Web), [講演]
- 004 田口 歩: 光濃縮による血中がんバイオマーカーの超高度測定法の開発および新規バイオマーカー探索第 48 回光科学異分野横断セミナー, 2021, (堺), [講演]
- 005 阿部雄一, 平野秀和, 青木雅彦, 庄司広和, 鬼谷 薫, 本田一文, 朴 成和, 朝長 毅, 足立 淳: 患者由来試料を用いたリン酸化プロテオーム解析手法の開発と胃がん生検試料への応用, 日本プロテオーム学会 2021 年大会, 2021, (Web), [奨励賞受賞口演]
- 006 阿部雄一, 石上雅敏, 田口 歩: Temporal omics profiling using a mouse model of nonalcoholic steatohepatitis-associated hepatocellular carcinoma. 2021, 第 80 回日本癌学会学術総会 (Web), [口演]
- 007 森 治樹, 阿部雄一, 梶野泰祐, 三宅 亨, 谷 真至, 田口 歩: Establishment and multi-omic characterization of mouse colorectal cancer cell lines with different metastatic potentials. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (Web), [ポスター]
- 008 森 治樹, 阿部雄一, 夏日誠治, 大内 晶, 木下敬史, 三宅 亨, 飯田洋也, 細田和貴, 小森康司, 清水泰博, 谷真至, 田口 歩: In vitro 大腸癌転移モデルの多層オミクス解析に基づく転移分子機構解明とその制御法の開発, 2021, 第 29 回日本消化器関連学会週間 (JDDW), (神戸), [口頭発表]
- 009 森 治樹, 阿部雄一, 夏日誠治, 木下敬史, 大内 晶, 三宅 亨, 飯田洋也, 細田和貴, 小森康司, 清水泰博, 谷真至, 田口 歩: In vitro 大腸癌転移モデルの多層オミクス解析に基づく転移分子機構解明とその制御法の開発, 2021, 第 59 回日本癌治療学会学術集会, (横浜), [口頭発表]
- 010 森 治樹, 阿部雄一, 梶野泰祐, 水野和幸, 田口 歩: Establishment and multi-omic characterization of mouse colorectal cancer cell lines with different metastatic potentials. 第 11 回名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム, 2021, (Web), [口頭発表]
- 011 阿部雄一, 周 爽, 水野和幸, 田中 都, 伊藤隆徳, 石上雅敏, 藤城光弘, 菅波孝祥, 田口 歩: NASH 肝がんマウスモデルの経時的マルチオミクス解析による肝がん早期診断バイオマーカーと治療標的分子の探索, 第 11 回名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム, 2021, (Web), [口頭発表]
- 012 梶野泰祐, 岩井美佳, 中柝昌弘, 柳澤 聖, 磯村久徳, 島田友香子, 鈴木 元, 田口 歩, 高橋 隆: A novel long non-coding RNA, TILR, represses TP53 and the apoptosis induction in lung cancer. 第 11 回名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウム, 2021, (Web), [口頭発表]

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 Abe Y, Shuang Z, Mizuno K, Tanaka I, Ito T, Ishigami M, Fujishiro M, Suganami T, Taguchi A: Integrated multi-omics analysis of a mouse model of nonalcoholic steatohepatitis-associated hepatocellular carcinoma. JCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conference, 2021, (Web), [Poster]
- 002 田口 歩: クリニカルプロテオミクスが拓くがん研究の近未来, 第 53 回藤田医科大学医学会シンポジウム「がん

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Ebi H** : Perspectives for the future target therapy to colorectal cancer. 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [シンポジウム]
- 002 **Ebi H** : Development of targeted therapies against tumors with aberrant MAPK signaling. The JCA-Mauverney Awards Session 第 80 回日本癌学会学術総会, 2021, (横浜), [受賞講演]
- 003 **Ebi H** : Mechanisms of resistance to RAS-targeting therapies. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [シンポジウム]
- 004 **Ebi H** : Targeting mutant KRAS based on its dependency in cancer cell survival. The 25th JFCR - ISCC, 2021, (東京), [招請講演]
- 005 足立雄太, 伊藤健太郎, 木村 令, 山口 類, 衣斐寛倫 : EMT is a cause of both intrinsic and acquired resistance to KRAS G12C inhibitor in KRAS G12C mutant NSCLC. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2021, (Web), [ミニオーラル]
- 006 沖 英次, 竹政伊知朗, 加藤健志, 山崎健太郎, 小高雅人, 渡邊 純, 虫明寛行, 加藤健太郎, 谷口浩也, 中村能章, 小谷大輔, 衣斐寛倫, 山中竹春, 吉野孝之, 森 正樹 : ゲノム解析による外科治療の進歩 ctDNA を利用した大腸癌の術後モニタリングによる治療確立を目指した大規模臨床試験 (会議録). 第 121 回日本外科学会定期学術集会, 2021, (千葉), [口頭]
- 007 渡邊 純, 白数洋充, 池永雅一, 能浦真吾, 山口達郎, 塩澤 学, 賀川義規, 後藤昌弘, 山田 誠, Aleshin Alexey, 由上博喜, 三島沙織, 安藤幸滋, 浜部敦史, 三代雅明, 衣斐寛倫, 小谷大輔, 中村能章, 谷口浩也, 吉野孝之 : Circulating tumor DNA dynamics by adjuvant chemotherapy for resected colorectal cancer CIRCULATE-Japan update. 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2022, (京都), [口頭]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（総長・副総長）

総長

- 001 *Isomura H, Taguchi A, Kajino T, Asai N, Nakatochi M, Kato S, Suzuki K, Yanagisawa K, Suzuki M, Fujishita T, Yamaguchi T, Takahashi M, Takahashi T* : Conditional Ror1 knockout reveals crucial involvement in lung adenocarcinoma development and identifies novel HIF-1 α regulator. *Cancer Sci.* 112: 1614-1623, 2021. doi: 10.1111/cas.14825.
- 002 *Shi H, Niimi A, Takeuchi T, Shiogama K, Mizutani Y, Kajino T, Inada K, Hase T, Hatta T, Shibata H, Fukui T, Chen-Yoshikawa T, Nagano K, Murate T, Kawamoto Y, Tomida S, Takahashi T, Suzuki M* : CEBP γ facilitates lamellipodia formation and cancer cell migration through CERS6 upregulation. *Cancer Sci.* 112: 2770-2780, 2021. doi: 10.1111/cas.14928
- 003 *Daikuzono H, Yamazaki M, Sato Y, Takahashi T, Yamagata K* : Development of a DELFIA method to detect oncofetal antigen ROR1-positive exosomes. *Biochem Biophys Res Commun.* 578: 170-176, 2021. doi: 10.1016/j.bbrc.2021.08.054.
- 004 *Cheng Z, Akatsuka S, Li GH, Mori K, Takahashi T, Toyokuni S* : Ferroptosis resistance determines high susceptibility of murine A/J strain to iron-induced renal carcinogenesis. *Cancer Sci.* 113: 65-78, 2022. doi: 10.1111/cas.15175.

副総長

- 001 *Onoe S, Yokoyama Y, Ebata T, Igami T, Mizuno T, Yamaguchi J, Watanabe N, Suzuki S, Nishiwaki K, Ando M, Nagino M* : Impact of perioperative steroids administration in patients undergoing major hepatectomy with extrahepatic bile duct resection: A randomized controlled trial. *Ann Surg Oncol.* 28: 121-130, 2021.
- 002 *Sugita S, Kinoshita T, Kuwata T, Tokunaga M, Kaito A, Watanabe M, Tonouchi A, Sato R, Nagino M* : Long-term oncological outcomes of laparoscopic versus open transhiatal resection for patients with Siewert type II adenocarcinoma of the esophagogastric junction. *Surg Endosc.* 35: 340-348, 2021.
- 003 *Suenaga M, Yokoyama Y, Fujii T, Yamada S, Yamaguchi J, Hayashi M, Asahara T, Nagino M, Kodera Y* : Impact of qualitative and quantitative biliary infectious status on the incidence of postoperative infectious complications in patients undergoing pancreatoduodenectomy. *Ann Surg Oncol.* 28: 560-569, 2021.
- 004 *Yonekawa Y, Uehara K, Mizuno T, Aiba T, Ogura A, Yokoyama Y, Ebata T, Kodera Y, Nagino M* : The survival benefit of neoadjuvant chemotherapy for resectable colorectal liver metastases with high tumor burden score. *Int J Clin Oncol.* 26: 126-134, 2021.
- 005 *Ishii K, Yokoyama Y, Ebata T, Igami T, Mizuno T, Yamaguchi J, Onoe S, Watanabe N, Nagino M* : Impact of the preoperative body composition indexes on intraoperative blood loss in patients undergoing pancreatoduodenectomy. *Surg Today.* 51: 52-60, 2021.
- 006 *Tanaka H, Igami T, Shimoyama Y, Ebata T, Yokoyama Y, Mizuno T, Mori K, Nagino M* : New method of the assessment of perineural invasion from perihilar cholangiocarcinoma. *Surg Today.* 51: 136-143, 2021.
- 007 *Nagino M, Hirano S, Yoshitomi H, Aoki T, Uesaka K, Unno M, Ebata T, Konishi M, Sano K, Shimada K, Shimizu H, Higuchi R, Wakai T, Isayama H, Okusaka T, Tsuyuguchi T, Hirooka Y, Furuse J, Maguchi H, Suzuki K, Yamazaki H, Kijima H, Yanagisawa A, Yoshida M, Yokoyama Y, Mizuno T, Itaru E* : Clinical practice guidelines for the management of biliary tract cancers 2019: the 3rd English edition. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 28: 26-54, 2021.
- 008 *Shinohara K, Ebata T, Shimoyama Y, Mizuno T, Yokoyama Y, Yamaguchi J, Onoe S, Watanabe N, Nagino M* : A study on radial margin status in resected perihilar cholangiocarcinoma. *Ann Surg.* 273: 572-578, 2021.
- 009 *Watanabe M, Kuwata T, Setsuda A, Tokunaga M, Kaito A, Sugita S, Tonouchi A, Kinoshita T, Nagino M* : Molecular and pathological analyses of gastric stump cancer by

- next-generation sequencing and immunohistochemistry. *Sci Rep*, 11: 4165, 2021.
- 010 **Suenaga M, Yokoyama Y, Fujii T, Yamada S, Yamaguchi J, Hayashi M, Asahara T, Nagino M, Kodera Y** : Impact of preoperative occult-bacterial translocation on surgical site infection in patients undergoing pancreatoduodenectomy. *J Am Coll Surg*, 232: 298-306, 2021.
- 011 **Oldhafer KJ, von Hahn T, Arvanitakis M, Nagino M, Torres O** : Improving outcomes in perihilar cholangiocarcinoma. *Visc Med*, 37: 48-51, 2021.
- 012 **Iwase M, Matsuo K, Nakatochi M, Oze I, Ito H, Koyanagi Y, Ugai T, Kasugai Y, Hishida A, Takeuchi K, Okada R, Kubo Y, Shimano C, Tanaka K, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Kuriyama N, Ozaki E, Suzuki S, Watanabe M, Mikami H, Nakamura Y, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Kita Y, Takashima N, Nagino M, Momozawa Y, Kubo M, Wakai K** : Differential effect of polymorphisms on body mass index across the life course of Japanese: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 31:172-179, 2021.
- 013 **Jikei K, Ebata T, Mizuno T, Kyokane T, Matsubara H, Yokoyama S, Kato K, Suzumura K, Hashimoto M, Kawai S, Nagino M** : Oncologic reappraisal of bile duct resection for middle-third cholangiocarcinoma. *Ann Surg Oncol*, 28: 1990-1999, 2021.
- 014 **Asai Y, Igami T, Ebata T, Yokoyama Y, Mizuno T, Yamaguchi J, Onoe S, Watanabe N, Nagino M** : Application of fluorescent cholangiography during single-incision laparoscopic cholecystectomy in the cystohepatic duct without preoperative diagnosis. *ANZ J Surg*, 91: 470-472, 2021.
- 015 **Yokoyama Y, Fukaya M, Mizuno T, Ebata T, Asahara T, Nagino M** : Clinical importance of "occult-bacterial translocation" in patients undergoing highly invasive gastrointestinal surgery: a review. *Surg Today*, 51: 485-492, 2021.
- 016 **Yamaguchi J, Kokuryo T, Yokoyama Y, Ebata T, Ochiai Y, Nagino M** : Premalignant pancreatic cells seed stealth metastasis in distant organs in mice. *Oncogene*, 40: 2273-2284, 2021.
- 017 **Endo I, Hirahara N, Miyata H, Matsuyama R, Kumamoto T, Homma Y, Mori M, Yasuyuki S, Wakabayashi G, Kitagawa Y, Miura F, Kokudo N, Kosuge T, Nagino M, Horiguchi A, Hirano S, Yamaue H, Yamamoto M, Miyazaki M** : Mortality, morbidity, and failure to rescue in hepatopancreatoduodenectomy: An analysis of 422 patients registered in the National Clinical Database in Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 28: 305-316, 2021.
- 018 **Nagino M, Ebata T, Yokoyama Y, Igami T, Mizuno T, Yamaguchi J, Onoe S, Watanabe N** : Hepatopancreatoduodenectomy with simultaneous resection of the portal vein and hepatic artery for locally advanced cholangiocarcinoma: Short- and long-term outcomes of superextended surgery. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 28: 376-386, 2021.
- 019 **Ogura A, Uehara K, Aiba T, Sando M, Tanaka A, Ohara N, Murata Y, Sato Y, Hattori N, Nakayama G, Ebata T, Kodera Y, Nagino M** : Indications for neoadjuvant treatment based on risk factors for poor prognosis before and after neoadjuvant chemotherapy alone in patients with locally advanced rectal cancer. *Eur J Surg Oncol*, 47: 1005-1011, 2021.
- 020 **Nagino M, DeMatteo R, Lang H, Cherqui D, Malago M, Kawakatsu S, Nadalin S, Chapman W, Ebata T, Lodge P, Kato T, Lee SG, Soubrane O, Adam R, Boudjema K, Clary B, Dong J, Endo I, Geller D, Guglielmi A, Aldrighetti L, Pinna A, Polak W, de Santibanes E, de Oliveira M, Clavien PA** : Proposal of a new comprehensive notation for hepatectomy: The New World terminology. *Ann Surg*, 274: 1-3, 2021.
- 021 **Nagino M, Ebata T, Mizuno T** : Oncological superiority of right-sided hepatectomy over left-sided hepatectomy as surgery for Klatskin tumors: truth or biased view? *Ann Surg*, 274: 31-32, 2021.
- 022 **Yokoyama Y, Nagino M, Ebata T** : Importance of "muscle" and "intestine" training before major HPB Surgery: A review. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 28: 545-555, 2021.
- 023 **Muller M, Breuer E, Mizuno T, Bartsch F, Ratti F, Benzing C, Ammar-Khodja N, Sugiura T, Takayashiki T, Hessheimer A, Kim HS, Ruzzenente A, Ahn KS, Wong T, Bednarsch J, D'Silva M, Koerkamp BG, Jeddou H, Lopez-Lopez V, de Ponthaud C, Yonkus JA, Ismail W, Nooijen LE, Hidalgo-Salinas C, Kontis E, Wagner KC, Gunasekaran G, Higuchi R, Gleisner A, Shwaartz C, Sapisochin G, Schulick RD, Yamamoto M, Noji T, Hirano S, Schwartz M, Oldhafer KJ, Prachalias A, Fusai GK, Erdmann JI, Line PD, Smoot RL, Soubrane O, Robles-Campos R, Boudjema K, Polak WG, Han HS, Neumann UP, Lo CM, Kang KJ, Guglielmi A, Park JS, Fondevila C, Ohtsuka M, Uesaka K, Adam R, Pratschke J, Aldrighetti L, De Oliveira ML, Gores GJ, Lang H, Nagino M, Clavien PA** : Perihilar cholangiocarcinoma: Novel benchmark values for surgical and oncological outcomes from 24 expert centers. *Ann Surg*, 274: 780-788, 2021.
- 024 **Nagino M, Clavien PA** : Demise of hilar en bloc resection by no-touch technique as surgery for perihilar cholangiocarcinoma: dissociation between theory and practice. *Ann Surg*, 274: e385-e387, 2021.
- 025 **Onoe S, Ebata T, Yokoyama Y, Igami T, Mizuno T, Yamaguchi J, Watanabe N, Otsuka S, Shimoyama Y, Nakamura S, Nagino M** : A clinicopathological reappraisal of intraductal papillary neoplasm of the bile duct (IPNB): a continuous spectrum with papillary cholangiocarcinoma in 181 curatively resected cases. *HPB*, 23: 1525-1532, 2021.
- 026 **Fukaya M, Yokoyama Y, Usui H, Fujieda H, Sakatoku Y,**

- Takahashi T, Miyata K, Niikura M, Sugimoto T, Asahara T, Nagino M, Ebata T** : Impact of synbiotics treatment on bacteremia induced during neoadjuvant chemotherapy for esophageal cancer: a randomized controlled trial. Clin Nutr, 40: 5781-5791, 2021.
- 027 **Nagino M**: Left hepatic trisectionectomy with caudate lobectomy: demanding but essential routine surgical procedure for perihilar cholangiocarcinoma. Ann Surg, 274: e638-e640, 2021.
- 028 **Aiba T, Uehara K, Ogura A, Tanaka A, Yonekawa Y, Hattori N, Nakayama G, Kodera Y, Ebata T, Nagino M** : The significance of the time to arterial perfusion in intraoperative ICG angiography during colorectal surgery. Surg Endosc, 35: 7227-7235, 2021.
- 029 **Yamashita H, Ohbuchi K, Nagino M, Ebata T, Tsuchiya K, Kushida H, Yokoyama Y** : Comprehensive metabolome analysis for the pharmacological action of inchinkoto, a hepatoprotective herbal medicine. Metabolomics, 17: 106, 2021.
- 030 **Yamashita H, Nishiyama N, Ohbuchi K, Kanno H, Tsuchiya K, Ebata T, Nagino M, Yokoyama Y** : Predicting Inchinkoto efficacy, in patients with obstructive jaundice associated with malignant tumors, through pharmacomicrobiomics. Pharmacol Res, 175: 105981, 2021.
- 031 **Natsume S, Shimizu Y, Okuno M, Kawakatsu S, Matsuo K, Hara K, Ito S, Komori K, Abe T, Nagino M** : Continuous suture is a risk factor for benign hepaticojejunostomy stenosis after pancreatoduodenectomy in patients with a non-dilated bile duct. HPB, 23: 1744-1750, 2021.
- 032 **Hasebe K, Yamaguchi J, Kokuryo T, Yokoyama Y, Ochiai Y, Nagino M, Ebata T** : Trefoil factor family 2 inhibits cholangiocarcinogenesis by regulating the PTEN pathway in mice. Carcinogenesis, 42: 1496-1505, 2021.
- 033 **Mizuno T, Ebata T, Yokoyama Y, Igami T, Yamaguchi J, Onoe S, Watanabe N, Kamei Y, Nagino M** : Combined vascular resection for locally advanced perihilar cholangiocarcinoma. Ann Surg, 275: 382-390, 2022.
- 034 **Edeline J, Hirano S, Bertaut A, Konishi M, Benabdelghani M, Uesaka K, Watelet J, Ohtsuka M, Hammel P, Kaneoka Y, Joly JP, Yamamoto M, Monard L, Ambo Y, Louvet C, Ando M, Maika D, Nagino M, Phelip JM, Ebata T** : Individual patients data meta-analysis of adjuvant gemcitabine-based chemotherapy for biliary tract cancer: combined analysis of the BCAT and PRODIGE-12 studies. Eur J Cancer, 164: 80-87, 2022.
- 035 **Yamaguchi J, Yokoyama Y, Fujii T, Yamada S, Takami H, Kawashima H, Ohno E, Ishikawa T, Maeda O, Ogawa H, Kodera Y, Nagino M, Ebata T** : Results of a phase II study on the use of neoadjuvant chemotherapy (FORFIRINOX or gemcitabine/nab-paclitaxel) for borderline-resectable pancreatic cancer (NUPAT-01). Ann Surg, 275: 1043-1049, 2022.
- 036 **Nagino M**: Perihilar cholangiocarcinoma: A Surgeon's perspective, iLiver, 1: 12-24, 2022.
- 037 **Nagino M** : Hepatopancreatoduodenectomy with simultaneous resection of the portal vein and hepatic artery: Ultimate superextended surgery for advanced perihilar cholangiocarcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Sci, 29: 597-599, 2022.
- 038 **椰野正人** : 巻頭言—肝内・肝外, 境界はどこ?—. 肝胆膵, 82: 171-173, 2021.
- 039 **椰野正人, 川勝章司, 奥野正隆, 夏目誠治, 清水泰博, 尾上俊介, 江畑智希** : 令和時代における尾状葉のすべて—肝門部領域胆管癌切除における尾状葉切除—. 肝胆膵, 82: 697-704, 2021.
- 040 **尾上俊介, 椰野正人** : IV 章 疾患 A.16. 管細胞癌 (肝内胆管癌). 消化器疾患最新の治療 305-308, 2021-2022.

5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病院長

- 001 **Morita S, Goda K, Yano T, Kaise M, Kato M, Inoue H, Niwa Y, Kodashima S, Miyahara R, Ochiai A, Ikegami M, Hamatani S, Shimoda T, Ohkura Y, Aida J, Nakanishi Y, Yoshimura K, Ishikawa H, Takubo K, Muto M.** : Multicenter prospective in vivo study of an endocytoscope system (ECS) for superficial esophageal cancer. *J Gastroenterol*, 56(9): 808-813, 2021.
- 002 水口昌伸 (佐賀大学 医学部放射線科), 宮川国久, 今武和弘, 大泉晴史, 大黒隆司, 中島滋美, 丹羽 康正, 藤谷幹浩, 松浦隆志, 水谷 勝, 北川晋二, 平井都始子, 日本消化器がん検診学会全国集計委員会 : 2018 年度消化器がん検診全国集計 胃がん検診全国集計 内視鏡検診全国集計 大腸がん検診全国集計 超音波検診全国集計. *日本消化器がん検診学会雑誌*, 60(1): 53-87, 2022.

消化器内科

- 001 **Koda H, Hara K, Okuno N, Kuwahara T, Mizuno N, Haba S, Miyano A, Isomoto H** : High-Resolution Probe-Based Confocal Laser Endomicroscopy for Diagnosing Biliary Diseases. *Clin Endosc*, 54(6): 924-929, 2021.
- 002 **Elshair M, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Okuno N, Bakr A, Abu-Amer MZ** : Combined duodenal stenting and endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy using forward-viewing echoendoscope: a one-scope technique. *Endoscopy*, doi: 10.1055/a-1640-8177, 2021.
- 003 **Elshair M, Hara K, Kuwahara T, Okuno N, Haba S, Soliman G, Massoud A** : Utility of stent-in-stent technique in management of post-pancreatitis splenic abscess using forward-viewing echoendoscope. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 28(9): e40-e41, 2021.
- 004 **Nakazawa T, Narita Y, Kumanishi R, Ogata T, Matsubara Y, Nozawa K, Kato K, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Hara K, Tajika M, Muro K** : Second-line Chemotherapy for Previously Treated Metastatic Small Bowel Adenocarcinoma: A Retrospective Analysis. *Anticancer Res*, 41(10): 5147-5155, 2021.
- 005 **Dayde D, Gunther J, Hirayama Y, Weksberg DC, Boutin A, Parhy G, Aguilar-Bonavides C, Wang H, Katayama H, Abe Y, Do KA, Hara K, Kinoshita T, Komori K, Shimizu Y, Tajika M, Niwa Y, Wang YA, DePinho R, Hanash S, Krishnan S, Taguchi A** : Identification of Blood-Based Biomarkers for the Prediction of the Response to Neoadjuvant Chemoradiation in Rectal Cancer. *Cancers (Basel)*, 13(14): 3642, 2021.
- 006 **Hayashi D, Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Okuno M, Matsuo K, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K** : Survival benefit of surgery for very elderly patients with pancreatic cancer: what extent of pancreatectomy is acceptable?. *Nagoya J Med Sci*, 83(2): 239-250, 2021.
- 007 **Elshair M, Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Miyano A, Mizuno N, Massoud A** : Use of double biopsy forceps: A novel technique for safe removal of migrating stent after EUS-guided pancreatic drainage. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 28(4): e11-e12, 2021.
- 008 **Hayashi S, Takenaka M, Kogure H, Yakushijin T, Maruyama H, Hori Y, Yoshio T, Ikezawa K, Takagi T, Asai S, Matsunaga K, Matsumoto K, Tsumura H, Yamaguchi S, Sumiyoshi T, Nagaike K, Tamaru Y, Hara K, Fujisawa T, Oda I, Ohnita K, Kato M, Nebiki H, Mikami T, Nishihara A, Egawa S, Minami R, Hosono M, Nishida T** : A questionnaire survey on radiation protection among 282 medical staff from 26 endoscopy-fluoroscopy departments in Japan. *DEN open*, 1(1): e5, 2021.
- 009 **Kanno A, Yasuda I, Irisawa A, Hara K, Ashida R, Iwashita T, Takenaka M, Katanuma A, Takikawa T, Kubota K, Kato H, Nakai Y, Ryozaawa S, Kitano M, Isayama H, Kamada H, Okabe Y, Hanada K, Ohtsubo K, Doi S, Hisai H, Shibukawa G, Imazu H, Masamune A** : Adverse events of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for histologic diagnosis in Japanese tertiary centers: Multicenter retrospective study. *Dig Endosc*, 33(7): 1146-1157, 2021.
- 010 **Natsume S, Shimizu Y, Okuno M, Kawakatsu S, Matsuo K, Hara K, Ito S, Komori K, Abe T, Nagino M** : Continuous suture is a risk factor for benign hepaticojejunostomy stenosis after pancreatoduodenectomy in patients with a non-dilated bile duct. *HPB (Oxford)*, 23(11): 1744-1750, 2021.
- 011 **Aritake T, Higaki E, Abe T, Hara K, Suenaga Y, Kunitomo A, Oki S, Nagao T, Hosoi T, Ito S, Komori K, Shimizu Y** : Bronchial fistula and esophageal stricture following endoscopic trans-gastric drainage for a mediastinal pancreatic pseudocyst. *Clin J Gastroenterol*, 14(2): 466-470, 2021.
- 012 **Matsumoto K, Hara K, Yasuda I, Itoi T, Kurumi H, Matsumoto S, Doi S, Honjo M, Takeda Y, Shibuya J, Noma H, Isomoto H** : Usefulness of a target sample check illuminator in the detection of target specimens in endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy samples: Multicenter prospective study. *Dig Endosc*, 33(6): 970-976, 2021.
- 013 **Hara K, Okuno N, Haba S, Kuwahara T, Kuraishi Y, Yanaidani T, Fumihara D, Yamada M, Yasuda T, Ishikawa S** : Utility of a novel drill dilator for easier EUS-guided

- pancreatic duct drainage. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, doi: 10.1002/jhbp.1130, 2022.
- 014 **Inaba Y, Hijioka S, Iwama I, Asai T, Miyamura H, Chatani S, Hasegawa T, Murata S, Kato M, Sato Y, Yamaura H, Onaya H, Shimizu J, Hara K** : Clinical usefulness of Somatostatin Receptor Scintigraphy in the Diagnosis of Neuroendocrine Neoplasms. *Asia Ocean J Nucl Med Biol*, 10(1):1-13, 2022.
- 015 **Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Hara K, Shimizu Y, Imoto I, Ito H, Matsuo K** : New insights into the genetic contribution of ALDH2 rs671 in pancreatic carcinogenesis: Evaluation by mediation analysis. *Cancer Sci*, 113(4):1441-1450, 2022.
- 016 **Watanabe H, Fujishima F, Komoto I, Imamura M, Hijioka S, Hara K, Yatabe Y, Kudo A, Masui T, Tsuchikawa T, Sakamoto K, Shiga H, Nakamura T, Nakaya N, Motoi F, Unno M, Sasano H** : Somatostatin Receptor 2 Expression Profiles and Their Correlation with the Efficacy of Somatostatin Analogues in Gastrointestinal Neuroendocrine Tumors. *Cancers (Basel)*, 14(3):775, 2022.
- 017 **Todaka A, Nara S, Motoi F, Morinaga S, Toshiyama R, Higuchi R, Konishi M, Shirakawa H, Tsumura H, Okuyama H, Nagano H, Shioji K, Sugimachi K, Asagi A, Mizuno N, Furuse J** : Postoperative Treatment of Resectable Pancreatic Cancer With Positive Peritoneal Lavage Cytology: A Multicentre Retrospective Study. *Anticancer Res*, 42(2):893-902, 2022.
- 018 **Yamada I, Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Kataoka T, Ueno M, Ikeda M, Okano N, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Sekimoto M, Tobimatsu K, Yamaguchi H, Nishina T, Shirakawa H, Kojima Y, Oono T, Kawamoto Y, Furukawa M, Iwai T, Sudo K, Okamura K, Yamashita T, Kato N, Shioji K, Shimizu K, Nakagohri T, Kamata K, Ishii H, Furuse J** : The clinical outcomes of combination chemotherapy in elderly patients with advanced biliary tract cancer: an exploratory analysis of JCOG1113. *Sci Rep*, 12(1):987, 2022.
- 019 **Azamoto N, Ueno M, Yanagimoto H, Mizuno N, Kawamoto Y, Maruki Y, Watanabe K, Suzuki R, Kaneko J, Hisada Y, Sato H, Kobayashi S, Miyata H, Furukawa M, Mizukami T, Miwa H, Ohno Y, Tsuji K, Tsujimoto A, Nagano H, Okuyama H, Asagi A, Okano N, Ishii H, Morizane C, Ikeda M, Furuse J** : Endoscopic duodenal stent placement versus gastrojejunostomy for unresectable pancreatic cancer patients with duodenal stenosis before introduction of initial chemotherapy (GASPACHO study): a multicenter retrospective study. *Jpn J Clin Oncol*, 52(2):134-142, 2022.
- 020 **Kobayashi S, Ueno M, Ogawa G, Fukutomi A, Ikeda M, Okusaka T, Sato T, Ito Y, Kadota T, Ioka T, Sugimori K, Sata N, Nakamori S, Shimizu K, Mizuno N, Ishii H, Furuse J** : Impact of Renal Function on S-1 + Radiotherapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer: An Integrated Analysis of Data From 2 Clinical Trials. *Pancreas*, 50(7):965-971, 2021.
- 021 **Ito T, Masui T, Komoto I, Doi R, Osamura RY, Sakurai A, Ikeda M, Takano K, Igarashi H, Shimatsu A, Nakamura K, Nakamoto Y, Hijioka S, Morita K, Ishikawa Y, Ohike N, Kasajima A, Kushima R, Kojima M, Sasano H, Hirano S, Mizuno N, Aoki T, Aoki T, Ohtsuka T, Okumura T, Kimura Y, Kudo A, Konishi T, Matsumoto I, Kobayashi N, Fujimori N, Honma Y, Morizane C, Uchino S, Horiuchi K, Yamasaki M, Matsubayashi J, Sato Y, Sekiguchi M, Abe S, Okusaka T, Kida M, Kimura W, Tanaka M, Majima Y, Jensen RT, Hirata K, Imamura M, Uemoto S** : JNETS clinical practice guidelines for gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms: diagnosis, treatment, and follow-up: a synopsis. *J Gastroenterol*, 56(11):1033-1044, 2021.
- 022 **Masaki Y, Nakase H, Tsuji Y, Nojima M, Shimizu K, Mizuno N, Ikeura T, Uchida K, Ido A, Kodama Y, Seno H, Okazaki K, Nakamura S, Masamune A** : The clinical efficacy of azathioprine as maintenance treatment for autoimmune pancreatitis: a systematic review and meta-analysis. *J Gastroenterol*, 56(10):869-880, 2021.
- 023 **Ueno M, Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Kataoka T, Ikeda M, Ozaka M, Okano N, Sugimori K, Todaka A, Shimizu S, Mizuno N, Yamamoto T, Sano K, Tobimatsu K, Katanuma A, Miyamoto A, Yamaguchi H, Nishina T, Shirakawa H, Kojima Y, Oono T, Kawamoto Y, Furukawa M, Iwai T, Sudo K, Miyakawa H, Yamashita T, Yasuda I, Takahashi H, Kato N, Shioji K, Shimizu K, Nakagohri T, Kamata K, Ishii H, Furuse J** : Comparison of gemcitabine-based chemotherapies for advanced biliary tract cancers by renal function: an exploratory analysis of JCOG1113. *Sci Rep*, 11(1):12885, 2021.
- 024 **Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Toriyama K, Obata M, Kurita Y, Kondo S, Hara K, Bhatia V, Ando M, Niwa Y** : Split-dose low-volume polyethylene glycol is non-inferior but less preferred compared with same-day bowel preparation for afternoon colonoscopy. *Nagoya J Med Sci*, 83(4):787-799, 2021.
- 025 **Haba S, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Miyano A, Fumihara D, Elshair M** : Endoscopic ultrasound-guided portal vein coiling: troubleshooting interventional endoscopic ultrasonography. *Clin Endosc*, doi: 10.5946/ce.2021.114, 2021.
- 026 **Nakaoka K, Hashimoto S, Miyahara R, Kawashima H, Ohno E, Ishikawa T, Kuwahara T, Tanaka H, Hirooka Y** : Current status of the diagnosis of chronic pancreatitis by ultrasonographic elastography. *Korean J Intern Med*, 37(1):27-36, 2022.
- 027 **Hirai K, Kuwahara T, Furukawa K, Kakushima N, Furuse S, Yamamoto H, Marukawa T, Asai H, Matsui K, Sasaki Y, Sakai**

- D, Yamada K, Nishikawa T, Hayashi D, Obayashi T, Komiya T, Ishikawa E, Sawada T, Maeda K, Yamamura T, Ishikawa T, Ohno E, Nakamura M, Kawashima H, Ishigami M, Fujishiro M** : Artificial intelligence-based diagnosis of upper gastrointestinal subepithelial lesions on endoscopic ultrasonography images. *Gastric Cancer*, 25(2): 382-391, 2022.
- 028 **Shimizu Y, Kuwahara T** : Response to the Letter Entitled: "Comment on New Model for Predicting Malignancy in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm by Shimuzi et al". *Ann Surg*, 274(6): e873-e874, 2021.
- 029 **Okuno N, Hara K, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Miyano A, Elshair M** : Removal of embedded partially covered self-expandable metal stents in endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy. *Endoscopy*, 53(7): e249-e250, 2021.
- 030 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Tajika M, Tanaka T, Onishi S, Yamada K, Miyano A, Fumihara D, Elshair M** : Outcomes of Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage in Patients Undergoing Antithrombotic Therapy. *Clin Endosc*, 54(4): 596-602, 2021.
- 031 **Okuno N, Hara K, Haba S, Miyano A, Yanaidani T, Fumihara D, Yoshida M** : Endoscopic necrosectomy using endobronchial ultrasonography and transnasal gastroscopy via the percutaneous route. *Endoscopy*, 54(3): e83-e84, 2022.
- 032 夏目誠治, 千田嘉毅, 奥野正隆, 川勝章司, 原 和生, 清水泰博 : 胆嚢管癌術後に発症した下部胆管癌. *胆道*, 35(4) : 701-706, 2021.
- 033 原 和生, 奥野のぞみ, 柳井谷駿史, 桑原崇通, 羽場真 : 【膵疾患に対する内視鏡診療のすべて】膵癌に対するEUS-FNA 検体を用いたゲノム診断. *消化器内視鏡*, 33(9) : 1419-1422, 2021.
- 034 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 廣野誠子, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 原 和生, 脇岡 範, 柳澤昭夫 : 分枝型IPMNの長期予後と進展様式【IPMN国際診療ガイドライン第3版の検証 今後の改訂に向けて 分枝型IPMNの診療方針選択のアルゴリズム 結節径の悪性診断能と悪性予測モデルの導入. *肝胆膵*, 82(6) : 861-866, 2021.
- 035 原 和生, 奥野のぞみ, 羽場 真, 桑原崇通, 宮野 亮, 吉田将大, 水野伸匡, 清水泰博 : 【各施設での胆膵疾患に対する診療科横断的チーム医療】One Teamによる胆膵癌診療 愛知県がんセンター病院の特色. *胆と膵*, 42(5) : 433-438, 2021.
- 036 田中 努, 田近正洋, 原 和生 : 【消化器癌: 診断と治療のすべて】消化器癌の診断・病期分類・治療・成績 消化管NET 画像診断と内視鏡治療. *消化器外科*, 44(6) : 814-819, 2021.
- 037 夏目誠治, 清水泰博, 原 和生 : 【肝・胆道系症候群 (第3版)—その他の肝・胆道系疾患を含めて—肝外胆道編】胆嚢 腫瘍, 隆起性病変 転移性胆嚢腫瘍. *日本臨床, 別冊 肝・胆道系症候群Ⅲ* : 249-252, 2021.
- 038 原 和生, 奥野のぞみ, 羽場 真, 桑原崇通, 宮野 亮, 吉田将大, 水野伸匡 : 【EUS-BDのすべて】EUS-CDSの手技とコツ. *胆と膵*, 42(4) : 313-317, 2021.
- 039 水野伸匡, 原 和生 : 【膵・胆道癌における薬物療法のすべて】がん薬物療法のエビデンス 転移を伴う膵癌に対する1次薬物療法. *胆と膵*, 42 (特集号) : 1117-1121, 2021.
- 040 水野伸匡, 原 和生 : 【膵神経内分泌腫瘍の病態解明と診療戦略】消化器臓器原発神経内分泌腫瘍におけるO6-methylguanine-DNA-methyltransferase (MGMT)の役割. *胆と膵*, 43(2) : 179-181, 2022.
- 041 羽場 真, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 文原大貴, 柳井谷駿史, 石川 将, 山田真規, 安田 司 : 【胆管癌診療の現況】胆道鏡. *臨床消化器内科*, 36(11) : 1413-1419, 2021.
- 042 羽場 真, 原 和生 : 【肝・胆道系症候群 (第3版)—その他の肝・胆道系疾患を含めて—肝外胆道編】胆嚢 炎症, 感染症 胆嚢結核. *日本臨床, 別冊 肝・胆道系症候群Ⅲ* : 206-209, 2021.
- 043 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 清水泰博 : 【AIの足音は肝胆膵診療に聞こえてきたか!】膵臓学とAI IPMN診断におけるAIの進歩と課題. *肝胆膵*, 84(1) : 69-75, 2022.
- 044 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 清水泰博 : 【AIは外科にどこまで役立つか】AIを用いた膵管内乳頭粘液性腫瘍術前悪性予測の現状. *外科*, 83(11) : 1209-1214, 2021.
- 045 奥野のぞみ : 【胆汁くんの一生にまなぶ胆道ドレナージ】. *消化器ナーシング*, 26(8) : 761-774, 2021.
- 046 倉石康弘, 原 和生, 山田真規, 石川 将, 柳井谷駿史, 文原大貴, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 羽場 真, 水野伸匡 : 胆道がんにおけるEUS-FNAの現状と診断成績. *胆膵 Oncology Forum*, 2(2) : 27-29, 2022.

内視鏡部

- 001 **Ishikawa H, Mutoh M, Sato Y, Doyama H, Tajika M, Tanaka S, Horimatsu T, Takeuchi Y, Kashida H** : Chemoprevention with low-dose aspirin, mesalazine, or both in patients with familial adenomatous polyposis without previous colectomy (J-FAPP Study IV): a multicentre, double-blind, randomised, two-by-two factorial design trial. *Lancet Gastroenterol Hepatol*, 6(6): 474-481, 2021.
- 002 **Ogata T, Narita Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kato K, Nozawa K, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Clinical Impact of Oral Intake in Second-line or Third-line Chemotherapy for 589 Patients With Advanced Gastric Cancer: A Retrospective Cohort Study. *Am J Clin Oncol*, 44(8):

- 388-394, 2021.
- 003 **Kato K, Masuishi T, Fushiki K, Nakano S, Kawamoto Y, Narita Y, Tsushima T, Harada K, Kadowaki S, Todaka A, Yuki S, Tajika M, Machida N, Komatsu Y, Yasui H, Muro K, Kawakami T** : Impact of tumor growth rate during preceding treatment on tumor response to nivolumab or irinotecan in advanced gastric cancer. *ESMO Open*, doi: 10.1016/j.esmoop.2021.100179, 2021.
- 004 **Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Matsumoto S, Toriyama K, Obata M, Kurita Y, Kondo S, Hara K, Bhatia V, Ando M, Niwa Y** : Split-dose low-volume polyethylene glycol is non-inferior but less preferred compared with same-day bowel preparation for afternoon colonoscopy. *Nagoya J. Med. Sci.*, 83(4): 787-799, 2021.
- 005 **Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Tanaka T, Tajika M, Yamaura H, Inaba Y, Shimizu Y** : Retrograde ureteric stenting and ileus tube insertion for a safer reoperation after pelvic exenteration: a case report. *Clin J Gastroenterol.* doi: 10.1007/s12328-022-01609-5, 2022.
- 006 **Matsubara Y, Masuishi T, Ogata T, Nakazawa T, Kato K, Nozawa K, Narita Y, Honda K, Bando H, Taniguchi H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Impact of omitting fluorouracil from FOLFIRI plus bevacizumab as second-line chemotherapy for patients with metastatic colorectal cancer. *J Cancer Res Clin Oncol*, doi: 10.1007/s00432-022-03979-2, 2022.
- 007 **Yoshio T, Minashi K, Mizusawa J, Morita Y, Tajika M, Fujiwara J, Yamamoto Y, Katada C, Hori S, Yano T, Takizawa K, Fukuda H, Muto M** : Effect of chemoradiation on the development of second primary cancers after endoscopic resection of T1 esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, doi: 10.1007/s10388-022-00917-6, 2022.
- 008 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Haba S, Kuwahara T, Koda H, Tajika M, Tanaka T, Onishi S, Yamada K, Miyano A, Fumihara D, Elshair M** : Outcomes of Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage in Patients Undergoing Antithrombotic Therapy. *Clin Endosc.* 54(4): 596-602, 2021.
- 009 **Nakazawa T, Narita Y, Kumanishi R, Ogata T, Matsubara Y, Nozawa K, Kato K, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Hara K, Tajika M, Muro K** : Second-line Chemotherapy for Previously Treated Metastatic Small Bowel Adenocarcinoma: A Retrospective Analysis. *Anticancer Res.* 41(10): 5147-5155, 2021.
- 010 **Dayde D, Gunther J, Hirayama Y, Weksberg DC, Boutin A, Parhy G, Aguilar-Bonavides C, Wang H, Katayama H, Abe Y, Do KA, Hara K, Kinoshita T, Komori K, Shimizu Y, Tajika M, Niwa Y, Wang YA, DePinho R, Hanash S, Krishnan S, Taguchi A** : Identification of Blood-Based Biomarkers for the Prediction of the Response to Neoadjuvant Chemoradiation in Rectal Cancer. *Cancers (Basel)*, 13(14): 3642, 2021.
- 011 **Ishikura N, Ito H, Oze I, Koyanagi YN, Kasugai Y, Taniyama Y, Kawakatsu Y, Tanaka T, Ito S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Matsuo K** : Risk Prediction for Gastric Cancer Using GWAS-Identified Polymorphisms, Helicobacter pylori Infection and Lifestyle-Related Risk Factors in a Japanese Population. *Cancers (Basel)*, 13(1), doi: 10.3390, 2021.
- 012 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Kamiya T, Natsume S, Shimizu Y, Niwa Y** : Juvenile Hepatocellular Carcinoma in a Healthy Liver: A Case Report. *Intern Med*, doi: 10.2169/internalmedicine.8305-21, 2021.
- 013 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Kamiya T, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Nagao T, Inaba Y, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Effect of Body Composition Change during Neoadjuvant Chemotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *J Clin Med*, 11(3): 508, 2021.
- 014 **田近正洋, 正木久典** : 医療従事者に対する大腸内視鏡検査の前処置に関するアンケート調査. *日本消化器がん検診学会誌*, 59(6) : 531-545, 2021.
- 015 **田中明美, 北川功二, 下里和哉, 安部哲也, 田近正洋** : 【NST を見つめ直す—取り組みの実際と今後の展開】がん専門病院における NST. *臨床栄養*, 138(4) : 529-536, 2021.
- 016 **田中 努, 田近正洋, 原 和生** : 【消化器癌; 診断と治療のすべて】 消化器癌の診断・病期分類・治療・成績 消化管 NET 画像診断と内視鏡治療. *消化器外科*, 44(6) : 814-819, 2021.
- 017 **田中 努** : 検査手技 14. 消化管ステント留置術 (食道). *消化器内科専攻医マニュアル* : 117-120, 2022.
- 018 **山田啓策, 田近正洋, 田中 努, 大西祥代, 神谷友康, 丹羽康正** : 【進化する画像診断 - 下部消化管領域】 下部消化管疾患の超音波診断 現状と課題 EUS 大腸腫瘍術前診断における有用性. *臨床消化器内科*, 37(4) : 399-403, 2022.

呼吸器内科部

- 001 **Saito Y, Sasaki S, Oikado K, Tominaga J, Sata M, Sakai F, Kato T, Iwasawa T, Kenmotsu H, Kusumoto M, Baba T, Endo M, Fujiwara Y, Sugiura H, Yanagawa N, Ito Y, Sakamoto T, Ohe Y, Kuwano K** : Radiographic features and poor prognostic factors of interstitial lung disease with nivolumab for non-small cell lung cancer. *Cancer Sci*, 112(4): 1495-1505, 2021.
- 002 **Sata M, Sasaki S, Oikado K, Saito Y, Tominaga J, Sakai F, Kato T, Iwasawa T, Kenmotsu H, Kusumoto M, Baba T, Endo M, Fujiwara Y, Sugiura H, Yanagawa N, Ito Y, Sakamoto T, Ohe Y, Kuwano K** : Treatment and relapse of interstitial lung disease in nivolumab-treated patients with non-small cell lung cancer. *Cancer Sci*, 112(4): 1506-1513,

- 2021.
- 003 **Hibino H, Makino Y, Sakiyama N, Makihara-Ando R, Hashimoto H, Akiyoshi T, Imaoka A, Fujiwara Y, Ohe Y, Yamaguchi M, Ohtani H** : Exacerbation of atrioventricular block associated with concomitant use of amlodipine and aprepitant in a lung cancer patient : A case report. *Int J Clin Pharmacol Ther*, 59(4): 328-332, 2021.
- 004 **Kondo S, Shimizu T, Koyama T, Sato J, Iwasa S, Yonemori K, Fujiwara Y, Shimomura A, Kitano S, Tamura K, Yamamoto N** : First-in-human study of the cancer peptide vaccine TAS0313 in patients with advanced solid tumors. *Cancer Sci*, 112(4): 1514-1523, 2021.
- 005 **Fujiwara Y, Kenmotsu H, Yamamoto N, Shimizu T, Yonemori K, Ocampo C, Parikh A, Okubo S, Fukasawa K, Murakami H** : Phase 1 study of telisotuzumab vedotin in Japanese patients with advanced solid tumors. *Cancer Med*, 10(7): 2350-2358, 2021.
- 006 **Takahashi S, Fujiwara Y, Nakano K, Shimizu T, Tomomatsu J, Koyama T, Ogura M, Tachibana M, Kakurai Y, Yamashita T, Sakajiri S, Yamamoto N** : Safety and pharmacokinetics of milademetan, a MDM2 inhibitor, in Japanese patients with solid tumors:A phase I study. *Cancer Sci*, 12(6): 2361-2370, 2021.
- 007 **Shimizu T, Fujiwara Y, Yonemori K, Koyama T, Sato J, Tamura K, Shimomura A, Ikezawa H, Nomoto M, Furuuchi K, Nakajima R, Miura T, Yamamoto N** : First-in-Human Phase 1 Study of MORAb-202, an Antibody-Drug Conjugate Comprising Farletuzumab Linked to Eribulin Mesylate, in Patients with Folate Receptor- α -Positive Advanced Solid Tumors. *Clin Cancer Res*, 15; 27(14): 3905-3915, 2021.
- 008 **Kubo Y, Ito K, Fujiwara Y, Yoshida T, Kusumoto M** : **Case Report** : SAPHO Syndrome Mimicking Bone Metastases During Treatment with Pembrolizumab for Non-small Cell Lung Cancer. *Front Med (Lausanne)*, 22;8:679111, 2021.
- 009 **Yamaguchi T, Shimizu J, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y, Hanai N, Muro K, Hida T** : Pre-existing interstitial lung disease is associated with onset of nivolumab-induced pneumonitis in patients with solid tumors : a retrospective analysis. *BMC Cancer*, 16;21(1): 924, 2021.
- 010 **Kuroda H, Sakara S, Takahashi Y, Nakada T, Oya Y, Sugita Y, Sakakura N, Matushita H, Sakao Y** : Subsegmental resection preserves regional pulmonary function:A focus on thoracoscopy. *Thorac Cancer*, 12(7): 1033-1040, 2021.
- 011 **Hasegawa T, Kuroda H, Sakakura N, Sato Y, Chatani S, Murata S, Yamaura H, Nakada T, Oya Y, Inaba Y** : Novel strategy to treat lung metastases:Hybrid therapy involving surgery and radiofrequency ablation. *Thorac Cancer*, 12(14): 2085-2092, 2021.
- 012 **Nakada T, Shirai S, Oya Y, Takahashi Y, Sakakura N, Ohtsuka T, Koroda H** : The impact of same-day chest drain removal on pulmonary function after thoracoscopic lobectomy. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 69(4): 690-696, 2021.
- 013 **Masago K, Fujita S, Oya Y, Takahashi Y, Matsushita H, Sasaki E, Kuroda H** : Comparison between Fluorimetry (Qubit)and Spectrophotometry (NanoDrop)in the Quantification of DNA and RNA Extracted from Frozen and FFPE Tissues from Lung Cancer Patients:A Real-World Use of Genomic Tests. *Medicina (Kaunas)*, 17;57(12): 1375, 2021.
- 014 **Yamaguchi T, Shimizu J, Oya Y, Horio Y, Hida T** : Drug-induced Liver Injury in a Patient with Nonsmall Cell Lung Cancer after the Self-Administration of Fenbendazole Based on Social Media Information. *Case Rep Oncol*, 17;14(2): 886-891, 2021.
- 015 **Sakakura N, Nakai A, Suda H, Nakada Matsui T, Nakanishi K, Shirai S, Nakada J, Horio Y, Oya Y, Takahashi Y, Kuroda H** : Life-threatening massive bleeding in the pulmonary trunk adjacent to the right ventricular outflow tract during the resection of large mediastinal germ cell tumor:proposed safety measures in the absence of cardiovascular surgeons:a case report. *Mediastinum*, 25;5:19, 2021.
- 016 **Niwa H, Oki M, Saka H, Torii A, Yamada A, Shigematsu F, Ishida A, Kogure Y** : External fixation of airway stents for upper tracheal stenosis and tracheoesophageal fistula. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*, 19;33(3): 442-447, 2021.
- 017 **Torii A, Oki M, Ishii Y, Yamada A, Shigematsu F, Ishida A, Niwa H, Kogure Y, Kitagawa C, Saka H** : The Role of Rigid Bronchoscopic Intervention for Bronchial Carcinoid. *Tohoku J Exp Med*, 255(2): 105-110, 2021.
- 018 **Yamaguchi T, Shimizu J, Oya Y, Watanabe N, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y, Fujiwara Y** : Risk factors for pneumonitis in patients with non-small cell lung cancer treated with immune checkpoint inhibitors plus chemotherapy: A retrospective analysis. *Thorac Cancer*, 13(5): 724-731, 2022.
- 019 **Watanabe N, Horio Y, Fujiwara Y** : Emerging therapies for non-small cell lung cancer harboring EGFR exon 20 insertion mutations: narrative review. *Pharmacogenomics Research and Personalized Medicine. PHARMACOGENOMICS RESEARCH AND PERSONALIZED MEDICINE*, 10.21037/prpm-21-24, 2022.
- 020 **Horio Y, Tachibana H, Shimizu J, Hosoda W, Fujiwara Y** : Successful IMRT and concurrent chemotherapy for a patient with intrathoracic extensive-stage small cell lung cancer. *Respirol Case Rep*, 9; 10(4): e0919, 2022.
- 021 **清水淳市, 樋田豊明** : 【肺癌診療ガイドライン 2020 年度版を読み解く】 手術不能 III 期非小細胞肺癌の治療. *呼吸器内科*, (1884-2887) 40(1): 21-26, 2021.
- 022 **保本 卓, 石川雅基, 井上政則, 小野澤志郎, 作原祐介,**

佐藤洋造, 高木治行, 中塚誠之, 中村一彦, 藤原寛康, 清水淳市, 山上卓士, 三村秀文, 上嶋英介, ウッドハムス玲子, 大内泰文, 我那覇文清, 桑鶴良平, 高良真一, 小金丸雅道, 駒田智大, 米虫 敦, 塩山靖和, 菅原俊祐, 杉山宗弘, 瀧川政和, 徳江浩之, 中村 恩, 西村潤一, 野口智幸, 橋爪卓也, 橋本政幸, 長谷部光泉, 東浦 涉, 松浦克彦, 松本知博, 村上 優, 矢田晋作, 山西伴明: 日本 IVR 学会: 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌, (1340-4520) 36(1): 82-98, 2021.

- 023 稲葉吉隆, 女屋博昭, 清水淳市, 渡辺尚宏, 山口哲平, 大矢由子: がん CT 画像読影のひきだし. 医学書院, 2022.

血液・細胞療法部

- 001 *Yanada M, Yamamoto K*: Hematopoietic cell transplantation for mantle cell lymphoma. *Int J Hematol.* 115:301-309, 2022.
- 002 *Harada K, Mizuno S, Yano S, Takami A, Ishii H, Ikegame K, Najima Y, Kako S, Ashida T, Shiratori S, Ota S, Onizuka M, Fukushima K, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M*: Donor lymphocyte infusion after haploidentical hematopoietic stem cell transplantation for acute myeloid leukemia. *Ann Hematol.* 101:643-653, 2022.
- 003 *Yanada M, Ota S, Mukae J, Nara M, Kako S, Nishikawa A, Uchida N, Sawa M, Nakano N, Onizuka M, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S*: Autologous hematopoietic cell transplantation during second or subsequent complete remission of acute promyelocytic leukemia: a prognostic factor analysis. *Bone Marrow Transplant.* 57:78-82, 2022.
- 004 *Kanda J, Hayashi H, Ruggeri A, Kimura F, Volt F, Takahashi S, Kako S, Tozatto-Maio K, Yanada M, Sanz G, Uchida N, Angelucci E, Kato S, Mohty M, Forcade E, Tanaka M, Sierra J, Ohta T, Saccardi R, Fukuda T, Ichinohe T, Kimura T, Rocha V, Okamoto S, Nagler A, Atsuta Y, Gluckman E*: The impact of GVHD on outcomes after adult single cord blood transplantation in European and Japanese populations. *Bone Marrow Transplant.* 57:57-64, 2022.
- 005 *Yanada M, Mizuno S, Yamasaki S, Harada K, Konuma T, Tamaki H, Shingai N, Uchida N, Ozawa Y, Tanaka M, Onizuka M, Sawa M, Nakamae H, Shiratori S, Matsuoka KI, Eto T, Kawakita T, Maruyama Y, Ichinohe T, Kanda Y, Atsuta Y, Aoki J, Yano S*: Difference in outcomes following allogeneic hematopoietic cell transplantation for patients with acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndromes. *Leuk Lymphoma.* 62:3411-3419, 2021.
- 006 *Yanada M, Konuma T, Yamasaki S, Harada K, Iwasaki M, Kobayashi A, Nishijima A, Tanaka M, Uchida N, Nakamae H, Fukuda T, Onizuka M, Ozawa Y, Sawa M, Katayama Y, Yoshioka S, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J, Yano*

S: Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation from Alternative Donors in Acute Myelogenous Leukemia: A Comparative Analysis. *Transplant Cell Ther.* 27:1005.e1-1005.e8, 2021.

- 007 *Yanada M, Konuma T, Yamasaki S, Mizuno S, Hirabayashi S, Nishiwaki S, Uchida N, Doki N, Tanaka M, Ozawa Y, Sawa M, Eto T, Kawakita T, Ota S, Fukuda T, Onizuka M, Kimura T, Atsuta Y, Kako S, Yano S*: The differential effect of disease status at allogeneic hematopoietic cell transplantation on outcomes in acute myeloid and lymphoblastic leukemia. *Ann Hematol.* 100:3017-3027, 2021.
- 008 *Konuma T, Kondo T, Masuko M, Shimizu H, Shiratori S, Fukuda T, Kato J, Sawa M, Ozawa Y, Ota S, Uchida N, Kanda Y, Kako S, Fujisawa S, Fukushima K, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M*: Prognostic value of measurable residual disease at allogeneic transplantation for adults with core binding factor acute myeloid leukemia in complete remission. *Bone Marrow Transplant.* 56:2779-2787, 2021.
- 009 *Kurosawa S, Mizuno S, Arai Y, Masuko M, Kanda J, Kohno K, Onai D, Fukuda T, Ozawa Y, Katayama Y, Tanaka M, Ikegame K, Uchida N, Eto T, Ota S, Tanaka J, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M*: Syngeneic hematopoietic stem cell transplantation for acute myeloid leukemia: a propensity score-matched analysis. *Blood Cancer J.* 11:159, 2021.
- 010 *Shimomura Y, Hara M, Hirabayashi S, Kondo T, Mizuno S, Uchida N, Mukae J, Kawakita T, Fukuda T, Kanda Y, Ota S, Ozawa Y, Eto T, Maruyama Y, Tanaka M, Nakano N, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M*: Comparison of fludarabine, a myeloablative dose of busulfan, and melphalan vs conventional myeloablative conditioning regimen in patients with relapse and refractory acute myeloid leukemia in non-remission status. *Bone Marrow Transplant.* 56:2302-2304, 2021.
- 011 *Konuma T, Kanda J, Kuwatsuka Y, Yanada M, Kondo T, Hirabayashi S, Kako S, Akahoshi Y, Uchida N, Doki N, Ozawa Y, Tanaka M, Eto T, Sawa M, Yoshioka S, Kimura T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Kimura F*: Differential effect of graft-versus-host disease on survival in acute leukemia according to donor type. *Clin Cancer Res.* 27:4825-4835, 2021.
- 012 *Yanada M, Uchida N, Ichinohe T, Fukuda T, Kanda J, Kanda Y, Atsuta Y, Nakasone H*: Does one model fit all? Predicting non-relapse mortality after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Bone Marrow Transplant.* 56:1720-1722, 2021.
- 013 *Hirabayashi S, Uozumi R, Kondo T, Arai Y, Kawata T, Uchida N, Marumo A, Ikegame K, Fukuda T, Eto T, Tanaka M, Wake A, Kanda J, Kimura T, Tabuchi K, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M, Yano S*: Personalized prediction of overall survival in patients with AML in non-complete remission undergoing allo-HCT. *Cancer Med.* 10:4250-4268, 2021.
- 014 *Yanada M*: The evolving concept of indications for

- allogeneic hematopoietic cell transplantation during first complete remission of acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant.* 56:1257-1265, 2021.
- 015 **Isobe M, Konuma T, Masuko M, Uchida N, Miyakoshi S, Sugio Y, Yoshida S, Tanaka M, Matsuhashi Y, Hattori N, Onizuka M, Aotsuka N, Kouzai Y, Wake A, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M** : Single cord blood transplantation for acute myeloid leukemia patients aged 60 years or older: a retrospective study in Japan. *Ann Hematol.* 100:1849-1861, 2021.
- 016 **Arai Y, Konuma T, Yanada M** : Hematopoietic cell transplantation in adults with acute myeloid leukemia: A review of the results from various nationwide registry studies in Japan. *Blood Cell Therapy.* 4:35-43, 2021.
- 017 **Yanada M, Konuma T, Yamasaki S, Kondo T, Fukuda T, Shingai N, Sawa M, Ozawa Y, Tanaka M, Uchida N, Nakamae H, Katayama Y, Matsuoka KI, Kimura T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S** : Relapse of acute myeloid leukemia after allogeneic hematopoietic cell transplantation: clinical features and outcomes. *Bone Marrow Transplant.* 56:1126-1133, 2021.
- 018 **Konuma T, Kanda J, Yamasaki S, Harada K, Shimomura Y, Terakura S, Mizuno S, Uchida N, Tanaka M, Doki N, Ozawa Y, Nakamae H, Sawa M, Matsuoka KI, Morishige S, Maruyama Y, Ikegame K, Kimura T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M** : Single Cord Blood Transplantation Versus Unmanipulated Haploidentical Transplantation for Adults with Acute Myeloid Leukemia in Complete Remission. *Transplant Cell Ther.* 27:334.e1-334.e11, 2021.
- 019 **Mizuno S, Takami A, Kawamura K, Arai Y, Kondo T, Kawata T, Uchida N, Marumo A, Fukuda T, Tanaka M, Ozawa Y, Yoshida S, Ota S, Takada S, Sawa M, Onizuka M, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M** : Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Adolescent and Young Adult Patients with Acute Myeloid Leukemia. *Transplant Cell Ther.* 27:314.e1-314.e10, 2021.
- 020 **Ueda N, Konuma T, Aoki J, Takahashi S, Ozawa Y, Mori T, Ota S, Eto T, Takada S, Yoshioka S, Shiratori S, Kako S, Onizuka M, Fukuda T, Kanda Y, Atsuta Y, Yanada M** : Prognostic Impact of the Fractionation of Total Body Irradiation for Patients with Acute Myeloid Leukemia Undergoing Myeloablative Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation. *Transplant Cell Ther.* 27:185.e1-185.e6, 2021.
- 021 **Yanada M, Konuma T, Mizuno S, Saburi M, Shinohara A, Tanaka M, Marumo A, Sawa M, Uchida N, Ozawa Y, Onizuka M, Yoshioka S, Nakamae H, Kondo T, Kimura T, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Nakasone H, Yano S** : Predicting non-relapse mortality following allogeneic hematopoietic cell transplantation during first remission of acute myeloid leukemia. *Bone Marrow Transplant.* 56:387-394, 2021.
- 022 **Mizuno S, Yanada M, Kawamura K, Masuko M, Uchida N, Ozawa Y, Iwato K, Ohashi K, Ikegame K, Kim SW, Tanaka M, Eto T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Yano S, Takami A** : Allogeneic hematopoietic cell transplantation efficacy in patients with Philadelphia chromosome-positive acute myeloid leukemia in complete remission. *Bone Marrow Transplant.* 56: 232-242, 2021.
- 023 **Sakakibara A, Suzuki Y, Kato H, Yamamoto K, Sakata-Yanagimoto M, Ishikawa Y, Furukawa K, Shimada K, Kohno K, Nakamura S, Satou A, Kato S** : Follicular T-cell lymphoma mimicking lymphocyte-rich classic Hodgkin lymphoma: a case report of a diagnostic pitfall. *J Clin Exp Hematop.* 61 (2): 97-101, 2021.
- 024 **Nakamura N, Maruyama D, Machida R, Ichinohe T, Takayama N, Ohba R, Ohmachi K, Imaizumi Y, Tokunaga M, Katsuya H, Yoshida I, Sunami K, Kurosawa M, Kubota N, Morimoto H, Kobayashi M, Kato H, Kameoka Y, Kagami Y, Kizaki M, Takeuchi K, Munakata W, Iida S, Nagai H** : Single response assessment of transplant-ineligible multiple myeloma: a supplementary analysis of JCOG1105 (JCOG1105S1). *Jpn J Clin Oncol.* 51 (7): 1059-1066, 2021.
- 025 **Kato H, Taji H, Kodaira T, Kinoshita T, Yamamoto K** : Long-term engraftment stability of umbilical cord blood cells preserved in -135 °C mechanical freezers. *Leuk Res.* 2021 Aug; 107: 106590. doi: 10.1016/j.leukres.2021.106590. Epub 2021.
- 026 **Kagami Y, Kato H, Okada Y, Seto M, Yamamoto K** : Establishment of an ATLL cell line (YG-PLL) dependent on IL-2 and IL-4, which are replaced by OX40-ligand+ HK with poly-L-histidine and dermatan sulfate. *J Clin Exp Hematop.* 61 (3): 145-151, 2021.
- 027 **Nowakowski GS, Chiappella A, Gascoyne RD, Scott DW, Zhang Q, Jurczak W, Özcan M, Hong X, Zhu J, Jin J, Belada D, Bergua JM, Piazza F, Mócikova H, Molinari AL, Yoon DH, Cavallo F, Tani M, Yamamoto K, Izutsu K, Kato K, Czuczman M, Hersey S, Kilcoyne A, Russo J, Hudak K, Zhang J, Wade S, Witzig TE, Vitolo U** : ROBUST: A Phase III Study of Lenalidomide Plus R-CHOP Versus Placebo Plus R-CHOP in Previously Untreated Patients With ABC-Type Diffuse Large B-Cell Lymphoma. *J Clin Oncol.* 39, 1317-1328, 2021.
- 028 **Sakakibara A, Suzuki Y, Kato H, Yamamoto K, Sakata-Yanagimoto M, Ishikawa Y, Furukawa K, Shimada K, Kohno K, Nakamura S, Satou A, Kato S** : Follicular T-cell lymphoma mimicking lymphocyte-rich classic Hodgkin lymphoma: a case report of a diagnostic pitfall. *J Clin Exp Hematop.* 61, 97-101, 2021.
- 029 **Izutsu K, Ando K, Ennishi D, Shibayama H, Suzumiya J, Yamamoto K, Ichikawa S, Kato K, Kumagai K, Patel P, Izumi S, Hayashi N, Kawasumi H, Murayama K, Nagai H** : Safety and antitumor activity of acalabrutinib for relapsed/refractory B-cell malignancies: A Japanese phase I study. *Cancer Sci.* 112, 2405-2415, 2021.

- 030 **Kawai H, Ando K, Maruyama D, Yamamoto K, Kiyohara E, Terui Y, Fukuhara N, Miyagaki T, Tokura Y, Sakata-Yanagimoto M, Igarashi T, Kuroda J, Fujita J, Uchida T, Ishikawa T, Yonekura K, Kato K, Nakanishi T, Nakai K, Matsunaga R, Tobinai K** : Phase II study of E7777 in Japanese patients with relapsed/refractory peripheral and cutaneous T-cell lymphoma. *Cancer Sci.* 112, 2426-2435, 2021.
- 031 **Terui Y, Rai S, Izutsu K, Yamaguchi M, Takizawa J, Kuroda J, Ishikawa T, Kato K, Suehiro Y, Fukuhara N, Ohmine K, Goto H, Yamamoto K, Kanemura N, Ueda Y, Ishizawa K, Kumagai K, Kawasaki A, Saito T, Hashizume M, Shibayama H** : A phase 2 study of polatuzumab vedotin + bendamustine + rituximab in relapsed/refractory diffuse large B-cell lymphoma. *Cancer Sci.* 112, 2845-2854, 2021.
- 032 **Kato H, Taji H, Kodaira T, Kinoshita T, Yamamoto K** : Long-term engraftment stability of umbilical cord blood cells preserved in -135 °C mechanical freezers. *Leuk Res.* 2021 Aug;107:106590. doi:10.1016/j.leukres.2021. 106590, 2021.
- 033 **Ohnishi K, Ohmachi K, Ando K, Yamamoto K, Ito T, Tanimoto M, Ohbayashi K, Ohyashiki K, Tsukasaki K, Naito K, Suzuki T, Ono T, Miyamura K, Kagami Y, Kinoshita T, Hotta T, Ogura M** : A multicenter, phase II study of R-THP-COP therapy for elderly patients with newly diagnosed, advanced-stage, indolent B-cell lymphoma. *J Clin Exp Hematop.* 61, 162-167, 2021.
- 034 **Kagami Y, Kato H, Okada Y, Seto M, Yamamoto K** : Establishment of an ATLL cell line (YG-PLL) dependent on IL-2 and IL-4, which are replaced by OX40-ligand+HK with poly-L-histidine and dermatan sulfate. *J Clin Exp Hematop.* 61, 145-151, 2021.
- 035 **Yamamoto K, Shinagawa A, DiNardo CD, Pratz KW, Ishizawa K, Miyamoto T, Komatsu N, Nakashima Y, Yoshida C, Fukuhara N, Usuki K, Yamauchi T, Asada N, Asou N, Choi I, Miyazaki Y, Honda H, Okubo S, Kurokawa M, Zhou Y, Zha J, Potluri J, Matsumura I** : Venetoclax plus azacitidine in Japanese patients with untreated acute myeloid leukemia ineligible for intensive chemotherapy. *Jpn J Clin Oncol.* 2022, 52, 29-38, 2022.
- 036 **Pratz KW, Jonas BA, Pullarkat V, Recher C, Schuh AC, Thirman MJ, Garcia JS, DiNardo CD, Vorobyev V, Fracchiolla NS, Yeh SP, Jang JH, Ozcan M, Yamamoto K, Illes A, Zhou Y, Dail M, Chyla B, Potluri J, Döhner H** : Measurable Residual Disease Response and Prognosis in Treatment-Naïve Acute Myeloid Leukemia With Venetoclax and Azacitidine. *J Clin Oncol.* 2022, 40, 855-865, 2022.
- 037 **Kobayashi T, Yamamoto K, Kagami Y, Machida R, Miyazaki K, Nakamura S, Kuroda J, Maruyama D, Nagai H** : Prognostic value of the Kyoto Prognostic Index in higher-risk diffuse large B-cell lymphomas treated by upfront autologous stem cell transplantation in JCOG0908 trial. *Jpn J Clin Oncol.* 2022 Mar 30: hyac039. doi: 10.1093/jjco/hyac039. Online ahead of print, 2022.
- 038 **上田格弘, 山本一仁** : 「特集 リンパ腫診療」リンパ節腫脹の鑑別診断. *内科* 128: 189-192, 2022
- 039 **山本一仁** : 「特集 急性骨髄性白血病」多剤併用療法の困難な高齢者に対する標的療法の現状と展望. *血液内科* 83: 366-369, 2022.
- 040 **山本一仁** : 「特集 新しいドラッグデリバリーシステムによる抗悪性腫瘍薬」血液疾患領域の抗体-薬物複合体. *がん分子標的薬* 19: 172-179, 2022.
- 041 **加藤春美, 山本一仁** : パーキットリンパ腫. 専門医のための血液病学 (鈴木隆弘, 竹中克斗, 池添隆之 編集) pp217-219, 2022.

薬物療法部

- 001 **Kadowaki S, Masuishi T, Ura T, Sugiyama K, Mitani S, Narita Y, Taniguchi H, Muro K** : A triplet combination of FOLFOXIRI plus cetuximab as first-line treatment in RAS wild-type, metastatic colorectal cancer: a dose-escalation phase Ib study. *Int J Clin Oncol.* 26(4): 701-707, 2021.
- 002 **Wainberg ZA, Fuchs CS, Tabernero J, Shitara K, Muro K, Van Cutsem E, Bang YJ, Chung HC, Yamaguchi K, Varga E, Chen JS, Hochhauser D, Thuss-Patience P, Al-Batran SE, Garrido M, Kher U, Shih CS, Shah S, Bhagia P, Chao J** : Efficacy of Pembrolizumab Monotherapy for Advanced Gastric/Gastroesophageal Junction Cancer with Programmed Death Ligand 1 Combined Positive Score ≥10. *Clin Cancer Res.* 27(7): 1923-1931, 2021.
- 003 **Yoshino T, Uetake H, Funato Y, Yamaguchi Y, Koyama T, Ozawa D, Tajiri M, Muro K** : Post-marketing surveillance study of trifluridine/tipiracil in patients with metastatic colorectal cancer. *Jpn J Clin Oncol.* 51(5): 700-706, 2021.
- 004 **Niisato Y, Moriwaki T, Fukuoka S, Masuishi T, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama A, Denda T, Hatachi Y, Suto T, Sugimoto N, Shimada Y** : Clinical Outcomes Following Trifluridine/Tipiracil Treatment for Patients With Metastatic Colorectal Cancer Ineligible for Regorafenib Treatment. *Anticancer Res.* 41(4): 2203-2207, 2021.
- 005 **Suzuki S, Takahashi A, Ishikawa T, Akazawa K, Katai H, Isobe Y, Miyashiro I, Ono H, Tanabe S, Fukagawa T, Muro K, Nunobe S, Kadowaki S, Suzuki H, Irino T, Usune S, Miyata H, Kakeji Y** : Registration Committee of the Japanese Gastric Cancer Association: Surgically treated gastric cancer in Japan: 2011 annual report of the national clinical database gastric cancer registry. *Gastric Cancer.* 24(3): 545-566, 2021.
- 006 **Yamaguchi K, Fuse N, Komatsu Y, Fujii H, Hironaka S,**

- Omuro Y, Muro K, Yasui H, Ueda S, Nishina T, Watanabe M, Ohtsu A** : Phase II study of cetuximab plus S-1/cisplatin therapy in Japanese patients with advanced gastric cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 51(6): 879-885, 2021.
- 007 **Kagawa Y, Elez E, García-Foncillas J, Bando H, Taniguchi H, Vivancos A, Akagi K, García A, Denda T, Ros J, Nishina T, Baraibar I, Komatsu Y, Ciardiello D, Oki E, Kudo T, Kato T, Yamanaka T, Tabernero J, Yoshino T** : Combined Analysis of Concordance between Liquid and Tumor Tissue Biopsies for RAS Mutations in Colorectal Cancer with a Single Metastasis Site: The METABEAM Study. *Clin Cancer Res*, 27(9): 2515-2522, 2021.
- 008 **Suzuki S, Takahashi A, Ishikawa T, Akazawa K, Katai H, Isobe Y, Miyashiro I, Ono H, Tanabe S, Fukagawa T, Muro K, Nunobe S, Kadowaki S, Suzuki H, Irino T, Usune S, Miyata H, Kakeji Y** : Surgically treated gastric cancer in Japan: 2011 annual report of the national clinical database gastric cancer registry. Registration Committee of the Japanese Gastric Cancer Association. *Gastric Cancer*, 24(3): 545-566, 2021.
- 009 **Kim SY, Lee JS, Kang J, Morita S, Park YS, Sakamoto J, Muro K, Xu RH, Kim TW** : Proton Pump Inhibitor Use and the Efficacy of Chemotherapy in Metastatic Colorectal Cancer: A Post Hoc Analysis of a Randomized Phase III Trial (AXEPT). *Oncologist*, 26(6): e954-e962, 2021.
- 010 **Chao J, Fuchs CS, Shitara K, Tabernero J, Muro K, Van Cutsem E, Bang YJ, De Vita F, Landers G, Yen CJ, Chau I, Elme A, Lee J, Özgüroglu M, Catenacci D, Yoon HH, Chen E, Adelberg D, Shih CS, Shah S, Bhagia P, Wainberg ZA** : Assessment of Pembrolizumab Therapy for the Treatment of Microsatellite Instability-High Gastric or Gastroesophageal Junction Cancer Among Patients in the KEYNOTE-059, KEYNOTE-061, and KEYNOTE-062 Clinical Trials. *JAMA Oncol*, 7(6): 895-902, 2021.
- 011 **Oki E, Watanabe J, Sato T, Kagawa Y, Kuboki Y, Ikeda M, Ueno H, Kato T, Kusumoto T, Masuishi T, Yamaguchi K, Kanazawa A, Nishina T, Uetake H, Yamanaka T, Yoshino T** : Impact of the 12-gene recurrence score assay on deciding adjuvant chemotherapy for stage II and IIIA/B colon cancer: the SUNRISE-DI study. *ESMO Open*, 6(3): 100146, 2021.
- 012 **Siena S, Di Bartolomeo M, Raghav K, Masuishi T, Loupakis F, Kawakami H, Yamaguchi K, Nishina T, Fakih M, Elez E, Rodriguez J, Ciardiello F, Komatsu Y, Esaki T, Chung K, Wainberg Z, Sartore-Bianchi A, Saxena K, Yamamoto E, Bako E, Okuda Y, Shahidi J, Grothey A, Yoshino T** : DESTINY-CRC01 investigators: Trastuzumab deruxtecan (DS-8201) in patients with HER2-expressing metastatic colorectal cancer (DESTINY-CRC01): a multicentre, open-label, phase 2 trial. *Lancet Oncol*, 22(6): 779-789, 2021.
- 013 **Nakajima H, Fukuoka S, Masuishi T, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Negoro Y, Komoda M, Makiyama A, Denda T, Hatachi Y, Suto T, Sugimoto N, Enomoto M, Ishikawa T, Kashiwada T, Ando K, Yuki S, Okuyama H, Kusaba H, Sakai D, Okamoto K, Tamura T, Yamashita K, Goshō M, Moriwaki T** : Clinical Impact of Primary Tumor Location in Metastatic Colorectal Cancer Patients Under Later-Line Regorafenib or Trifluridine/Tipiracil Treatment. *Front Oncol*, 11:688709, 2021.
- 014 **Nakajima H, Kotani D, Bando H, Kato T, Oki E, Shinozaki E, Sunakawa Y, Yamazaki K, Yuki S, Nakamura Y, Yamanaka T, Yoshino T, Ohta T, Taniguchi H, Kagawa Y. REMARRY and PURSUIT trials** : liquid biopsy-guided rechallenge with anti-epidermal growth factor receptor (EGFR) therapy with panitumumab plus irinotecan for patients with plasma RAS wild-type metastatic colorectal cancer. *BMC Cancer*, 21(1): 674, 2021.
- 015 **Miura Y, Ando M, Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Muro K, Hyodo I** : Time-dependent discrepancies between physician-assessed and patient-reported oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in patients with metastatic colorectal cancer who received mFOLFOX6 plus bevacizumab: a post hoc analysis (WJOG4407GSS2). *Support Care Cancer*, 29(7): 3715-3723, 2021.
- 016 **Boku N, Satoh T, Ryu MH, Chao Y, Kato K, Chung HC, Chen JS, Muro K, Kang WK, Yeh KH, Yoshikawa T, Oh SC, Bai LY, Tamura T, Lee KW, Hamamoto Y, Kim JG, Chin K, Oh DY, Minashi K, Cho JY, Tsuda M, Nishiyama T, Chen LT, Kang YK** : Nivolumab in previously treated advanced gastric cancer (ATTRACTION-2): 3-year update and outcome of treatment beyond progression with nivolumab. *Gastric Cancer*, 24(4): 946-958, 2021.
- 017 **Mizukami T, Miyaji T, Narita Y, Matsushima T, Ogura T, Miyagaki H, Kawabata R, Horie Y, Kawaguchi T, Muro K, Hara H, Yamaguchi T, E Nakajima T** : An observational study on nutrition status in gastric cancer patients receiving ramucirumab plus taxane: BALAST study. *Future Oncol*, 17(19): 2431-2438, 2021.
- 018 **Lin CC, Doi T, Muro K, Hou MM, Esaki T, Hara H, Chung HC, Hebwig C, Dussault I, Osada M, Kondo S** : Bintrafusp Alfa, a Bifunctional Fusion Protein Targeting TGF β and PD-L1, in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Results from a Phase 1 Cohort in Asia. *Target Oncol*, 16(4): 447-459, 2021.
- 019 **Motai R, Sawabe M, Kadowaki S, Sasaki E, Nishikawa D, Suzuki H, Beppu S, Terada H, Hanai N** : Clinical impact of weekly paclitaxel plus cetuximab is comparable to the EXTREME regimen for recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol*, 26(7): 1188-1195, 2021.

- 020 **Taniguchi H, Nakamura Y, Kotani D, Yukami H, Mishima S, Sawada K, Shirasu H, Ebi H, Yamanaka T, Aleshin A, Billings PR, Rabinowitz M, Oki E, Takemasa I, Kato T, Mori M, Yoshino T** : CIRCULATE-Japan: Circulating tumor DNA-guided adaptive platform trials to refine adjuvant therapy for colorectal cancer. *Cancer Sci*, 112(7): 2915-2920, 2021.
- 021 **Motai R, Sawabe M, Kadowaki S, Sasaki E, Nishikawa D, Suzuki H, Beppu S, Terada H, Hanai N** : Clinical impact of weekly paclitaxel plus cetuximab is comparable to the EXTREME regimen for recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol*, 26(7): 1188-1195, 2021.
- 022 **Ogata T, Narita Y, Kumanishi R, Nakazawa T, Matsubara Y, Kato K, Nozawa K, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Tajika M, Muro K** : Clinical Impact of Oral Intake in Second-line or Third-line Chemotherapy for 589 Patients With Advanced Gastric Cancer: A Retrospective Cohort Study. *Am J Clin Oncol*, 44(8): 388-394, 2021.
- 023 **Kato K, Masuishi T, Fushiki K, Nakano S, Kawamoto Y, Narita Y, Tsushima T, Harada K, Kadowaki S, Todaka A, Yuki S, Tajika M, Machida N, Komatsu Y, Yasui H, Muro K, Kawakami T** : Impact of tumor growth rate during preceding treatment on tumor response to nivolumab or irinotecan in advanced gastric cancer. *ESMO Open*, 6(4): 100179, 2021.
- 024 **Yamaguchi T, Shimizu J, Hasegawa T, Horio Y, Inaba Y, Hanai N, Muro K, Hida T** : Pre-existing interstitial lung disease is associated with onset of nivolumab-induced pneumonitis in patients with solid tumors: a retrospective analysis. *BMC Cancer*, 21(1): 924, 2021.
- 025 **Shitara K, Özgüroğlu M, Bang YJ, Di Bartolomeo M, Mandalà M, Ryu MH, Caglevic C, Chung HC, Muro K, Van Cutsem E, Kobie J, Cristescu R, Aurora-Garg D, Lu J, Shih CS, Adelberg D, Cao ZA, Fuchs CS** : Molecular determinants of clinical outcomes with pembrolizumab versus paclitaxel in a randomized, open-label, phase III trial in patients with gastroesophageal adenocarcinoma. *Ann Oncol*, 32(9): 1127-1136, 2021.
- 026 **Sunami K, Bando H, Yatabe Y, Naito Y, Takahashi H, Tsuchihara K, Toyooka S, Mimori K, Kohsaka S, Uetake H, Kinoshita I, Komine K, Takeda M, Hayashida T, Tamura K, Nishio K, Yamamoto N** : Working Group of a Joint Task Force of Three Academic Societies for the Promotion of Cancer Genomic Medicine: Appropriate use of cancer comprehensive genome profiling assay using circulating tumor DNA. *Cancer Sci*, 112(9): 3911-3917, 2021.
- 027 **Sugiyama K, Shiraishi K, Sato M, Nishibori R, Nozawa K, Kitagawa C** : Salvage Chemotherapy by FOLFIRI Regimen for Poorly Differentiated Gastrointestinal Neuroendocrine Carcinoma. *J Gastrointest Cancer*, 52(3): 947-951, 2021.
- 028 **Oki E, Ando K, Taniguchi H, Yoshino T, Mori M** : Sustainable Clinical Development of Adjuvant Chemotherapy for Colon Cancer. *Ann Gastroenterol Surg*, 9; 6(1): 37-45, 2021.
- 029 **Adachi Y, Oze I, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Nozawa K, Takatsuka D, Iwata H** : Impact of adjuvant endocrine therapy on prognosis in small hormone receptor-positive, HER2-negative early breast cancer. *Breast Cancer*, 28(5): 1087-1095, 2021.
- 030 **Itoh N, Murakami H, Ishibana Y, Matsubara Y, Yaguchi T, Kamei K** : Challenges in the diagnosis and management of central line-associated blood stream infection due to *Exophiala dermatitidis* in an adult cancer patient. *J Infect Chemother*, 27(9): 1360-1364, 2021.
- 031 **Inoue A, Murata K, Komori T, Takeda T, Fujii M, Yamaguchi T, Yamaguchi T, Masuishi T, Shiota T, Morita S, Suzuki Y, Ito M, Kanemitsu Y, Shiozawa M, Yasui M, Kagawa Y, Sugihara K** : Study Group of Appendiceal Neoplasms from the Japan Society of Colorectal Cancer Research Group: Open versus laparoscopic surgery for primary appendiceal tumors: a large multicenter retrospective propensity score-matched cohort study in Japan. *Surg Endosc*, 35(10): 5515-5523, 2021.
- 032 **Chida K, Kotani D, Masuishi T, Kawakami T, Kawamoto Y, Kato K, Fushiki K, Sawada K, Kumanishi R, Shirasu H, Matsubara Y, Yuki S, Komatsu Y, Yamazaki K, Yoshino T** : The Prognostic Impact of KRAS G12C Mutation in Patients with Metastatic Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Observational Study. *Oncologist*, 26(10): 845-853, 2021.
- 033 **Satoh T, Kato K, Ura T, Hamamoto Y, Kojima T, Tsushima T, Hironaka S, Hara H, Iwasa S, Muro K, Yasui H, Minashi K, Yamaguchi K, Ohtsu A, Doki Y, Matsumura Y, Kitagawa Y** : Five-year follow-up of nivolumab treatment in Japanese patients with esophageal squamous-cell carcinoma (ATTRACTION-1/ONO-4538-07). *Esophagus*, 18(4): 835-843, 2021.
- 034 **Taniguchi H, Yoshino T, Yamaguchi K, Yamazaki K, Nixon AB, Tabernero J, Van Cutsem E, Robling KR, Abada PB, Hozak RR, Siegel R, Fill JA, Wijayawardana S, Walgren RA, Giles B, Jones A, Pitts KR, Drove N, Muro K** : Clinical development and evaluation of a VEGF-D assay in plasma from patients with metastatic colorectal cancer in the RAISE study. *Curr Med Res Opin*, 37(10): 1769-1778, 2021.
- 035 **Catenacci DV, Chao J, Muro K, Al-Batran SE, Klempner SJ, Wainberg ZA, Shah MA, Rha SY, Ohtsu A, Liepa AM, Knoderer H, Chatterjee A, Van Cutsem E** : Toward a Treatment Sequencing Strategy: A Systematic Review of Treatment Regimens in Advanced Gastric Cancer/

- Gastroesophageal Junction Adenocarcinoma. *Oncologist*, 26(10): e1704-e1729, 2021.
- 036 **Nakazawa T, Narita Y, Kumanishi R, Ogata T, Matsubara Y, Nozawa K, Kato K, Honda K, Masuishi T, Bando H, Kadowaki S, Ando M, Hara K, Tajika M, Muro K** : Second-line Chemotherapy for Previously Treated Metastatic Small Bowel Adenocarcinoma: A Retrospective Analysis. *Anticancer Res*, 41(10): 5147-5155, 2021.
- 037 **Kataoka K, Yamada T, Taniguchi H, Ikeda M, Yamazaki K, Kanemitsu Y** : A ctDNA-driven multidisciplinary treatment strategy for resectable colorectal cancer -what surgical oncologists should know. *Eur J Surg Oncol*, S0748-7983(21)00752-6, 2021.
- 038 **Jogo T, Nakamura Y, Shitara K, Bando H, Yasui H, Esaki T, Terazawa T, Satoh T, Shinozaki E, Nishina T, Sunakawa Y, Komatsu Y, Hara H, Oki E, Matsuhashi N, Ohta T, Kato T, Ohtsubo K, Kawakami T, Okano N, Yamamoto Y, Yamada T, Tsuji A, Odegaard JI, Taniguchi H, Doi T, Fujii S, Yoshino T** : Circulating Tumor DNA Analysis Detects FGFR2 Amplification and Concurrent Genomic Alterations Associated with FGFR Inhibitor Efficacy in Advanced Gastric Cancer. *Clin Cancer Res*, 27(20): 5619-5627, 2021.
- 039 **Yamamoto S, Nagashima K, Kawakami T, Mitani S, Komoda M, Tsuji Y, Izawa N, Kawakami K, Yamamoto Y, Makiyama A, Yamazaki K, Masuishi T, Esaki T, Nakajima TE, Okuda H, Moriwaki T, Boku N** : Second-line chemotherapy after early disease progression during first-line chemotherapy containing bevacizumab for patients with metastatic colorectal cancer. *BMC Cancer*, 21(1): 1159, 2021.
- 040 **Nozawa K, Yoshimura A, Iwata H** : Adjuvant Olaparib in BRCA-Mutated Breast Cancer. *N Engl J Med*, 385(15): 1439, 2021.
- 041 **Taniguchi H, Masuishi T, Kawazoe A, Muro K, Kadowaki S, Bando H, Iino S, Kageyama R, Yoshino T** : Phase I study of napabucasin in combination with FOLFIRI+bevacizumab in Japanese patients with metastatic colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*, 26(11): 2017-2024, 2021.
- 042 **Nakamura Y, Fujisawa T, Taniguchi H, Bando H, Okamoto W, Tsuchihara K, Yoshino T, Ohtsu A** : SCRUM-Japan GI-SCREEN and MONSTAR-SCREEN: Path to the realization of biomarker-guided precision oncology in advanced solid tumors. *Cancer Sci*, 112(11): 4425-4432, 2021.
- 043 **Nakamura Y, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Ebi H, Sawada K, Taniguchi H, Fuse N, Nomura S, Fukui M, Matsuda S, Sakamoto Y, Uchigata H, Kitajima K, Kuramoto N, Asakawa T, Olsen S, Odegaard JI, Sato A, Fujii S, Ohtsu A, Yoshino T** : Circulating tumor DNA-guided treatment with pertuzumab plus trastuzumab for HER2-amplified metastatic colorectal cancer: a phase 2 trial. *Nat Med*, 27(11): 1899-1903, 2021.
- 044 **Iwasa S, Muro K, Morita S, Park YS, Nakamura M, Kotaka M, Nishina T, Matsuoka H, Ahn JB, Lee KW, Hong YS, Han SW, Cho SH, Zhang DS, Fang WJ, Bai L, Yuan XL, Yuan Y, Yamada Y, Sakamoto J, Kim TW** : Impact of UGT1A1 genotype on the efficacy and safety of irinotecan-based chemotherapy in metastatic colorectal cancer. *Cancer Sci*, 112(11): 4669-4678, 2021.
- 045 **Van Cutsem E, Amonkar M, Fuchs CS, Alsina M, Özgüroğlu M, Bang YJ, Chung HC, Muro K, Goekkurt E, Benson AB 3rd, Sun W, Wainberg ZA, Norquist JM, Chen X, Shih CS, Shitara K** : Health-related quality of life in advanced gastric/gastroesophageal junction cancer with second-line pembrolizumab in KEYNOTE-061. *Gastric Cancer*, 24(6): 1330-1340, 2021.
- 046 **Okuyama H, Kagawa Y, Masuishi T, Mishima S, Shirasu H, Ando K, Yuki S, Muro K, Yoshino T, Yamazaki K, Oki E, Komatsu Y, Tsuji A** : Infusion-related reaction to ramucirumab plus FOLFIRI in patients with advanced colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*, 26(11): 2025-2028, 2021.
- 047 **Van Cutsem E, Amonkar M, Fuchs CS, Alsina M, Özgüroğlu M, Bang YJ, Chung HC, Muro K, Goekkurt E, Benson AB 3rd, Sun W, Wainberg ZA, Norquist JM, Chen X, Shih CS, Shitara K** : Correction to: Health-related quality of life in advanced gastric/gastroesophageal junction cancer with second-line pembrolizumab in KEYNOTE-061. *Gastric Cancer*, 24(6): 1341, 2021.
- 048 **Arai H, Inoue E, Yamaguchi K, Boku N, Hara H, Nishina T, Tsuda M, Shitara K, Shinozaki K, Nakamura S, Hyodo I, Muro K, Sasako M, Terashima M, Nakajima TE** : Clinical implications of using both fluoropyrimidine and paclitaxel in patients with severe peritoneal metastasis of gastric cancer: A post hoc study of JCOG1108/WJOG7312G. *Cancer Med*, 10(21): 7673-7682, 2021.
- 049 **Muro K** : Lower G. I./Colon and Rectum Cancer Frontiers of Perioperative Treatment for Colorectal Cancer. *Gan To Kagaku Ryoho*, 48(11): 1335-1336, 2021.
- 050 **Mori M, Honda K, Tsubouchi H, Sakata J, Kato S, Suzuki S** : Neoadjuvant chemotherapy for Ewing's sarcoma family tumors of the uterine cervix: A case report. *Gynecol Oncol Rep*, 38: 100895, 2021.
- 051 **Kotani D, Yoshino T, Kotaka M, Kawazoe A, Masuishi T, Taniguchi H, Yamazaki K, Yamanaka T, Oki E, Muro K, Komatsu Y, Bando H, Satake H, Kato T, Tsuji A** : Combination therapy of capecitabine, irinotecan, oxaliplatin, and bevacizumab as a first-line treatment for metastatic colorectal cancer: Safety lead-in results from the QUATTRO-II study. *Invest New Drugs*, 39(6): 1649-1655, 2021.
- 052 **Cao Y, Qin S, Luo S, Li Z, Cheng Y, Fan Y, Sun Y, Yin X, Yuan X, Li W, Liu T, Hsu CH, Lin X, Kim SB, Kojima T,**

- Zhang J, Lee SH, Bai Y, Muro K, Doi T, Bai C, Gu K, Pan HM, Bai L, Yang JW, Cui Y, Lu W, Chen J** : Pembrolizumab versus chemotherapy for patients with esophageal squamous cell carcinoma enrolled in the randomized KEYNOTE-181 trial in Asia. *ESMO Open*, 7(1): 100341, 2021.
- 053 **Narita Y, Sasaki E, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ito S, Yatabe Y, Muro K** : PD-L1 immunohistochemistry comparison of 22C3 and 28-8 assays for gastric cancer. *J Gastrointest Oncol*, 12(6): 2696-2705, 2021.
- 054 **Takahashi Y, Sunakawa Y, Inoue E, Kawabata R, Ishiguro A, Kito Y, Akamaru Y, Takahashi M, Yabusaki H, Matsuyama J, Makiyama A, Tsuda M, Suzuki T, Yasui H, Matoba R, Kawakami H, Nakajima TE, Muro K, Ichikawa W, Fujii M** : Real-world effectiveness of nivolumab in advanced gastric cancer: the DELIVER trial (JACCRO GC-08). *Gastric Cancer*, 25(1): 235-244, 2022.
- 055 **Fuchs CS, Özgüroğlu M, Bang YJ, Di Bartolomeo M, Mandala M, Ryu MH, Fornaro L, Olesinski T, Caglevic C, Chung HC, Muro K, Van Cutsem E, Elme A, Thuss-Patience P, Chau I, Ohtsu A, Bhagia P, Wang A, Shih CS, Shitara K** : Pembrolizumab versus paclitaxel for previously treated PD-L1-positive advanced gastric or gastroesophageal junction cancer: 2-year update of the randomized phase 3 KEYNOTE-061 trial. *Gastric Cancer*, 25(1): 197-206, 2022.
- 056 **Kang YK, Morita S, Satoh T, Ryu MH, Chao Y, Kato K, Chung HC, Chen JS, Muro K, Kang WK, Yeh KH, Yoshikawa T, Oh SC, Bai LY, Tamura T, Lee KW, Hamamoto Y, Kim JG, Chin K, Oh DY, Minashi K, Cho JY, Tsuda M, Sameshima H, Chen LT, Boku N** : Exploration of predictors of benefit from nivolumab monotherapy for patients with pretreated advanced gastric and gastroesophageal junction cancer: post hoc subanalysis from the ATTRACTION-2 study. *Gastric Cancer*, 25(1): 207-217, 2022.
- 057 **Watanabe M, Toh Y, Ishihara R, Kono K, Matsubara H, Murakami K, Muro K, Numasaki H, Oyama T, Ozawa S, Saeki H, Tanaka K, Tsushima T, Ueno M, Uno T, Yoshio T, Usune S, Takahashi A, Miyata H** : Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society: Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2014. *Esophagus*, 19(1): 1-26, 2022.
- 058 **Muro K, Kojima T, Moriwaki T, Kato K, Nagashima F, Kawakami H, Ishihara R, Ogata T, Satoh T, Iwakami K, Han S, Yatsuzuka N, Takami T, Bhagia P, Doi T** : Second-line pembrolizumab versus chemotherapy in Japanese patients with advanced esophageal cancer: subgroup analysis from KEYNOTE-181. *Esophagus*, 19(1): 137-145, 2022.
- 059 **Yamaguchi K, Boku N, Muro K, Yoshida K, Baba H, Tanaka S, Akamatsu A, Sano T** : Real-world safety and effectiveness of nivolumab in Japanese patients with unresectable advanced or recurrent gastric/gastroesophageal junction cancer that has progressed after chemotherapy: a postmarketing surveillance study. *Gastric Cancer*, 25(1): 245-253, 2022.
- 060 **Fakih MG, Kopetz S, Kuboki Y, Kim TW, Munster PN, Krauss JC, Falchook GS, Han SW, Heinemann V, Muro K, Strickler JH, Hong DS, Denlinger CS, Gironi G, Lee MA, Henary H, Tran Q, Park JK, Ngarmchamnanrith G, Prenen H, Price TJ** : Sotorasib for previously treated colorectal cancers with KRASG12C mutation (CodeBreaK100): a prespecified analysis of a single-arm, phase 2 trial. *Lancet Oncol*, 23(1): 115-124, 2022.
- 061 **Yoshikawa AK, Yamaguchi K, Muro K, Takashima A, Ichimura T, Sakai D, Kadowaki S, Chin K, Kudo T, Mitani S, Kitano S, Thai D, Zavadovskaya M, Liu J, Boku N, Satoh T** : Safety and tolerability of andecaliximab as monotherapy and in combination with an anti-PD-1 antibody in Japanese patients with gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma: a phase 1b study. *J Immunother Cancer*, 10(1): e003518, 2022.
- 062 **Takeyama H, Murata K, Takeda T, Fujii M, Kagawa Y, Kawachi H, Yamaguchi T, Noura S, Masuishi T, Inoue A, Takii Y, Suto T, Sakamoto K, Tei M, Kishimoto M, Yao T, Sugihara K (study group of appendiceal neoplasms in Japan Society of Colorectal Cancer Research Group)** : Clinical Significance of Lymph Node Dissection and Lymph Node Metastasis in Primary Appendiceal Tumor Patients After Curative Resection: a Retrospective Multicenter Cohort Study. *J Gastrointest Surg*, 26(1): 128-140, 2022.
- 063 **Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Kamiya T, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Nagao T, Inaba Y, Muro K, Shimizu M, Niwa Y** : Effect of Body Composition Change during Neoadjuvant Chemotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *J Clin Med*, 11(3): 508, 2022.
- 064 **Kataoka K, Yamada T, Taniguchi H, Ikeda M, Yamazaki K, Kanemitsu Y** : A ctDNA-driven multidisciplinary treatment strategy for resectable colorectal cancer -what surgical oncologists should know. *Eur J Surg Oncol*, 48(1): 1-2, 2022.
- 065 **Haddad RI, Seiwert TY, Chow LQM, Gupta S, Weiss J, Gluck I, Eder JP, Burtness B, Tahara M, Keam B, Kang H, Muro K, Albright A, Mogg R, Ayers M, Huang L, Lunceford J, Cristescu R, Cheng J, Mehra R** : Influence of tumor mutational burden, inflammatory gene expression profile, and PD-L1 expression on response to pembrolizumab in head and neck squamous cell carcinoma. *J Immunother Cancer*, 10(2): e003026, 2022.
- 066 **Ogata T, Fujita Y, Muro K** : Dramatic Response to Trastuzumab Deruxtecan Rechallenge in a Patient with HER2-Positive Gastric Cancer: A Case Report. *Am J Case Rep*, 4:23:e935600, 2022.

- 067 **Horisawa N, Adachi Y, Takatsuka D, Nozawa K, Endo Y, Ozaki Y, Sugino K, Kataoka A, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Iwata H** : The frequency of low HER2 expression in breast cancer and a comparison of prognosis between patients with HER2-low and HER2-negative breast cancer by HR status. *Breast Cancer*, 29 (2): 234-241, 2022.
- 068 **Kang YK, Chen LT, Ryu MH, Oh DY, Oh SC, Chung HC, Lee KW, Omori T, Shitara K, Sakuramoto S, Chung IJ, Yamaguchi K, Kato K, Sym SJ, Kadowaki S, Tsuji K, Chen JS, Bai LY, Oh SY, Choda Y, Yasui H, Takeuchi K, Hirashima Y, Hagihara S, Boku N** : Nivolumab plus chemotherapy versus placebo plus chemotherapy in patients with HER2-negative, untreated, unresectable advanced or recurrent gastric or gastro-oesophageal junction cancer (ATTRACTION-4): a randomised, multicentre, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet Oncol*, 23(2): 234-247, 2022.
- 069 **安藤正志** : 総論 がんの診断・治療に関するインフォームド・コンセント. 標準的医療説明 初版, 医学書院 : 36-41, 2021.
- 070 **門脇重憲** : 大腸癌, 肛門がん. 新臨床腫瘍学 改訂第6版, 南江堂 : 429-436, 2021.5, 2021.
- 071 **杉山圭司, 成田有季哉, 室 圭** : 胃がん治療 state-of-the-art (切除不能転移性). 腫瘍内科 第27巻第6号, 科学評論社 : 607-614, 2021.
- 072 **松原裕樹, 坂東英明** : MSS 消化管がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の臨床開発と展望. 腫瘍内科 第27巻第6号, 科学評論社 : 675-682, 2021.
- 073 **安藤正志** : 52 希少がん. 新臨床腫瘍学 改訂第6版, 南江堂 : 721-725, 2021.
- 074 **安藤正志** : 希少がん診療の現状. 腫瘍内科第28巻第1号, 化学評論社 : 2-6, 2021.
- 075 **成田有季哉, 中澤泰子** : 切除不能・再発十二指腸癌を含む小腸癌に MSI 検査, HER2 検査, RAS 遺伝子検査は推奨されるか? . 十二指腸癌診療ガイドライン 2021 年版, 金原出版 : 69-73, 2021.
- 076 **室 圭, 能澤一樹** : 切除不能・再発十二指腸癌を含む小腸癌に免疫チェックポイント阻害薬は推奨されるか? . 十二指腸癌診療ガイドライン 2021 年版, 金原出版 : 78-79, 2021.
- 077 **室 圭 (座談会)** : 消化器病学サイエンス. vol.5 no.3 2021, 先端医学社 : 1-10, 2021.
- 078 **能澤一樹** : 術後 CDK4/6 阻害薬. 腫瘍内科 vol.28 No.3, 科学評論社 : 312-317, 2021.
- 079 **中田晃暢, 舩石俊樹, 室 圭** : 切除不能進行再発大腸癌に対する抗がん化学療法. 臨床現場で役立つ最新の治療 CYRRENT THERAPY, ライフメディコム : 75-82, 2021.
- 080 **松原裕樹, 室 圭** : 胃癌治療ガイドライン 2021. 消化器・肝臓内科第10巻第2号, 科学評論社 : 275-284, 2021.
- 081 **児玉紘幸** : 切除不能進行・再発大腸癌に対する後方ラインにおけるレゴラフェニブ療法と S-1+ ベバシズマブ併用療法の無作為化比較第Ⅱ相試験 (OGSG1301). 癌と化学療法 Vol.48 NO.10, 癌と化学療法 : 1241-1246, 2021.
- 082 **熊西亮介, 門脇重憲, 室 圭** : 免疫チェックポイント阻害剤による消化管がんの治療. *Cefiro* : 最新医療情報誌 34巻, メデカ ジャパン ラボラトリー : 10-18, 2021.
- 083 **門脇重憲** : 頭頸部がんにおけるリキッドバイオプシーの現状と未来. *Precision Medicine* 4巻12号, 北隆館 : 34-38, 2021.
- 084 **門脇重憲** : 切除不能進行再発大腸がんの薬物療法. 日本 IVR 学会雑誌 36巻1号, メディカル教育研究社 : 64-68, 2021.
- 085 **門脇重憲, 橋本直弥** : 眼障害. がん薬物療法の支持療法マニュアル 改訂第2版, 南江堂 : 166-172, 2021.
- 086 **門脇重憲** : 1. 副反応の対策 [3] 腎障害 (シスプラチンの減量規準を含む). 頭頸部がん薬物療法ハンドブック 改訂3版, 中外医学社 : 2021.
- 087 **松原裕樹, 室 圭** : 大腸癌の薬物療法. 専門医のための消化器病学第3版, 医学書院 : 270-273, 2021.
- 088 **中田晃暢, 成田有季哉, 室 圭** : 切除不能進行・再発胃癌に対する最新の化学療法. 消化器クリニカルアップデート 第3巻第1号, 医学図書出版 : 16-24, 2021.
- 089 **室 圭** : 大腸癌周術期治療の最前線 (Current Organ Topics) 総括. 癌と化学療法第48巻第11号, 癌と化学療法社 : 1335, 2021.
- 090 **室 圭** : 編集後記. 癌と化学療法第48巻第11号, 癌と化学療法社 : 2021.
- 091 **室 圭** : グレリン様作用薬アナモレリン塩酸塩の位置づけ アナモレリン塩酸塩の副作用への対応. *PROGRESS IN MEDICINE* 2021 11, ライフ・サイエンス : 73-78, 2021.
- 092 **谷口浩也** : がんゲノム医療におけるリキッドバイオプシーの位置づけと最適化. 腫瘍内科 vol.29 No.1, 科学評論社 : 7-10, 2022.
- 093 **能澤一樹** : 乳がんにおけるゲノム医療. 腫瘍内科 vol.29 No.1, 科学評論社 : 45-50, 2022.
- 094 **門脇重憲** : 頭頸部がん. 腫瘍内科 vol.29 No.1, 科学評論社 : 51-57, 2022.
- 095 **室 圭** : アナモレリン塩酸塩錠. 日本病院薬剤師会雑誌 vol.58 No.1 2022, 日本病院薬剤師会 : 105-108, 2022.
- 096 **谷口浩也** : リキッドバイオプシーを用いた個別化医療 : CIRCULATE-Japan. がん分子標的治療 第19巻第2号, メディカルレビュー社 : 101-103, 2022.
- 097 **門脇重憲** : 頭頸部がん, 食道がん, 胃がん. 腫瘍内科 vol.29 No.2, 科学評論社 : 232-238, 2022.
- 098 **谷口浩也** : 疾患レジストリアルワールドデータの医薬品医療機器承認申請への活用. 腫瘍内科 vol.29 No.3, 科学評論社 : 354-358, 2022.
- 099 **室 圭** : 胃癌悪物療法の考え方 : 総論. 日本臨牀 80 巻増刊号3 臨床胃癌学-基礎・臨床の最新動向, 日本臨牀社 : 251-257, 2022.
- 100 **緒方貴次** : 胃癌の二次治療・三次治療. 日本臨牀 80 巻増刊号3 臨床胃癌学-基礎・臨床の最新動向, 日本臨牀社 :

268-274, 2022.

- 101 児玉紘幸：非治療因子を有する高度進行胃癌．日本臨牀 80 巻増刊号 3 臨牀胃癌学－基礎・臨床の最新動向，日本臨牀社：288-292, 2022.
- 102 松原裕樹：胃癌における術後補助化学療法．日本臨牀 80 巻増刊号 3 臨牀胃癌学－基礎・臨床の最新動向，日本臨牀社：298-303, 2022.
- 103 室 圭：E GFR 阻害薬．がんがみえる第 1 版，メディックメディア：138-141, 2022.
- 104 安藤正志：悪性胸水 悪性腹水 原発不明がん．がんがみえる第 1 版，メディックメディア：594-601, 2022.
- 105 門脇重憲：腹膜播種を有する胃癌に対して免疫チェックポイント阻害剤は全身化学治療として推奨されるか？．腹膜播種診療ガイドライン 2021 年版，金原出版：34-35, 2021.
- 106 門脇重憲：10. その他の臓器横断的バイオマーカー．成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン第 3 版，金原出版：79-95, 2022.

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 **Fujikura K, Hosoda W, Felsenstein M, Song Q, Reiter JG, Zheng L, Beleva Guthrie V, Rincon N, Dal Molin M, Dudley J, Cohen JD, Wang P, Fischer CG, Braxton AM, Noë M, Jongepier M, Fernández-Del Castillo C, Mino-Kenudson M, Schmidt CM, Yip-Schneider MT, Lawlor RT, Sallia R, Roberts NJ, Thompson ED, Karchin R, Lennon AM, Jiao Y, Wood LD.** : Multiregion whole-exome sequencing of intraductal papillary mucinous neoplasms reveals frequent somatic KLF4 mutations predominantly in low-grade regions. *Gut*; 70(5): 928-939, 2021.
- 002 **Takahara T, Satou A, Ishikawa E, Kohno K, Kato S, Suzuki Y, Takahashi E, Ohashi A, Asano N, Tsuzuki T, Nakamura S** : Clinicopathological analysis of neoplastic PD-L1-positive EBV (+) diffuse large B cell lymphoma, not otherwise specified, in a Japanese cohort *Virchows Arch*; 478(3): 541-552, 2021.
- 003 **Tsuyuki Y, Ishikawa E, Kohno K, Shimada K, Ohka F, Suzuki Y, Mabuchi S, Satou A, Takahara T, Kato S, Miyagi S, Ozawa H, Kawano T, Takagi Y, Hiraga J, Wakabayashi T, Nakamura S** : Expression of programmed cell death ligand-1 by immune cells in the microenvironment is a favorable prognostic factor for primary diffuse large B-cell lymphoma of the central nervous system. *Neuropathology*; 41(2): 99-108, 2021.
- 004 **Oon ML, Lim JQ, Lee B, Leong SM, Soon GS, Wong ZW, Lim EH, Li Z, Yeoh AEJ, Chen S, Ban KHK, Chung TH, Tan SY, Chuang SS, Kato S, Nakamura S, Takahashi E, Ho YH, Khoury JD, Au-Yeung RKH, Cheng CL, Lim ST, Chng WJ, Tripodo C, Rotzschke O, Ong CK, Ng SB** : T-Cell Lymphoma Clonality by Copy Number Variation Analysis of T-Cell Receptor Genes *Cancers (Basel)*. 19: 13(2): 340, 2021.
- 005 **Isomura H, Taguchi A, Kajino T, Asai N, Nakatochi M, Kato S, Suzuki K, Yanagisawa K, Suzuki M, Fujishita T, Yamaguchi T, Takahashi M, Takahashi T** : Conditional Ror1 knockout reveals crucial involvement in lung adenocarcinoma development and identifies novel HIF-1 α regulator *Cancer Sci*. 19. PMID: 33506575; PMCID: PMC8019194, 2021.
- 006 **Sakakibara A, Suzuki Y, Kato H, Yamamoto K, Sakata-Yanagimoto M, Ishikawa Y, Furukawa K, Shimada K, Kohno K, Nakamura S, Satou A, Kato S** : Follicular T-cell lymphoma mimicking lymphocyte-rich classic Hodgkin lymphoma: a case report of a diagnostic pitfall. *J Clin Exp Hematop*. 5; 61(2): 97-101, 2021.
- 007 **Sasaki E, Masago K, Fujita S, Iwakoshi A, Kuroda H, Hosoda W** : AKT1 Mutations in Peripheral Bronchiolar Papilloma: Glandular Papilloma and Mixed Squamous Cell and Glandular Papilloma Is Distinct From Bronchiolar Adenoma. *Am J Surg Pathol* ; 45(1): 119-126, 2021.
- 008 **Sugita Y, Kuroda H, Masago K** : Surgical perception of lower tracheal or carinal resection. *Transl Lung Cancer Res*; 10(11): 4310-4312, 2021.
- 009 **Furuta H, Kato S, Masago K, Hida T** : Palmoplantar Pustulosis Caused by Immune-Checkpoint Inhibitors. *Clin Lung Cancer*. ; 16(3): 477-482, 2021.
- 010 **Hiroaki Kuroda, Katsuhiko Masago, Yusuke Takahashi, Shiro Fujita, Eiichi Sasaki, Takeo Nakada, Noriaki Sakakura, Hayao Nakanishi, Hirokazu Matsushita, Yasushi Yatabe** : Positive Correlation Between the Number of Circulating Tumor Cells in the Pulmonary Vein and Tumor Spread Through Air Spaces in Resected Non-small Cell Lung Cancer *Anticancer Res*. ; 41(11): 5499-5505, 2021.
- 011 **Sakuma K, Sasaki E, Hosoda W, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M** : MYB mediates downregulation of the colorectal cancer metastasis suppressor heterogeneous nuclear ribonucleoprotein L-like during epithelial-mesenchymal transition. *Cancer Sci* ; 112(9): 3846-3855, 2021.
- 012 **Matsui T, Sakakura N, Koyama S, Nakanishi K, Sasaki E, Kato S, Hosoda W, Murakami Y, Kuroda H, Yatabe Y** : Comparison of Surgical Outcomes Between Invasive Mucinous and Non-Mucinous Lung Adenocarcinoma. *Ann Thorac Surg*. ; 112(4): 1118-1126, 2021.
- 013 **Furuta H, Araki M, Masago K, Sagae Y, Fujita S, Seto K, Shimizu J, Horio Y, Sasaki E, Hosoda W, Katayama R, Okuno Y, Hida T** : Novel Resistance Mechanisms Including L1196Q, P1094H, and R1248_D1249 Insertion in Three Patients With NSCLC After ALK Tyrosine Kinase Inhibitor Treatment. *J Thorac Oncol*; 16(3): 477-482, 2021.

頭頸部外科部

- 001 **Terada H, Shimode Y, Furukawa M, Sato Y, Hanai N** : The Utility of Ultrasonography in the Diagnosis of Cervical Lymph Nodes after Chemoradiotherapy for Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. *Medicina (Kaunas)*, 57(5): 407, 2021.
- 002 **Kariya S, Shimizu Y, Hanai N, Yasumatsu R, Yokota T, Fujii T, Tsukahara K, Yoshida M, Hanyu K, Ueda T, Hirakawa H, Takahashi S, Ono T, Sano D, Yamauchi M, Watanabe A, Omori K, Yamazaki T, Monden N, Kudo N, Arai M, Yonekura S, Asakage T, Fujiwara A, Yamada T, Homma A** : Effectiveness of nivolumab affected by prior cetuximab use and neck dissection in Japanese patients with recurrent or metastatic head and neck cancer: results from a retrospective observational study in a real-world setting. *Int J Clin Oncol*, 26(6): 1049-1056, 2021.
- 003 **Nishikawa D, Sasaki E, Suzuki H, Beppu S, Sawabe M, Terada H, Sone M, Hanai N** : Treatment outcome and pattern of recurrence of sinonasal squamous cell carcinoma with EGFR-mutation and human papillomavirus. *J Craniomaxillofac Surg*, 49(6): 494-500, 2021.
- 004 **Motai R, Sawabe M, Kadowaki S, Sasaki E, Nishikawa D, Suzuki H, Beppu S, Terada H, Hanai N** : Clinical impact of weekly paclitaxel plus cetuximab is comparable to the EXTREME regimen for recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol*, 26(7): 1188-1195, 2021.
- 005 **Suzuki H, Abe T, Sasaki R, Nagao T, Murashima A, Fujieda H, Higaki E, Hanai N** : Synchronous resection of parotid metastasis with esophagectomy: a case report. *In Vivo*, 35(4): 2337-2340, 2021.
- 006 **Hanai N, Shimizu Y, Kariya S, Yasumatsu R, Yokota T, Fujii T, Tsukahara K, Yoshida M, Hanyu K, Ueda T, Hirakawa H, Takahashi S, Ono T, Sano D, Yamauchi M, Watanabe A, Omori K, Yamazaki T, Monden N, Kudo N, Arai M, Sakurai D, Asakage T, Doi I, Yamada T, Homma A** : Correction to: Effectiveness and safety of nivolumab in patients with head and neck cancer in Japanese real-world clinical practice: a multicentre retrospective clinical study. *Int J Clin Oncol*, 26(5): 1005-1006, 2021.
- 007 **Suzuki H, Tamaki T, Terada H, Nishio M, Nishikawa D, Beppu S, Sawabe M, Hanai N** : Total lesion glycolysis as a predictor of clinical T3-4a laryngeal cancer with laryngectomy or nonlaryngectomy. *Medicine (Baltimore)*, 100(40): e27427, 2021.
- 008 **Suzuki H, Iwaki S, Higaki E, Abe T, Sawabe M, Beppu S, Kobayashi Y, Nishikawa D, Terada H, Hanai N** : Supraclavicular Artery Flap for Oral Reconstruction Prior to Esophagectomy During the COVID-19 Pandemic: A Case Report. *In Vivo*, 35(6): 3597-3601, 2021.
- 009 **Suzuki H, Sasaki E, Takano G, Goto S, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N** : Lymph node ratio as a predictor for minor salivary gland cancer in head and neck. *BMC Cancer*, 21(1): 1186, 2021.
- 010 **Shiga K, Nibu KI, Fujimoto Y, Asakage T, Homma A, Mitani H, Ogawa T, Okami K, Muroso S, Hirano S, Ueda T, Hanai N, Tsukahara K, Ota I, Yoshimoto S, Shinozaki T, Iwae S, Katagiri K, Saito D, Kiyota N, Tahara M, Takahashi F, Hayashi R** : Sites of invasion of cancer of the external auditory canal predicting oncologic outcomes. *Head Neck*, 43(10): 3097-3105, 2021.
- 011 **Yasumatsu R, Shimizu Y, Hanai N, Kariya S, Yokota T, Fujii T, Tsukahara K, Ando M, Hanyu K, Ueda T, Hirakawa H, Takahashi S, Ono T, Sano D, Yamauchi M, Watanabe A, Omori K, Yamazaki T, Monden N, Kudo N, Arai M, Yonekura S, Asakage T, Nekado T, Yamada T, Homma A** : Outcomes of long-term nivolumab and subsequent chemotherapy in Japanese patients with head and neck cancer: 2-year follow-up from a multicenter real-world study. *Int J Clin Oncol*, 27(1): 95-104, 2022.
- 012 **Ishida A, Hanai N, Oki M, Iwakoshi A** : Successful Resection of a Primary Dedifferentiated Tracheal Liposarcoma Causing Tracheal Stenosis. *Intern Med*, 61(5): 719-722, 2022.
- 013 **Nakano S, Okumura Y, Murase T, Nagao T, Kusafuka K, Urano M, Yamamoto H, Kano S, Tsukahara K, Okami K, Kawakita D, Nagao T, Hanai N, Iwai H, Kawata R, Tada Y, Nibu KI, Inagaki H** : Salivary mucoepidermoid carcinoma: Histological variants, grading systems, CRTC1/3-MAML2 fusions, and clinicopathological features. *Histopathology*, 80(4): 729-735, 2022.
- 014 **Suzuki H, Tamaki T, Kodaira T, Nishio M, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N** : Metabolic tumour volume as a predictor of survival for sinonasal tract squamous cell carcinoma. *Diagnostics (Basel)*, 12(1): 146, 2022.
- 015 **Suzuki H, Yokoi M, Hagiwara S, Sasaki E, Kobayashi Y, Iwaki S, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N** : A case of salvage maxillectomy for recurrent oral cancer after boron neutron capture therapy during the COVID-19 pandemic. *Anticancer Res*, 42(3): 1653-1657, 2022.
- 016 **花井信広** : 【口腔癌診療の最前線】 頸部リンパ節転移の取り扱い 早期舌癌に対する予防的頸部郭清術省略に関する臨床試験. *JOHNS*, 37(5): 475-478, 2021.
- 017 **平野 滋, 朝蔭孝宏, 花井信広, 猪原秀典, 日本頭頸部外科学会頸部郭清術の保険点数改訂に向けたワーキンググループ** : 頭頸部悪性腫瘍手術における原発巣切除術と頸部郭清術併施の手術時間に関する全国アンケート調査.

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報, 124(5): 783-789, 2021.
- 018 花井信広: 頭頸部癌に対する免疫チェックポイント阻害薬. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報, 124(9): 1251-1255, 2021.
- 019 萩原純孝, 寺田星乃, 花井信広: 無菌顎上顎欠損に対する口腔内装置製作の臨床的工夫と周術期マネジメント. 顎顔面補綴, 44(2): 42-47, 2021.
- 020 小栗恵介, 西川大輔, 鈴木秀典, 小出悠介, 別府慎太郎, 澤部 倫, 寺田星乃, 西川大祐, 佐々木英一, 花井信広: 経口的切除した中下咽頭癌における頸部リンパ節再発の危険因子. 頭頸部外科, 31(2): 125-133, 2021.
- 021 寺田星乃, 花井信広: 【頸部リンパ節を見直す】頸部リンパ節腫脹 鑑別の手順 頸部リンパ節腫脹の画像診断 超音波検査. JOHNS, 38(3): 271-274, 2022.
- 022 花井信広: 山田邦子のがんとのおやさしい付き合い方 がん細胞だけを破壊! 転移がんにも効果を示す光免疫療法「イルミノックス治療」の最前線. ライフライン 21 がんの先進医療, 44: 44-48, 2022.

形成外科部

- 001 Ozaki Y, Yoshimura A, Sawaki M, Hattori M, Kotani H, Adachi Y, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Endo Y, Nozawa K, Sakamoto S, Takatsuka D, Okumura S, Maruyama Y, Iwata H: The significance of biopsy scar excision at the time of skin- or nipple-sparing mastectomy with immediate breast reconstruction. Jpn J Clin Oncol, 51 8 :1212-1218, 2021.
- 002 Li Y, Kamei Y, Kambe M, Ebisawa K, Oishi M, Takanari K: Peripheral Nerve Regeneration Using Different Germ Layer-Derived Adult Stem Cells in the Past Decade. Behav Neurol, 9, 2021.
- 003 Takanari K, Nakamura Y, Uchibori T, Nakamura R, Ebisawa K, Kambe M, Urakawa H, Nishida N, Kamei Y: A Novel Technique to Lengthen the Reverse Latissimus Dorsi Muscle Flap Arc. Plast Reconstr Surg Glob Open, 9 7, e3525, 2021.
- 004 Iwami K, Fujii M, Nishio N, Maruo T, Fujimoto Y, Takanari K, Kamei Y, Yamada M, Ogawa T, Osuka K, Saito K: Skull Base Invasion Patterns of Malignant Head and Neck Tumors: A Neurosurgical Perspective. J Neurol Surg B Skull Base, 82 suppl3 e120-e130, 2021.
- 005 Iwami K, Fujii M, Nishio N, Maruo T, Yoshida T, Mukoyama N, Osuka K, Takanari K, Murotani K, Kamei Y, Sone M, Fujimoto Y, Saito K: Surgical Classification of Radical Temporal Bone Resection and Transcranial Tympanotomy: A Retrospective Study from the Neurosurgical Perspective. World Neurosurg, 151 e192-e207, 2021.
- 006 Tsukagoshi-Okabe Y, Shimizu S, Suetake Y, Matsui-Hirai H,

- Hasegawa S, Takanari K, Toriyama K, Kamei Y, Yamamoto T, Mizuno M, Gotoh M: Biological characterization of adipose-derived regenerative cells used for the treatment of stress urinary incontinence. Int J Urol, 28 1 115-124, 2021.
- 007 Nakamura Y, Takanari K, Ebisawa K, Uchibori T, Kambe M, Ochiai M, Oishi M, Suzuki H, Kamei Y: Usefulness of a U-shaped vascular clamp for end-to-side anastomosis to the internal jugular vein. J Plast Reconstr Aesthet Surg, 74 2 407-447, 2021.
- 008 鈴木寛久, 高成啓介, 牧田 智, 中村 優, 内堀貴文, 神戸未来, 藤本保志, 内田広夫, 亀井 譲: Floyd I型気管無形成症による食道欠損に対し, 血管付加吻合を伴う有茎空腸移植による食道再建術を行った1例. 日本形成外科学会会誌, 41 10, 588-593, 2021.
- 009 中村 優, 大石真由美, 伊藤弘幸, 内堀貴文, 恒川幸代, 崔 乗奎, 高成啓介: 機械学習を利用した眼瞼下垂のスクリーニングシステムの開発. 日本形成外科学会会誌, 41 4 179-184, 2021.

呼吸器外科部

- 001 Kuroda H, Sugita Y, Masago K, Takahashi Y, Nakada T, Sasaki E, Sakakura N, Yamaguchi R, Matsushita H, Hida T: Clinical Guideline-Guided Outcome Consistency for Surgically Resected Stage III Non-Small Cell Lung Cancer: A Retrospective Study. Cancers (Basel), 21:13 (11): 2531, 2021.
- 002 Kuroda H, Ichinose J, Masago K, Takahashi Y, Nakada T, Nakao M, Okumura S, Hashimoto K, Matsuura Y, Sakakura N, Matsushita H, Mun M: Permissible Outcomes of Lobe-Specific Lymph Node Dissection for Elevated Carcinoembryonic Antigen in Non-Small Cell Lung Cancer. Medicina (Kaunas), 14; 57(12): 1365, 2021.
- 003 Kuroda H, Sakata S, Takahashi Y, Nakada T, Oya Y, Sugita Y, Sakakura N, Matsushita H, Sakao Y: Subsegmental resection preserves regional pulmonary function: A focus on thoracoscopy. Thorac Cancer., 12(7): 1033-1040, 2021.
- 004 Kuroda H, Masago K, Takahashi Y, Fujita S, Sasaki E, Nakada T, Sakakura N, Nakanishi H, Matsushita H, Yatabe Y: Positive Correlation Between the Number of Circulating Tumor Cells in the Pulmonary Vein and Tumor Spread Through Air Spaces in Resected Non-small Cell Lung Cancer. Anticancer Res, 41(11): 5499-5505, 2021.
- 005 Kuroda H, Takahashi Y, Shirai S, Takahara H, Nakada T, Sakakura N, Matsushita H: Survival benefit of immune checkpoint inhibitor monotherapy in patients with non-small cell lung cancer recurrence after completely pulmonary resection. Ann Transl Med, 9(15): 1225,

- 2021.
- 006 **Sakakura N, Nakada T, Shirai S, Takahara H, Nakanishi K, Matsui T, Ueno H, Takahashi Y, Kuroda H.** : Robotic open-thoracotomy-view approach using vertical port placement and confronting monitor setting. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*, 28; 33(1): 60-67, 2021.
- 007 **Sakakura N, Mori M, Tsukushi S, Nakada T, Takahashi Y, Kuroda H.** : Salvage cytoreductive surgery for pleural dissemination of low-grade endometrial stromal sarcoma using rib-cross thoracotomy with argon beam coagulation: strategies to achieve a grossly complete resection—a case report. *AME Surgical Journal*, 1: 8, 2021.
- 008 **Sakakura N, Nakada T, Takahashi Y, Kuroda H.** : An extended modification of transmanubrial osteomuscular sparing approach: salvage resection for recurrent superior sulcus lung cancer after definitive chemoradiotherapy. *J Thorac Dis*, 13(1): 417-419, 2021.
- 009 **Sakakura N, Nakai A, Suda H, Nakada T, Matsui T, Nakanishi K, Shirai S, Nakada J, Horio Y, Oya Y, Takahashi Y, Kuroda H.** : Life-threatening massive bleeding in the pulmonary trunk adjacent to the right ventricular outflow tract during the resection of a large mediastinal germ cell tumor: proposed safety measures in the absence of cardiovascular surgeons: a case report. *Mediastinum*, 25: 19, 2021.
- 010 **Shigenobu T, Takahashi Y, Masugi Y, Hanawa R, Matsushita H, Tajima A, Kuroda H.** : Micropapillary Predominance Is a Risk Factor for Brain Metastasis in Resected Lung Adenocarcinoma. *Clin Lung Cancer*, 22(6): e820-e828, 2021.
- 011 **Nakada T, Takahashi Y, Sakakura N, Iwata H, Ohtsuka T, Kuroda H.** : Prognostic Radiological Tools for Clinical Stage IA Pure Solid Lung Cancer. *Curr Oncol*, 30; 28(5): 3846-3856, 2021.
- 012 **Nakada T, Kuroda H.** : Narrative review of optimal prognostic radiological tools using computed tomography for T1N0-staged non-small cell lung cancer. *J Thorac Dis*, 13(5): 3171-3181, 2021.
- 013 **Nakada T, Shirai S, Oya Y, Takahashi Y, Sakakura N, Ohtsuka T, Kuroda H.** : The impact of same-day chest drain removal on pulmonary function after thoracoscopic lobectomy. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 69(4): 690-696, 2021.
- 014 **Nakada T, Nakai A, Takahashi Y, Sakakura N, Ohtsuka T, Kuroda H.** : Intraoperative Multimodal Approach for Pain After Thoracoscopic Pulmonary Resection. *Asian J Endosc Surg*, 15(1): 147-154., 2022.
- 015 **Matsui T, Sakakura N, Koyama S, Nakanishi K, Sasaki E, Kato S, Hosoda W, Murakami Y, Kuroda H, Yatabe Y.** : Comparison of Surgical Outcomes Between Invasive Mucinous and Non-Mucinous Lung Adenocarcinoma. *Ann Thorac Surg*, 112(4): 1118-1126, 2021.
- 016 **Matsui T, Takahashi Y, Shirai S, Nakanishi K, Nakada T, Sakakura N, Haneda H, Okuda K, Nakanishi R, Kuroda H.** : Comparison of surgical outcomes between thoracoscopic anatomical sublobar resection including and excluding subsegmentectomy. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, May; 69(5): 850-858, 2021.
- 017 **Sugita Y, Kuroda H, Masago K.** : Surgical perception of lower tracheal or carinal resection.. *Transl Lung Cancer Res*, 10(11): 4310-4312., 2021.
- 018 **Sugita Y, Kuroda H, Sakata S, Sakao Y, Okubo K.** : How preserved regional pulmonary function after thoracoscopic segmentectomy in clinical stage I non-small cell lung cancers in right upper lobe. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 69(6): 960-966, 2021.

乳腺科部

- 001 **Shimizu Y, Tsuji K, Ochi E, Okubo R, Kuchiba A, Shimazu T, Tatematsu N, Sakurai N, Iwata H, Matsuoka Y** : J. Oncology care providers' awareness and practice related to physical activity promotion for breast cancer survivors and barriers and facilitators to such promotion: a nationwide cross sectional web based survey. *Support Care Cancer*, doi: 10.1007/s00520-021-06706-8. Online ahead of print.PMID: 34853914, 2021.
- 002 **Mori M, Yoshimura A, Sawaki M, Hattori M, Kotani H, Adachi Y, Iwase M, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Ozaki Y, Iwata H, Onishi S, Gondo N and Terada M** : Differences in baseline risk estimated by physicians and patients with early breast cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 1; 51(12): 1703-1707. doi: 10.1093/jjco/hyab152, 2021.
- 003 **Masuda N, Tamura K, Yasojima H, Shimomura A, Sawaki M, Lee MJ, Yun A, Trepel J, Kimura R, Nishimura Y, Saji S, Iwata H** : Phase 1 trial of entinostat as monotherapy and combined with exemestane in Japanese patients with hormone receptorpositive advanced breast cancer. *BMC Cancer*, 24; 21(1): 1269. doi: 10.1186/s12885-021-08973-4. PMID: 34819039, 2021.
- 004 **Yin O, Iwata H, Lin CC, Tamura K, Watanabe J, Wada R, Kastrissios H, AbuTarif M, Garimella T, Lee C, Zhang L, Shahidi J, LaCreta F. Yin O, Iwata H, Lin CC, Tamura K, Watanabe J, Wada R, Kastrissios H, AbuTarif M, Garimella T, Lee C, Zhang L, Shahidi J, LaCreta F** : Exposure-Response Relationships in Patients with HER2-Positive Metastatic Breast Cancer and Other Solid Tumors Treated With Trastuzumab Deruxtecan. *Clin Pharmacol Ther*, 110(4): 986-996, 2021.
- 005 **Hattori M, Novick D, Takaura K, Tanizawa Y, Kawaguchi T, Haro JM, Monistrol-Mula A, Onishi A, Iwata H** : A systematic literature review of prognostic factors in

- patients with HR+/HER2 – advanced breast cancer in Japan. *Jpn J Clin Oncol*, 5; 51(10): 1498-1508, 2021.
- 006 **Nozawa K, Yoshimura A, Iwata H** : To the editor. *N Engl J Med*, 7; 385(15): 1439, 2021.
- 007 **Horisawa N, Adachi Y, Takatsuka D, Nozawa K, Endo Y, Ozaki Y, Sugino K, Kataoka A, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Iwata H** : The frequency of low HER2 expression in breast cancer and a comparison of prognosis between patients with HER2 low and HER2 negative breast cancer by HR status. *Breast Cancer*, doi: 10.1007/s12282-021-01303-3. Online ahead of print, 2021.
- 008 **Adachi Y, Oze I, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Nozawa K, Takatsuka D, Iwata H** : Impact of adjuvant endocrine therapy on prognosis in small hormone receptor positive, HER2 negative early breast cancer. *Breast Cancer*, 28(5): 1087-1095, 2021.
- 009 **Inoue K, Masuda N, Iwata H, Takahashi M, Ito Y, Miyoshi Y, Nakayama T, Mukai H, van der Walt JS, Mori J, Sakaguchi S, Kawaguchi T, Tanizawa Y, Llombart-Cussac A, Sledge GW Jr, Toi M** : Japanese subpopulation analysis of MONARCH 2: phase 3 study of abemaciclib plus fulvestrant for treatment of hormone receptor positive, human epidermal growth factor receptor 2 negative breast cancer that progressed on endocrine therapy. *Breast Cancer*, 28(5): 1038-1050, 2021.
- 010 **Emens LA, Molinero L, Loi S, Rugo HS, Schneeweiss A, Diéras V, Iwata H, Barrios CH, Nechaeva M, Nguyen-Duc A, Chui SY, Husain A, Winer EP, Adams S, Schmid P** : Atezolizumab and nab-Paclitaxel in Advanced Triple-Negative Breast Cancer: Biomarker Evaluation of the IMpassion130 Study. *J Natl Cancer Inst*, 2; 113(8): 1005-1016, 2021.
- 011 **Tokunaga E, Masuda N, Yamamoto N, Iwata H, Bando H, Aruga T, Ohtani S, Fujisawa T, Takano T, Inoue K, Suganuma N, Takada M, Aogi K, Sakurai K, Shigematsu H, Kuroi K, Haga H, Ohno S, Morita S, Toi M** : Long-Term Outcomes of a Randomized Study of Neoadjuvant Induction Dual HER2 Blockade with Trastuzumab and Lapatinib Followed by Weekly Paclitaxel Plus Dual HER2 Blockade for HER2-Positive Primary Breast Cancer (Neo-Lath Study). *Cancers (Basel)*, 9; 13(16): 4008, 2021.
- 012 **Taira N, Sawaki M, Uemura Y, Saito T, Baba S, Kobayashi K, Kawashima H, Tsuneizumi M, Sagawa N, Bando H, Takahashi M, Yamaguchi M, Takashima T, Nakayama T, Kashiwaba M, Mizuno T, Yamamoto Y, Iwata H, Ohashi Y, Mukai H, Kawahara T; RESPECT Study Group** : Health-Related Quality of Life With Trastuzumab Monotherapy Versus Trastuzumab Plus Standard Chemotherapy as Adjuvant Therapy in Older Patients With HER2-Positive Breast Cancer. *J Clin Oncol*, 1; 39(22): 2452-2462, 2021.
- 013 **Neven P, Rugo HS, Tolaney SM, Iwata H, Toi M, Goetz MP, Kaufman PA, Lu Y, Haddad N, Hurt KC, Sledge GW Jr** : Abemaciclib plus fulvestrant in hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor 2-negative advanced breast cancer in premenopausal women: subgroup analysis from the MONARCH 2 trial. *Breast Cancer Res*, 23; 23(1): 87, 2021.
- 014 **Shimomura A, Tamura K, Tanaka K, Mizutani T, Sasaki K, Sekino Y, Sawaki M, Shien T, Shibata T, Iwata H** : A randomized phase III study comparing trastuzumab emtansine with trastuzumab, pertuzumab and docetaxel in elderly patients with advanced stage HER2-positive breast cancer: Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG1607, HERB TEA study). *Jpn J Clin Oncol*, 30; 51(9): 1471-1474, 2021.
- 015 **Rugo HS, Cristofanilli M, Loibl S, Harbeck N, DeMichele A, Iwata H, Park YH, Brufsky A, Theall KP, Huang X, McRoy L, Bananis E, Turner NC** : Prognostic factors of overall survival in patients with hormone receptor-positive advanced breast cancer: Analyses from PALOMA-3. *Oncologist*, 26(8): e1339-e1346, 2021.
- 016 **Ozaki Y, Yoshimura A, Sawaki M, Hattori M, Kotani H, Adachi Y, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Endo Y, Nozawa K, Sakamoto S, Takatsuka D, Okumura S, Maruyama Y, Iwata H** : The significance of biopsy scar excision at the time of skin- or nipple-sparing mastectomy with immediate breast reconstruction. *Jpn J Clin Oncol*, 1; 51(8): 1212-1218, 2021.
- 017 **Rugo HS, Loi S, Adams S, Schmid P, Schneeweiss A, Barrios CH, Iwata H, Diéras V, Winer EP, Kockx MM, Peeters D, Chui SY, Lin JC, Duc AN, Viale G, Molinero L, Emens LA** : PD-L1 Immunohistochemistry Assay Comparison in Atezolizumab Plus nab-Paclitaxel-Treated Advanced Triple-Negative Breast Cancer. *J Natl Cancer Inst*, 113(12): 1733-43, 2021.
- 018 **Ciruelos EM, Rugo HS, Mayer IA, Levy C, Forget F, Delgado Mingorance JI, Safra T, Masuda N, Park YH, Juric D, Conte P, Campone M, Loibl S, Iwata H, Zhou X, Park J, Rüdolfi A, Lorenzo I, André F** : Patient-Reported Outcomes in Patients With PIK3CA-Mutated Hormone Receptor-Positive, Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Negative Advanced Breast Cancer From SOLAR-1. *J Clin Oncol*, 39(18): 2005-2015, 2021.
- 019 **Toi M, Inoue K, Masuda N, Iwata H, Sohn J, Hae Park I, Im SA, Chen SC, Enatsu S, Turner PK, André VAM, Hardebeck MC, Sakaguchi S, Goetz MP, Sledge GW Jr** : Abemaciclib in combination with endocrine therapy for East Asian patients with HR+, HER2 – advanced breast cancer: MONARCH 2 & 3 trials. *Cancer Sc*, 112(6): 2381-2392, 2021.
- 020 **Rugo HS, Loi S, Adams S, Schmid P, Schneeweiss A, Barrios**

- CH, Iwata H, Diéras V, Winer EP, Kockx MM, Peeters D, Chui SY, Lin JC, Duc AN, Viale G, Molinero L, Emens LA** : PD-L1 Immunohistochemistry Assay Comparison in Atezolizumab Plus nab-Paclitaxel-Treated Advanced Triple-Negative Breast Cancer. *J Natl Cancer Ins*, 113 (12): 1733-43, 2021.
- 021 **Gondo N, Sakai Y, Zhang Z, Hato Y, Kuzushima K, Phimsen S, Kawashima Y, Kuroda M, Suzuki M, Okada S, Iwata H, Toyama T, Rezano A, Kuwahara K** : Increased chemosensitivity via BRCA2-independent DNA damage in DSS1 and PCID2-depleted breast carcinoma. *Lab Invest*, doi: 10.1038/s41374-021-00613-6. Online ahead of print.PMID: 34031538, 2021.
- 022 **Iwata H, Umeyama Y, Liu Y, Zhang Z, Schnell P, Mori Y, Fletcher O, Marshall JC, Johnson JG, Wood LS, Toi M, Finn RS, Turner NC, Bartlett CH, Cristofanilli M** : Evaluation of the Association of polymorphisms with Palbociclib induced neutropenia. *Pharmacogenetic Analysis of PALOMA-2/-3Oncologis*, 2021.
- 023 **Kotani H, Terada M, Mori M, Horisawa N, Sugino K, Kataoka A, Adachi Y, Gondou N, Yoshimura A, Hattori M, Sawaki M, Takahata C, Kobara M, Iwata H** : Compression therapy using surgical gloves does not prevent paclitaxel-induced peripheral neuropathy: results from a double-blind phase 2 trial. *BMC Cancer*, 13; 21(1): 548. doi: 10.1186/s12885-021-08240-6.PMID: 33985457, 2021.
- 024 **Sagara Y, Mori M, Yamamoto S, Eguchi K, Iwatani T, Naito Y, Kogawa T, Tanaka K, Kotani H, Yasojima H, Ozaki Y, Noguchi E, Miyashita M, Kondo N, Niikura N, Toi M, Shien T, Iwata H** : Current Status of Advance Care Planning and End-of-life Communication for Patients with Advanced and Metastatic Breast Cancer. *Oncologist*, 26 (4): e686-e693. doi: 10.1002/onco.13640. Epub, 2021.
- 025 **Sawaki M, Nakagawa K, Togo K, Laurent T, Iwata H** : Real-world treatment and dosing patterns of palbociclib among patients with hormone receptor-positive/human epidermal growth factor receptor-2-negative (HR+/HER2-) advanced breast cancer: An analysis of administrative claims data in Japan. *Future Oncol*, doi: 10.2217/fon-2021-1448, 2022.
- 026 **Yoshimura A, Yokoyama S, Iwata H, Takaiso N, Nomizu T, Arai M, Nakamura S** : Incidence of contralateral and ipsilateral breast cancers and prognosis in BRCA1/2 pathogenic variant carriers based on the Japanese HBOC Consortium registration. *J Hum Genet*, 379-387, 2021.
- 027 **Ozaki Y** : The significance of biopsy scar excision at the time of skin- or nipple-sparing mastectomy with immediate breast reconstruction. *Jpn J Clin Oncol*, 1; 51 (8): 1212-1218, 2021.
- 028 **澤木正孝** : 高齢者フレイル (Frailty) における薬物療法の工夫. 乳がん薬物療法副作用マネジメント改訂第2版, 401-404, 2021.
- 029 **澤木正孝** : 各種疾患における高齢者治療の実際. 乳がん. 高齢者のがんエビデンス & プラクティス, 139-145, 2021.
- 030 **服部正也** : 【グローバル臨床試験における日本人サブグループデータの取り扱いとその臨床的意義】 乳癌化学療法に関して. 癌と化学療法, Volume 48, Issue 11, 1326-1329, 2021.
- 031 **服部正也, 岩田広治** : 【新しいドラッグデリバリーシステムによる抗悪性腫瘍薬】 乳がん領域の抗体-薬物複合体. がん分子標的治療, 19巻2号 162-165, 2022.

消化器外科部

- 001 **Kanemitsu Y, Shimizu Y, Mizusawa J, Inaba Y, Hamaguchi T, Shida D, Ohue M, Komori K, Shiomi A, Shiozawa M, Watanabe J, Suto T, Kinugasa Y, Takii Y, Bando H, Kobatake T, Inomata M, Shimada Y, Katayama H, Fukuda H, JCOG Colorectal Cancer Study Group** : Hepatectomy Followed by mFOLFOX6 Versus Hepatectomy Alone for Liver-Only Metastatic Colorectal Cancer (JCOG0603): A Phase II or III Randomized Controlled Trial. *Journal of clinical Oncology*, Dec1; 39(34): 3789-3799, 2021.
- 002 **Okubo S, Suzuki T, Hioki M, Shimizu Y, Toyama H, Morinaga S, Gotohda N, Uesaka K, Ishii G, Takahashi S, Kojima M** : The immunological impact of preoperative chemoradiotherapy on the tumor microenvironment of pancreatic cancer. *Cancer Science*, 112(7): 2895-2904, 2021.
- 003 **Okamura Y, Boku N, Ghaneh P, Greenhalf W, Yasukawa S, Narimatsu H, Fukutomi A, Konishi M, Morinaga S, Toyama H, Maeda A, Shimizu Y, Nakamori S, Sata N, Yamakita E, Takahashi A, Takayama W, Yamaguchi R, Tomikawa M, Yanagisawa A, Neoptolemos JP, Uesaka K** : Concordance of human equilibrative nucleoside transporter-1 expressions between murine (10D7G2) and rabbit (SP120) antibodies and association with clinical outcomes of adjuvant chemotherapy for pancreatic cancer: A collaborative study from the JASPAC 01 trial. *Cancer Reports*, 29-Jul, 2021.
- 004 **Kim HS, Song W, Choo W, Lee S, Han Y, Bassi C, Salvia R, Marchegiani G, Wolfgang CL, He J, Blair AB, Kluger MD, Su GH, Kim SC, Song KB, Yamamoto M, Hatori T, Yang CY, Yamaue H, Hirono S, Satoi S, Fujii T, Hirano S, Lou W, Hashimoto Y, Shimizu Y, Chiaro MD, Valente R, Lohr M, Choi DW, Choi SH, Heo JS, Motoi F, Matsumoto I, Lee WJ, Kang CM, Shyr YM, Wang SE, Han HS, Yoon YS, Besselink MG, Huijgevoort NCMV, Sho M, Nagano H, Kim SG, Honda G, Yang Y, Yu HC, Yang JD, Chung JC, Nagakawa Y, Seo HII, Lee S, Kim H, Kwon W, Park T, Jang JY** : Development, validation, and comparison of a nomogram based on

- radiologic findings for predicting malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: An international multicenter study. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences*, 2-Apr, 2021.
- 005 **Ito S, Kanda M, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Efficacy of Splenectomy for Proximal Gastric Cancer with Greater Curvature Invasion or Type 4 Tumor: a Propensity Score Analysis of a Multi-Institutional Dataset. *World Journal of Surgery*, 3-Jun, 2021.
- 006 **Nakanishi K, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Shimizu D, Tanaka C, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Prognostic impact of a microscopic positive margin in patients undergoing gastrectomy for gastric cancer: a propensity score matched analysis of a multi institutional dataset. *Surgery Today*, 26-Aug, 2021.
- 007 **Nakanishi K, Kanda M, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Kobayashi D, Shimizu D, Tanaka C, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : E PASS scoring system serves as a predictor of short and long term outcomes in gastric cancer surgery. *Surgery Today*, 25-Oct, 2021.
- 008 **Umeda S, Kanda M, Nakanishi K, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Shimizu D, Kobayashi D, Tanaka C, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Short term outcomes of gastrectomy after neoadjuvant chemotherapy for clinical stage III gastric cancer: propensity score matched analysis of a multi institutional database. *Surgery Today*, 51:821-828, 2021.
- 009 **Inagaki K, Kanda M, Nakanishi K, Ito S, Mochizuki Y, Teramoto H, Ishigure K, Murai T, Asada T, Ishiyama A, Matsushita H, Tanaka C, Kobayashi D, Fujiwara M, Murotani K, Kodera Y** : Accurate Prediction of Prognosis After Radical Resection of Gastric Cancer by the Modified Systemic Inflammation Score; a Multicenter Dataset Analysis. *World Journal of Surgery*, 45(8): 2513-2520, 2021.
- 010 **Narita Y, Sasaki E, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ito S, Yatabe Y, Muro K** : PD-L1 immunohistochemistry comparison of 22C3 and 28-8 assays for gastric cancer. *Journal of Gastrointestinal Oncology*, Dec; 12(6): 2696-2705, 2021.
- 011 **Ishigami H, Tsuji Y, Shinohara H, Kodera Y, Kanda M, Yabusaki H, Ito S, Imano M, Yamashita H, Hidemura A, Yamaguchi H, Fukagawa T, Oba K, Kitayama J, Seto Y** : Intraperitoneal Chemotherapy as Adjuvant or Perioperative Chemotherapy for Patients with Type 4 Scirrhus Gastric Cancer: PHOENIX-GC2 Trial. *Journal of Clinical Medicine*, Nov 30; 10(23): 5666, 2021.
- 012 **Komori K, Suda H, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Shimizu Y** : Resection of the external iliac artery with axillofemoral bypass for local recurrence of rectal cancer. *Techniques in Coloproctology*, 25:1329-1331, 2021.
- 013 **Komori K, Kinoshita T, Sato Y, Ouchi A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Fujieda H, Shoji K, Kunitomo A, Oki S, Maeda S, Nagao T, Aritake T, Tawada K, Akaza S, Shimizu Y** : Repair of antegrade anastomosis between ileal segment and amputated ureter for recurrent rectal cancer. *Clinical Journal of Gastroenterology*, Dec; 14(6): 1687-1691, 2021.
- 014 **Yamada K, Saiki Y, Komori K, Shiomi A, Ueno M, Ito M, Hida K, Yamamoto S, Shiozawa M, Ishihara S, Kanemitsu Y, Ueno H, Kinjo T, Maeda K, Kawamura J, Fujita F, Takahashi K, Mizushima T, Shimada Y, Sasaki S, Sunami E, Ishida F, Hirata K, Ohnuma S, Funahashi K, Watanabe J, Kinugasa Y, Yamaguchi S, Hashiguchi Y, Ikeda M, Sudo T, Komatsu Y, Koda K, Sakamoto K, Okajima M, Ishida H, Hisamatsu Y, Masuda T, Mori S, Minami K, Hasegawa S, Endo S, Iwashita A, Hamada M, Ajioka Y, Usuku K, Ikeda T, Sugihara K** : Characteristics of anal canal cancer in Japan. *Cancer Medicine*, 10-Mar, 2022.
- 015 **Sakuma K, Sasaki E, Hosoda W, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M** : MYB mediates downregulation of the colorectal cancer metastasis suppressor heterogeneous nuclear ribonucleoprotein L-like during epithelial-mesenchymal transition. *Cancer Science*, 112(9): 3846-3855, 2021.
- 016 **Kanemitsu Y, Shitara K, Mizusawa J, Hamaguchi T, Shida D, Komori K, Ikeda S, Ojima H, Ike H, Shiomi A, Watanabe J, Takii Y, Yamaguchi T, Katsumata K, Ito M, Okuda J, Hyakudomi R, Shimada Y, Katayama H, Fukuda H; JCOG Colorectal Cancer Study Group.** : Primary Tumor Resection Plus Chemotherapy Versus Chemotherapy Alone for Colorectal Cancer Patients With Asymptomatic, Synchronous Unresectable Metastases (JCOG1007; iPACS): A Randomized Clinical Trial. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 39(10): 1098-1107, 2021.
- 017 **Katsumata K, Enomoto M, Ishizaki T, Fujita S, Kanemitsu Y, Ito M, Shiomi A, Komori K, Ohue M, Ota M, Akazai Y, Shiozawa M, Yamaguchi T, Bando H, Sekimoto M, Kobatake T, Machida R, Akasu T, Moriya Y, the Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group** : Risk factors for surgical site infection and association of surgical site infection with survival of lower rectal cancer patients without clinical lateral pelvic lymph node metastasis (clinical Stage II/III): Analysis of data from JCOG0212. *Clinical & Experimental Metastasis*, Oct38(5): 459-466, 2021.
- 018 **Ohue M, Fujita S, Mizusawa J, Kanemitsu Y, Hamaguchi T, Tsukamoto S, Noura S, Yasui M, Itoh M, Shiomi A, Komori K,**

- Watanabe J, Akazai Y, Shiozawa M, Yamaguchi T, Bandou H, Katsumata K, Moriya Y* : Preoperative and postoperative prognostic factors of patients with stage II/III lower rectal cancer without neoadjuvant therapy in the clinical trial (JCOG0212). Japanese Journal of Clinical Oncology, 2-Dec, 2021.
- 019 *Abe T, Numata Y, Higaki E, Hosoi T, Shimizu Y* : A novel laparoscopic assisted mediastinal dissection with gastric tube inversion technique for gastric tube cancer reconstructed through a retrosternal route. Annals of Gastroenterol Surgery, 5(5): 720-725, 2021.
- 020 *Suzuki H, Abe T, Sasaki E, Nagao T, Murashima A, Fujieda H, Higaki E, Hanai N* : Synchronous Resection of Parotid Metastasis With Esophagectomy: A Case Report.in vivo, 35(4): 2337-2340, 2021.
- 021 *Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Kamiya T, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Nagao T, Inaba Y, Muro K, Shimizu M, Niwa Y* : Effect of Body Composition Change during Neoadjuvant Chemotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Journal of Clinical Medicine, 11(3): 508, 2022.
- 022 *Kato K, Ito Y, Nozaki I, Daiko H, Kojima T, Yano M, Ueno M, Nakagawa S, Takagi M, Tsunoda S, Abe T, Nakamura T, Okada M, Toh Y, Shibuya Y, Yamamoto S, Katayama H, Nakamura K, Kitagawa Y, for the Japan Esophageal Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group* : Parallel-Group Controlled Trial of Surgery Versus Chemoradiotherapy in Patients With Stage I Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Gastroenterology, Dec; 161(6): 1878-1886, 2021.
- 023 *Misawa K, Kurokawa Y, Mizusawa J, Takiguchi S, Doki Y, Makino S, Choda Y, Takeno A, Tokunag M, Sano T, Sasako M, Yoshikawa T, Terashima M on behalf of The Stomach Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group* : Negative impact of intraoperative blood loss on long term outcome after curative gastrectomy for advanced gastric cancer: exploratory analysis of the JCOG1001 phase III trial. Gastric Cancer, 25(2): 459-467, 2021.
- 024 *Kawabata R, Fujitani K, Sakamaki K, Ando M, Ito Y, Tanizawa Y, Yamada T, Hirao M, Yamada M, Hihara J, Fukushima R, Choda Y, Koderu Y, Teshima S, Shinohara H, Kondo M, Yoshida K* : Survival analysis of a prospective multicenter observational study on surgical palliation among patients with malignant bowel obstruction caused by peritoneal dissemination of gastric cancer. Gastric Cancer, 22-Sep, 2021.
- 025 *Dayde D, Gunther J, Hirayama Y, Weksberg DC, Boutin A, Parhy P, Bonavides CA, Wang H, Katayama H, Abe Y, Do KA, Hara K, Kinoshita T, Komori K, Shimizu Y, Tajika M, Niwa Y, Wang YA, DePinho R, Hanash S, Krishnan S, Taguchi A* : Identification of Blood-Based Biomarkers for the Prediction of the Response to Neoadjuvant Chemoradiation in Rectal Cancer. Cancers, 20; 13(14), 2021.
- 026 *Natsume S, Shimizu Y, Okuno M, Kawakatsu S, Matsuo K, Hara K, Ito S, Komori K, Abe T, Nagino M* : Continuous suture is a risk factor for benign hepaticojejunostomy stenosis after pancreatoduodenectomy in patients with a non-dilated bile duct. HPB, Nov; 23(11): 1744-1750, 2021.
- 027 *Hayashi D, Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Okuno M, Matsuo K, Ito S, Komori K, Abe T, Hara K* : Survival benefit of surgery for very elderly patients with pancreatic cancer: what extent of pancreatectomy is acceptable?. Nagoya Journal of Medical Science. May83(2): 239-250, 2021.
- 028 *Onishi S, Tajika M, Tanaka T, Yamada K, Kamiya T, Natsume S, Shimizu Y, Niwa Y* : Juvenile Hepatocellular Carcinoma in a Healthy Liver: A Case Report. Intern Med Advance Publication, 61:1531-1536, 2022.
- 029 *Higaki E, Abe T, Fujieda H, Hosoi T, Nagao T, Komori K, Ito S, Itoh N, Matsuo K, Shimizu Y* : Significance of Antimicrobial Prophylaxis for the Prevention of Early-Onset Pneumonia After Radical Esophageal Cancer Resection: A Retrospective Analysis of 356 Patients Undergoing Thoracoscopic Esophagectomy. Annals of Surgical Oncology, Feb; 29(2)1374-1387, 2022.
- 030 *Suzuki H, Iwaki S, Higaki E, Abe T, Sawabe M, Beppu S, Kobayashi Y, Nishikawa D, Terada H, Hanai N* : Supraclavicular Artery Flap for Oral Reconstruction Prior to Esophagectomy During the COVID-19 Pandemic:A Case Report. in vivo, Nov-Dec; 35(6): 3597-3601, 2021.
- 031 *Kawamura H, Takada H, Narui T, Harada T, Aiba R, Yamamoto Y, Adachi A, Kojima Y, Shibata S, Ikeuchi H, Hayashi N, Hirata Y, Fujieda H, Yamaguchi R, Tateyama H, Sobue S* : Eosinophilic pancreatitis presenting as rupture of a pancreatic cystic lesion into the chest cavity. Clinical Journal of Gastroenterology, 15: 228-236, 2021.
- 032 *Chatani S, Sato Y, Okuno N, Hasegawa T, Murata S, Yamaura H, Hara K, Shimizu Y, Inaba Y* : Percutaneous transsplenic obliteration of ectopic varices following pancreaticoduodenectomy with portal vein resection and splenic vein ligation. Internatinal Journal of Gastrointestinal Intervention, 10: 77-80, 2021.
- 033 *Inaba Y, Sato Y, Yamaura H, Murata S, Hasegawa T, Chatani S, Kato M, Onaya H, Shimizu Y* : Percutaneous Transjejunal Pancreatic Duct Drainage for Delayed Pancreatic Fistula After Pancreaticoduodenectomy. Cardiovasc Intervent Radiol, 44(11): 1841-1844, 2021.
- 034 *Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Kojima H, Sasaki T, Agata M* : Standardized procedure for diverting loop ileostomy after proctectomy:experiences in a high-volume cancer center in Japan. Asian Society of Stoma Rehabilitation, 11: 9-11, 2021.

- 035 **Ouchi A, Kinoshita T, Nakanishi H, Komori K, Oshiro T, Yoshimura M, Fujita N, Hosoda W, Shimizu Y** : PCR-based quantitative detection of intraperitoneal free cancer cells for predicting locoregional recurrence after rectal cancer resection. ANZ Journal of Surgery, 11-Jan, 2022.
- 036 **Tsukada Y, Matsuhashi N, Murano T, Shiozawa M, Kato T, Oki E, Goto M, Kagawa Y, Kanazawa A, Ohta T, Ouchi A, Bando H, Xiaotong Zuo, Princy Parsana, Kristin Sedgwick Price, Ikematsu H, Yoshino T, Nakamura Y** : Impact of postoperative integrated genomic and epigenomic signatures of circulating tumor DNA (ctDNA) on recurrence in resected colorectal cancer: Initial report of a prospective ctDNA monitoring study COSMOS-CRC-01. Journal of Clinical Oncology, 1-Feb, 2022.
- 037 **Aritake T, Abe T, Higaki E, Nagao T, Hosoi T, Hosoda W, Sakamoto S, Ito S, Komori K, Shimizu Y** : Robot-assisted enucleation of a giant submucosal tumor in the upper esophagus. Asian Journal of Endoscopic Surgery, 15(1): 201-205, 2021.
- 038 **Kawakatsu S, Yamaguchi J, Mizuno T, Watanabe N, Onoe S, Igami T, Yokoyama Y, Uehara K, Nagino M, Matsuo K, Ebata T** : Early Prediction of a Serious Postoperative Course in Perihilar Cholangiocarcinoma: Trajectory Analysis of the Comprehensive Complication Index. Annals of Surgery, 13-Aug, 2021.
- 039 **Nagino M, DeMatteo R, Lang H, Cherqui D, Malago M, Kawakatsu S, DeOliveira ML, Adam R, Aldrighetti L, Boudjema K, Chapman W, Clary B, de Santibañes E, Dong J, Ebata T, Endo I, Geller D, Guglielmi A, Kato T, Lee SG, Lodge P, Nadalin S, Pinna A, Polak W, Soubrane O, Clavien PA** : Proposal of a New Comprehensive Notation for Hepatectomy: The "New World" Terminology. Annals of Surgery, 274(1): 1~3, 2021.
- 040 **Ishikura N, Ito H, Oze I, Koyanagi YN, Kasugai Y, Taniyama Y, Kawakatsu Y, Tanaka T, Ito S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, Matsuo K** : Risk Prediction for Gastric Cancer Using GWAS-Identified Polymorphisms, Helicobacter pylori Infection and Lifestyle-Related Risk Factors in a Japanese Population. Cancers, Nov 3; 13(21) 5525, 2021.
- 041 **Numata Y, Abe T, Higaki E, Hosoi T, Fujieda H, Nagao T, Hanai N, Suzuki H, Nishikawa D, Matsuo K, Fujii T, Shimizu Y** : Should the Supraclavicular Lymph Nodes be Considered Regional Lymph Nodes in Cervical Esophageal Cancer?. Annals of Surgical Oncology, Jan; 29(1): 616-626, 2022.
- 042 **Kunitomo A, Misawa K, Ito Y, Ito S, Higaki E, Natsume S, Kinoshita T, Abe T, Komori K, Shimizu Y** : Limited Clinical Significance of Splenectomy and Splenic Hilar Lymph Node Dissection for Type 4 Gastric Cancer. Journal of Gastric Cancer, Dec.21(4): 392-402, 2021.
- 043 **清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 廣野誠子, 夏目誠治, 奥野正隆, 川勝章司, 原 和生, 脇岡 範, 柳澤昭夫** : 今後の改訂に向けて: 分枝型 I P MN の診療方針選択のアルゴリズム—結節径の悪性診断能と悪性予測モデルの導入—。肝胆膵, 82: 861-866, 2021.
- 044 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 清水泰博** : 【AI は外科にどこまで役立つか】 AI を用いた膵管内乳頭粘液性腫瘍術前悪性予測の現状 (解説/特集). 外科, 83 巻 11 号: 1209-1214, 2021.
- 045 **桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 羽場 真, 奥野のぞみ, 倉石康弘, 清水泰博** : 【AI の足音は肝胆膵診療に聞こえてきたか!】 膵臓学と AI IPMN 診断における AI の進歩と課題 (解説/特集). 肝胆膵, 84 巻 1 号: 69-75, 2022.
- 046 **原 和生, 奥野のぞみ, 羽場 真, 桑原崇通, 宮野 亮, 吉田将大, 水野伸匡, 清水泰博** : 【各施設での胆膵疾患に対する診療科横断的チーム医療】 One Team による胆膵癌診療 愛知県がんセンター病院の特色 (解説/特集). 胆と膵, 42 巻 5 号: 433-438, 2021.
- 047 **伊藤誠二** : 【臨床胃癌学—基礎・臨床の最新動向—】 胃癌の治療 外科治療・内視鏡治療 高度リンパ節転移に対する集学的治療とその適応 (解説/特集). 日本臨床, 80 巻増刊号 3: 221-226, 2022.
- 048 **小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 清水泰博** : 【大腸肛門外科における消化管ストーマ造設術とその関連手技】 ストーマサイトマーキングのコツと工夫 高度肥満, 複数の手術歴がある場合など, 難渋しがちな症例について (解説/特集). 手術, 75: 789-796, 2021.
- 049 **小森康司, 木下敬史, 大内 晶, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 長尾拓哉, 出井秀幸, 沼田佳久, 有竹 典, 多和田翔, 清水泰博** : 【側方リンパ節郭清のすべて—開腹からロボット手術まで】 手技の実際 開腹手術での側方郭清とトラブルシューティング レジデントへのアドバイス (解説/特集). 臨床外科, 76: 570-577, 2021.
- 050 **小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 長尾拓哉, 有竹 典, 多和田 翔, 赤座賢, 清水泰博** : 【ストーマ・ハンドブッカー—外科医に必要な知識と手術手技のすべて】 開腹手術によるコロストミー (双孔式) 造設術 特に悪性疾患における切除不能状態 (原発, 再発) 症例について (解説/特集). 臨床外科, 76 巻 12 号: 1354-1364, 2021.
- 051 **小森康司, 木下敬史, 佐藤雄介, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 檜垣榮治, 奥野正隆, 藤枝裕倫, 川勝章司, 國友愛奈, 沖 哲, 末永泰人, 前田真吾, 長尾拓哉, 有竹 典, 多和田 翔, 赤座賢, 清水泰博** : 【Step ごとに要点解説 標準式アトラス最新版】 大腸 直腸癌 腹会陰式直腸切断術 特に会陰操作について (図説/特集). 臨床外科, 76 巻 11 号: 119-126, 2021.
- 052 **田中明美, 北川功二, 下里和哉, 安部哲也, 田近正洋** : 【NST を見つけ直す—取り組みの実際と今後の展開】 が

- ん専門病院における NST (解説/特集). 臨床栄養, 138: 529-536, 2021.
- 053 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡映像からの手術個所の認識による手術ナビゲーションの検討 (解説). 日本医用画像工学会大会予稿集, 40: 489-492, 2021.
- 054 出口智也, 林 雄一郎, 北坂孝幸, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: Attention 機構を導入したグラフニューラルネットワークによる腹部動脈血管名自動対応付け (原著論文). 日本医用画像工学会大会予稿集, 40: 239-242, 2021.
- 055 榎本圭吾, 林 雄一郎, 北坂孝幸, 小田昌宏, 伊藤雅昭, 竹下修由, 三澤一成, 森 健策: 深度情報を利用した FCN による腹腔鏡映像からの血管領域自動抽出の検討 (原著論文). 日本医用画像工学会大会予稿集, 40: 235-238, 2021.
- 056 伊藤友一, 藤谷和正: 胃癌腹膜播種による腸閉塞に対する緩和的手術の意義. 日本臨牀, 80 巻増刊号 3: 364-371, 2022.
- 057 夏目誠治, 清水泰博, 原 和生: 【肝・胆道系症候群 (第 3 版)-その他の肝・胆道系疾患を含めて-肝外胆道編】胆嚢腫瘍, 隆起性病変 転移性胆嚢腫瘍 (解説/特集). 日本臨床外科学会雑誌, 15: 248-252, 2021.
- 058 夏目誠治, 千田嘉毅, 奥野正隆, 川勝章司, 原 和生, 清水泰博: 胆嚢肝癌術後に発症した下部胆管癌 (図説). 胆道, 35 巻 4 号: 701-706, 2021.
- 059 柳野正人, 川勝章司, 奥野正隆, 夏目誠治, 清水泰博, 尾上俊介, 江畑智希: 【令和時代における「尾状葉」のすべて】外科治療 肝門部領域胆管癌切除における尾状葉切除 (解説/特集). 肝胆膵, 82: 697-704, 2021.

整形外科部

- 001 Fujita S, Masago K, Sasaki E, Tsukushi S, Horio Y, Kuroda H, Hida T: Weak-evidence Fusion Candidates Detected by a FusionPlex Assay Using the Ion Torrent System. In Vivo. 35: 2: 993-998, 2021.
- 002 Fujihara N, Hamada S, Yoshida M, Tsukushi S, Fujihara Y: Factors Affecting Delay in Initial Treatment of Patients with Soft Tissue Sarcomas. J Hand Surg Asian Pac Vol; 27(1): 135-140, 2022.
- 003 Komori K, Tsukushi S, Yoshida M, Kinoshita T, Oshiro T, Ouch A, Ito S, Abe T, Misawa K, Ito Y, Natsume S, Higaki E, Okuno M, Hosoi T, Shoji K, Kunitomo A, Oki S, Suenaga Y, Maeda S, Nagao T, Dei H, Numata Y, Aritake T, Tawada K, Shimizu Y: Aggressive and frequent resection of recurrences in retroperitoneal sarcoma contributes to long-term survival. Langenbecks Arch Surg. 406(5): 1635-1642, 2021.
- 004 Aiba H, Ikuta K, Asanuma K, Kawanami K, Tsukushi S, Matsumine A, Ishimura D, Nagano A, Shido Y, Kozawa E, Yamada K, Wasa J, Kimura H, Sakai T, Murakami H, Sakai T,

- Nakamura T, Nishida Y: Effect of Neoadjuvant Therapies on Soft Tissue Sarcomas with Tail-like Lesions: A Multicenter Retrospective Study. Cancers (Basel). 2; 13 (15): 3901, 2021.
- 005 Kido A, Kitagawa Y, Tsukushi S, Iwata S, Ishida Y, Tsukamoto S, Kawai A: Marginal resection for patients with atypical lipomatous tumours of the extremities and trunk wall: a systematic review and meta-analysis. Jpn J Clin Oncol; 5; 52(2): 151-156, 2022.
- 006 Ota T, Nishida Y, Ikuta K, Tsukushi S, Yamada K, Kozawa E, Urakawa H, Imagama S: Tumor location and type affect local recurrence and joint damage in tenosynovial giant cell tumor: a multi-center study. Sci Rep. Aug 30; 11(1): 17384, 2021.
- 007 Fujihara N, Hamada S, Yoshida M, Tsukushi S: Recurrent giant cell tumour of the distal ulna after en bloc resection with preoperative denosumab use. BMJ Case Rep, 11; 14(11), 2021.
- 008 Tomohito Hagi, Tomoki Nakamura, Akihito Nagano, Hiroshi Koike, Kenji Yamada, Hisaki Aiba, Nasa Fujihara, Junji Wasa, Kunihiko Asanuma, Eiji Kozawa, Daisuke Ishimura, Katsuhisa Kawanami, Yuya Izubuchi, Yoji Shido, Akihiro Sudo, Yoshihiro Nishida: Clinical outcome in patients who underwent amputation due to extremity soft tissue sarcoma: Tokai Musculoskeletal Oncology Consortium study. Jpn J Clin Oncol, 5. 52(2): 157-162, 2022
- 009 Nakamura T, Matsumine A, Toda Y, Takenaka S, Outani H, Fujiwara T, Nishida Y, Tsukushi S, Tome Y, Kawamoto T, Kito M, Shinohara N, Tomita M, Torigoe T, Sudo A, Kawano H: Long-Term Results of Kyocera Modular Limb Salvage System after Resection of Tumors in the Distal Part of the Femur: Report from Japanese Musculoskeletal Oncology Group Study. Cancers (Basel). 10; 14(4): 870, 2022.
- 010 筑紫 聡: 「病的骨折の手術治療 若手医師のための治療戦略」第 5 回「大腿骨近位腫瘍用人工骨頭置換術」整形外科サージカルテクニック. メディカ出版, 11: 6 790-794, 2021.

泌尿器科部

- 001 Tamada S, Kondoh C, Matsubara N, Mizuno R, Kimura G, Anai S, Tomita Y, Oyama M, Masumori N, Kojima T, Matsumoto H, Chen M, Li M, Matsuda K, Tanaka Y, Rini BI, Uemura H.: Pembrolizumab plus axitinib versus sunitinib in metastatic renal cell carcinoma: outcomes of Japanese patients enrolled in the randomized, phase III, open-label KEYNOTE-426 study. Int J Clin Oncol. 27: 154-164, 2022.
- 002 Nishimura N, Miyake M, Iida K, Miyamoto T, Tomida R,

- Numakura K, Inokuchi J, Yoneyama T, Matsumura Y, Yajima S, Masuda H, Terada N, Taoka R, Kobayashi T, Kojima T, Matsui Y, Nishiyama N, Kitamura H, Nishiyama H, Fujimoto K* : Prognostication in Japanese patients with bacillus Calmette-Guérin-unresponsive non-muscle-invasive bladder cancer undergoing early radical cystectomy. *Int J Urol*. 29: 242-249, 2022.
- 003 *Nonaka H, Kandori S, Nitta S, Shiga M, Nagumo Y, Kimura T, Kawahara T, Negoro H, Hoshi A, Kojima T, Kawai K, Mathis BJ, Tamura T, Sato TA, Yamato M, Noguchi M, Nishiyama H* . *Case Report* : Molecular Characterization of Aggressive Malignant Retroperitoneal Solitary Fibrous Tumor: A Case Study. *Front Oncol*. 22: 736969, 2021.
- 004 関戸 翔, 小島崇宏 : 【チーム医療に役立つ最新知識 泌尿器がんに対する免疫療法】 (chapter 2) 腎がんに対する免疫療法 腎がん一次治療のエビデンスと治療の現況 免疫チェックポイント阻害薬 + 分子標的治療薬併用療法, *Uro-Lo: 泌尿器 Care & Cure*. 27(3) 318-323, 2022
- 005 関戸 翔, 工藤朋子, 西村聖子 : 【リスクごとに考える症例からみる前立腺がんの治療と看護】 (chapter 3) 症例からみる前立腺がんの新規薬剤治療と看護 転移性前立腺がん高リスク: 初期治療導入, *Uro-Lo: 泌尿器 Care & Cure*. 26(3) 384-390, 2021.
- 005 *Hattori S, Yoshikawa N, Mogi K, Yoshida K, Yoshihara M, Tamauchi S, Ikeda Y, Yokoi A, Nishino K, Niimi K, Suzuki S, Kajiyama H* : Significance of Concurrent Chemoradiotherapy as Primary Treatment in Patients with Metastatic Cervical Cancer. *Curr Oncol*. 29; 28(3): 1663-1672, 2021.
- 006 *Yoshida H, Nishikawa T, Matsumoto K, Mori M, Hirashima Y, Takehara K, Ariyoshi K, Hasegawa K, Yonemori K* : Histopathological features of HER2 overexpression in uterine carcinosarcoma: proposal for requirements in HER2 testing for targeted therapy. *Virchows Arch*, Jun; 478(6): 1161-1171, 2021.
- 007 Sakakura N, Mori M, Tsukushi S, Nakada T, Takahashi Y, Kuroda H : Salvage cytoreductive surgery for pleural dissemination of low-grade endometrial stromal sarcoma using rib-cross thoracotomy with argon beam coagulation: strategies to achieve a grossly complete resection—a case report. *AME Surg J* 2021, 1: 8, 2021.
- 008 *Okamoto A, Kondo E, Nakamura T, Yanagida S, Hamanishi J, Harano K, Hasegawa K, Hirasawa T, Hori K, Komiyama S, Matsuura M, Nakai H, Nakamura H, Sakata J, Tabata T, Takehara K, Takekuma M, Yokoyama Y, Kase Y, Sumino S, Soeda J, Suri A, Aoki D, Sugiyama T* : Phase 2 single-arm study on the efficacy and safety of niraparib in Japanese patients with heavily pretreated, homologous recombination-deficient ovarian cancer. *J Gynecol Oncol*, 2021.
- 009 *Shoji T, Enomoto T, Abe M, Okamoto A, Nagasawa T, Oishi T, Nagase S, Mori M, Inokuchi Y, Kamiura S, Komiyama S, Takeshima N, Sugiyama T* : Efficacy and safety of standard of care with/without bevacizumab for platinum-resistant ovarian/fallopian tube/peritoneal cancer previously treated with bevacizumab: The Japanese Gynecologic Oncology Group study JGOG3023. *Cancer Sci*, Jan; 113(1): 240-250, 2022.
- 010 *Makker V, Colombo N, Casado Herráez A, Santin AD, Colomba E, Miller DS, Fujiwara K, Pignata S, Baron-Hay S, Ray-Coquard I, Shapira-Frommer R, Ushijima K, Sakata J, Yonemori K, Kim YM, Guerra EM, Sanli UA, McCormack MM, Smith AD, Keefe S, Bird S, Dutta L, Orlowski RJ, Lorusso D; Study 309–KEYNOTE-775 Investigators* : Lenvatinib plus Pembrolizumab for Advanced Endometrial Cancer. *N Engl J Med*, 3; 386(5): 437-448, 2022.
- 011 *Ukai M, Suzuki S, Yoshihara M, Yokoi A, Yoshikawa N, Kajiyama H, Kikkawa F* : Adjuvant taxane plus platinum chemotherapy for stage I ovarian clear cell carcinoma with complete surgical staging: are more than three cycles necessary?. *Int J Clin Oncol*, Mar; 27(3): 609-618, 2022.
- 012 鈴木史朗 : 外陰上皮内腫瘍. 産科婦人科疾患 最新の治療,

婦人科部

- 001 *Mori M, Honda K, Tsubouchi H, Sakata J, Kato S, Suzuki S* : Neoadjuvant chemotherapy for Ewing's sarcoma family tumors of the uterine cervix: A case report. *Gynecol Oncol Rep*, 23; 38: 100895, 2021.
- 002 *Tamauchi S, Moriyama Y, Suzuki S, Ikeda Y, Yoshikawa N, Kajiyama H* : Achievement of live birth after overcoming two gynecological malignancies treated with radical trachelectomy and medroxyprogesterone acetate therapy. *J Obstet Gynaecol Res*, 47(11): 4101-4105, 2021.
- 003 *Nosaka K, Suzuki S, Yoshikawa T, Shimomura M, Kitami K, Yoshida K, Yoshihara M, Kikkawa F, Nakatsura T, Kajiyama H* : Heat Shock Protein 105 as an Immunotherapeutic Target for Patients With Cervical Cancer. *Anticancer Res*, Oct; 41(10): 4741-4751, 2021.
- 004 *Ishikawa M, Shibata T, Iwata T, Nishio S, Takada T, Suzuki S, Horie K, Kudaka W, Kagabu M, Tanikawa M, Kitagawa R, Takekuma M, Kobayashi H, Yaegashi N* : A randomized phase II/III trial of conventional paclitaxel and carboplatin with or without bevacizumab versus dose-dense paclitaxel and carboplatin with or without bevacizumab, in stage IVB, recurrent, or persistent cervical carcinoma (JCOG1311): Primary analysis. *Japan Clinical Oncology Group*. *Gynecol Oncol*, Aug; 162(2): 292-298, 2021.

2022-2024, 203, 2021.

- 013 鈴木史朗：外陰癌，産科婦人科疾患 最新の治療，2022-2024, 204, 2021.
- 014 鈴木史朗：図解 分子メカニズムから理解する婦人科がんの薬物療法 葉酸代謝拮抗剤 メトトレキサート. 産婦人科の実際 11月臨時増刊号, 70: 12, 1256-1260, 2021.

脳神経外科部

- 001 *Shunichiro Kuramitsu, Kazuya Motomura, Yasuhiro Nakajima, Takashi Tsujiuchi, Ayako Motomura, Mamoru Matsuo, Nobuhisa Fukaya, Akinori Kageyama, Iori Kojima, Masasuke Ohno, Ryuta Saito* : Surgical management of brain metastasis as apart of systemic metastasis from adenoid cystic carcinoma of the external auditory canal: illustrative case. *Journal of Neurosurgery: Case Lessons*, 3(11), 2022.
- 002 灰本章一：転移性脊椎脊髄腫瘍—どう治療する，どこまで治療する？— 脊髄外科, 35: 158-166, 2021.
- 003 大野真佐輔：脳腫瘍に対するCAR-T細胞療法, *Cytometry Research*, 31(2): 1-6, 2022

放射線診断・IVR部

- 001 *Inaba Y, Sato Y, Yamaura H, Murata S, Hasegawa T, Chatani S, Kato M, Onaya H, Shimizu Y* : Percutaneous transjeunal pancreatic duct drainage for delayed pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 44(11), 1841-1844, 2021.
- 002 *Hasegawa T, Kuroda H, Sakakura N, Sato Y, Chatani S, Murata S, Yamaura H, Nakada T, Oya Y, Inaba Y* : Novel strategy to treat lung metastases; Hybrid therapy involving surgery and radiofrequency ablation. *Thoracic Cancer*, 12(14), 2085-2092, 2021.
- 003 *Sato Y, Chatani S, Hasegawa T, Murata S, Inaba Y* : Techniques for percutaneous transesophageal gastrotubing. *Int J Gastrointestinal Interv*, 10(2); 49-53, 2021.
- 004 *Chatani S, Sato Y, Murata S, Hasegawa T, Tsukii R, Nagasawa K, Machida M, Yoshihara T, Yamaura H, Hanai N, Matsuo K, Inaba Y* : Transarterial embolization for bleeding in patients with head and neck cancer: Who benefits?. *Laryngoscope*, Nov, 131(11); E2777-2783, 2021.
- 005 *Chatani S, Sato Y, Okuno N, Hasegawa T, Murata S, Yamaura H, Hara K, Shimizu Y, Inaba Y* : Percutaneous transsplenic obliteration of ectopic varices following pancreaticoduodenectomy with portal vein resection and splenic vein ligation. *Int J Gastrointest Interv*, 10(2); 77-80, 2021.
- 006 *Inaba Y, Hijioka S, Iwama I, Asai T, Miyamura H, Chatani S,*

Hasegawa T, Murata S, Kato M, Sato Y, Yamaura H, Onaya

- H, Shimizu J, Hara K* : Clinical usefulness of somatostatin receptor scintigraphy in the diagnosis of neuroendocrine neoplasms. *Asia Ocean Nucl Biol*, 10(1): 1-13, 2022.
- 007 女屋博昭：CT検査の特徴とその他の主な画像検査. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 2-8, 2022.
- 008 山浦秀和：造影剤の使用目的. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 9-15, 2022.
- 009 稲葉吉隆：正常画像. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 18-32, 2022.
- 010 女屋博昭：腫瘍の見落としを防ぐ. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 48-57, 2022.
- 011 女屋博昭：胃癌. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 75-89, 2022.
- 012 長谷川貴章, 稲葉吉隆：大腸癌. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 90-100, 2022.
- 013 長谷川貴章, 稲葉吉隆：肝細胞癌. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 101-112, 2022.
- 014 女屋博昭：膀胱癌. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 113-127, 2022.
- 015 加藤弥菜：泌尿器癌(腎癌). がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 128-134, 2022.
- 016 長谷川貴章, 稲葉吉隆：リンパ腫. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 135-144, 2022.
- 017 女屋博昭：肝障害症例に対する画像診断. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 165-172, 2022.
- 018 村田慎一, 稲葉吉隆：腎障害症例に対する画像診断. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 173-177, 2022.
- 019 茶谷祥平, 稲葉吉隆：便秘症例に対する画像診断—腸閉塞とイレウス. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 178-185, 2022.
- 020 茶谷祥平, 稲葉吉隆：下痢症例に対する画像診断. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 186-190, 2022.
- 021 茶谷祥平, 稲葉吉隆：しびれを訴える症例に対する画像診断. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 191-197, 2022.
- 022 村田慎一, 稲葉吉隆：緊急性の高い疾患の画像とその対処方法. がんCT画像読影のひきだし, 医学書院, 191-197, 2022.

放射線治療部

- 001 *Tomoya Y, Yosuke O, Hirofumi F, Takeshi K, Mototsugu S, Torahiko N, Nobuya M, Akihiro H, Shinya U, Tetsuo A* : Real-world clinical outcomes and prognostic factors in Japanese patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of head and neck treated with chemotherapy plus cetuximab: a prospective observation study (JROSG12-2) *Int J Clin Oncol* 26(2): 316-325, 2021.
- 002 *Naoya M, Taisuke M, Ryunosuke M, Takeshi K, Yoshinori I,*

- Naoto S, Koji K, Yasuo M, Yuji M, Naoki N, Hideomi Y, Atsunori Y, Michio Y, Koichi I, Miwako N, Satoshi I, Jun I, Yasumasa N, Yoshikazu K* : Prognostic Value of Epithelial Cell Adhesion Molecules in T1-2N0M0 Glottic Cancer. *Laryngoscope*. 131(7): 1522-27, 2021.
- 003 *Susumu O, Akihiro H, Naomi K, Makoto T, Nobuhiro H, Takahiro A, Kazuto M, Takenori O, Yuki S, Daisuke S, Takeshi K, Atsushi M, Koichi Y, Shunji T, Kaoru T, Takuma O, Tomoya Y, Yoshinori I, Yosuke Ar, Tetsuo A, Ryuichi H* : Induction chemotherapy in locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn J Clin Oncol*. 51(2): 173-9, 2021 .
- 004 *Hidetoshi S, Koji S, Takahiro A, Hiroyuki T, Hiroshi T, Yutaro K, Tohru I, Tomoki K, Takeshi K* : Examination of the best head tilt angle to reduce the parotid gland dose maintaining a safe level of lens dose in whole-brain radiotherapy using the four-field box technique *J Appl Clin Med Phys* 22(2): 49-57, 2021.
- 005 *Harumi K, Hirofumi T, Takeshi K, Tomohiro K, Kazuhito Y* : Long-term engraftment stability of umbilical cord blood cells preserved in -135 °C mechanical freezers. *Leuk Research* in press, 2021.
- 006 *Hidetoshi S, Koji S, Takahiro A, Tohru I, Tomoki K, Takeshi K* : Lung dose reduction in patients with stage III non-small-cell lung cancer using software that estimates patient-specific dose reduction feasibility. *Med Phys* 85, 5762, 2021.
- 007 *Yoko T, Takaya Y, Hiroshi M, Akito H, Yuichiro T, Hidetsugu N, Satoshi T, Junji U, Kazuhiro U, Tatsuya T, Motohiro T, Masahiro M, Yuko O, Takeshi K, Eisaku M, Keiichi J, Hisatoshi S* : Intensity-modulated radiation therapy with concurrent chemotherapy followed by durvalumab for stage III non-small cell lung cancer: a multi-center retrospective study. *Radiotherapy and Oncology* 160, 26672, 2021.
- 008 *Aoyama T, Shimizu H, Kitagawa T, Yokoi K, Koide Y, Tachibana H, Suzuki K, Kodaira T* : Comparison of atlas-based auto-segmentation accuracy for radiotherapy in prostate cancer. *Phys Imaging Radiat Oncol*. 19, 126-130, 2021.
- 009 *Koide Y, Shimizu H, Wakabayashi K, Kitagawa T, Aoyama T, Miyauchi R, Tachibana H, Kodaira T* : Synthetic breath-hold CT generation from free-breathing CT: a novel deep learning approach to predict cardiac dose reduction in deep-inspiration breath-hold radiotherapy. *J Radiat Res*. in press, 2021.
- 010 *Kawamura M, Koide Y, Murai T, Ishihara S, Takase Y, Murao T, Okazaki D, Yamaguchi T, Uchiyama K, Itoh Y, Kodaira T, Shibamoto Y, Mizuno M, Kikkawa F, Naganawa S* : The importance of choosing the right strategy to treat small cell carcinoma of the cervix: a comparative analysis of treatments. *BMC Cancer*. 21(1): 1046, 2021.
- 011 *Kohei Wakabayashi, Yutaro Koide, Takahiro Aoyama, Hidetoshi Shimizu, Risei Miyauchi, Hiroshi Tanaka, Hiroyuki Tachibana, Katsumasa Nakamura, Takeshi Kodaira* : A predictive model for pain response following radiotherapy for treatment of spinal metastases *Sci Rep* 11(1): 12908, 2021.
- 012 *Takahiro Aoyama, Hidetoshi Shimizu, Tomoki Kitagawa, Kazushi Yokoi, Yutaro Koide, Hiroyuki Tachibana, Kojiro Suzuki, Takeshi Kodaira* : Comparison of atlas-based auto-segmentation accuracy for radiotherapy in prostate cancer *Phys Imaging Radiat Oncol* 19, 126-130, 2021.
- 011 *Takahiro Aoyama, Koichiro Uto, Hidetoshi Shimizu, Mitsuhiro Ebara, Tomoki Kitagawa, Hiroyuki Tachibana, Kojiro Suzuki, Takeshi Kodaira* : Development of a new poly-ε-caprolactone with low melting point for creating a thermoset mask used in radiation therapy *Sci Rep* 11(1): 20409, 2021.
- 012 *Motoko Tachihara, Kayoko Tsujino, Takeaki Ishihara, Hidetoshi Hayashi, Yuki Sato, Takayasu Kurata, Shunichi Sugawara, Isamu Okamoto, Shunsuke Teraoka, Koichi Azuma, Haruko Daga, Masafumi Yamaguchi, Takeshi Kodaira, Miyako Satouchi, Mototsugu Shimokawa, Nobuyuki Yamamoto, Kazuhiko Nakagawa* : members of the West Japan Oncology Group (WJOG) Rationale and Design for a Multicenter, Phase II Study of Durvalumab Plus Concurrent Radiation Therapy in Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer: The DOLPHIN Study (WJOG11619L) *Cancer Manag Res* 13: 91679173, 2021.
- 013 *Yutaro Koide, Hidetoshi Shimizu, Risei Miyauchi, Shouichi Haimoto, Hiroshi Tanaka, Yui Watanabe, Sou Adachi, Daiki Kato, Takahiro Aoyama, Tomoki Kitagawa, Hiroyuki Tachibana, Takeshi Kodaira* : Fully automated rigid image registration versus human registration in postoperative spine stereotactic body radiation therapy: a multicenter non-inferiority study *JRR* ahead of print, 2021.
- 014 *Horio Y, Sato Y, Tachibana H, Hosoda W, Shimizu J, Hida T* : Successful bronchial arterial infusion chemotherapy combined with radiotherapy for an endobronchial metastasis after resection of small cell lung cancer. *Respirol Case Rep*. 9(4), 2021
- 015 *Koide Y, Shimizu H, Wakabayashi K, Kitagawa T, Aoyama T, Miyauchi R, Tachibana H, Kodaira T* : Synthetic breath-hold CT generation from free-breathing CT: a novel deep learning approach to predict cardiac dose reduction in deep-inspiration breath-hold radiotherapy. *J Radiat Res*. 62(6): 1065-1075, 2021.
- 016 *Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T* : Lung dose reduction in patients with stage III non-small-cell lung cancer using software that estimates patient-specific dose reduction feasibility. *Phys Med*. 85: 57-62, 2021.

- 017 **Aoyama T, Shimizu H, Kitagawa T, Yokoi K, Koide Y, Tachibana H, Suzuki K, Kodaira T** : Comparison of atlas-based auto-segmentation accuracy for radiotherapy in prostate cancer. *Phys Imaging Radiat Oncol.* 25: 126-130, 2021.
- 018 **Aoyama T, Uto K, Shimizu H, Ebara M, Kitagawa T, Tachibana H, Suzuki K, Kodaira T** : Development of a new poly- ϵ -caprolactone with low melting point for creating a thermoset mask used in radiation therapy. *Sci Rep.* 14: 20409, 2021.
- 019 **Suzuki H, Tamaki T, Kodaira T, Nishio M, Nishikawa D, Beppu S, Terada H, Sawabe M, Hanai N** : Metabolic Tumour Volume as a Predictor of Survival for Sinonasal Tract Squamous Cell Carcinoma. *Diagnostics (Basel)*, 2022 .
- 020 **Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Tachibana H, Koide Y, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T** : Parotid gland dose reduction in the hippocampus avoidance whole-brain radiotherapy using helical tomotherapy. *J Radiat Res.* 2022 .
- 021 **Koide Y, Shimizu H, Miyauchi R, Haimoto S, Tanaka H, Watanabe Y, Adachi S, Kato D, Aoyama T, Kitagawa T, Tachibana H, Kodaira T** : Fully automated rigid image registration versus human registration in postoperative spine stereotactic body radiation therapy: a multicenter non-inferiority study. *J Radiat Res.* 2022 .
- 022 **Koide Y, Shimizu H, Aoyama T, Kitagawa T, Miyauchi R, Watanabe Y, Tachibana H, Kodaira T** : Preoperative spirometry and BMI in deep inspiration breath-hold radiotherapy: the early detection of cardiac and lung dose predictors without radiation exposure. *Radiat Oncol.* 2022 .
- 023 **Kiyota N, Tahara M, Mizusawa J, Kodaira T, Fujii H, Yamazaki T, Mitani H, Iwae S, Fujimoto Y, Onozawa Y, Hanai N, Ogawa T, Hara H, Monden N, Shimura E, Minami S, Fujii T, Tanaka K, Homma A, Yoshimoto S, Oridate N, Omori K, Ueda T, Okami K, Ota I, Shiga K, Sugawara M, Asakage T, Saito Y, Muroto S, Nishimura Y, Nakamura K, Hayashi R** : Head and Neck Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG-HNCSG). Weekly Cisplatin Plus Radiation for Postoperative Head and Neck Cancer (JCOG1008): A Multicenter, Noninferiority, Phase II/III Randomized Controlled Trial. *J Clin Oncol.* 2022 .
- 024 **Imamura Y, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ota I, Saito Y, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Yokota T, Okano S, Tanaka K, Onoe T, Ariizumi Y, Homma A** : Systemic therapy for salivary gland malignancy: current status and future perspectives. *Jpn J Clin Oncol.* 2022 .
- 025 **Saito Y, Homma A, Kiyota N, Tahara M, Hanai N, Asakage T, Matsuura K, Ota I, Yokota T, Sano D, Kodaira T, Motegi A, Yasuda K, Takahashi S, Tanaka K, Onoe T, Okano S, Imamura Y, Ariizumi Y** : Hayashi Human papillomavirus-related oropharyngeal carcinoma. *R.Jpn J Clin Oncol.* 2022 .
- 026 **Koide Y, Shimizu H, Aoyama T, Kitagawa T, Miyauchi R, Watanabe Y, Tachibana H, Kodaira T** : Preoperative spirometry and BMI in deep inspiration breath-hold radiotherapy: the early detection of cardiac and lung dose predictors without radiation exposure. *Radiat Oncol.* 2022
- 027 **Koide Y, Shimizu H, Miyauchi R, Haimoto S, Tanaka H, Watanabe Y, Adachi S, Kato D, Aoyama T, Kitagawa T, Tachibana H, Kodaira T** : Fully automated rigid image registration versus human registration in postoperative spine stereotactic body radiation therapy: a multicenter non-inferiority study. *J Radiat Res.* 63(1): 115-121, 2022.
- 028 **Shimizu H, Sasaki K, Aoyama T, Tachibana H, Koide Y, Iwata T, Kitagawa T, Kodaira T** : Parotid gland dose reduction in the hippocampus avoidance whole-brain radiotherapy using helical tomotherapy. *J Radiat Res.* 63(1): 55-62, 2022.
- 029 古平 毅 : パネルディスカッション 1 高齢者喉頭癌の治療戦略 高齢者に対する喉頭癌の放射線治療 喉頭 33, 108113, 2021.
- 030 清水秀年, 村澤 哲, 奥平訓康, 青山貴洋, 穴井重男, 西谷数春, 北川智基, 佐々木 浩 : 光・放射線照射野の検証と Winston-Lutz 試験を統合した水平性と鉛直性を含む室内レーザのアライメントを評価するシステムの開発. *医学物理* 41 巻 1 号, 2021.
- 031 清水秀年 : 特集 3 Ⅲ期肺癌に対する免疫放射線治療革命 - VMAT の効果的活用法 - 「各施設のⅢ期肺癌に対する VMAT 治療計画と運用②」放射線治療 BOOK2021 (RadFan 2021 年 10 月臨時増刊号), Vol.19 No.11, 2021.

感染症内科部

- 001 **Itoh N, Akazawa N, Kanawaku E, Murakami H, Ishibana Y, Kawamura D, Kawabata T, Mori K, Kodama EN, Ohmagari N** : Effects of infectious disease consultation and antimicrobial stewardship program at a Japanese cancer center: An interrupted time-series analysis. *PLoS One.* 25; 17(1): e0263095, 2022.
- 002 **Kento F, Naoya I** : Dark Urine in a Dialysis Patient Treated for a Bloodstream Infection. *Kidney360.* 11; 3 (3): 582-583, 2022.
- 003 **Akazawa N, Itoh N, Ando M** : A man with fever and aortitis. *Eur J Intern Med.* 100: 123-124, 2022.
- 004 **Furuya K, Itoh N** : Bactérie *Listeria monocytogenes* associée à une spondylite pyogène chez une femme de 92 ans. *CMAJ.* 22; 194(7): E274-E275, 2022.
- 005 **Higaki E, Abe T, Fujieda H, Hosoi T, Nagao T, Komori K, Ito S, Itoh N, Matsuo K, Shimizu Y** : Significance of

Antimicrobial Prophylaxis for the Prevention of Early-Onset Pneumonia After Radical Esophageal Cancer Resection: A Retrospective Analysis of 356 Patients Undergoing Thoracoscopic Esophagectomy. *Ann Surg Oncol.* 29(2): 1374-1387, 2022.

- 006 **Itoh N, Murakami H, Ishibana Y, Yoshida M, Watari T, Otsuka Y**: A case of Salmonella osteomyelitis mimicking a malignant tumor of the humerus in an immunocompetent adult patient identified using broad-range polymerase chain reaction with sequencing of a biopsied specimen. *J Infect Chemother.* 27(12): 1769-1773, 2021.
- 007 **Itoh N, Murakami H, Ishibana Y, Matsubara Y, Yaguchi T, Kamei K**: Challenges in the diagnosis and management of central line-associated blood stream infection due to *Exophiala dermatitidis* in an adult cancer patient. *J Infect Chemother.* 27(9): 1360-1364, 2021.
- 008 **Itoh N, Akazawa N, Murakami H, Ishibana Y, Takahashi Y, Hosoda W, Yaguchi T, Kamei K**: A Schizophyllum commune fungus ball in a lung cancer cavity: a case report. *BMC Infect Dis.* 9; 21(1): 1052, 2021.
- 009 **Furuya K, Itoh N**: *Listeria monocytogenes* associated with pyogenic spondylitis in a 92-year-old woman. *CMAJ.* 22; 193(46): E1771, 2021.
- 010 **Fujihara T, Itoh N, Yamamoto S, Kurai H**: Lateral thoracic artery aneurysm with lung abscess and empyema caused by *Streptococcus intermedius*. *J Gen Fam Med.* 5; 22(5): 296-297, 2021.

精神腫瘍科部

- 001 **Komori, Y**: An Interview with Yasunaga Komori of the Japan Graphic Medicine Association. 2021 by Comic Nurse <https://www.graphicmedicine.org/an-interview-with-yasunaga-komori-of-the-japan-graphic-medicine-association/>
- 002 **宮原昭夫, 渡辺俊之, 小森康永**: [鼎談] 文学・医学・家族——小説家 宮原昭夫に聞く, *家族療法研究*, 38(1): 36-51, 2021.
- 003 **小森康永**: パラレルチャートを書こう (第9回)片腕のチューバ吹き, *家族療法研究*, 38(1): 68-71, 2021.
- 004 **小森康永**: 書評 田代順 著「小児がん病棟の子どもたち」, *家族療法研究*, 38(1): 73-74, 2021.
- 005 **小森康永**: 海外文献紹介 ジャック・クルールハン: チェーホフの医師たち, *家族療法研究*, 38(1): 77-79, 2021.
- 006 **小森康永**: 謎が秘密になる前に, 沈黙が嘘になる前に, *家族療法研究*, 38(3): 262-267, 2021.
- 007 **小森康永ほか**: パラレルチャートを書こう (第10回), *家族療法研究*, 38(3): 290-299, 2021.
- 008 **M. ホワイト (小森康永, 奥野光訳)**: *リフレクションズ*, 金剛出版, 2021.

看護部

- 001 **向井未年子**: 死を迎える人のケア「輸液, 栄養, 食べること」. *がん看護*. 南江堂, 26(8): 682-685, 2021.
- 002 **戸崎加奈江, 山田知里, 黒野純子**: YORi-SOU がんナーシング. *メディカ出版*, 11(5): 75-87, 2021.

薬剤部

学会誌

- 001 **前田章光**: 私にもできる抗がん薬 (メトトレキサート) の投与設計. *TDM 研究*, 38(2): 128-130, 2021.
- 002 **前田章光, 女屋博昭**: シリーズ企画「薬剤師も知っておきたい CT 画像の基礎知識 (1)」. *日本臨床腫瘍薬学会雑誌*, 21: 1-4, 2021.
- 003 **前田章光, 女屋博昭**: シリーズ企画「薬剤師も知っておきたい CT 画像の基礎知識 (2)」. *日本臨床腫瘍薬学会雑誌*, 22: 8-12, 2021.
- 004 **安川稔昭, 前田章光, 室 圭**: 話題のクスリ アナモレリン塩酸塩錠. *日本病院薬剤師会雑誌*, 58(1): 105-108, 2022.

その他誌上発表

- 005 **下村一景, 前田章光**: YORi-SOU がんナーシング, 11(5): 403-403, 2021.
- 006 **富安直弥, 前田章光**: YORi-SOU がんナーシング, 11(5): 410-410, 2021.
- 007 **前田章光**: YORi-SOU がんナーシング, 11(5): 430-430, 2021.

6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

研究所長

- 001 **Okamoto N, Ohto T, Enokizono T, Wada Y, Kohmoto T, Imoto I, Haga Y, Seino J, Suzuki T** : Siblings with MAN1B1-CDG showing novel biochemical profiles. *Cells*, 10(11): 3117, 2021. doi: 10.3390/cells10113117.
- 002 **Shibata E, Morita KI, Kayamori K, Tange S, Shibata H, Harazono Y, Michi Y, Ikeda T, Harada H, Imoto I, Yoda T** : Detection of novel fusion genes by next-generation sequencing-based targeted RNA sequencing analysis in adenoid cystic carcinoma of head and neck. *Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol*, 132(4): 426-433, 2021. doi: 10.1016/j.oooo.2021.03.020.
- 003 **Sakane A, Yano T, Uchihashi T, Horikawa K, Imoto I, Yamada H, Takei K, Sasaki T** : JRAB/MICAL-L2 undergoes liquid-liquid phase separation to form the tubular recycling endosomes. *Commun Biol*, 11; 4(1): 551, 2021. doi: 10.1038/s42003-021-02080-7.
- 004 **Imoto I*, Saito M, Suga K, Kohmoto T, Otsu M, Horiuchi K, Nakayama H, Higashiyama S, Sugimoto M, Sasaki A, Homma Y, Shono M, Nakagawa R, Hayabuchi Y, Tange S, Kagami S, Masuda K** : Functionally confirmed compound heterozygous ADAM17 missense loss-of-function variants cause neonatal inflammatory skin and bowel disease 1. *Sci Rep*, 11(1): 9552, 2021. doi: 10.1038/s41598-021-89063-0.
- 005 **Takahashi Y, Date H, Oi H, Adachi T, Imanishi N, Kimura E, Takizawa H, Kosugi S, Matsumoto N, Kosaki K, Matsubara Y; IRUD Consortium, Mizusawa H** : Six years' accomplishment of the Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases: nationwide project in Japan to discover causes, mechanisms, and cures. *J Hum Genet*, 67:505-513, 2022. doi: 10.1038/s10038-022-01025-0.
- 006 **井本逸勢** : がんゲノム医療アップデート. *現代医学*, 68 : 1:17-21, 2021.
- 007 **井本逸勢** : 学習準備性に配慮した GCRP 研修会 2019 中京での取り組み. *遺伝子医学*, 38 : 11: 50-56, 2021.
- 008 **小野浩雅, 井本逸勢** : エクソーム時代におけるウェブリテラシー向上のための動画教材 (統合 TV) の活用と自己到達度判定システムによる遺伝教育プログラムの構築. *遺伝子医学*, 38 : 11: 57-65, 2021.
- 009 **井本逸勢, 高磯伸枝, 福江美咲** : 2. 遺伝疾患ゲノム医療関連のデータベース 4) ClinVar. *遺伝子医学*, 39 : 12: 81-86, 2022.

がん情報・対策研究分野

- 001 **Lee S, Jang J, Abe SK, Rahman S, Saito E, Islam R, Gupta**

- PC, Sawada N, Tamakoshi A, Shu XO, Koh WP, Sadakane A, Tsuji I, Kim J, Oze I, Nagata C, You SL, Shin MH, Pednekar MS, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Wen W, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Shin A, Ito H, Wada K, Sugawara Y, Chen CJ, Ahn YO, Chen Y, Ahsan H, Boffetta P, Chia KS, Matsuo K, Qiao YL, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D, and Park SK** : Association between body mass index and oesophageal cancer mortality: a pooled analysis of prospective cohort studies with >800000 individuals in the Asia Cohort Consortium. *Int J Epidemiol*, 2022.
- 002 **Ho WK, Tai MC, Dennis J, Shu X, Li J, Ho PJ, Millwood IY, Lin K, Jee YH, Lee SH, Mavaddat N, Bolla MK, Wang Q, Michailidou K, Long J, Wijaya EA, Hassan T, Rahmat K, Tan VKM, Tan BKT, Tan SM, Tan EY, Lim SH, Gao YT, Zheng Y, Kang D, Choi JY, Han W, Lee HB, Kubo M, Okada Y, Namba S, Park SK, Kim SW, Shen CY, Wu PE, Park B, Muir KR, Lophatananon A, Wu AH, Tseng CC, Matsuo K, Ito H, Kwong A, Chan TL, John EM, Kurian AW, Iwasaki M, Yamaji T, Kweon SS, Aronson KJ, Murphy RA, Koh WP, Khor CC, Yuan JM, Dorajoo R, Walters RG, Chen Z, Li L, Lv J, Jung KJ, Kraft P, Pharoah PDB, Dunning AM, Simard J, Shu XO, Yip CH, Taib NAM, Antoniou AC, Zheng W, Hartman M, Easton DF, and Teo SH** : Polygenic risk scores for prediction of breast cancer risk in Asian populations. *Genet Med*, 24(3): 586-600, 2022.
- 003 **Shin A, Cho S, Jang D, Abe SK, Saito E, Rahman MS, Islam MR, Sawada N, Shu XO, Koh WP, Sadakane A, Tsuji I, Sugawara Y, Ito H, Nagata C, Park SK, Yuan JM, Kim J, Tsugane S, Cai H, Wen W, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Oze I, Wada K, Wang R, Yoo KY, Potter JD, Ahsan H, Boffetta P, Chia KS, Matsuo K, Qiao YL, Rothman N, Zheng W, Inoue M, and Kang D, **Body Mass Index and Thyroid Cancer Risk** : A Pooled Analysis of Half a Million Men and Women in the Asia Cohort Consortium. *Thyroid*, 32 (3): 306-314, 2022.**
- 004 **Kawakita D, Oze I, Iwasaki S, Matsuda T, Matsuo K, and Ito H** : Trends in the incidence of head and neck cancer by subsite between 1993 and 2015 in Japan. *Cancer Med*, 11 (6): 1553-1560, 2022.
- 005 **Koga K, Hara M, Shimanoe C, Nishida Y, Furukawa T, Iwasaka C, Tanaka K, Otonari J, Ikezaki H, Kubo Y, Kato Y, Tamura T, Hishida A, Matsuo K, Ito H, Nakamura Y, Kusakabe M, Nishimoto D, Shibuya K, Suzuki S, Watanabe M, Ozaki E, Matsui D, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takeuchi K, and Wakai K** : Association of perceived stress and coping strategies with the renal function in middle-aged and older Japanese men and women. *Sci Rep*, 12(1): 291, 2022.

- 006 **Tamura T, Wakai K, Lin Y, Tamakoshi A, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Ono A, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Nagata C, Kitamura T, Naito M, Tanaka K, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, and Inoue M** : Alcohol intake and stomach cancer risk in Japan: A pooled analysis of six cohort studies. *Cancer Sci*, 113(1): 261-276, 2022.
- 007 **Furukawa T, Nishida Y, Hara M, Shimanoe C, Koga K, Iwasaka C, Higaki Y, Tanaka K, Nakashima R, Ikezaki H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Tamada Y, Matsuo K, Ito H, Mikami H, Kusakabe M, Ibusuki R, Shibuya K, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Ozaki E, Matsui D, Kuriki K, Nakamura Y, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takeuchi K, and Wakai K** : Effect of the interaction between physical activity and estimated macronutrient intake on HbA1c: population-based cross-sectional and longitudinal studies. *BMJ Open Diabetes Res Care*, 10(1), 2022.
- 008 **Inoue-Choi M, Freedman ND, Saito E, Tanaka S, Hirabayashi M, Sawada N, Tsugane S, Usui Y, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Katanoda K, and Inoue M** : Correction to: Low-intensity cigarette smoking and mortality risks: a pooled analysis of prospective cohort studies in Japan. *Int J Epidemiol*, 2022.
- 009 **Nakamura Y, Tamura T, Narita A, Shimizu A, Sutoh Y, Takashima N, Matsui K, Miyagawa N, Kadota A, Miura K, Otonari J, Ikezaki H, Hishida A, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Tanaka K, Shimanoe C, Ibusuki R, Nishimoto D, Oze I, Ito H, Ozaki E, Matsui D, Mikami H, Kusakabe M, Suzuki S, Watanabe M, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, and Wakai K** : A genome-wide association study on adherence to low-carbohydrate diets in Japanese. *Eur J Clin Nutr*, 2022.
- 010 **Goto A, Suzuki S, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Nakatochi M, Wakai K, Hozawa A, Kinoshita K, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Matsuo K, and Iwasaki M** : Public Access to Summary Statistics for Genome-wide Association Studies of Body Mass Index, Weight, and Height Among Healthy Japanese Individuals: The Japanese Consortium of Genetic Epidemiology Studies. *J Epidemiol*, 32(2): 115-116, 2022.
- 011 **Ohashi M, Miura K, Takashima N, Kadota A, Saito Y, Tsuji S, Murakami T, Kadomatsu Y, Nagayoshi M, Hara M, Tanaka K, Tamura T, Hishida A, Takezaki T, Shimoshikiryō I, Ozaki E, Watanabe I, Suzuki S, Watanabe M, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Yamasaki S, Ikezaki H, Oze I, Koyanagi YN, Mikami H, Nakamura Y, Takeuchi K, Kita Y, and Wakai K** : The association of reproductive history with hypertension and obesity according to menopausal status: the J-MICC Study. *Hypertens Res*, 45(4): 708-714, 2022.
- 012 **Koyanagi YN, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Hara K, Shimizu Y, Imoto I, Ito H, and Matsuo K** : New insights into the genetic contribution of ALDH2 rs671 in pancreatic carcinogenesis: Evaluation by mediation analysis. *Cancer Sci*, 113(4): 1441-1450, 2022.
- 013 **Kasugai Y, Kohmoto T, Taniyama Y, Koyanagi YN, Usui Y, Iwase M, Oze I, Yamaguchi R, Ito H, Imoto I, and Matsuo K** : Association between germline pathogenic variants and breast cancer risk in Japanese women: The HERPACC study. *Cancer Sci*, 113(4): 1451-1462, 2022.
- 014 **Matsunaga T, Kadomatsu Y, Tsukamoto M, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Takezaki T, Shimoshikiryō I, Suzuki S, Nakagawa H, Takashima N, Saito Y, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Kuriyama N, Matsui D, Mikami H, Nakamura Y, Oze I, Ito H, Murata M, Ikezaki H, Nishida Y, Shimanoe C, Takeuchi K, and Wakai K** : Associations of breastfeeding history with metabolic syndrome and cardiovascular risk factors in community-dwelling parous women: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *PLoS One*, 17(1): e0262252, 2022.
- 015 **Nagayoshi M, Takeuchi K, Tamada Y, Yasufumi K, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Hishida A, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimanoe C, Koyanagi YN, Matsuo K, Haruo M, Miho K, Nishimoto D, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, and Wakai K** : Sex-specific Relationship between Stress Coping Strategies and All-Cause Mortality: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 2021.
- 016 **Inoue-Choi M, Freedman ND, Saito E, Tanaka S, Hirabayashi M, Sawada N, Tsugane S, Usui Y, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Katanoda K, and Inoue M** : Low-intensity cigarette smoking and mortality risks: a pooled analysis of prospective cohort studies in Japan. *Int J Epidemiol*, 2021.
- 017 **Koyama S, Tabuchi T, Okawa S, Taniyama Y, Nakata K, Morishima T, and Miyashiro I** : Hospital volume and 5-year survival in head and neck cancer patients in Osaka, Japan. *Jpn J Clin Oncol*, 51(10): 1515-1522, 2021.
- 018 **Camargo MC, Song M, Ito H, Oze I, Koyanagi YN, Kasugai Y, Rabkin CS, and Matsuo K** : Associations of circulating mediators of inflammation, cell regulation and immune response with esophageal squamous cell carcinoma. *J Cancer Res Clin Oncol*, 147(10): 2885-2892, 2021.
- 019 **Ishikura N, Ito H, Oze I, Koyanagi YN, Kasugai Y, Taniyama Y, Kawakatsu Y, Tanaka T, Ito S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, and Matsuo K** : Risk Prediction for Gastric Cancer Using GWAS-Identified Polymorphisms, Helicobacter pylori Infection and Lifestyle-Related Risk Factors in a

- Japanese Population. *Cancers (Basel)*, 13(21), 2021.
- 020 **Lin Y, Kawai S, Sasakabe T, Nagata C, Naito M, Tanaka K, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Matsuo K, Kitamura T, Utada M, Ito H, Shimazu T, Kikuchi S, and Inoue M** : Corrigendum to: Effects of *Helicobacter pylori* eradication on gastric cancer incidence in the Japanese population: a systematic evidence review. *Jpn J Clin Oncol*, 51(11): 1693, 2021.
- 021 **Park J, Choi JY, Choi J, Chung S, Song N, Park SK, Han W, Noh DY, Ahn SH, Lee JW, Kim MK, Jee SH, Wen W, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Michailidou K, Shah M, Conroy DM, Harrington PA, Mayes R, Czene K, Hall P, Teras LR, Patel AV, Couch FJ, Olson JE, Sawyer EJ, Roycastle R, Bojesen SE, Flyger H, Lambrechts D, Baten A, Matsuo K, Ito H, Guénel P, Truong T, Keeman R, Schmidt MK, Wu AH, Tseng CC, Cox A, Cross SS, Kconfab I, Andrulis IL, Hopper JL, Southey MC, Wu PE, Shen CY, Fasching PA, Ekici AB, Muir K, Lophatananon A, Brenner H, Arndt V, Jones ME, Swerdlow AJ, Hoppe R, Ko YD, Hartman M, Li J, Mannermaa A, Hartikainen JM, Benitez J, González-Neira A, Haiman CA, Dörk T, Bogdanova NV, Teo SH, Mohd Taib NA, Fletcher O, Johnson N, Grip M, Winqvist R, Blomqvist C, Nevanlinna H, Lindblom A, Wendt C, Kristensen VN, Nbc C, Tollenaar R, Heemskerk-Gerritsen BAM, Radice P, Bonanni B, Hamann U, Manoochchri M, Lacey JV, Martinez ME, Dunning AM, Pharoah PDP, Easton DF, Yoo KY, and Kang D** : Gene-Environment Interactions Relevant to Estrogen and Risk of Breast Cancer: Can Gene-Environment Interactions Be Detected Only among Candidate SNPs from Genome-Wide Association Studies? *Cancers (Basel)*, 13(10), 2021.
- 022 **Yang JJ, Yu D, Shu XO, Freedman ND, Wen W, Rahman S, Abe SK, Saito E, Gupta PC, He J, Tsugane S, Gao YT, Xiang YB, Yuan JM, Tomata Y, Tsuji I, Sugawara Y, Matsuo K, Ahn YO, Park SK, Chen Y, Pan WH, Pednekar M, Gu D, Sawada N, Cai H, Li HL, Koh WP, Wang R, Zhang S, Kanemura S, Ito H, Shin MH, Wu PE, Yoo KY, Ahsan H, Chia KS, Boffetta P, Inoue M, Kang D, Potter JD, and Zheng W** : Quantifying the association of low-intensity and late initiation of tobacco smoking with total and cause-specific mortality in Asia. *Tob Control*, 30(3): 328-335, 2021.
- 023 **Iwase M, Matsuo K, Koyanagi YNY, Ito H, Tamakoshi A, Wang C, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Sawada N, Tanaka S, Nagata C, Kitamura Y, Shimazu T, Mizoue T, Naito M, Tanaka K, and Inoue M** : Alcohol consumption and breast cancer risk in Japan: A pooled analysis of eight population-based cohort studies. *Int J Cancer*, 148(11): 2736-2747, 2021.
- 024 **Suzuki H, Nakamura Y, Matsuo K, Imaeda N, Goto C, Narita A, Shimizu A, Takashima N, Matsui K, Miura K, Nakatochi M, Hishida A, Tamura T, Kadomatsu Y, Okada R, Nishida Y, Shimanoe C, Nishimoto D, Takezaki T, Oze I, Ito H, Ikezaki H, Murata M, Matsui D, Ozaki E, Mikami H, Nakamura Y, Suzuki S, Watanabe M, Arisawa K, Uemura H, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Kita Y, Takeuchi K, and Wakai K** : A genome-wide association study in Japanese identified one variant associated with a preference for a Japanese dietary pattern. *Eur J Clin Nutr*, 75(6): 937-945, 2021.
- 025 **Oze I, Ito H, Kasugai Y, Yamaji T, Kijima Y, Ugai T, Kasuga Y, Ouellette TK, Taniyama Y, Koyanagi YN, Imoto I, Tsugane S, Koriyama C, Iwasaki M, and Matsuo K** : A Personal Breast Cancer Risk Stratification Model Using Common Variants and Environmental Risk Factors in Japanese Females. *Cancers (Basel)*, 13(15), 2021.
- 026 **Koyama T, Ozaki E, Kuriyama N, Tomida S, Yoshida T, Uehara R, Tanaka K, Hara M, Hishida A, Okada R, Kubo Y, Oze I, Koyanagi YN, Mikami H, Nakamura Y, Shimoshikiryō I, Takezaki T, Suzuki S, Otani T, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Ikezaki H, Murata M, Takeuchi K, and Wakai K** : Effect of Underlying Cardiometabolic Diseases on the Association Between Sedentary Time and All-Cause Mortality in a Large Japanese Population: A Cohort Analysis Based on the J-MICC Study. *J Am Heart Assoc*, 10(13): e018293, 2021.
- 027 **Lin Y, Kawai S, Sasakabe T, Nagata C, Naito M, Tanaka K, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Matsuo K, Kitamura T, Utada M, Ito H, Shimazu T, Kikuchi S, and Inoue M** : Effects of *Helicobacter pylori* eradication on gastric cancer incidence in the Japanese population: a systematic evidence review. *Jpn J Clin Oncol*, 51(7): 1158-1170, 2021.
- 028 **Baxter JS, Johnson N, Tomczyk K, Gillespie A, Maguire S, Brough R, Fachal L, Michailidou K, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Ahearn TU, Andrulis IL, Anton-Culver H, Antonenkova NN, Arndt V, Aronson KJ, Augustinsson A, Becher H, Beckmann MW, Behrens S, Benitez J, Bermisheva M, Bogdanova NV, Bojesen SE, Brenner H, Brucker SY, Cai Q, Campa D, Canzian F, Castela JE, Chan TL, Chang-Claude J, Chanock SJ, Chenevix-Trench G, Choi JY, Clarke CL, Colonna S, Conroy DM, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Daly MB, Devilee P, Dörk T, Dossus L, Dwek M, Eccles DM, Ekici AB, Eliassen AH, Engel C, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Gago-Dominguez M, Gao C, García-Closas M, García-Sáenz JA, Ghoussaini M, Giles GG, Goldberg MS, González-Neira A, Guénel P, Gündert M, Haeberle L, Hahnen E, Haiman CA, Hall P, Hamann U, Hartman M, Hatse S, Hauke J, Hollestelle A, Hoppe R, Hopper JL, Hou MF, Ito H, Iwasaki M, Jager A, Jakubowska A, Janni W, John EM, Joseph V, Jung A, Kaaks R, Kang D, Keeman R, Khusnutdinova E, Kim SW, Kosma VM, Kraft P, Kristensen VN, Kubelka-Sabit K, Kurian AW, Kwong A, Lacey JV, Lambrechts D, Larson NL, Larsson SC, Le Marchand L, Lejbkiewicz F, Li J, Long J, Lophatananon A, Lubiński J, Mannermaa A, Manoochchri M, Manoukian S, Margolin S,**

- Matsuo K, Mavroudis D, Mayes R, Menon U, Milne RL, Mohd Taib NA, Muir K, Muranen TA, Murphy RA, Nevanlinna H, O'brien KM, Offit K, Olson JE, Olsson H, Park SK, Park-Simon TW, Patel AV, Peterlongo P, Peto J, Plaseska-Karanfilska D, Presneau N, Pylkäs K, Rack B, Rennert G, Romero A, Ruebner M, Rüdiger T, Saloustros E, Sandler DP, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schmutzler RK, Schneeweiss A, Schoemaker MJ, Shah M, Shen CY, Shu XO, Simard J, Southey MC, Stone J, Surowy H, Swerdlow AJ, Tamimi RM, Tapper WJ, Taylor JA, Teo SH, Teras LR, Terry MB, Toland AE, Tomlinson I, Truong T, Tseng CC, Untch M, Vachon CM, Van Den Ouweland AMW, Wang SS, Weinberg CR, Wendt C, Winham SJ, Winqvist R, Wolk A, Wu AH, Yamaji T, Zheng W, Ziogas A, Pharoah PDP, Dunning AM, Easton DF, Pettitt SJ, Lord CJ, Haider S, Orr N and Fletcher O : Functional annotation of the 2q35 breast cancer risk locus implicates a structural variant in influencing activity of a long-range enhancer element. *Am J Hum Genet*, 108(7): 1190-1203, 2021.
- 029 Nindita Y, Nakatochi M, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Nishimoto D, Shimatani K, Takezaki T, Ikezaki H, Murata M, Hara M, Nishida Y, Tamura T, Hishida A, Nagayoshi M, Okada R, Matsuo K, Ito H, Mikami H, Nakamura Y, Otani T, Suzuki S, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamao S, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, and Wakai K : Population-Based Impact of Smoking, Drinking, and Genetic Factors on HDL-Cholesterol Levels in J-MICC Study Participants. *J Epidemiol*, 2021.
- 030 Morra A, Jung AY, Behrens S, Keeman R, Ahearn TU, Anton-Culver H, Arndt V, Augustinsson A, Auvinen PK, Beane Freeman LE, Becher H, Beckmann MW, Blomqvist C, Bojesen SE, Bolla MK, Brenner H, Briceno I, Brucker SY, Camp NJ, Campa D, Canzian F, Castelao JE, Chanock SJ, Choi JY, Clarke CL, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Dörk T, Dunning AM, Dwek M, Easton DF, Eccles DM, Egan KM, Evans DG, Fasching PA, Flyger H, Gago-Dominguez M, Gapstur SM, García-Sáenz JA, Gaudet MM, Giles GG, Grip M, Guénel P, Haiman CA, Håkansson N, Hall P, Hamann U, Han SN, Hart SN, Hartman M, Heyworth JS, Hoppe R, Hopper JL, Hunter DJ, Ito H, Jager A, Jakimovska M, Jakubowska A, Janni W, Kaaks R, Kang D, Kapoor PM, Kitahara CM, Koutros S, Kraft P, Kristensen VN, Lacey JV, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lubiński J, Lush M, Mannermaa A, Manoochehri M, Margolin S, Mariapun S, Matsuo K, Mavroudis D, Milne RL, Muranen TA, Newman WG, Noh DY, Nordestgaard BG, Obi N, Olshan AF, Olsson H, Park-Simon TW, Petridis C, Pharoah PDP, Plaseska-Karanfilska D, Presneau N, Rashid MU, Rennert G, Rennert HS, Rhenius V, Romero A, Saloustros E, Sawyer EJ, Schneeweiss A, Schwentner L, Scott C, Shah M, Shen CY, Shu XO, Southey MC, Stram DO, Tamimi RM, Tapper W, Tollenaar R, Tomlinson I, Torres D, Troester MA, Truong T, Vachon CM, Wang Q, Wang SS, Williams JA, Winqvist R, Wolk A, Wu AH, Yoo KY, Yu JC, Zheng W, Ziogas A, Yang XR, Eliassen AH, Holmes MD, García-Closas M, Teo SH, Schmidt MK and Chang-Claude J : Breast Cancer Risk Factors and Survival by Tumor Subtype: Pooled Analyses from the Breast Cancer Association Consortium. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 30(4): 623-642, 2021.
- 031 Suzuki S, Goto A, Nakatochi M, Narita A, Yamaji T, Sawada N, Katagiri R, Iwagami M, Hanyuda A, Hachiya T, Sutoh Y, Oze I, Koyanagi YN, Kasugai Y, Taniyama Y, Ito H, Ikezaki H, Nishida Y, Tamura T, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Arisawa K, Takeuchi K, Tanno K, Shimizu A, Tamiya G, Hozawa A, Kinoshita K, Wakai K, Sasaki M, Yamamoto M, Matsuo K, Tsugane S, and Iwasaki M : Body mass index and colorectal cancer risk: A Mendelian randomization study. *Cancer Sci*, 112(4): 1579-1588, 2021.
- 032 Liu YS, Wu PE, Chou WC, Vikram R, Chen WT, Yang SL, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Chan TL, Choi JY, Hou MF, Ito H, Kang D, Kim SW, Kwong A, Matsuo K, Park SK, Shu XO, Zheng W, Dunning AM, Easton DF, and Shen CY : Body mass index and type 2 diabetes and breast cancer survival: a Mendelian randomization study. *Am J Cancer Res*, 11(8): 3921-3934, 2021.
- 033 Nakamura Y, Narita A, Sutoh Y, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Takashima N, Kadota A, Miura K, Nakatochi M, Tamura T, Hishida A, Nakashima R, Ikezaki H, Hara M, Nishida Y, Takezaki T, Ibusuki R, Oze I, Ito H, Kuriyama N, Ozaki E, Mikami H, Kusakabe M, Nakagawa-Senda H, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Kita Y, and Wakai K : A genome-wide association study on meat consumption in a Japanese population: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort study. *J Nutr Sci*, 10: e61, 2021.

がん予防研究分野

- 001 Nguyen T V, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Ishizu M, Nagayoshi M, Okada R, Hishida A, Tamura T, Hara M., Tanaka K, Nishimoto D, Shibuya K, Koyama T, Watanabe I, Suzuki S, Nishiyama T, Kuriki K, Nakamura Y, Saito Y, Ikezaki H, Otonari J, YN.K, Matsuo K, Mikami H, Kusakabe M, Takeuchi K, and Wakai K, : Associations of metabolic syndrome and metabolically unhealthy obesity with cancer mortality: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) study. *PLoS One*, 17(7): e0269550, 2022.
- 002 Goyal N, Hennessy M, Lehman E, Lin W, Agudo A, Ahrens W, Boccia S, Brennan P, Brenner H, Cadoni G, Canova C,

- Chen C, Conway D, Curado M.P, Dal Maso, Daudt A.W, Edefonti V, Fabianova E, Fernandez L, Franceschi S, Garavello W, Gillison M, Hayes R.B, Healy C, Herrero R, Holcatova I, Kanda J.L, Kelsey K, Hansen B.T, Koifman R, Lagiou P, La Vecchia C, Levi F, Li G, Lissowska J, Mendoza López R, Luce D, Macfarlane G, Mates D, Matsuo K, McClean M, Menezes A, Menvielle G, Morgenstern H, Moysich K, Negri E, Olshan A.F, Pandics T, Polesel J, Purdue M, Radoi L, Ramroth H, Richiardi L, Schantz S, Schwartz S.M, Serraino D, Shangina O, Smith E, Sturgis E.M, Świątkowska B, Thomson P, Vaughan T.L, Vilensky M, Winn D.M, Wunsch-Filho V, Yu G.P, Zavallos J.P, Zhang Z.F, Zheng T, Znaor A, Boffetta P, Hashibe M, Lee Y.A, and Muscat J.E* : Risk factors for head and neck cancer in more and less developed countries: Analysis from the INHANCE consortium. *Oral Dis*, 2022.
- 003 *Oze I, Kohno N, and Hasegawa Y* : Reply to T. Gupta et al. *J Clin Oncol*, 40(15): 1709-1710, 2022.
- 004 *Lee S, Jang J, Abe S.K, Rahman S, Saito E, Islam R, Gupta P.C, Sawada N, Tamakoshi A, Shu X.O, Koh W.P, Sadakane A, Tsuji I, Kim J, Oze I, Nagata C, You S.L, Shin M.H, Pednekar M.S, Tsugane S, Cai H, Yuan J.M, Wen W, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Shin A, Ito H, Wada K, Sugawara Y, Chen C.J, Ahn Y.O, Chen Y, Ahsan H, Boffetta P, Chia K.S, Matsuo K, Qiao Y.L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, Kang D, and Park S.K* : Association between body mass index and oesophageal cancer mortality: a pooled analysis of prospective cohort studies with >800000 individuals in the Asia Cohort Consortium. *Int J Epidemiol*, 2022.
- 005 *Hashimoto N, Habu H, Takao S, Sakamoto S, Okahisa Y, Matsuo K, Takaki M, Kishi Y, and Yamada N* : Clinical moderators of response to nalmefene in a randomized-controlled trial for alcohol dependence: An exploratory analysis. *Drug Alcohol Depend*, 233: 109365, 2022.
- 006 *Fujimoto K, Hosoi M, Katsuki R, Matsushima T, Matsuo K, Nakao T, Sudo N, and Kato T.A* : Psychological Traits of Patients With Depression Comorbid With Chronic Pain: Are Complaint and Competitive Tendency Related to Pain?. *Front Psychiatry*, 13: 825422, 2022.
- 007 *Kasugai Y, Kohmoto T, Taniyama Y, Koyanagi Y.N, Usui Y, Iwase M, Oze I, Yamaguchi R, Ito H, Imoto I, and Matsuo K* : Association between germline pathogenic variants and breast cancer risk in Japanese women: The HERPACC study. *Cancer Sci*, 113(4): 1451-1462, 2022.
- 008 *Inoue-Choi M, Freedman N.D, Saito E, Tanaka S, Hirabayashi M, Sawada N, Tsugane S, Usui Y, Ito H, Wang C, Tamakoshi A, Takeuchi T, Kitamura Y, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Wada K, Nagata C, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, Naito M, Tanaka K, Katanoda K, and Inoue M* : Correction to: Low-intensity cigarette smoking and mortality risks: a pooled analysis of prospective cohort studies in Japan. *Int J Epidemiol*, 2022.
- 009 *Ito Y, Katanoda K, Yamamoto S, Hamajima N, Mochizuki Y, and Matsuo K* : Trends in smoking prevalence and attitude toward tobacco control among members of the JCA in 2004-2017. *Cancer Sci*, 113(4): 1542-1547, 2022.
- 010 *Nakamura Y, Tamura T, Narita A, Shimizu A, Sutoh Y, Takashima N, Matsui K, Miyagawa N, Kadota A, Miura K, Otonari J, Ikezaki H, Hishida A, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Tanaka K, Shimanoe C, Ibusuki R, Nishimoto D, Oze I, Ito H, Ozaki E, Matsui D, Mikami H, Kusakabe M, Suzuki S, Watanabe M, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, and Wakai K*, A genome-wide association study on adherence to low-carbohydrate diets in Japanese. *Eur J Clin Nutr*, 2022.
- 011 *Koyanagi Y.N, Oze I, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Hara K, Shimizu Y, Imoto I, Ito H, and Matsuo K* : New insights into the genetic contribution of ALDH2 rs671 in pancreatic carcinogenesis: Evaluation by mediation analysis. *Cancer Sci*, 113(4): 1441-1450, 2022.
- 012 *Chatani S, Tsukii R, Nagasawa K, Hasegawa T, Murata S, Kato M, Yamaura H, Onaya H, Matsuo K, Watanabe Y, and Inaba Y* : Difficult removal of totally implantable venous access devices in adult patients: Incidence, risk factors, and management. *J Vasc Access*: 11297298211069256, 2022.
- 013 *Matsunaga T, Kadomatsu Y, Tsukamoto M, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Takezaki T, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Nakagawa H, Takashima N, Saito Y, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Kuriyama N, Matsui D, Mikami H, Nakamura Y, Oze I, Ito H, Murata M, Ikezaki H, Nishida Y, Shimanoe C, Takeuchi K, and Wakai K* : Associations of breastfeeding history with metabolic syndrome and cardiovascular risk factors in community-dwelling parous women: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *PLoS One*, 17(1): e0262252, 2022.
- 014 *Ohashi M, Miura K, Takashima N, Kadota A, Saito Y, Tsuji S, Murakami T, Kadomatsu Y, Nagayoshi M, Hara M, Tanaka K, Tamura T, Hishida A, Takezaki T, Shimoshikiryo I, Ozaki E, Watanabe I, Suzuki S, Watanabe M, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Yamasaki S, Ikezaki H, Oze I, Koyanagi Y.N, Mikami H, Nakamura Y, Takeuchi K, Kita Y, and Wakai K* : The association of reproductive history with hypertension and obesity according to menopausal status: the J-MICC Study. *Hypertens Res*, 45(4): 708-714, 2022.
- 015 *Kawakita D, Oze I, Iwasaki S, Matsuda T, Matsuo K, and Ito H* : Trends in the incidence of head and neck cancer by subsite between 1993 and 2015 in Japan. *Cancer Med*, 11(6): 1553-1560, 2022.
- 016 *Dareng E.O, Tyrer J.P, Barnes D.R, Jones M.R, Yang X, Aben*

- K.K.H, Adank M.A, Agata S, Andrulis I.L, Anton-Culver H, Antonenkova N.N, Aravantinos G, Arun B.K, Augustinsson A, Balmaña J, Bandera E.V, Barkardottir R.B, Barrowdale D, Beckmann M.W, Beeghly-Fadiel A, Benitez J, Bermisheva M, Bernardini M.Q, Bjorge L, Black A, Bogdanova N.V, Bonanni B, Borg A, Brenton J.D, Budzylowska A, Butzow R, Buys S.S, Cai H, Caligo M.A, Campbell I, Cannioto R, Cassingham H, Chang-Claude J, Chanock S.J, Chen K, Chiew Y.E, Chung W.K, Claes K.B.M, Colonna S, Cook L.S, Couch F.J, Daly M.B, Dao F, Davies E, Hoya M de la, Putter R de, Dennis J, DePersia A, Devilee P, Diez O, Ding Y.C, Doherty J.A, Domchek S.M, Dörk T, Bois A du, Dürst M, Eccles D.M, Eliassen H.A, Engel C, Evans G.D, Fasching P.A, Flanagan J.M, Fortner R.T, Machackova E, Friedman E, Ganz P.A, Garber J, Gensini F, Giles G.G, Glendon G, Godwin A.K, Goodman M.T, Greene M.H, Gronwald J, Hahnen E, Haiman C.A, Håkansson N, Hamann U, Hansen T.V.O, Harris H.R, Hartman M, Heitz F, Hildebrandt M.A.T, Høgdall E, Høgdall C.K, Hopper J.L, Huang R.Y, Huff C, Hulick P.J, Huntsman D.G, Imyanitov E.N, Isaacs C, Jakubowska A, James P.A, Janavicius R, Jensen A, Johannsson O.T, John E.M, Jones M.E, Kang D, Karlan B.Y, Karnezis A, Kelemen L.E, Khusnutdinova E, Kiemeny L.A, Kim B.G, Kjaer S.K, Komenaka I, Kupryjanczyk J, Kurian A.W, Kwong A, Lambrechts D, Larson M.C, Lazaro C, Le N.D, Leslie G, Lester J, Lesueur F, Levine D.A, Li L, Li J, Loud J.T, Lu K.H, Lubiński J, Mai P.L, Manoukian S, Marks J.R, Matsuno R.K, Matsuo K, May T, McGuffog L, McLaughlin J.R, McNeish I.A, Mebirouk N, Menon U, Miller A, Milne R.L, Minlikeeva A, Modugno F, Montagna M, Moysich E, Munro K.B, Nathanson K.L, Neuhausen S.L, Nevanlinna H, Yie J.N.Y, Nielsen H.R, Nielsen F.C, Nikitina-Zake L, Odunsi K, Offit K, Olah E, Olbrecht S, Olopade O.I, Olson S.H, Olsson H, Osorio A, Papi L, Park S.K, Parsons M.T, Pathak H, Pedersen I.S, Peixoto T, Pejovic A, Perez-Segura P, Permuth J.B, Peshkin B, Peterlongo P, Piskorz A, Prokofyeva D, Radice P, Rantala J, Riggan M.J, Risch H.A, Rodriguez-Antona C, Ross E, Rossing M.A, Runnebaum I, Sandler D.P, Santamariña M, Soucy P, Schmutzler R.K, Setiawan V.W, Shan K, Sieh W, Simard J, Singer C.F, Sokolenko A.P, Song H, Southey M.C, Steed H, Stoppa-Lyonnet D, Sutphen R, Swerdlow A.J, Tan Y.Y, Teixeira M.R, Teo S.H, Terry K.L, Terry M.B, Thomassen M, Thompson P.J, Thomsen L.C.V, Thull D.L, Tischkowitz M, Titus L, Toland A.E, Torres D, Trabert B, Travis R, Tung N, Tworoger S.S, Valen E, Altena A.M. van, Hout A.H. van der, Van Nieuwenhuysen E, Rensburg E.J. van, Vega A, Edwards D.V, Vierkant R.A, Wang F, Wappenschmidt B, Webb P.M, Weinberg C.R, Weitzel J.N, Wentzensen N, White E, Whittemore A.S, Winham S.J, Wolk A, Woo Y.L, Wu A.H, Yan L, Yannoukakos D, Zavaglia K.M, Zheng W, Ziogas A, Zorn K.K, Kleibl Z, Easton D, Lawrenson K, DeFazio A, Sellers T.A, Ramus S.J, Pearce C.L, Monteiro A.N, Cunningham J, Goode E.L, Schildkraut J.M, Berchuck A, Chenevix-Trench G, Gayther S.A, A.C. Antoniou and P.D.P. Pharoah : Polygenic risk modeling for prediction of epithelial ovarian cancer risk. *Eur J Hum Genet*, 30(3): 349-362, 2022.
- 017 Yang J.J, Yu D, Shu X.O, Wen W, Rahman S, Abe S, Saito E, Gupta P.C, He J, Tsugane S, Gao Y.T, Yuan J.M, Koh W.P, Sadakane A, Tomata Y, Tsuji I, Sugawara Y, Matsuo K, Ahn Y.O, Park S.K, Chen Y, Inoue M, Kang D, and Zheng W : Reduction in total and major cause-specific mortality from tobacco smoking cessation: a pooled analysis of 16 population-based cohort studies in Asia. *Int J Epidemiol*, 50(6): 2070-2081, 2022.
- 018 Koga K, Hara M, Shimano C, Nishida Y, Furukawa T, Iwasaka C, Tanaka K, Otonari J, Ikezaki H, Kubo Y, Kato Y, Tamura T, Hishida A, Matsuo K, Ito H, Nakamura Y, Kusakabe M, Nishimoto D, Shibuya K, Suzuki S, Watanabe M, Ozaki E, Matsui D, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takeuchi K, and Wakai K : Association of perceived stress and coping strategies with the renal function in middle-aged and older Japanese men and women. *Sci Rep*, 12(1): 291, 2022.
- 019 Furukawa T, Nishida Y, Hara M, Shimano C, Koga K, Iwasaka C, Higaki Y, Tanaka K, Nakashima R, Ikezaki H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Tamada Y, Matsuo K, Ito H, Mikami H, Kusakabe M, Ibusuki R, Shibuya K, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Ozaki E, Matsui D, Kuriki K, Nakamura Y, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takeuchi K, and Wakai K : Effect of the interaction between physical activity and estimated macronutrient intake on HbA1c: population-based cross-sectional and longitudinal studies. *BMJ Open Diabetes Res Care*, 10(1), 2022.
- 020 Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Uemura H, Van Nguyen T, Takezaki T, Ibusuki R, Suzuki S, Otani T, Okada R, Kubo Y, Tamura T, Hishida A, Koyama T, Matsui D, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Ikezaki H, Matsumoto Y, Nishida Y, Shimano C, Oze I, Matsuo K, Mikami H, Kusakabe M, Takeuchi K, and Wakai K : Association of skipping breakfast and short sleep duration with the prevalence of metabolic syndrome in the general Japanese population: Baseline data from the Japan Multi-Institutional Collaborative cohort study. *Prev Med Rep*, 24: 101613, 2021.
- 021 Shin A, Cho S, Jang D, Abe S.K, Saito E, Rahman M.S, Islam M.R, Sawada N, Shu X.O, Koh W.P, Sadakane A, Tsuji I, Sugawara Y, Ito H, Nagata C, Park S.K, Yuan J.M, Kim J, Tsugane S, Cai H, Wen W, Ozasa K, Matsuyama S, Kanemura S, Oze I, Wada K, Wang R, Yoo K.Y, Potter J.D, Ahsan H, Boffetta P, Chia K.S, Matsuo K, Qiao Y.L, Rothman N, Zheng W, Inoue M, and Kang D : Body Mass Index and Thyroid Cancer Risk: A Pooled Analysis of Half a Million Men

- and Women in the Asia Cohort Consortium. *Thyroid*, 32(3): 306-314, 2022.
- 022 **Ho W.K, Tai M.C, Dennis J, Shu X, Li J, Ho P.J, Millwood I.Y, Lin K, Jee Y.H, Lee S.H, Mavaddat N, Bolla M.K, Wang Q, Michailidou K, Long J, Wijaya E.A, Hassan T, Rahmat K, Tan V.K.M, Tan B.K.T, Tan S.M, Tan E.Y, Lim S.H, Gao Y.T, Zheng Y, Kang D, Choi J.Y, Han W, Lee H.B, Kubo M, Okada Y, Namba S, Park S.K, Kim S.W, Shen C.Y, Wu P.E, Park B, Muir K.R, Lophatananon A, Wu A.H, Tseng C.C, Matsuo K, Ito H, Kwong A, Chan T.L, John E.M, Kurian A.W, Iwasaki M, Yamaji T, Kweon S.S, Aronson K.J, Murphy R.A, Koh W.P, Khor C.C, Yuan, Dorajoo R, Walters R.G, Chen Z, Li L, Lv J, Jung K.J, Kraft P, Pharoah P.D.B, Dunning A.M, Simard J, Shu X.O, Yip C.H, Taib N.A.M, Antoniou A.C, Zheng W, Hartman M, Easton D.F, and Teo S.H** : Polygenic risk scores for prediction of breast cancer risk in Asian populations. *Genet Med*, 24(3): 586-600, 2022.
- 023 **Goto A, Suzuki S, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Nakatochi M, Wakai K, Hozawa A, Kinoshita K, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Matsuo K, and Iwasaki M** : Public Access to Summary Statistics for Genome-wide Association Studies of Body Mass Index, Weight, and Height Among Healthy Japanese Individuals: The Japanese Consortium of Genetic Epidemiology Studies. *J Epidemiol*, 32(2): 115-116, 2022.
- 024 **Brieger K.K, Phung M.T, Mukherjee B, Bakulski K.M, Anton-Culver H, Bandera E.V, Bowtell D.D.L, Cramer D.W, DeFazio A, Doherty J.A, Fereday S, Fortner R.T, Gentry-Maharaj A, Goode E.L, Goodman M.T, Harris H.R, Matsuo K, Menon U, Modugno F, Moysich K.B, Qin B, Ramus S.J, Risch H.A, Rossing M.A, Schildkraut J.M, Trabert B, Vierkant R.A, Winham S.J, Wentzensen N, Wu A.H, Ziogas A, Khoja L, Cho K.R, McLean K, Richardson J, Grout B, Chase A, Dearth C.M, Odunsi K, Nelson B.H, Brenton J.D, Terry K.L, Pharoah P.D.P, Berchuck A, Hanley G.E, Webb P.M, Pike M.C, and Pearce C.L** : High Prediagnosis Inflammation-Related Risk Score Associated with Decreased Ovarian Cancer Survival. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 31(2): 443-452, 2022.
- 025 **Ishikura N, Ito H, Oze I, Koyanagi Y.N, Kasugai Y, Taniyama Y, Kawakatsu Y, Tanaka T, Ito S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y, and Matsuo K** : Risk Prediction for Gastric Cancer Using GWAS-Identified Polymorphisms, *Helicobacter pylori* Infection and Lifestyle-Related Risk Factors in a Japanese Population. *Cancers (Basel)*, 13(21), 2021.
- 026 **Nakamura Y, Narita A, Sutoh Y, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Takashima N, Kadota A, Miura K, Nakatochi M, Tamura T, Hishida A, Nakashima R, Ikezaki H, Hara M, Nishida Y, Takezaki T, Ibusuki R, Oze I, Ito H, Kuriyama N, Ozaki E, Mikami H, Kusakabe M, Nakagawa-Senda H, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Kita Y, and Wakai K** : A genome-wide association study on meat consumption in a Japanese population: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort study. *J Nutr Sci*. 10: e61, 2021.
- 027 **Inoue-Choi, M., N.D. Freedman, E. Saito, S. Tanaka, M. Hirabayashi, N. Sawada, S. Tsugane, Y. Usui, H. Ito, C. Wang, A. Tamakoshi, T. Takeuchi, Y. Kitamura, M. Utada, K. Ozasa, Y. Sugawara, I. Tsuji, K. Wada, C. Nagata, T. Shimazu, T. Mizoue, K. Matsuo, M. Naito, K. Tanaka, K. Katanoda, and M. Inoue** : Low-intensity cigarette smoking and mortality risks: a pooled analysis of prospective cohort studies in Japan. *Int J Epidemiol*, 2021.
- 028 **Yamada M, Mizuno T, Yamaguchi J, Yokoyama Y, Igami T, Onoe S, Watanabe N, Uehara K, Matsuo K, and Ebata T** : Superiority of clinical American Joint Committee on Cancer T classification for perihilar cholangiocarcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 2021.
- 029 **Tamura T, Wakai K, Lin Y, Tamakoshi A, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Ono A, Sawada N, Tsugane S, Ito H, Nagata C, Kitamura T, Naito M, Tanaka K, Shimazu T, Mizoue T, Matsuo K, and Inoue M** : Alcohol intake and stomach cancer risk in Japan: A pooled analysis of six cohort studies. *Cancer Sci*, 113(1): 261-276, 2022.
- 030 **Hara M, Nishida Y, Tanaka K, Shimanoe C, Koga K, Furukawa T, Higaki Y, Shinchi K, Ikezaki H, Murata M, Takeuchi K, Tamura T, Hishida A, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Matsuo K, Oze I, Haruo M, Miho K, Takezaki T, Ibusuki R, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Matsui D, Koyama T, Kuriki K, Takashima N, Nakamura Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, and Wakai K** : Moderate-to-vigorous physical activity and sedentary behavior are independently associated with renal function: a cross-sectional study. *J Epidemiol*, 2021.
- 031 **Higaki E, Abe T, Fujieda H, Hosoi T, Nagao T, Komori K, Ito S, Itoh N, Matsuo K, and Shimizu Y** : Significance of Antimicrobial Prophylaxis for the Prevention of Early-Onset Pneumonia After Radical Esophageal Cancer Resection: A Retrospective Analysis of 356 Patients Undergoing Thoracoscopic Esophagectomy. *Ann Surg Oncol*. 29(2): 1374-1387, 2022.
- 032 **Nagayoshi M, Takeuchi K, Tamada Y, Yasufumi K, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Hishida A, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimanoe C, Koyanagi Y.N, Matsuo K, Haruo M, Miho K, Nishimoto D, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, and Wakai K** : Sex-specific Relationship between Stress Coping Strategies and All-Cause Mortality: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *J Epidemiol*, 2021.
- 033 **Matsuda T, Matsuo K, Sawada N, and Inoue M** : *International strategy in cancer epidemiology* : Japan's involvement in global projects and future role. *Glob Health Med*, 3(4): 187-195, 2021.

- 034 **Liu Y.S, Wu P.E, Chou W.C, Vikram R, Chen W.T, Yang S.L, Bolla M.K, Wang Q, Dennis J, Chan T.L, Choi J.Y, Hou M.F, Ito H, Kang D, Kim S.W, Kwong A, Matsuo K, Park S.K, Shu X.O, Zheng W, Dunning A.M, Easton D.F, and Shen C.Y** : Body mass index and type 2 diabetes and breast cancer survival: a Mendelian randomization study. *Am J Cancer Res*, 11(8): 3921-3934, 2021.
- 035 **Lin Y, Kawai S, Sasakabe T, Nagata C, Naito M, Tanaka K, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Matsuo K, Kitamura T, Utada M, Ito H, Shimazu T, Kikuchi S, and Inoue M** : Corrigendum to: Effects of *Helicobacter pylori* eradication on gastric cancer incidence in the Japanese population: a systematic evidence review. *Jpn J Clin Oncol*, 51(11): 1693, 2021.
- 036 **Hasegawa Y, Tsukahara K, Yoshimoto S, Miura K, Yokoyama J, Hirano S, Uemura H, Sugasawa M, Yoshizaki T, Homma A, Chikamatsu K, Suzuki M, Shiotani A, Matsuzuka T, Kohno N, Miyazaki M, Oze I, Matsuo K, Kosuda S, and Yatabe Y** : Reply to P. Kaul et al. *J Clin Oncol*, 39(31): 3518-3519, 2021.
- 037 **Numata Y, Abe T, Higaki E, Hosoi T, Fujieda H, Nagao T, Hanai N, Suzuki H, Nishikawa D, Matsuo K, Fujii T, and Shimizu Y** : Should the Supraclavicular Lymph Nodes be Considered Regional Lymph Nodes in Cervical Esophageal Cancer?. *Ann Surg Oncol*, 29(1): 616-626, 2022.
- 038 **Nindita Y, Nakatochi M, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Nishimoto D, Shimatani K, Takezaki T, Ikezaki H, Murata M, Hara M, Nishida Y, Tamura T, Hishida A, Nagayoshi M, Okada R, Matsuo K, Ito H, Mikami H, Nakamura H, Otani T, Suzuki S, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamao S, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, and Wakai K** : Population-Based Impact of Smoking, Drinking, and Genetic Factors on HDL-Cholesterol Levels in J-MICC Study Participants. *J Epidemiol*, 2021.
- 039 **Hosoi T, Abe T, Higaki E, Fujieda H, Nagao T, Ito S, Komori K, Iwase M, Oze I, and Shimizu Y** : Circular Stapled Technique Versus Modified Collard Technique for Cervical Esophagogastric Anastomosis After Esophagectomy: A Randomized Controlled Trial. *Ann Surg*, 276(1): 30-37, 2022.
- 040 **Kawakatsu S, Yamaguchi J, Mizuno T, Watanabe N, Onoe S, Igami T, Yokoyama Y, Uehara K, Nagino M, Matsuo K, and Ebata T** : Early Prediction of a Serious Postoperative Course in Perihilar Cholangiocarcinoma: Trajectory Analysis of the Comprehensive Complication Index. *Ann Surg*, 2021.
- 041 **Oze I, Ito H, Kasugai Y, Yamaji T, Kijima Y, Ugai T, Kasuga Y, Ouellette T.K, Taniyama Y, Koyanagi Y.N, Imoto I, Tsugane S, Koriyama C, Iwasaki M, and Matsuo K** : A Personal Breast Cancer Risk Stratification Model Using Common Variants and Environmental Risk Factors in Japanese Females. *Cancers (Basel)*, 13(15), 2021.
- 042 **Tanaka K, Matsumoto S, Ainding G, Nakahara I, Nishi H, Hashimoto T, Ohta T, Sadamasa N, Ishibashi R, Gomi M, Saka M, Miyata H, Watanabe S, Okata T, Sonoda K, Koge J, Inuma K.M, Furuta K, Nagata I, Matsuo K, Matsushita T, Isobe N, Yamasaki R, and Kira J.I** : PON1 Q192R is associated with high platelet reactivity with clopidogrel in patients undergoing elective neurointervention: A prospective single-center cohort study. *PLoS One*, 16(8): e0254067, 2021.
- 043 **Hayashi D, Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Okuno M, Matsuo K, Ito S, Komori K, Abe T, and Hara K** : Survival benefit of surgery for very elderly patients with pancreatic cancer: what extent of pancreatectomy is acceptable? *Nagoya J Med Sci*. 83(2): 239-250, 2021.
- 044 **Baxter J.S, Johnson N, Tomczyk K, Gillespie A, Maguire S, Brough R, Fachal L, Michailidou K, Bolla M.K, Wang Q, Dennis J, Ahearn T.U, Andrulis I.L, Anton-Culver H, Antonenkova N.N, Arndt V, Aronson K.J, Augustinsson A, Becher H, Beckmann M.W, Behrens S, Benitez J, Bermisheva M, Bogdanova N.V, Bojesen S.E, Brenner H, Brucker S.Y, Cai Q, Campa D, Canzian F, Castelao J.E, Chan T.L, Chang-Claude J, Chanock S.J, Chenevix-Trench G, Choi J.Y, Clarke C.L, Colonna S, Conroy D.M, Couch F.J, Cox A, Cross S.S, Czene K, Daly M.B, Devilee P, Dörk T, Dossus L, Dwek M, Eccles D.M, Ekici A.B, Eliassen A.H, Engel C, Fasching P.A, Figueroa J, Flyger H, Gago-Dominguez M, Gao C, Garcia-Closas M, Garcia-Sáenz J.A, Ghoussaini M, Giles G.G, Goldberg M.S, González-Neira A, Guénel P, Gündert M, Haeblerle L, Hahnen E, Haiman C.A, Hall P, Hamann U, Hartman M, Hatse S, Hauke J, Hollestelle A, Hoppe R, Hopper J.L, Hou M.F, Ito H, Iwasaki M, Jager A, Jakubowska A, Janni W, John E.M, Joseph V, Jung A, Kaaks R, Kang D, Keeman R, Khusnutdinova E, Kim S.W, Kosma V.M, Kraft P, Kristensen V.N, Kubelka-Sabit K, Kurian A.W, Kwong A, Lacey J.V, Lambrechts D, Larson N.L, Larsson S.C, Le Marchand L, Lejbkovicz F, Li J, Long J, Lophatananon A, Lubiński J, Mannermaa A, Manoochehri M, Manoukian S, Margolin S, Matsuo K, Mavroudis D, Mayes R, Menon U, Milne R.L, Mohd Taib N.A, Muir K, Muranen T.A, Murphy R.A, Nevanlinna H, O'Brien K.M, Offit K, Olson J.E, Olsson H, Park S.K, Park-Simon T.W, Patel A.V, Peterlongo P, Peto J, Plaseska-Karanfilska D, Presneau N, Pylkäs K, Rack B, Rennert G, Romero A, Ruebner M, Rüdiger T, Saloustros E, Sandler D.P, Sawyer E.J, Schmidt M.K, Schmutzler R.K, Schneeweiss A, Schoemaker M.J, Shah M, Shen C.Y, Shu X.O, Simard J, Southey M.C, Stone J, Surowy H, Swerdlow A.J, Tamimi R.M, Tapper W.J, Taylor J.A, Teo S.H, Teras L.R, Terry M.B, Toland A.E, Tomlinson I, Truong T, Tseng C.C, Untch M, Vachon C.M, A.M.W. van den Ouweland, Wang S.S, Weinberg C.R, Wendt C, Winham S.J, Winqvist R, Wolk A,**

- Wu A.H, Yamaji T, Zheng W, Ziogas A, Pharoah P.D.P, Dunning A.M, Easton D.F, Pettitt S.J, Lord C.J, Haider S, Orr N and Fletcher O* : Functional annotation of the 2q35 breast cancer risk locus implicates a structural variant in influencing activity of a long-range enhancer element. *Am J Hum Genet*, 108(7): 1190-1203, 2021.
- 045 *Camargo M.C, Song M, Ito H, Oze I, Koyanagi Y.N, Kasugai Y, Rabkin C.S, and Matsuo K* : Associations of circulating mediators of inflammation, cell regulation and immune response with esophageal squamous cell carcinoma. *J Cancer Res Clin Oncol*, 147(10): 2885-2892, 2021.
- 046 *Koyama T, Ozaki E, Kuriyama N, Tomida S, Yoshida T, Uehara R, Tanaka K, Hara M, Hishida A, Okada R, Kubo Y, Oze I, Koyanagi Y.N, Mikami H, Nakamura Y, Shimoshikiryo I, Takezaki T, Suzuki S, Otani T, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Ikezaki H, Murata M, Takeuchi K, and Wakai K* : Effect of Underlying Cardiometabolic Diseases on the Association Between Sedentary Time and All-Cause Mortality in a Large Japanese Population: A Cohort Analysis Based on the J-MICC Study. *J Am Heart Assoc*, 10(13): e018293, 2021.
- 047 *Park J, Choi J.Y, Choi J, Chung S, Song N, Park S.K, Han W, Noh D.Y, Ahn S.H, Lee J.W, Kim M.K, Jee S.H, Wen W, Bolla M.K, Wang Q, Dennis J, Michailidou K, Shah M, Conroy D.M, Harrington P.A, Mayes R, Czene K, Hall P, Teras L.R, Patel A.V, Couch F.J, Olson J.E, Sawyer E.J, Roylance R, Bojesen S.E, Flyger H, Lambrechts D, Baten A, Matsuo K, Ito H, Guénel P, Truong T, Keeman R, Schmidt M.K, Wu A.H, Tseng C.C, Cox A, Cross S.S, kConFab I, Andrulis L.L, Hopper J.L, Southey M.C, Wu P.E, Shen C.Y, Fasching P.A, Ekici A.B, Muir K, Lophatananon A, Brenner H, Arndt V, Jones M.E, Swerdlow A.J, Hoppe R, Ko Y.D, Hartman M, Li J, Mannermaa A, Hartikainen J.M, Benitez J, González-Neira A, Haiman C.A, Dörk T, Bogdanova N.V, Teo S.H, Mohd Taib N.A, Fletcher O, Johnson N, Grip M, Winqvist R, Blomqvist C, Nevanlinna H, Lindblom A, Wendt C, Kristensen V.N, NbcS C, Tollenaar R, Heemskerk-Gerritsen B.A.M, Radice P, Bonanni B, Hamann U, Manoochchri M, Lacey J.V, Martinez M.E, Dunning A.M, Pharoah P.D.P, Easton D.F, Yoo K.Y, and Kang D* : Gene-Environment Interactions Relevant to Estrogen and Risk of Breast Cancer: Can Gene-Environment Interactions Be Detected Only among Candidate SNPs from Genome-Wide Association Studies?. *Cancers (Basel)*, 13(10), 2021.
- 048 *Seo S, Usui Y, Matsuo K, Atsuta Y, Igarashi A, Fukuda T, Ozawa Y, Katayama Y, Yoshida S, Uchida N, Kondo T, Kako S, Tsukada N, Kato S, Onizuka M, Ichinohe T, Kimura F, Kanda Y, Miyamura K, and Kanda J* : Impact of the combination of donor age and HLA disparity on the outcomes of unrelated bone marrow transplantation. *Bone Marrow Transplant*, 56(10): 2410-2422, 2021.
- 049 *Natsume S, Shimizu Y, Okuno M, Kawakatsu S, Matsuo K, Hara K, Ito S, Komori K, Abe T, and Nagino M* : Continuous suture is a risk factor for benign hepaticojejunostomy stenosis after pancreatoduodenectomy in patients with a non-dilated bile duct. *HPB (Oxford)*, 23(11): 1744-1750, 2021.
- 050 *Chatani S, Sato Y, Murata S, Hasegawa T, Tsukii R, Nagasawa K, Machida M, Yoshihara T, Yamaura H, Hanai N, Matsuo K, and Inaba Y* : Transarterial Embolization for Bleeding in Patients with Head and Neck Cancer: Who Benefits?. *Laryngoscope*, 131(11): E2777-e2783, 2021.
- 051 *Okumura N, Soh J, Suzuki H, Nakata M, Fujiwara T, Nakamura H, Sonobe M, Fujinaga T, Kataoka K, Gemba K, Kataoka M, Hotta K, Yoshioka H, Matsuo K, Sakamoto J, Date H, and Toyooka S* : Randomized phase II study of daily and alternate-day administration of S-1 for adjuvant chemotherapy in completely-resected stage I non-small cell lung cancer: results of the Setouchi Lung Cancer Group Study 1301. *BMC Cancer*, 21(1): 506, 2021.
- 052 *Nakatochi M., Toyoda Y, Kanai M, Nakayama A, Kawamura Y, Hishida A, Mikami H, Matsuo K, Takezaki T, Momozawa Y, Project T.B.J, Kamatani Y, Ichihara S, Shinomiya N, Yokota M, Wakai K, Okada Y, and Matsuo H* : An X chromosome-wide meta-analysis based on Japanese cohorts revealed that non-autosomal variations are associated with serum urate. *Rheumatology (Oxford)*, 60(9): 4430-4432, 2021.
- 053 *Lin Y, Kawai S, Sasakabe T, Nagata C, Naito M, Tanaka K, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Matsuo K, Kitamura T, Utada M, Ito H, Shimazu T, Kikuchi S, and Inoue M* : Effects of Helicobacter pylori eradication on gastric cancer incidence in the Japanese population: a systematic evidence review. *Jpn J Clin Oncol*, 51(7): 1158-1170, 2021.
- 054 *Adachi Y, Oze I, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Kotani H, Kataoka A, Sugino K, Horisawa N, Ozaki Y, Endo Y, Nozawa K, Takatsuka D, and Iwata H* : Impact of adjuvant endocrine therapy on prognosis in small hormone receptor-positive, HER2-negative early breast cancer. *Breast Cancer*, 28(5): 1087-1095, 2021.
- 055 *Hasegawa Y, Tsukahara K, Yoshimoto S, Miura K, Yokoyama J, Hirano S, Uemura H, Sugawara M, Yoshizaki T, Homma A, Chikamatsu K, Suzuki M, Shiotani A, Matsuzuka T, Kohno N, Miyazaki M, Oze I, Matsuo K, Kosuda S, and Yatabe Y* : Neck Dissections Based on Sentinel Lymph Node Navigation Versus Elective Neck Dissections in Early Oral Cancers: A Randomized, Multicenter, and Noninferiority Trial. *J Clin Oncol*, 39(18): 2025-2036, 2021.
- 056 *Higashi E, Matsumoto S, Nakahara I, Hatano T, Ishii A, Sadamasa N, Ohta T, Ishihara T, Tokunaga K, Ando M, Chihara H, Furuta K, Hashimoto T, Tanaka K, Sonoda K, Koge J, Takita W, Hashikawa T, Funakoshi Y, Kondo D, Kamata T, Tsujimoto A, Matsushita T, Murai H, Matsuo K,*

- Kitazono T, and Kira J**, Clopidogrel response predicts thromboembolic events associated with coil embolization of unruptured intracranial aneurysms: A prospective cohort study. *PLoS One*, 16(4): e0249766, 2021.
- 057 **Ninomiya K, Yokoyama T, Hotta K, Oze I, Katsui K, Hata T, Yoshioka H, Bessho A, Hosokawa S, Kuyama S, Kudo K, Kozuki T, Harada D, Yasugi M, Murakami T, Nakanishi M, Takigawa N, Maeda Y, and Kiura K** : A randomized trial of sodium alginate prevention of esophagitis in LA-NSCLC receiving chemoradiotherapy: OLCSG1401. *Support Care Cancer*, 29(9): 5237-5244, 2021.
- 058 **Suzuki T, Nakamura Y, Doi Y, Narita A, Shimizu A, Imaeda N, Goto C, Matsui K, Kadota A, Miura K, Nakatochi M, Tanaka K, Hara M, Ikezaki H, Murata M, Takezaki T, Nishimoto D, Matsuo K, Oze I, Kuriyama N, Ozaki E, Mikami H, Nakamura Y, Watanabe M, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo, Takeuchi K, Kita Y, and Wakai K** : A genome-wide association study on confection consumption in a Japanese population: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. *Br J Nutr*, 126(12): 1843-1851, 2021.
- 059 **Mu A, Hira A, Niwa A, Osawa M, Yoshida K, Mori M, Okamoto Y, Inoue K, Kondo K, Kanemaki M.T, Matsuda T, Ito E, Kojima S, Nakahata T, Ogawa S, Tanaka K, Matsuo K, Saito M.K, and Takata M** : Analysis of disease model iPSCs derived from patients with a novel Fanconi anemia-like IBMFS ADH5/ALDH2 deficiency. *Blood*, 137(15): 2021-2032, 2021.
- 060 **Suzuki S, Goto A, Nakatochi M, Narita A, Yamaji T, Sawada N, Katagiri R, Iwagami M, Hanyuda A, Hachiya T, Sutoh Y, Oze I, Koyanagi Y.N, Kasugai Y, Taniyama Y, Ito H, Ikezaki H, Nishida Y, Tamura T, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Arisawa K, Takeuchi K, Tanno K, Shimizu A, Tamiya G, Hozawa A, Kinoshita K, Wakai K, Sasaki M, Yamamoto M, Matsuo K, Tsugane S, and Iwasaki M** : Body mass index and colorectal cancer risk: A Mendelian randomization study. *Cancer Sci*, 112(4): 1579-1588, 2021.
- 061 **Morra A, Jung A.Y, Behrens S, Keeman R, Ahearn T.U, Anton-Culver H, Arndt V, Augustinsson A, Auvinen P.K, Beane Freeman L.E, Becher H, Beckmann M.W, Blomqvist C, Bojesen S.E, Bolla M.K, Brenner H, Briceno I, Brucker S.Y, Camp N.J, Campa D, Canzian F, Castela J.E, Chanock S.J, Choi J.Y, Clarke C.L, Couch F.J, Cox A, Cross S.S, Czene K, Dörk T, Dunning A.M, Dwek M, Easton D.F, Eccles D.M, Egan K.M, Evans D.G, Fasching P.A, Flyger H, Gago-Dominguez M, Gapstur S.M, García-Sáenz J.A, Gaudet M.M, Giles G.G, Grip M, Guénel P, Haiman C.A, Håkansson N, Hall P, Hamann U, Han S.N, Hart S.N, Hartman M, Heyworth J.S, Hoppe R, Hopper J.L, Hunter D.J, Ito H, Jager A, Jakimovska M, Jakubowska A, Janni W, Kaaks R, Kang D, Kapoor P.M, Kitahara C.M, Koutros S, Kraft P, Kristensen V.N, Lacey J.V, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lubiński J, Lush M, Mannermaa A, Manoochehri M, Margolin S, Mariapun S, Matsuo K, Mavroudis D, Milne R.L, Muranen T.A, Newman W.G, Noh D.Y, Nordestgaard B.G, Obi N, Olshan A.F, Olsson H, Park-Simon T.W, Petridis C, Pharoah P.D.P, Plaseska-Karanfilska D, Presneau N, Rashid M.U, Rennert G, Rennert H.S, Rhenius V, Romero A, Saloustros E, Sawyer E.J, Schneeweiss A, Schwentner L, Scott C, Shah M, Shen C.Y, Shu X.O, Southey M.C, Stram D.O, Tamimi R.M, Tapper W, Tollenaar R, Tomlinson I, Torres D, Troester M.A, Truong T, Vachon C.M, Wang Q, Wang S.S, Williams J.A, Winqvist R, Wolk A, Wu A.H, Yoo K.Y, Yu J.C, Zheng W, Ziogas A, Yang X.R, Eliassen A.H, Holmes M.D, García-Closas M, Teo S.H, Schmidt M.K and Chang-Claude J** : Breast Cancer Risk Factors and Survival by Tumor Subtype: Pooled Analyses from the Breast Cancer Association Consortium. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 30(4): 623-642, 2021.
- 062 **Iwase M, Matsuo K, Koyanagi Y.N.Y, Ito H, Tamakoshi A, Wang C, Utada M, Ozasa K, Sugawara Y, Tsuji I, Sawada N, Tanaka S, Nagata C, Kitamura Y, Shimazu T, Mizoue T, Naito M, Tanaka K, and Inoue M** : Alcohol consumption and breast cancer risk in Japan: A pooled analysis of eight population-based cohort studies. *Int J Cancer*, 148(11): 2736-2747, 2021.
- 063 **Suzuki H, Nakamura Y, Matsuo K, Imaeda N, Goto C, Narita A, Shimizu A, Takashima N, Matsui K, Miura K, Nakatochi M, Hishida A, Tamura T, Kadomatsu Y, Okada R, Nishida Y, Shimanoe C, Nishimoto D, Takezaki T, Oze I, Ito H, Ikezaki H, Murata M, Matsui D, Ozaki E, Mikami H, Nakamura Y, Suzuki S, Watanabe M, Arisawa K, Uemura H, Kuriki K, Momozawa Y, Kubo M, Kita Y, Takeuchi K, and Wakai K** : A genome-wide association study in Japanese identified one variant associated with a preference for a Japanese dietary pattern. *Eur J Clin Nutr*, 75(6): 937-945, 2021.
- 064 **Yin X, Kim K, Suetsugu H, Bang S.Y, Wen L, Koido M, Ha E, Liu L, Sakamoto Y, Jo S, Leng R.X, Otomo N, Laurynenka V, Kwon Y.C, Sheng Y, Sugano N, Hwang M.Y, Li W, Mukai M, Yoon K, Cai M, Ishigaki K, Chung W.T, Huang H, Takahashi D, Lee S.S, Wang M, Karino K, Shim S.C, Zheng X, Miyamura T, Kang Y.M, Ye D, Nakamura J, Suh C.H, Tang Y, Motomura G, Park Y.B, Ding H, Kuroda T, Choe J.Y, Li C, Niuro H, Park Y, Shen C, Miyamoto T, Ahn G.Y, Fei W, Takeuchi T, Shin J.M, Li K, Kawaguchi Y, Lee Y.K, Wang Y, Amano K, Park D.J, Yang W, Tada Y, Yamaji K, Shimizu M, Atsumi T, Suzuki A, Sumida T, Okada Y, Matsuda K, Matsuo K, Kochi Y, Kottyan L.C, Weirauch M.T, Parameswaran S, Eswar S, Salim H, Chen X, Yamamoto K, Harley J.B, Ohmura K, Kim T.H, Yang S, Yamamoto T, Kim B.J, Shen N, Ikegawa S, Lee H.S, Zhang X, Terao C, Cui Y, and Bae S.C** : Meta-analysis of 208370 East Asians identifies 113

susceptibility loci for systemic lupus erythematosus. *Ann Rheum Dis*, 80(5): 632-640, 2021.

- 065 **Jin K, Hung R.J, Thomas S, Le Marchand L, Matsuo K, Seow A, Shen H, Kok W.P, Yuan J.M, Wu M, Li L, Zhao J.K, and Zhang Z.F** : Hormonal factors in association with lung cancer among Asian women: A pooled analysis from the International Lung Cancer Consortium. *Int J Cancer*, 148(9): 2241-2254, 2021.
- 066 **Takeuchi K, Naito M, Kawai S, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Nakatochi M, Sasakabe T, Hashimoto S, Eguchi H, Momozawa Y, Ikezaki H, Murata M, Furusyo N, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Matsuo K, Ito H, Oze I, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Nishiyama T, Watanabe M, Koyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Kita Y, Ueshima H, Matsui K, Arisawa K, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Nakamura S, Narimatsu H, Hamajima N, Tanaka H, and Wakai K** : Study Profile of the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *J Epidemiol*, 31(12): 660-668, 2021.
- 067 **Yang J.J, Yu D, Shu X.O, Freedman N.D, Wen W, Rahman S, Abe S.K, Saito E, Gupta P.C, He J, Tsugane S, Gao Y.T, Xiang Y.B, Yuan J.M, Tomata Y, Tsuji I, Sugawara Y, Matsuo K, Ahn Y.O, Park S.K, Chen Y, Pan W.H, Pednekar M, Gu D, Sawada N, Cai H, Li H.L, Koh W.P, Wang R, Zhang S, Kanemura S, Ito H, Shin M.H, Wu P.E, Yoo K.Y, Ahsan H, Chia K.S, Boffetta P, Inoue M, Kang D, Potter J.D, and Zheng W** : Quantifying the association of low-intensity and late initiation of tobacco smoking with total and cause-specific mortality in Asia. *Tob Control*, 30(3): 328-335, 2021.

がん病態生理学分野

- 001 **Sakuma K, Sasaki E, Hosoda Y, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M** : MYB mediates downregulation of the colorectal cancer metastasis suppressor HNRNP11 during epithelial-mesenchymal transition. *Cancer Sci*. 112: 3846-3855, 2021.

分子腫瘍学分野

- 001 **Kodama Y, Tanaka I, Sato T, Hori K, Gen S, Morise M, Matsubara D, Sato M, Sekido Y, Hashimoto N** : Oxytocin receptor is a promising therapeutic target of malignant mesothelioma. *Cancer Sci*, 112: 3520-3532, 2021.
- 002 **Jiang L, Zheng H, Lyu Q, Hayashi S, Sato K, Sekido Y, Nakamura K, Tanaka H, Ishikawa K, Kajiyama H, Mizuno M, Hori M, Toyokuni S** : Lysosomal nitric oxide determines

transition from autophagy to ferroptosis after exposure to plasma-activated Ringer's lactate. *Redox Biol*, 43:101989, 2021.

- 003 **Sekido Y** : Frequent NF2 inactivation in mesothelioma: How can we treat mesothelioma with targeted therapies for molecular aberrations? (Book chapter). *Malignant Pleural Mesothelioma: Advances in Pathogenesis, Diagnosis, and Treatments (Springer)*, 167-180, 2021.
- 004 **Sato T, Nakanishi H, Akao K, Okuda M, Mukai S, Kiyono T, Sekido Y** : Three newly established immortalized mesothelial cell lines exhibit morphological phenotypes corresponding to malignant mesothelioma epithelioid, intermediate, and sarcomatoid types, respectively. *Cancer Cell Int*, 21: 546, 2021.
- 005 **Yamazaki S, Ohka F, Hirano M, Shiraki Y, Motomura K, Tanahashi K, Tsujiuchi T, Motomura A, Aoki K, Shinjo K, Murofushi Y, Kitano Y, Maeda S, Kato A, Shimizu H, Yamaguchi J, Adilijiang A, Wakabayashi T, Saito R, Enomoto A, Kondo Y, Natsume A** : Newly established patient-derived organoid model of intracranial meningioma. *Neuro Oncol*, 23: 1936-1948, 2021.
- 006 **Wirawan A, Tajima K, Takahashi F, Mitsuishi Y, Winardi W, Hidayat M, Hayakawa D, Matsumoto N, Izumi K, Asao T, Ko R, Shimada N, Takamochi K, Suzuki K, Abe M, Hino O, Sekido Y, Takahashi K** : A Novel Therapeutic Strategy Targeting the Mesenchymal Phenotype of Malignant Pleural Mesothelioma By Suppressing LSD1. *Mol Cancer Res*, 20: 127-138, 2021.

システム解析学分野

- 001 **Hasegawa T, Yamaguchi R, Kakuta M, Ando M, Songee J, Tokuda I, Murashita K, Imoto S** : Application of state-space model with skew-t measurement noise to blood test value prediction. *Applied Mathematical Modelling*. 100: 365-78, 2021.
- 002 **Kuroda H, Sugita Y, Masago K, Takahashi Y, Nakada T, Sasaki E, Sakakura N, Yamaguchi R, Matsushita H, Hida T** : Clinical Guideline-Guided Outcome Consistency for Surgically Resected Stage III Non-Small Cell Lung Cancer: A Retrospective Study. *Cancers (Basel)*. 13(11), 2021.
- 003 **Mizuno S, Yamaguchi R, Hasegawa T, Hayashi S, Fujita M, Zhang F, Koh Y, Lee SY, Yoon SS, Shimizu E, Komura M, Fujimoto A, Nagai M, Kato M, Liang H, Miyano S, Zhang Z, Nakagawa H, Imoto S** : Immunogenomic pan-cancer landscape reveals immune escape mechanisms and immunoediting histories. *Sci Rep*. 11(1): 15713, 2021.
- 004 **Suzuki M, Kasajima R, Yokose T, Ito H, Shimizu E, Hatakeyama S, Yokoyama K, Yamaguchi R, Furukawa Y, Miyano S, Imoto S, Yoshioka E, Washimi K, Okubo Y,**

- Kawachi K, Sato S, Miyagi Y* : Comprehensive molecular analysis of genomic profiles and PD-L1 expression in lung adenocarcinoma with a high-grade fetal adenocarcinoma component. *Transl Lung Cancer Res.* 10 (3): 1292-304, 2021.
- 005 *Yamaguchi K, Kasajima R, Takane K, Hatakeyama S, Shimizu E, Yamaguchi R, Katayama K, Arai M, Ishioka C, Iwama T, Kaneko S, Matsubara N, Moriya Y, Nomizu T, Sugano K, Tamura K, Tomita N, Yoshida T, Sugihara K, Nakamura Y, Miyano S, Imoto S, Furukawa Y, Ikenoue T* : Application of targeted nanopore sequencing for the screening and determination of structural variants in patients with Lynch syndrome. *J Hum Genet.* 66(11): 1053-60, 2021.
- 006 *Zhang YZ, Imoto S, Miyano S, Yamaguchi R* : Enhancing breakpoint resolution with deep segmentation model: A general refinement method for read-depth based structural variant callers. *PLoS Comput Biol.* 17(10): e1009186, 2021.
- 007 *Hikita T, Uehara R, Itoh RE, Mitani F, Miyata M, Yoshida T, Yamaguchi R, Oneyama C* : MEK/ERK-mediated oncogenic signals promote secretion of extracellular vesicles by controlling lysosome function. *Cancer Sci.* 113(4): 1264-76, 2022.
- 008 *Kasugai Y, Kohmoto T, Taniyama Y, Koyanagi YN, Usui Y, Iwase M, Oze I, Yamaguchi R, Ito H, Imoto I, Matsuo K* : Association between germline pathogenic variants and breast cancer risk in Japanese women: The HERPACC study. *Cancer Sci.* 113(4): 1451-62, 2022.
- 009 *Koh Y, Nakano K, Katayama K, Yamamichi G, Yumiba S, Tomiyama E, Matsushita M, Hayashi Y, Yamamoto Y, Kato T, Hatano K, Kawashima A, Ujike T, Imamura R, Yamaguchi R, Imoto S, Shiotsu Y, Nonomura N, Uemura M* : Early dynamics of circulating tumor DNA predict clinical response to immune checkpoint inhibitors in metastatic renal cell carcinoma. *Int J Urol.* 29(5): 462-9, 2022.
- 010 *Nakano K, Koh Y, Yamamichi G, Yumiba S, Tomiyama E, Matsushita M, Hayashi Y, Wang C, Ishizuya Y, Yamamoto Y, Kato T, Hatano K, Kawashima A, Ujike T, Fujita K, Kiyotani K, Katayama K, Yamaguchi R, Imoto S, Imamura R, Nonomura N, Uemura M* : Perioperative circulating tumor DNA enables the identification of patients with poor prognosis in upper tract urothelial carcinoma. *Cancer Sci.* 113(5): 1830-42, 2022.
- 011 *Park H, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S* : Uncovering Molecular Mechanisms of Drug Resistance via Network-Constrained Common Structure Identification. *J Comput Biol.* 29(3): 257-75, 2022.
- 012 *Takeda R, Yokoyama K, Fukuyama T, Kawamata T, Ito M, Yusa N, Kasajima R, Shimizu E, Ohno N, Uchimaru K, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Tojo A* : Repeated Lineage Switches in an Elderly Case of Refractory B-Cell Acute Lymphoblastic Leukemia With MLL Gene Amplification: A Case Report and Literature Review. *Front Oncol.* 12: 799982, 2022.
- ### 腫瘍制御学分野
- 001 *Mitani F, Lin J, Sakamoto T, Uehara R, Hikita T, Yoshida T, Setiawas A, Arai M, Oneyama C* : Asteltoxin inhibits extracellular vesicle production through AMPK/mTOR-mediated activation of lysosome function. *Sci Rep.* 12 (1), 6674, 2022.
- 002 *Hikita T, Uehara R, Itoh RE, Mitani F, Miyata M, Yoshida T, Yamaguchi R, Oneyama C* : MEK/ERK-mediated oncogenic signals promote secretion of extracellular vesicles by controlling lysosome function. *Cancer Sci.* 113(4): 1264-1276, 2022.
- 003 *Morioka S, Nakanishi H, Yamamoto T, Hasegawa J, Tokuda E, Hikita T, Sakihara T, Zhang Y, Oneyama C, Yamazaki M, Suzuki A, Sasaki J, Sasaki T* : A mass spectrometric method for in-depth profiling of phosphoinositide regioisomers and their disease-associated regulation. *Nat Commun.* 13(1): 83, 2022.
- 004 *Kunou S, Shimada K, Sakamoto A, Aoki T, Hikita T, Kagaya Y, Shimada S, Hayakawa F, Oneyama C, Kiyoi H* : Exosomes secreted from cancer-associated fibroblasts elicit anti-pyrimidine drug resistance through modulation of its transporter in malignant lymphoma. *Oncogene.* 40(23), 3989-4003, 2021.
- 005 *Nishimura T, Oyama T, Hu HT, Fujioka T, Hanawa-Suetsugu K, Ikeda K, Yamada S, Kawana H, Saigusa D, Ikeda H, Kurata R, Oono-Yakura K, Kitamata M, Kida K, Hikita T, Mizutani K, Yasuhara K, Mimori-Kiyosue Y, Oneyama C, Kurimoto K, Hosokawa Y, Aoki J, Takai Y, Arita M, Suetsugu S* : Filopodium-derived vesicles produced by MIM enhance the migration of recipient cells. *Dev Cell.* 56(6): 842-859, 2021.
- 006 *Aoki R, Oneyama C, Aoki K* : Oncogenic mutation or overexpression of oncogenic KRAS or BRAF is not sufficient to confer oncogene addiction. *PLoS One.* 16(4): e0249388, 2021
- 007 小根山千歳 : がんシグナルによる細胞外小胞の分泌亢進メカニズム. 実験医学増刊「細胞外小胞の生物学」, 羊土社, 39(20), 3141-3147, 2021.
- ### 腫瘍免疫応答研究分野
- 学会誌への発表
- 001 *Yoshikawa T, Wu Z, Inoue S, Kasuya H, Matsushita H, Takahashi Y, Kuroda H, Hosoda W, Suzuki S, Kagoya Y* : Genetic ablation of PRDM1 in antitumor T cells

enhances therapeutic efficacy of adoptive immunotherapy. *Blood*, 139: 2156-2172, 2022.

- 002 **Miyauchi M, Sasaki K, Kagoya Y, Taoka K, Masamoto Y, Yamazaki S, Arai S, Mizuno H, Kurokawa M** : CAMK2G is identified as a novel therapeutic target for myelofibrosis. *Blood Adv*, 6: 1585-1597, 2022.
- 003 **Miyauchi M, Ito Y, Nakahara F, Hino T, Nakamura F, Iwasaki Y, Kawagoshi T, Koya J, Yoshimi A, Arai S, Kagoya Y, Kurokawa M** : Efficient production of human neutrophils from iPSCs that prevent murine lethal infection with immune cell recruitment. *Blood*, 138: 2555-2569, 2021.
- 004 **Ito Y, Nakahara F, Kagoya Y, Kurokawa M** : CD62L expression level determines the cell fate of myeloid progenitors. *Stem Cell Reports*, 16: 2871-2886, 2021.
- 005 **Mizuno H, Koya J, Masamoto Y, Kagoya Y, Kurokawa M** : Evil upregulates Fbpl and supports progression of acute myeloid leukemia through pentose phosphate pathway activation. *Cancer Sci*, 112: 4112-4126, 2021.
- 006 **Sugata K, Matsunaga Y, Yamashita Y, Nakatsugawa M, Guo T, Halabelian L, Ohashi Y, Saso K, Rahman MA, Anczurowski M, Wang CH, Murata K, Saijo H, Kagoya Y, Ly D, Burt BD, Butler MO, Mak TW, Hirano N** : Affinity-matured HLA class II dimers for robust staining of antigen-specific CD4+ T cells. *Nat Biotechnol*. 39: 958-967, 2021.

その他誌上への発表

- 001 **井上 聡, 籠谷勇紀** : CD19 CAR-T 細胞療法による神経毒性発症メカニズム. *血液内科*, 83: 704-708, 2021.
- 002 **籠谷勇紀** : 固形がんに対する CAR-T 細胞療法の開発動向. *医学のあゆみ*, 277: 913-918, 2021.
- 003 **籠谷勇紀** : CAR-T 細胞療法改良のための新たな技術開発. *腫瘍内科*, 27: 546-551, 2021.
- 004 **籠谷勇紀** : CAR-T 細胞におけるエピジェネティクス. *BIO Clinica*, 36: 1060-1064, 2021.

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Sato S, Matsushita H, Shintani D, Kobayashi Y, Fujieda N, Yabuno A, Nishikawa T, Fujiwara K, Kakimi K, Hasegawa K** : Association between effector-type regulatory T cells and immune checkpoint expression on CD8+ T cells in malignant ascites from epithelial ovarian cancer. *BMC Cancer*. 22(1): 437, 2022.
- 002 **Muraoka D, Harada N, Shiku H, Akiyoshi K** : Self-assembled polysaccharide nanogel delivery system for overcoming tumor immune resistance. *J Control Release*. 347: 175-182, 2022.
- 003 **Shinohara S, Takahashi Y, Komuro H, Matsui T, Sugita Y, Demachi-Okamura A, Muraoka D, Takahara H, Nakada T, Sakakura N, Masago K, Miyai M, Nishida R, Shomura S,**

Shigematsu Y, Hatooka S, Sasano H, Watanabe F, Adachi K, Fujinaga K, Kaneda S, Takao M, Ohtsuka T, Yamaguchi R, Kuroda H, Matsushita H : New evaluation of the tumor immune microenvironment of non-small cell lung cancer and its association with prognosis. *J Immunother Cancer*. 10(4): e003765, 2022.

- 004 **Dotsu Y, Muraoka D, Ogo N, Sonoda Y, Yasui K, Yamaguchi H, Yagita H, Mukae H, Asai A, Ikeda H** : Chemical augmentation of mitochondrial electron transport chains tunes T cell activation threshold in tumors. *J Immunother Cancer*. 10(2): e003958, 2022.
- 005 **Masago K, Fujita S, Oya Y, Takahashi Y, Matsushita H, Sasaki E, Kuroda H** : Comparison between Fluorimetry (Qubit) and Spectrophotometry (NanoDrop) in the Quantification of DNA and RNA Extracted from Frozen and FFPE Tissues from Lung Cancer Patients: A Real-World Use of Genomic Tests. *Medicina (Kaunas)*. 57(12): 1375, 2021.
- 006 **Kuroda H, Ichinose J, Masago K, Takahashi Y, Nakada T, Nakao M, Okumura S, Hashimoto K, Matsuura Y, Sakakura N, Matsushita H, Mun M** : Permissible Outcomes of Lobe-Specific Lymph Node Dissection for Elevated Carcinoembryonic Antigen in Non-Small Cell Lung Cancer. *Medicina (Kaunas)*. 57(12): 1365, 2021.
- 007 **Yoshikawa T, Wu Z, Inoue S, Kasuya H, Matsushita H, Takahashi Y, Kuroda H, Hosoda W, Suzuki S, Kagoya Y** : Genetic ablation of PRDM1 in antitumor T cells enhances therapeutic efficacy of adoptive immunotherapy. *Blood*. 139(14): 2156-2172, 2022.
- 008 **Kuroda H, Masago K, Takahashi Y, Fujita S, Sasaki E, Nakada T, Sakakura N, Nakanishi H, Matsushita H, Yatabe Y** : Positive Correlation Between the Number of Circulating Tumor Cells in the Pulmonary Vein and Tumor Spread Through Air Spaces in Resected Non-small Cell Lung Cancer. *Anticancer Res*. 41(11): 5499-5505, 2021.
- 009 **Kuroda H, Takahashi Y, Shirai S, Takahara H, Nakada T, Sakakura N, Matsushita H** : Survival benefit of immune checkpoint inhibitor monotherapy in patients with non-small cell lung cancer recurrence after completely pulmonary resection. *Ann Transl Med*. 9(15): 1225, 2021.
- 010 **Nishida M, Yamashita N, Ogawa T, Koseki K, Warabi E, Ohue T, Komatsu M, Matsushita H, Kakimi K, Kawakami E, Shiroguchi K, Uono H** : Mitochondrial reactive oxygen species trigger metformin-dependent antitumor immunity via activation of Nrf2/mTORC1/p62 axis in tumor-infiltrating CD8T lymphocytes. *J Immunother Cancer*. 9(9): e002954, 2021.
- 011 **Kuroda H, Sugita Y, Masago K, Takahashi Y, Nakada T, Sasaki E, Sakakura N, Yamaguchi R, Matsushita H, Hida T** : Clinical Guideline-Guided Outcome Consistency for Surgically Resected Stage III Non-Small Cell Lung

Cancer: A Retrospective Study. *Cancers (Basel)*. 13(11): 2531, 2021.

- 012 **Shigenobu T, Takahashi Y, Masugi Y, Hanawa R, Matsushita H, Tajima A, Kuroda H.** : Micropapillary Predominance Is a Risk Factor for Brain Metastasis in Resected Lung Adenocarcinoma. *Clin Lung Cancer*. 22(6): e820-e828, 2021.

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Fahrman JF, Tanaka I, Irajizad E, Mao X, Dennison JB, Murage E, Casabar J, Mayo J, Peng Q, Celiktas M, Vykoukal JV, Park S, Taguchi A, Delgado O, Tripathi SC, Katayama H, Soto LMS, Rodriguez-Canales J, Behrens C, Wistuba I, Hanash S, Ostrin EJ.** : Mutational Activation of the NRF2 Pathway Upregulates Kynureninase Resulting in Tumor Immunosuppression and Poor Outcome in Lung Adenocarcinoma. *Cancers*, 14: 2543, 2021.
- 002 **Tanaka I, Dayde D, Tai MC, Mori H, Solis LM, Tripathi SC, Fahrman JF, Unver N, Parhy G, Jain R, Parra ER, Murakami Y, Aguilar-Bonavides C, Mino B, Celiktas M, Dhillon D, Casabar JP, Nakatochi M, Stingo F, Baladandayuthapani V, Wang H, Katayama H, Dennison JB, Lorenzi PL, Do KA, Fujimoto J, Behrens C, Ostrin EJ, Rodriguez-Canales J, Hase T, Fukui T, Kajino T, Kato S, Yatabe Y, Hosoda W, Kawaguchi K, Yokoi K, Chen-Yoshikawa TF, Hasegawa Y, Gazdar AF, Wistuba II, Hanash S, Taguchi A.** : SRGN-Triggered Aggressive and Immunosuppressive Phenotype in a Subset of TTF-1-Negative Lung Adenocarcinomas. *J Natl Cancer Inst*, 114: 290-301, 2022
- 003 **Dayde D, Gunther J, Hirayama Y, Weksberg DC, Boutin A, Parhy G, Aguilar-Bonavides C, Wang H, Katayama H, Abe Y, Do KA, Hara K, Kinoshita T, Komori K, Shimizu Y, Tajika M, Niwa Y, Wang YA, DePinho R, Hanash S, Krishnan S, Taguchi A.** : Identification of Blood-Based Biomarkers for the Prediction of the Response to Neoadjuvant Chemoradiation in Rectal Cancer. *Cancers (Basel)*, 13(14): 3642, 2021.
- 004 **Isomura H, Taguchi A, Kajino T, Asai N, Nakatochi M, Kato S, Suzuki K, Yanagisawa K, Suzuki M, Fujishita T, Yamaguchi T, Takahashi M, Takahashi T.** : Conditional Ror1 knockout reveals crucial involvement in lung adenocarcinoma development and identifies novel HIF-1 α regulator. *Cancer Sci*, 112(4): 1614-1623, 2021.
- 005 **Shi H, Niimi A, Takeuchi T, Shioyama K, Mizutani Y, Kajino T, Inada K, Hase T, Hatta T, Shibata H, Fukui T, Chen-Yoshikawa TF, Nagano K, Murate T, Kawamoto Y, Tomida S, Takahashi T, Suzuki M.** : CEBP γ facilitates lamellipodia formation and cancer cell migration through CERS6 upregulation. *Cancer Sci*, 112(7): 2770-2780, 2021.
- 006 **Hirano H, Abe Y, Nojima Y, Aoki M, Shoji H, Isoyama J,**

Honda K, Boku N, Mizuguchi K, Tomonaga T, Adachi J. : Temporal dynamics from phosphoproteomics using endoscopic biopsy specimens provides new therapeutic targets in stage IV gastric cancer. *Sci Rep*, 12(1): 4419, 2022.

- 007 **Katayama R, Shimizu Y, Okada K, Adachi J, Abe Y, Narumi N, Uchibori K, Yanagitani N, Koike S, Takagi S, Nishio M, and Fujita N.** : GSK3 inhibition circumvents and overcomes acquired lorlatinib resistance in ALK-rearranged non-small-cell lung cancer. *NPJ Precis Oncol*, 6(1): 16, 2022.
- 008 **Nagatake T, Kishino S, Urano E, Murakami H, Kitamura N, Konishi K, Ohno H, Tiwari P, Morimoto S, Node E, Adachi J, Abe Y, Isoyama J, Sawane K, Honda T, Inoue A, Uwamizu A, Matsuzaka T, Miyamoto Y, Hirata SI, Saika A, Shibata Y, Hosomi K, Matsunaga A, Shimano H, Arita M, Aoki J, Oka M, Matsutani A, Tomonaga T, Kabashima K, Miyachi M, Yasutomi Y, Ogawa J, Kunisawa J.** : Intestinal microbe-dependent ω 3 lipid metabolite *a* KetoA prevents inflammatory diseases in mice and cynomolgus macaques. *Mucosal Immunol*, 15(2): 289-300, 2022.
- 009 **Matsui Y, Abe Y, Uno K, Miyano S.** : RoDiCE: robust differential protein co-expression analysis for cancer complexome. *Bioinformatics*, btab612, 2021.
- 010 **Monoe Y, Jingushi K, Kawase A, Hirono T, Hirose R, Nakatsuji Y, Kitae K, Ueda Y, Hase H, Abe Y, Adachi J, Tomonaga T, Tsujikawa K.** : Pharmacological Inhibition of miR-130 Family Suppresses Bladder Tumor Growth by Targeting Various Oncogenic Pathways via PTPN1. *Int J Mol Sci*, 22(9): 4751, 2021.
- 011 **Onidani K, Miura N, Sugiura Y, Abe Y, Watabe Y, Kakuya T, Mori T, Yoshimoto S, Adachi J, Kiyoi T, Kabe Y, Suematsu M, Tomonaga T, Shibahara T, Honda K.** : Possible therapeutic strategy involving the purine synthesis pathway regulated by ITK in tongue squamous cell carcinoma. *Cancers (Basel)*, 13(13): 3333, 2021.
- 012 **Nagatake T, Shibata Y, Morimoto S, Node E, Sawane K, Hirata SI, Adachi J, Abe Y, Isoyama J, Saika A, Hosomi K, Tomonaga T, and Kunisawa J.** : 12-hydroxyeicosapentaenoic acid inhibits foam cell formation and ameliorates high-fat diet-induced pathology of atherosclerosis in mice. *Sci Rep*, 11(1): 10426, 2021.
- 013 **田口 歩** : 腫瘍免疫と免疫チェックポイント阻害薬. *Medical Practice*, 39: 384-388, 2021.

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野

- 001 **Adachi Y, Kimura R, Hirade K, Ebi H.** : Escaping KRAS Gaining Autonomy and Resistance to KRAS Inhibition in KRAS Mutant Cancers. *Cancers*, 13:5081, 2021.
- 002 **Taniguchi H, Nakamura Y, Kotani D, Yukami H, Mishima S,**

- Sawada K, Shirasu H, Ebi H, Yamanaka T, Aleshin A, Bllings PR, Rabinowitz M, Oki E, Takemasa I, Kato T, Mori M, Yoshino T** : CIRCULATE-Japan: Circulating tumor DNA-guided adaptive platform trials to refine adjuvant therapy for colorectal cancer. *Cancer Sci*, 112: 2915-2920, 2021.
- 003 **Nakatsuka F, Tabata S, Sakamoto T, Hirayama A, Ebi H, Yamada T, Uematsu K, Ohishi M, Ueno A, Goto H, Sugimoto M, Nishioka Y, Yamada Y, Tomita M, Sasaki AT, Yano S, Soga T** : TGF- β -dependent reprogramming of amino acid metabolism induces epithelial-mesenchymal transition in non-small cell lung cancers. *Commun Biol*, 4: 782, 2021.
- 004 **Nakamura Y, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Ebi H, Sawada K, Taniguchi H, Fuse N, Nomura S, Fukui M, Matsuda S, Sakamoto Y, Uchigata H, Kitajima K, Kuramoto N, Asakawa T, Olsen S, Odegaard JI, Sato A, Fujii S, Ohtsu A, Yoshino T** : Circulating tumor DNA-guided treatment with pertuzumab plus trastuzumab for HER2-amplified metastatic colorectal cancer: a phase 2 trial. *Nat Med*, 27: 1899-1903, 2021.
- 005 **Fairchild CK Jr, Floros KV, Jacob S, Coon CM, Puchalapalli M, Hu B, Harada H, Dozmorov MG, Koblinski JE, Smith SC, Domson G, Levenson JD, Souers AJ, Takebe N, Ebi H, Faber AC, Boikos SA** : Unmasking BCL-2 Addiction in Synovial Sarcoma by Overcoming Low NOXA. *Cancers*, 13: 2310, 2021.
- 006 **衣斐寛倫** : MAPK 経路, *がんゲノム医療時代の分子腫瘍学*. 病理と臨床, 40: 092-095, 2022.
- 007 **衣斐寛倫** : 変異 KRAS に対する阻害薬. *腫瘍内科*, 28: 123-129, 2021.